

濟定檢省部文



著共 郎次詮村北 雄美荒屋守

子女

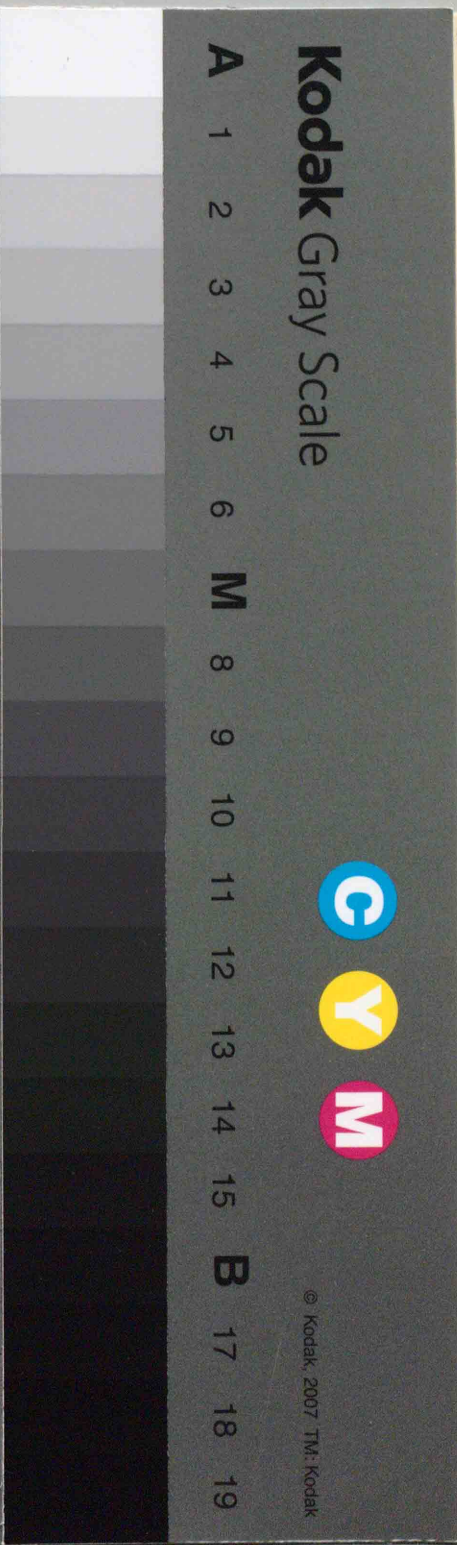
# 理地選新

部之本日

社會式株  
院書國帝



教  
4  
2000



42893

教科書文庫

4
291
42-1933
20000 40292

Kodak Gray Scale

A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19



© Kodak, 2007 TM: Kodak

Kodak Color Control Patches

Blue Cyan Green Yellow Red Magenta White 3/Color Black

© Kodak, 2007 TM: Kodak



文部省検定済  
昭和八年二月十八日 高等女子學校地理科

教科書文庫

4  
291  
42-1933  
2000040292

守屋美雄 北村詮次 共著

# 新選地理

今日之本部

広島大学図書

2000040292



株式会社  
帝國書院



## 資料室

北海道  
新潟  
茨城  
千葉  
福島  
山形  
宮城  
秋田  
福井  
石川  
富山  
岐阜  
愛知  
三重  
滋賀  
京都  
大阪  
奈良  
和歌山  
徳島  
香川  
岡山  
広島  
山口  
熊本  
大分  
福岡  
佐賀  
長崎  
鹿児島  
沖縄

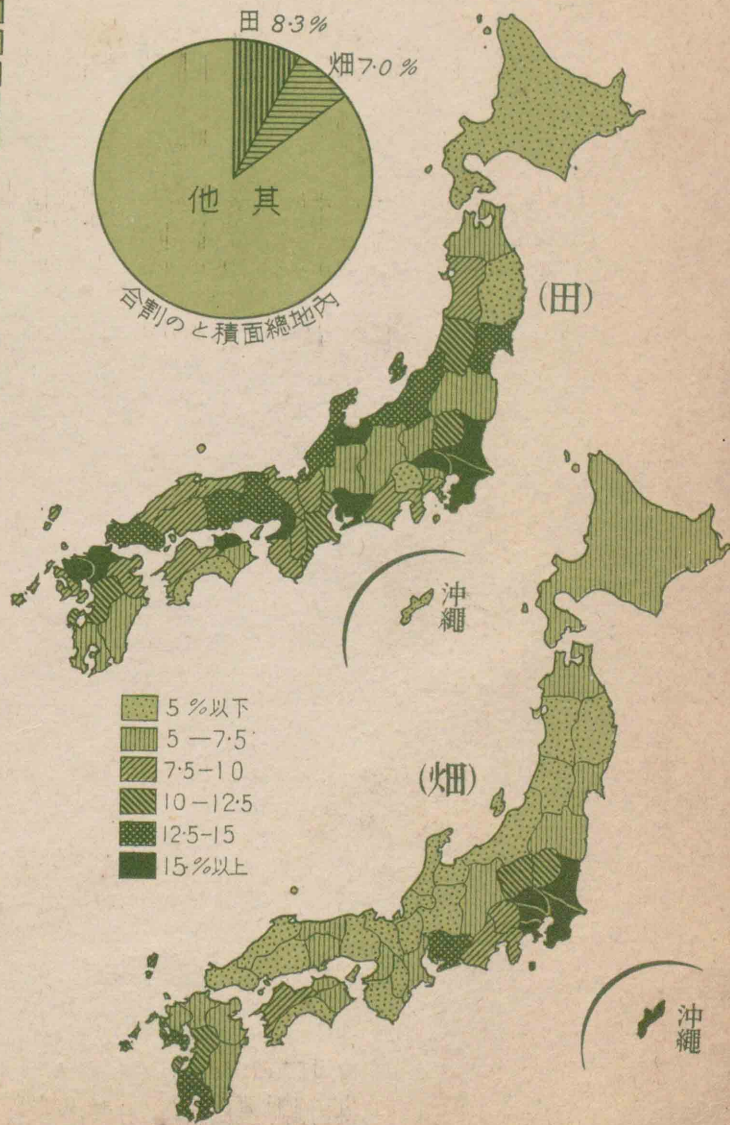
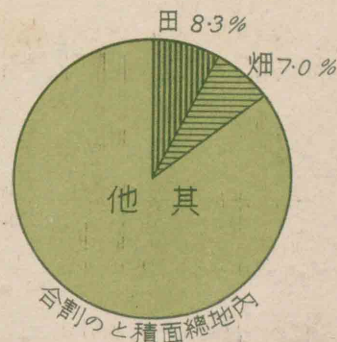
10 20 30 40 50 60 70 80

### 道別府縣耕地面積比較

耕地總面積八六六八五

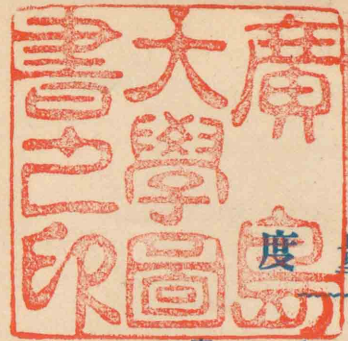
畑 田

總面積2689097ヘクタール 總面積317722ヘクタール



- 5%以下
- 5-7.5
- 7.5-10
- 10-12.5
- 12.5-15
- 15%以上

375.9  
1418  
100萬ヘクタール



量 衡 換 算 表

<p>度 1.</p> <table border="1"> <tr> <td>斤</td> <td>理</td> <td>里</td> </tr> <tr> <td>/</td> <td>=0.6214=</td> <td>0.2546</td> </tr> <tr> <td>1.6093=</td> <td>/</td> <td>=0.4098</td> </tr> <tr> <td>3.9273=</td> <td>2.4403=</td> <td>/</td> </tr> </table>	斤	理	里	/	=0.6214=	0.2546	1.6093=	/	=0.4098	3.9273=	2.4403=	/	<p>度 7.</p> <table border="1"> <tr> <td>平方米</td> <td>平方碼</td> <td>坪</td> </tr> <tr> <td>/</td> <td>=1.1960=</td> <td>0.3025</td> </tr> <tr> <td>0.8361=</td> <td>/</td> <td>=0.2529</td> </tr> <tr> <td>3.3058=</td> <td>3.9537=</td> <td>/</td> </tr> </table>	平方米	平方碼	坪	/	=1.1960=	0.3025	0.8361=	/	=0.2529	3.3058=	3.9537=	/
斤	理	里																							
/	=0.6214=	0.2546																							
1.6093=	/	=0.4098																							
3.9273=	2.4403=	/																							
平方米	平方碼	坪																							
/	=1.1960=	0.3025																							
0.8361=	/	=0.2529																							
3.3058=	3.9537=	/																							
<p>度 2.</p> <table border="1"> <tr> <td>米</td> <td>碼</td> <td>間</td> </tr> <tr> <td>/</td> <td>=1.0936=</td> <td>0.5500</td> </tr> <tr> <td>0.9144=</td> <td>/</td> <td>=0.5029</td> </tr> <tr> <td>1.8182=</td> <td>1.9884=</td> <td>/</td> </tr> </table>	米	碼	間	/	=1.0936=	0.5500	0.9144=	/	=0.5029	1.8182=	1.9884=	/	<p>量 1.</p> <table border="1"> <tr> <td>立</td> <td>ガロン</td> <td>升</td> </tr> <tr> <td>/</td> <td>=0.2642=</td> <td>0.5544</td> </tr> <tr> <td>3.7854=</td> <td>/</td> <td>=2.0985</td> </tr> <tr> <td>1.8039=</td> <td>0.4765=</td> <td>/</td> </tr> </table>	立	ガロン	升	/	=0.2642=	0.5544	3.7854=	/	=2.0985	1.8039=	0.4765=	/
米	碼	間																							
/	=1.0936=	0.5500																							
0.9144=	/	=0.5029																							
1.8182=	1.9884=	/																							
立	ガロン	升																							
/	=0.2642=	0.5544																							
3.7854=	/	=2.0985																							
1.8039=	0.4765=	/																							
<p>度 3.</p> <table border="1"> <tr> <td>米</td> <td>呎</td> <td>尺</td> </tr> <tr> <td>/</td> <td>=3.2808=</td> <td>3.3000</td> </tr> <tr> <td>0.3048=</td> <td>/</td> <td>=1.0058</td> </tr> <tr> <td>0.3030=</td> <td>0.9942=</td> <td>/</td> </tr> </table>	米	呎	尺	/	=3.2808=	3.3000	0.3048=	/	=1.0058	0.3030=	0.9942=	/	<p>量 2.</p> <table border="1"> <tr> <td>立方糎</td> <td>立方吋</td> <td>立方寸</td> </tr> <tr> <td>/</td> <td>=0.0610=</td> <td>0.0359</td> </tr> <tr> <td>16.3871=</td> <td>/</td> <td>=0.5889</td> </tr> <tr> <td>27.8265=</td> <td>1.6981=</td> <td>/</td> </tr> </table>	立方糎	立方吋	立方寸	/	=0.0610=	0.0359	16.3871=	/	=0.5889	27.8265=	1.6981=	/
米	呎	尺																							
/	=3.2808=	3.3000																							
0.3048=	/	=1.0058																							
0.3030=	0.9942=	/																							
立方糎	立方吋	立方寸																							
/	=0.0610=	0.0359																							
16.3871=	/	=0.5889																							
27.8265=	1.6981=	/																							
<p>度 4.</p> <table border="1"> <tr> <td>糎</td> <td>吋</td> <td>寸</td> </tr> <tr> <td>/</td> <td>=0.3937=</td> <td>0.3300</td> </tr> <tr> <td>2.5400=</td> <td>/</td> <td>=0.8382</td> </tr> <tr> <td>3.0303=</td> <td>1.1930=</td> <td>/</td> </tr> </table>	糎	吋	寸	/	=0.3937=	0.3300	2.5400=	/	=0.8382	3.0303=	1.1930=	/	<p>衡 1.</p> <table border="1"> <tr> <td>佛噸</td> <td>英噸</td> <td>貫</td> </tr> <tr> <td>/</td> <td>=0.9842=</td> <td>266.667</td> </tr> <tr> <td>1.0161=</td> <td>/</td> <td>=270.95</td> </tr> <tr> <td>0.0038=</td> <td>0.0037=</td> <td>/</td> </tr> </table>	佛噸	英噸	貫	/	=0.9842=	266.667	1.0161=	/	=270.95	0.0038=	0.0037=	/
糎	吋	寸																							
/	=0.3937=	0.3300																							
2.5400=	/	=0.8382																							
3.0303=	1.1930=	/																							
佛噸	英噸	貫																							
/	=0.9842=	266.667																							
1.0161=	/	=270.95																							
0.0038=	0.0037=	/																							
<p>度 5.</p> <table border="1"> <tr> <td>平方糎</td> <td>平方哩</td> <td>平方里</td> </tr> <tr> <td>/</td> <td>=0.3816=</td> <td>0.0648</td> </tr> <tr> <td>2.5900=</td> <td>/</td> <td>=0.1679</td> </tr> <tr> <td>15.4235=</td> <td>5.9550=</td> <td>/</td> </tr> </table>	平方糎	平方哩	平方里	/	=0.3816=	0.0648	2.5900=	/	=0.1679	15.4235=	5.9550=	/	<p>衡 2.</p> <table border="1"> <tr> <td>貳</td> <td>封度</td> <td>貫</td> </tr> <tr> <td>/</td> <td>=2.2046=</td> <td>0.2667</td> </tr> <tr> <td>0.4536=</td> <td>/</td> <td>=0.1210</td> </tr> <tr> <td>3.7500=</td> <td>8.2672=</td> <td>/</td> </tr> </table>	貳	封度	貫	/	=2.2046=	0.2667	0.4536=	/	=0.1210	3.7500=	8.2672=	/
平方糎	平方哩	平方里																							
/	=0.3816=	0.0648																							
2.5900=	/	=0.1679																							
15.4235=	5.9550=	/																							
貳	封度	貫																							
/	=2.2046=	0.2667																							
0.4536=	/	=0.1210																							
3.7500=	8.2672=	/																							
<p>度 6.</p> <table border="1"> <tr> <td>アール</td> <td>エーカー</td> <td>畝</td> </tr> <tr> <td>/</td> <td>=0.0247=</td> <td>1.0083</td> </tr> <tr> <td>40.4680=</td> <td>/</td> <td>=40.8060</td> </tr> <tr> <td>0.9917=</td> <td>0.0245=</td> <td>/</td> </tr> </table>	アール	エーカー	畝	/	=0.0247=	1.0083	40.4680=	/	=40.8060	0.9917=	0.0245=	/	<p>衡 3.</p> <table border="1"> <tr> <td>瓦</td> <td>オンス</td> <td>匁</td> </tr> <tr> <td>/</td> <td>=0.0353=</td> <td>0.2667</td> </tr> <tr> <td>28.350 =</td> <td>/</td> <td>=7.5600</td> </tr> <tr> <td>3.7500=</td> <td>0.1323=</td> <td>/</td> </tr> </table>	瓦	オンス	匁	/	=0.0353=	0.2667	28.350 =	/	=7.5600	3.7500=	0.1323=	/
アール	エーカー	畝																							
/	=0.0247=	1.0083																							
40.4680=	/	=40.8060																							
0.9917=	0.0245=	/																							
瓦	オンス	匁																							
/	=0.0353=	0.2667																							
28.350 =	/	=7.5600																							
3.7500=	0.1323=	/																							

例 言

一、本書は、新選地理外國之部同地理通論と姉妹篇をなし、高等女  
 學校用帝國地理教科書として編纂したものである。

一、關東州南洋諸島は、これを帝國地理に加ふべきか、世界地理に於  
 て記述すべきかは、彼是論議せらるべき餘地あるも、今暫く帝國  
 地理に於て略述し、世界地理に於て、更に詳述することとした。

一、本書の特色と見るべきは、概ね次の五點である。

- 1、地方誌の相關的分節、地方誌に於て、分離的記述を避けて、相關的事項を纏め、概ね「位置と地形」、「氣候と産業」、「交通と人口」、「處誌の四節に分けて記述した。
- 2、府、縣、單位の廢止、處誌は、純然たる地方單位として取扱ひ、各都市は、特色により、氣候産業交通政治等の項に於て記述し、處誌の項には特に重要なもの、又は前項に於て記載せざるもののみを掲げて、重複を避けるやうにした。
- 3、地人關係の重視、從來の教科書は、地人文を全く別個に取扱つてゐたが、本書は、斷然これを却け、臨機に地人關係の理法を説くやうに努めた。

例

言

4、自學、自習への留意 本文中に小活字を用ひて、趣味多き事項、又は更に攻究を要すべき事項を記述し、以て生徒をして、深き研究心を喚起せしめることに努めた。

5、處誌の系統的記述 都邑の所在が漫然となり易き従來の記述を改め、都邑は概ね鐵道と連絡せしめて、順次に記述した。これ最も系統的にして、且つ實際的なりと信じたからである。

一、その他、本書編纂上意を用ひたる諸點は、左の通りである。

- 1、國定教科書との連絡に留意し、これと有機的に連絡統合せしめんことを努めた。
- 2、趣味の喚起、理解の容易を期する爲、最も適切なる挿繪挿圖を多くした。
- 3、産業その他の諸統計は、能ふ限り正確且つ最新の材料を用ひた。
- 4、卷末に、最近の國勢調査結果による各府縣及び主要都邑の人口表を掲げた。
- 5、各編各章の終に設問を附加して、生徒の自習に供し、且つ豫習復習に便ならしめんことを期した。
- 6、本文中に（・）の二種の括弧を使用した。（）は、別名又は同意の語句を、（・）は、説明的敷衍的語句を意味してゐる。

一、本書の著述に當り、著者は、細心の注意を拂つたが、尙ほ誤謬缺點

なきを期し難い。よつて教官各位の高評叱正を仰ぎ、以て本書を完璧のものたらしめんことを冀つて止まない。

一、終に臨み、本書編纂に關して、多大の援助を寄せられたる彦根中學校教諭松田彦三郎君並に懇篤なる忠言を與へられたる大方の教官諸賢に對して、滿腔の謝意を表する次第である。

昭和七年十一月

著者識

子女  
新選地理 日本之部 目次

第一編 緒論	一
第二編 地方誌	四
第一章 關東地方	四
第一節 位置と地形	四
第二節 氣候と産業	八
第三節 交通と人口	三
第四節 處誌	四
第五節 南方諸島	九
第二章 奥羽地方	一〇
第一節 位置と地形	一〇
第二節 氣候と産業	一四
第三節 交通と人口	一六
第四節 處誌	三〇

第三章 本州中部地方	三
第一節 位置と地形	三
第二節 氣候と産業	四
第三節 交通と人口	四
第四節 處誌	四
第四章 近畿地方	五
第一節 位置と地形	五
第二節 氣候と産業	五
第三節 交通と人口	五
第四節 處誌	五
第五章 中國地方	六
第一節 位置と地形	六
第二節 氣候と産業	六
第三節 交通と人口	六
第四節 處誌	六
第六章 四國地方	七
第一節 位置と地形	七
第二節 氣候と産業	七
第三節 交通と人口	七
第四節 處誌	七

第七章 九州地方	八
第一節 位置と地形	八
第二節 氣候と産業	八
第三節 交通と人口	八
第四節 處誌	八
第八章 北海道地方	九
第一節 位置と地形	九
第二節 氣候と産業	九
第三節 交通と人口	九
第四節 處誌	九
第九章 樺太地方	一〇
第一節 位置と地形	一〇
第二節 氣候と産業	一〇
第三節 交通住民政治	一〇
第四節 處誌	一〇

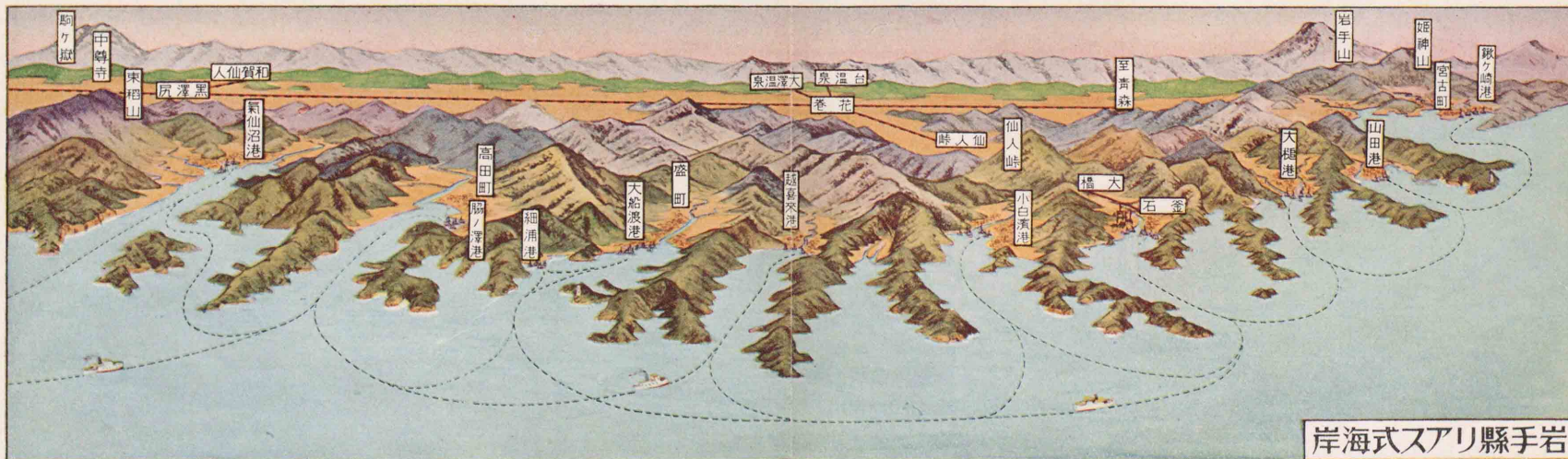
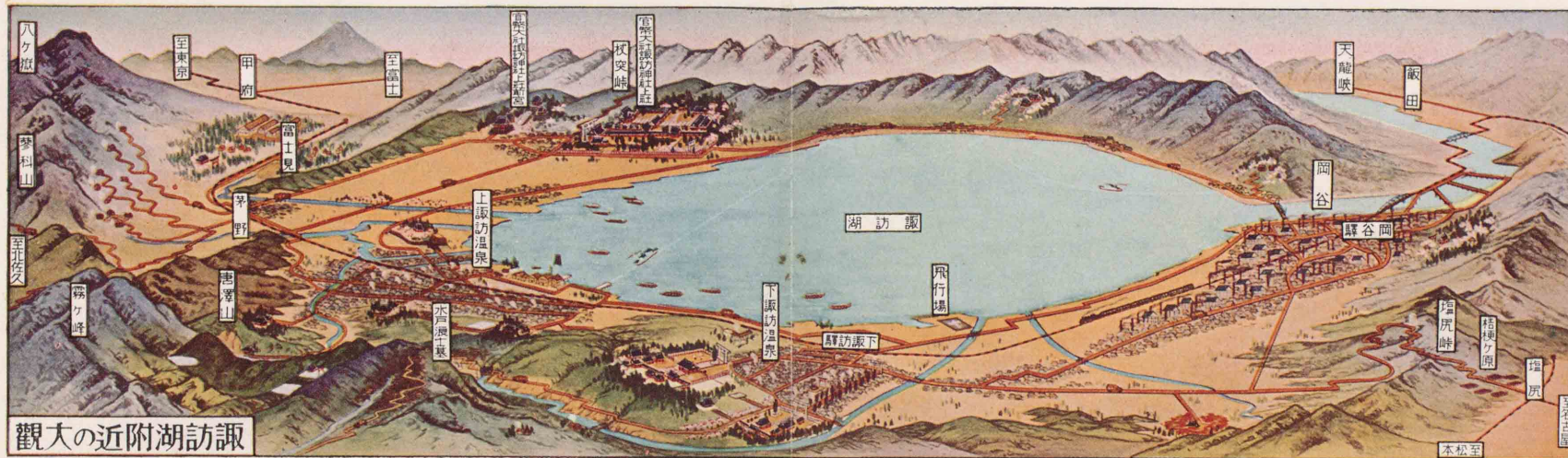
第二節	氣候と産業	110
第三節	交通住民政治	111
第十章	臺灣地方	118
第一節	位置と地形	118
第二節	氣候生物産業	117
第三節	交通住民政治	111
第四節	處誌	113
第十一章	朝鮮地方	115
第一節	位置と地形	115
第二節	氣候と産業	116
第三節	交通住民政治	114
第四節	處誌	114
第十二章	關東州南洋諸島	119
第三編	總括	115
第一章	自然地理	115

第一節	地勢	110
第二節	海洋	115
第三節	氣候・生物	116
第二章	人文地理	115
第一節	産業	115
第二節	交通	116
第三節	住民	116
第四節	政治	119
第四編	結論	115
附錄	人口一覽	110

目次

一	二	三	四	五	六	七	八	九	十
卷一	卷二	卷三	卷四	卷五	卷六	卷七	卷八	卷九	卷十
卷十一	卷十二	卷十三	卷十四	卷十五	卷十六	卷十七	卷十八	卷十九	卷二十
卷二十一	卷二十二	卷二十三	卷二十四	卷二十五	卷二十六	卷二十七	卷二十八	卷二十九	卷三十
卷三十一	卷三十二	卷三十三	卷三十四	卷三十五	卷三十六	卷三十七	卷三十八	卷三十九	卷四十
卷四十一	卷四十二	卷四十三	卷四十四	卷四十五	卷四十六	卷四十七	卷四十八	卷四十九	卷五十
卷五十一	卷五十二	卷五十三	卷五十四	卷五十五	卷五十六	卷五十七	卷五十八	卷五十九	卷六十
卷六十一	卷六十二	卷六十三	卷六十四	卷六十五	卷六十六	卷六十七	卷六十八	卷六十九	卷七十
卷七十一	卷七十二	卷七十三	卷七十四	卷七十五	卷七十六	卷七十七	卷七十八	卷七十九	卷八十
卷八十一	卷八十二	卷八十三	卷八十四	卷八十五	卷八十六	卷八十七	卷八十八	卷八十九	卷九十
卷九十一	卷九十二	卷九十三	卷九十四	卷九十五	卷九十六	卷九十七	卷九十八	卷九十九	卷一百





に岸海部東縣手岩は圖下 るゐて中つま眸にの目一が貌風の近四めじはを落聚諸の等谷岡・訪諏下・訪諏上 るゐて圖瞰鳥たしと心中を湖訪諏は圖上 瞰鳥の岸海東縣手岩及び湖訪諏  
 るゐてれさ示にか明も最が等態狀るゐてし達發に澳灣のそが港及び態狀の入出のそで圖瞰鳥たし下見らか上海の方東を岸海式スアリるけ於



# 子女新選地理

日本之部

## 第一編 緒論

### 位置

我が國は、アジア大陸の東側に沿うて、斜に北東より南西に連なる日本列島と、大陸より突出する朝鮮半島とから成つてゐる。東は、太平洋を隔てて、遙かに北アメリカと相對する。

### 帝國の四極

△内側にオホーツク海・日本海・東支那海がある。

△帝國の位置

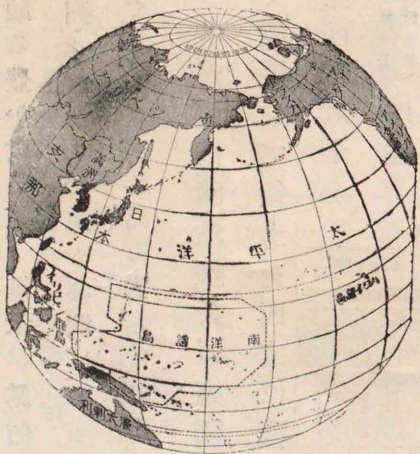
極東 東經一五六度三一分  
(千島占守島東端)

極西 東經一九度一八分  
(臺灣花嶼西端)

極北 北緯九〇度五五分  
(千島阿賴度島北端)

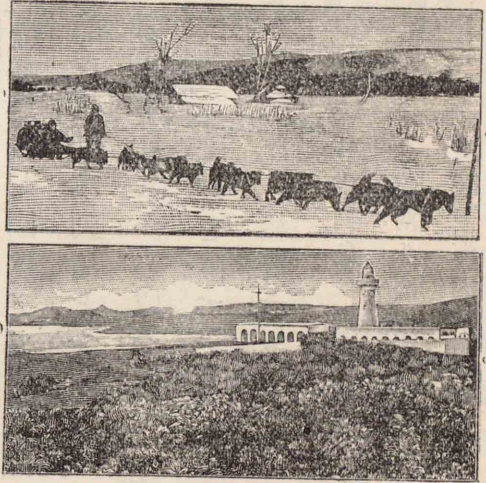
極南 北緯二二度四五分  
(臺灣七星岩南端)

日本列島は、延長四千八百軒(千二)に及び、南北の擴りが大きい。又近海に寒暖兩海流がある爲、氣候の變化が



樺太の冬と  
臺灣南端鷲鼻の  
冬（我が北と南と  
の冬の差を見よ）  
帝國の面積内譯  
（單位方籽）

本州 三、二〇一  
九州 一、八、七三  
四州 四、四八〇  
北海道 八、六五五  
小計 三、二〇七  
臺灣 五、九七四  
樺太 三、〇九〇  
朝鮮 二、〇七四  
關東州 三、四六三  
南洋諸島 二、四九  
總計 六〇、四九  
△一方籽につき一  
六九人

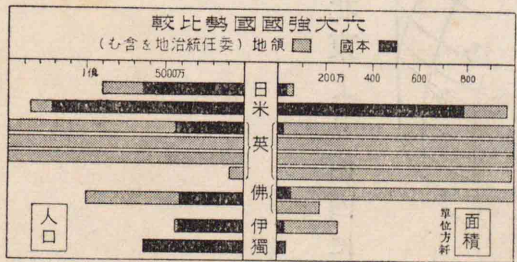


多く天産が頗る豊かである。樺太は露領に、朝鮮は滿洲・シベリアに連り、臺灣は、バシ海峽を挟んで、フィリピン群島に對してゐる。

**面積人口**

我が國は、明治維新以來、國力が著しく發展して、領土を四方に擴張し、今や、全面積六十萬方籽（四萬四千百餘方里）に達し、人口は、九千萬を越えるに至つた。内地の人口密度は、ベルギー・オランダ・イギリスの各本國に次ぎ、人口増加率の大なることも、世界に稀である。

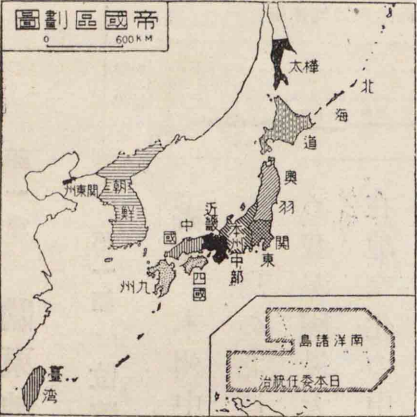
維新當時は、本州・四國・九州・北海道の四大島から成つてゐたがその後、臺灣・樺太を得て南北に延び、朝鮮を併合して



大陸に擴り、關東州を租借し、又南洋諸島を委任統治することになつた。これ等の新領土植民地に對し、舊領土を本土内地といふ。我が面積人口を、世界の六大強國（日・米・英・佛・伊・獨）に比較すれば、本國の面積は、アメリカ合衆國・フランスに、人口は、アメリカ合衆國に次いで多い。

**區分**

昔は本土を、畿内・八道（八十五箇國）に分けたが、今は、行政上、一道・三府・四十三縣に分ける。本書は、これを關東・奥羽・本州中部・近畿・中國・四國・九州・北海道の八地方に分ち、更に樺太・臺灣・朝鮮・關東州・南洋諸島を加へて、十三地方として述べる。



**問設**

●我が國の位置の良好なる理由を述べよ。  
●我が國を繞る海洋及び近隣諸國の名を挙げよ。

●我が國の位置は、人文上に如何なる影響を及ぼすか。  
●明治以後、我が領土となつた處を順に記せ。

## 第二編 地方誌

### 第一章 關東地方

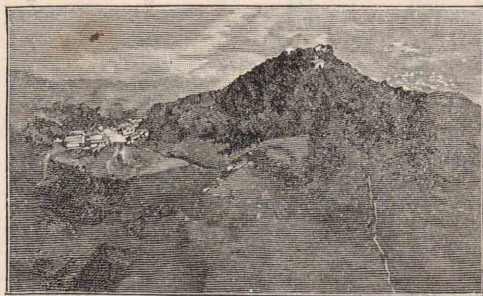
#### 第一節 位置と地形

##### 概観

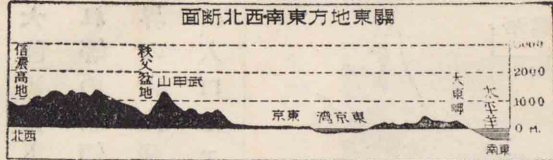
本州中部地方の南東に當り、本州島の北に曲らんとする所を占め、我が國最大平野が開け、帝都の所在地文化の中心で、人口が密である。行政上、東京府と神奈川千葉埼玉群馬栃木茨城の六縣とに分れ、地形上は、北・西山・地・關東平野・南部丘陵の三區となる。

##### 北・西山地

高原狀をなす阿武隈山地



關東地方西南西北断面



飛行機より  
見た筑波山



## 第二編 地方誌

### 第一章 關東地方

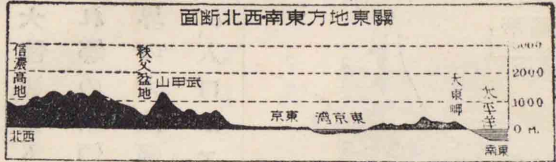
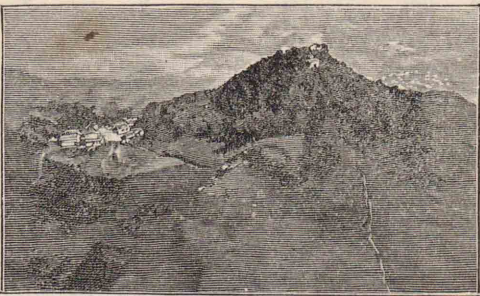
#### 第一節 位置と地形

##### 概観

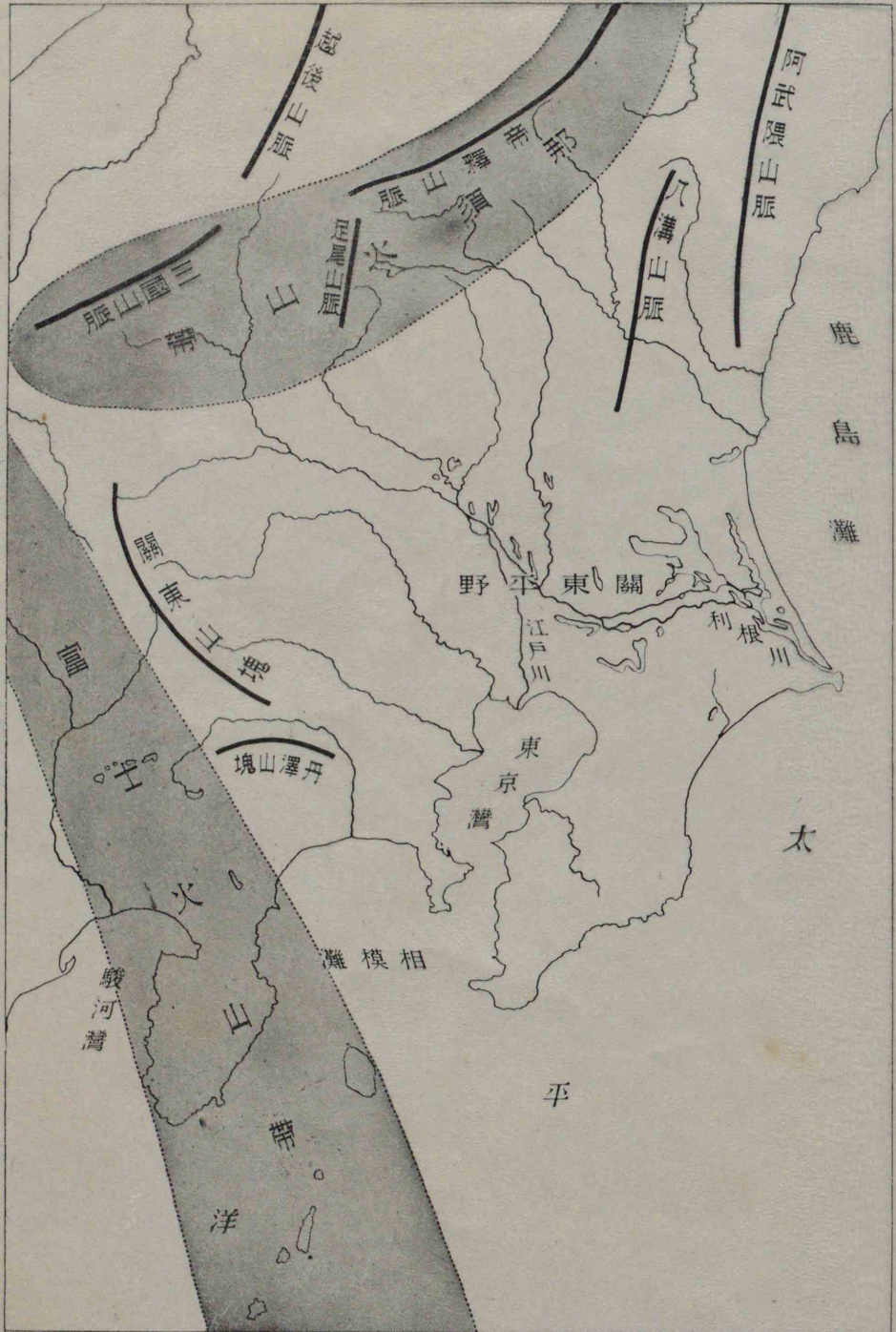
本州中部地方の南東に當り、本州島の北に曲らんとする所を占め、我が國最大平野が開け、帝都の所在地文化の中心で、人口が密である。行政上、東京府と神奈川千葉埼玉群馬栃木茨城の六縣とに分れ、地形上は、北・西山・地・關東平野・南部丘陵の三區となる。

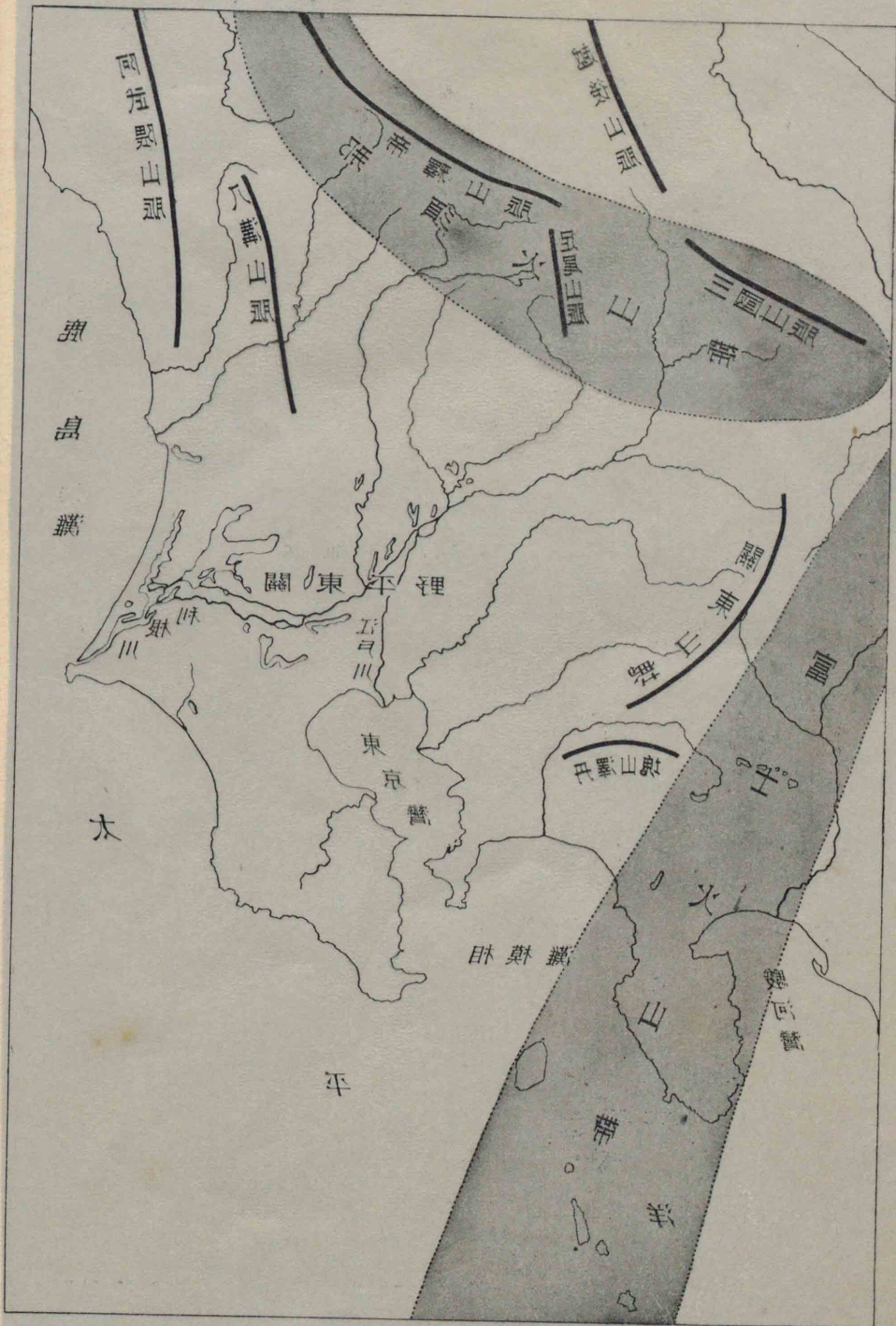
##### 北・西山地

高原状をなす阿武隈山



飛行機より見た筑波山

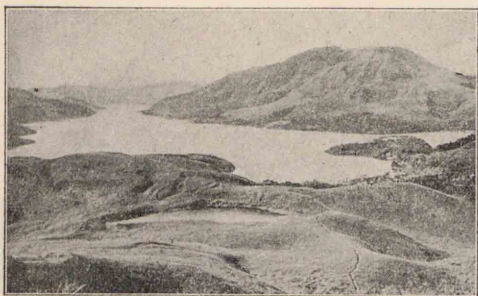




△清水峠と三國峠とがある

×本州中部地方にある

●下赤城・榛名山附近の鳥瞰模  
型圖上箱根蘆ノ湖と舊箱根町



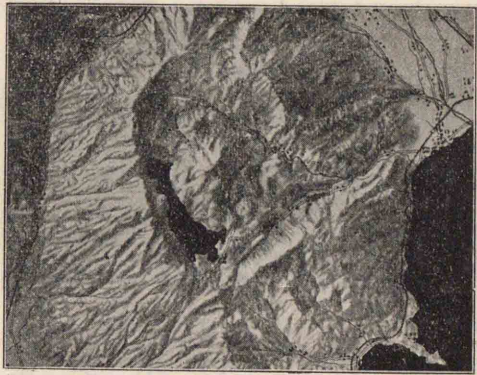
地は、奥羽地方より來り、南端に筑波山が峙つ。北境を走る三國山脈は、日本海と太平洋との分水嶺となつてゐる。那須火山帯には、那須男體・赤城・榛名・淺間の諸火山が噴出し、これに伴ふ那須・鹽原・伊香保・草津等の



温泉や、日光・妙義の絶景地がある。西部には、關東山塊が蟠り、中に陥没地の秩父盆地がある。南西部には、富士火山帯が走り、京濱の理想的休養地の箱根火山がある。

【富士火山帯】 我が委任統治のマリアナ群島より、小笠原・伊豆諸島・伊豆半島を経て本州中部地方に入り、天城・箱根・富士・八ヶ岳立科(蓼)妙高の諸火山を噴出し、又諸處

△武蔵野・常陸臺地がある  
●箱根附近の鳥瞰模型圖下  
利根川下流の水運



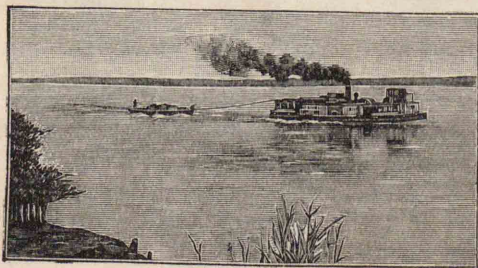
に、温泉を湧出させてゐる。  
【箱根山】 蘆湖が、その火口原に湛へ、山中に、湯本塔、澤宮、下強羅等の温泉があり、四季の休養遊覽に適する。

關東平野

概ね低平であるが、臺地の間に

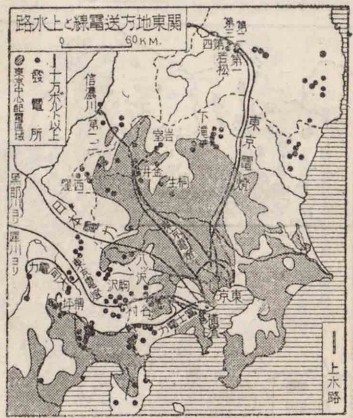
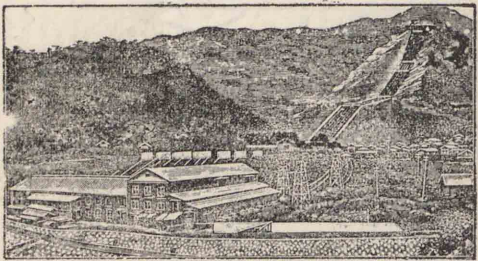
低地が挟まり、地形が、波のやうに起伏してゐる。利根川を中軸として、北東に久慈那珂、南西に荒多摩、相模(馬)の諸川があり、霞浦、北浦等の水郷と共に灌漑に適し、且つ地味肥沃、氣候良好なる爲、農産物に富み、人文が大いに發達してゐる。

河川の上流は發電に、中流下流は灌漑交通に利用され、又



×流域面積は内地の河川中第一

●上鬼怒川上流の發電所  
下飛行機より見た犬吠岬



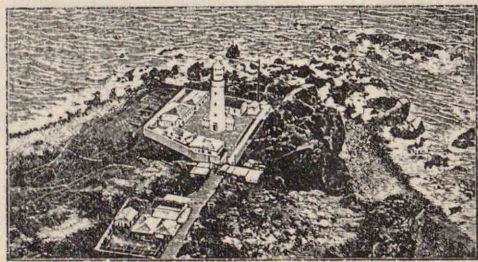
南部

浦賀水道の陥没によつて分れた房總三浦の丘陵性の二半

島は、東京灣の口を扼して突出し、帝都防備上、重要な爲、夫々堅固な要塞が設けられてゐる。

海岸

東岸は、犬吠岬によつて、鹿島浦と九十九里濱とに分れ、南西の相模灣岸と共に、弓形の砂濱をなしてゐる。従つて良港は乏しいが、沖合漁業の



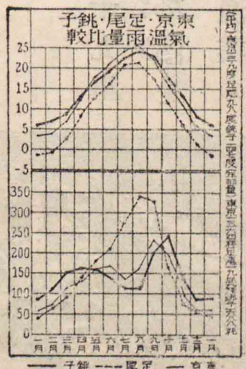
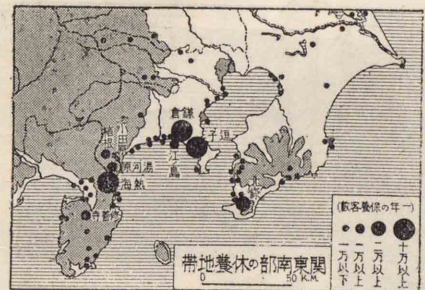
上水を供給する。利根川の支流の鬼怒、片品、吾妻等の川筋には、特に發電所が多い。多摩川は東京に、相模川は横濱に、夫々上水を供給してゐる。



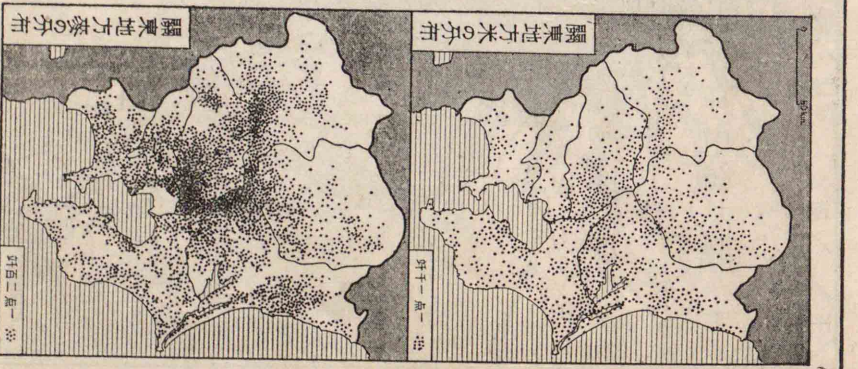
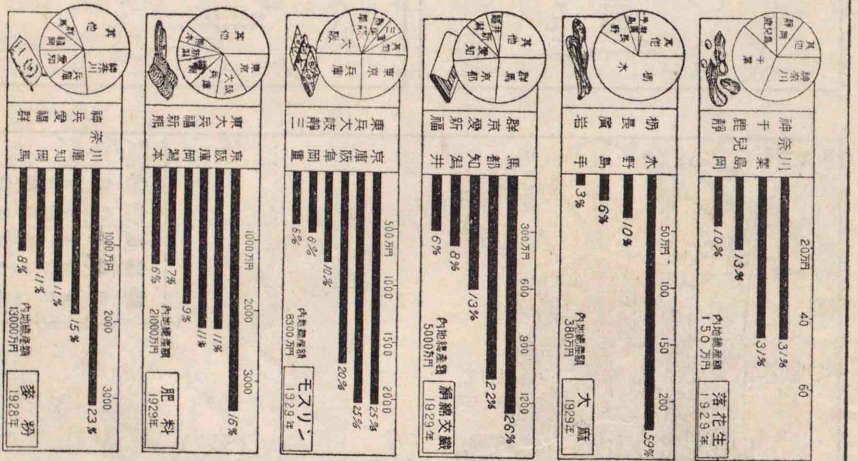
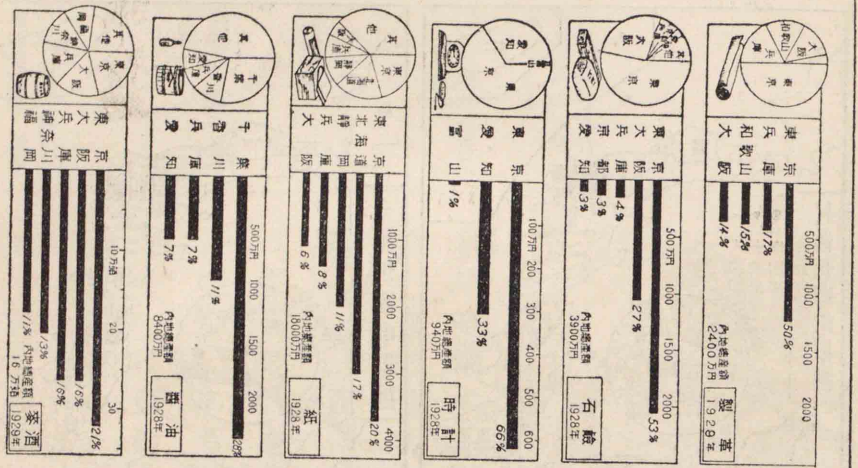
根據地に適し、漁港が多く、銚子は最も有名である。東京灣内には、開港横濱、軍港横須賀の良港があり、東京港の施設も進んだ。

第二節 氣候と産業

**氣候** 北西の山地は、寒風を防ぎ、又南方に、暖流が流れる爲、冬は暖く、夏は涼しい。湘南房總地方に葉山・逗子・鎌倉・小田原・北條勝浦等の休養地が發達してある。内部は、寒暑の差が稍、甚しいが、夏は南東風の影響で、雨が



多く、農業に適する。**農業・林業** 地味肥沃で、灌漑に便利な川筋



川越・佐野・栃木は  
絹縮交織物・縮織

工場  
富岡の製絲

×火山灰が多く麥  
作に適しない

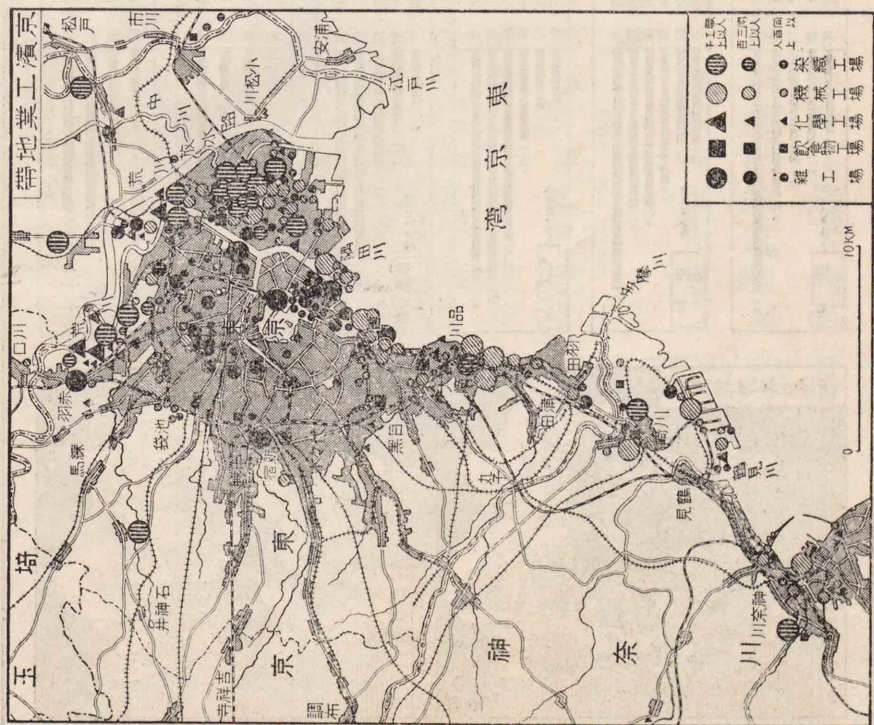
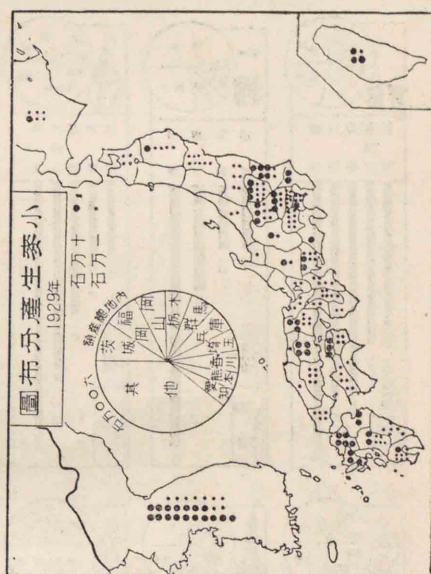
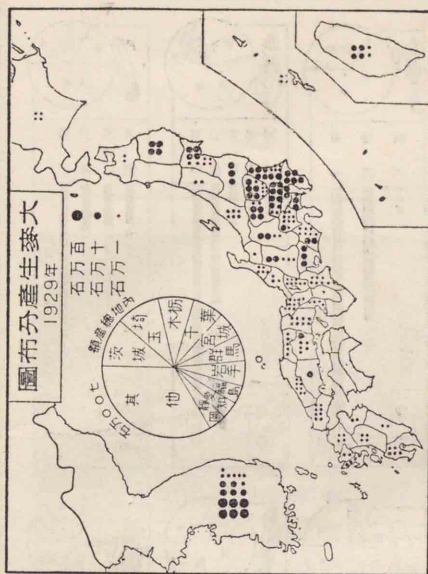
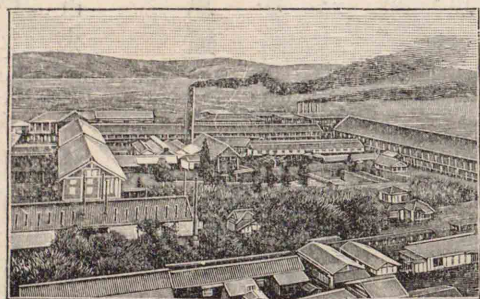
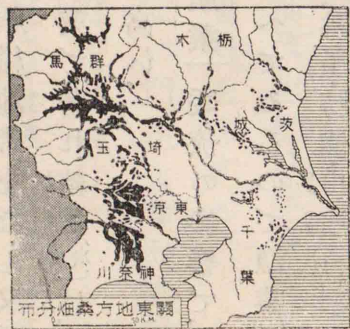
△佐倉炭は良質を  
以て名高い

京濱附近は花卉・  
野菜の促成栽培が  
盛んである

〔養蠶業〕 西部北部の山麓地  
は、養蠶地帯をなし、桑の栽培  
が盛んである。前橋高崎〔群馬〕  
熊谷〔玉〕は、繭の大市场、前橋・富  
岡〔馬〕深谷〔玉〕は、製絲業地であ  
る。桐生伊勢崎〔群馬〕・足利〔木



の低地は米〔千〕臺地は麥〔玉・栃木〕の産額が頗  
る多い。茂木〔木〕烏山〔栃木〕太田〔茨城〕秦野〔神奈川〕附近  
は、煙草を栽培し、鹿沼〔木〕は大麻の産地の中  
心で、また製麻業が行はれる。甘藷は武藏  
野臺地〔川越〕に、茶は狭山〔東京〕附近に多い。

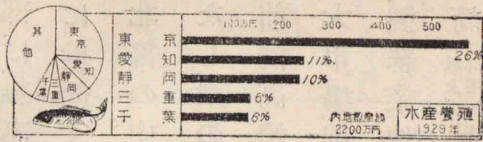


物を産する

上 九十九里濱の地曳網 下 日立鐵山の製鍊所

△全國産額の九割を占める

×日立は金銀の製鍊額も多い



等は、絹織地帯をなし、又秩父〔玉埜〕八王子〔京東〕も、絹織業で著れ、結城〔城茨〕は、古來紬の産地として名高い。

### 水産業

暖流の影響で、魚類が多く、又京濱を控へてゐるので、漁業が

榮え、銚子・勝浦・白濱〔千葉〕・三

崎〔神奈〕等の漁港がある。漁

獲物は、主に鰺・鯉・鮪・秋刀魚

で、九十九里濱の鰻は、殊に名高い。

東京湾北部の浅海では、浅草海苔・貝

類の養殖が行はれてゐる。

〔鑛業〕足尾〔木枋〕日立〔城茨〕は、我が國屈指の大銅山で、共に大製鍊所がある。石炭は、常磐炭田に産し、京濱

地方、山麓製絲業地へ供給される。石材、砂利の産も、亦少くない。

### 工業・商業

東京より横濱に至る約三十軒の間は、阪

神地方に對する大工業地帯で、多く紡織・機械・肥料・洋

紙・麥酒・セメント・石鹼・化粧品等を生産する。従つて東

京横濱は、商業も盛んである。

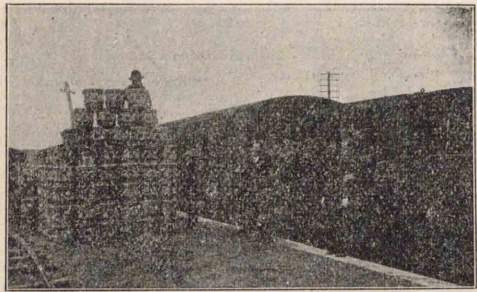
利根川下流と霞浦沿岸地方とは、醸造地帯をなし、銚子・野田〔千葉〕・土

浦〔城茨〕は、醬油・流山〔葉千〕は、味噌・佐原〔葉千〕・石岡〔城茨〕は、清酒を産する。

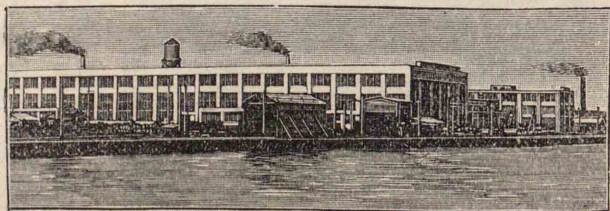
横濱は、東京の門戸をなし、神戸と共に、我が國の

二大貿易港である。

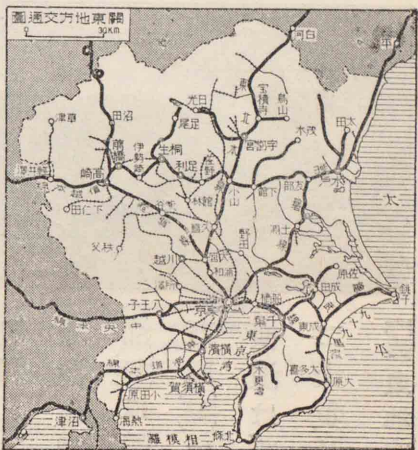
【關東地方の工業發達の原因】①原料に富み、②人口が



下 京濱工業地帯の一工場(横濱市鶴見にある電機工場) 上 銚子の醬油積出  
△水質の良好、原料の豊富、京濱に近い等の爲である

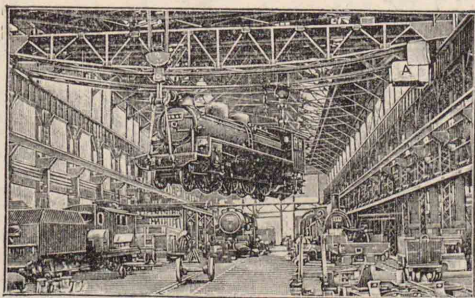


- 1 東京・神戸間
  - 2 東京・名古屋間
  - 3 大宮・高崎間
  - 4 東京・青森間
  - 5 東京・岩沼間
  - 6 東京・銚子間
- 東京を中心とする  
鐵道は電化が進んで来た
- 工場 大宮の鐵道
- △東海道・甲州街道・中山道・奥羽街道・濱街道



等の諸線は、概ね東京を中心として、諸方に通じてゐる。大宮、高崎、小山、千葉は、鐵道の要地で、大宮には、大規模な鐵道工場がある。

道路は、古來、五街道が著はれ、幹線鐵道は、概ねこれ等に沿ふて走る。東海道線は、我が國の大幹線で、設備がよく整つてゐる。中央線は、アプト式軌道で碓氷峠を越

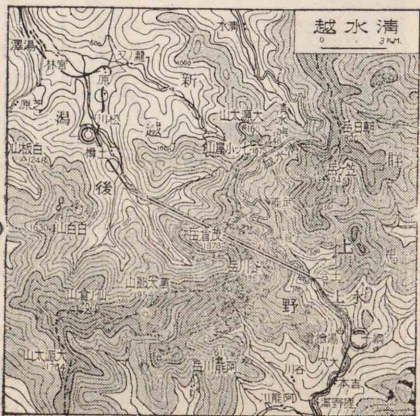


多く、③運輸の便がよく、④動力を得易く、⑤生産品の販賣が便利である等の爲である。

第三節 交通と人口

**交通** 地形・文化の事情は、交通の發達を促し、鐵道網の密度は、我が國第一である。東海道・中央・高崎・東北・常磐・總武

える。尙ほ信越上越、房總、水戸、兩毛の諸線、その他多くの支線がある。上越線は、ループ線を利用して、我が國最長の清水隧道を通ずる。近年、電車、自動車の利用も著しい。

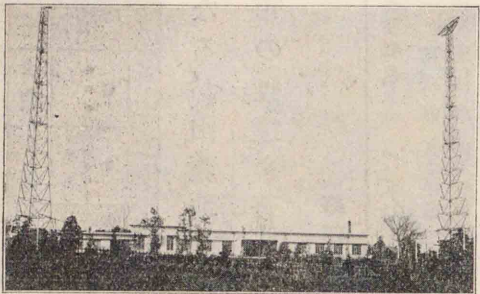


航路は、横濱を中心として、内外の諸港に通じ、近海航路は、東京

を中心とするものが多い。海底電線は、小笠原諸島の父島で米國線と接続してゐる。無線電信局は、東京、横濱、銚子、箱根にあり、ラヂオ放送局は、東京にある。近年、東京(羽田)を起點として、大阪・大連・新潟・清水に定期航空路が開かれ、旅客、郵便物、貨物を輸送してゐる。

**人口**

人口密度は、全國第一で、京濱地方を中心



東京中央放送局新郷放送所 (埼玉縣にある) △福島縣原ノ町・富岡・栃木縣小山・千葉縣検見川・船橋に送信所、埼玉縣福岡・岩槻に受信所がある ×航空専用

面積	人口	人口密度	地方
378,477.4	31,044,331	82	全國
378,477.4	31,044,331	82	内地
378,477.4	31,044,331	82	關東地方
1,486	1,486	1	東京府(東京)
1,486	1,486	1	神奈川(横浜)
1,486	1,486	1	千葉(千葉)
1,486	1,486	1	埼玉(浦和)
1,486	1,486	1	群馬(前橋)
1,486	1,486	1	栃木(宇都宮)
1,486	1,486	1	茨城(水戸)

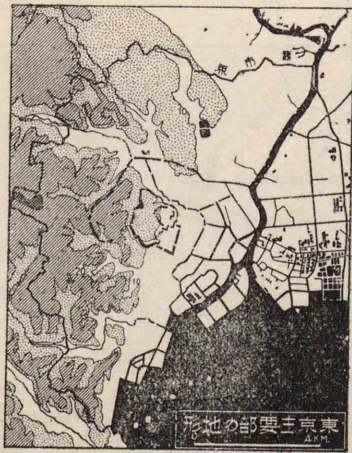
なるが、山麓地帯は、又稍密になつてゐる。一般に人口稠密な爲都市の發達も著しく、その密度も甚だ大である。

第四節 處誌

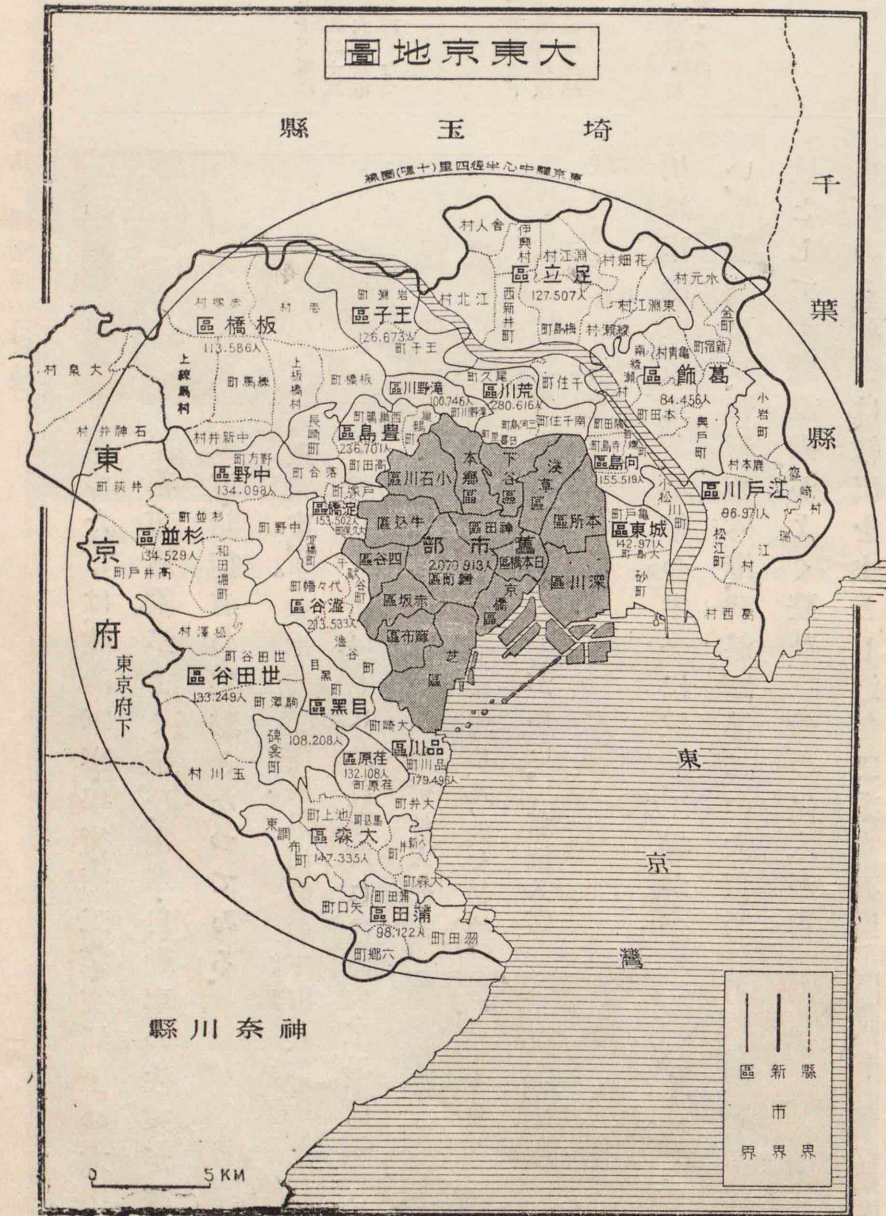
京濱地方

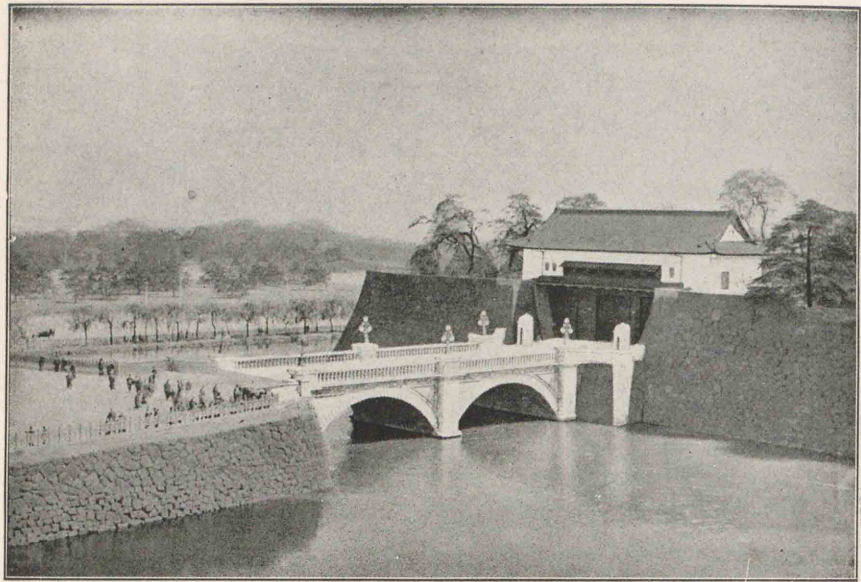
東京市は、隅田川(荒川)に跨り、我が

帝國の首府で、最近、接續町村を併合した爲、人口が殆ど五百萬に達し、帝國第一、世界第二の大都市と



行政區劃と主要都邑	東京府(武蔵一部・伊豆)	東京市	八王子市
神奈川縣(武蔵一部・相模) <td>鎌倉</td> <td>横濱市</td> <td>横須賀市</td>	鎌倉	横濱市	横須賀市
千葉縣(下總大部・上總) <td>千葉市</td> <td>銚子市</td> <td>船橋</td>	千葉市	銚子市	船橋
茨城縣(下總一部・常陸) <td>水戸市</td> <td>日立</td> <td>土浦</td>	水戸市	日立	土浦
埼玉縣(武蔵一部) <td>川口市</td> <td>川口市</td> <td>熊谷</td>	川口市	川口市	熊谷
群馬縣(上野) <td>前橋市</td> <td>高崎市</td> <td>桐生市</td>	前橋市	高崎市	桐生市
伊勢縣 <td>宇都宮市</td> <td>足利市</td> <td>栃木</td>	宇都宮市	足利市	栃木
栃木縣(下野) <td>日光</td> <td>佐野</td> <td>栃木</td>	日光	佐野	栃木
鹿沼			





二重橋は宮城は武蔵野の一端を占め千代田の名知れらる規模頗る壯大で城皇とて森嚴なところ世に比のな二重橋の正門であら

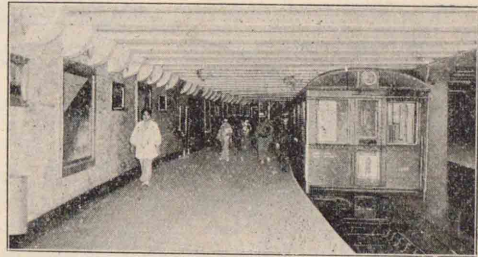


妙義山の奇勝 古火の山火の骸で全山集塊岩より成る長年月の蝕作用によつて  
火の山火の形は殆ど絶壁・岩柱・石門等多くの奇勝を生じてる

△行政上十五區に分れ新編入二十區を合して大東京市は三十五區となつた

上 東京地下  
鐵道 下 横濱埠頭  
に於ける輸出生絲積込

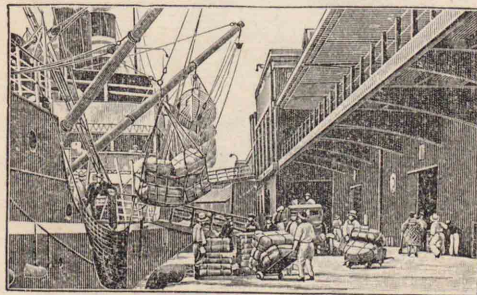
×鐵工・紡績・精糖・電球・麥粉

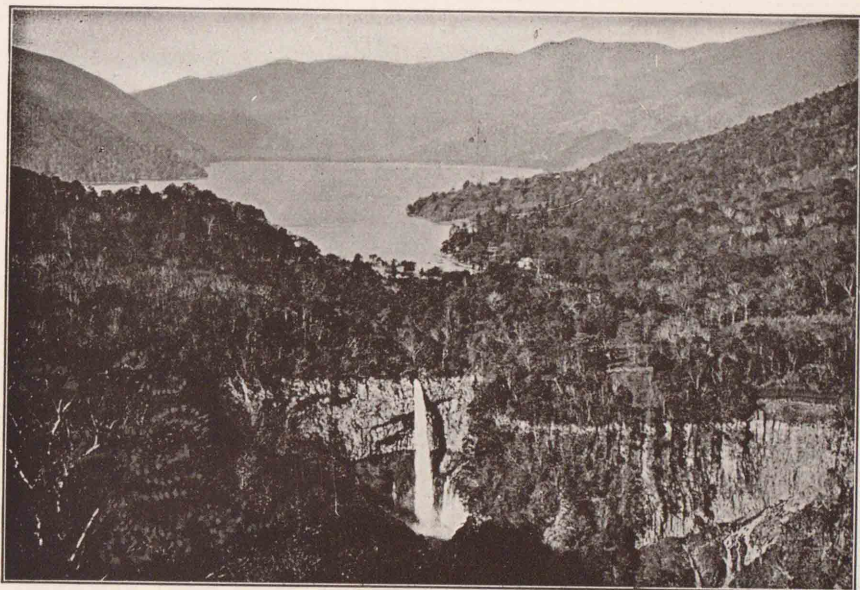


なつた。市は、政治・軍事・學術・商工業・交通上の大中心で、都市施設がよく整ひ、電車・自動車の往來が繁く、鐵道・諸街道の起點となつてゐる。

【東京市】主要部(舊東京市)は、隅田河畔の下町と、武蔵野臺地の東端をなす山手とに分れ、下町には商家・工場、山手には官衙・學校住宅が多い。市街は、大體宮城を中心として發達し、丸の内を初め高層ビルディングが多い。新編入區域は、多く住宅地工業地である。

川崎市は、京濱工業地帯の中央に位し、工場が多い。横濱市は、帝都の外港、我が國第二の大貿易港として、港灣設備がよく整ひ、巨船の出入が自由である。取引は、輸出を主とし、近年、工業も亦盛





華じ生てれらめ止き堰に爲の岩熔の山體男が川谷大は湖寺禪中 瀧巖華と湖寺禪中  
るあて要重上術學に共と美の光風 るあて岩熔のそち即は石岩い白る懸の瀧巖



社會本 るあて景光の庫食品製の社會油醬田野るあ稱の一第本日 場工油醬の田野  
ぶ及に好萬十年一は數石造釀人百四千三員業従とるす合を場工地各るす屬に

んになつた。

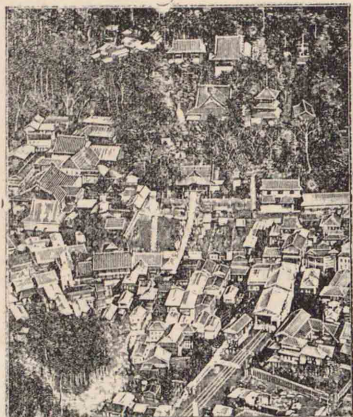
【横濱港】後背地に産する生絲絹織物(縮緬・羽二重・富士絹)を米・佛・英等の諸國に輸出し、その他、綿織物・綿絲の輸出も多い。輸入品は、主に機械類・練綿羊毛である。

湘南・房總地方

横須賀市は、代表的軍港町である。史上に有名な浦賀には、造船が行はれる。鎌倉は、社寺・史蹟に富む遊覽地である。平塚市は、湘南の二中心、小田原は箱根山麓に發達した都邑である。房總半島南部の東西兩岸は、鐵道の開通と共に、休養地として益、利用されつゝある。千葉市は、交通の要地で、附近に、陸軍氣球隊がある。

常總地方

利根川下流地方は、米作が榮え、又醸造業が盛んである。銚子市は、醬油で著れ、又大漁港である。常總臺地には、陸軍の學校、兵營、演習地が多い。成田



△海軍工廠・航空廠があり附近の追濱に海軍航空隊がある  
×附近に江ノ島の勝地がある  
館山に海軍航空隊がある

飛行機より見たる成田の不動堂附近

霞ヶ浦湖岸の阿見に海軍航空隊がある

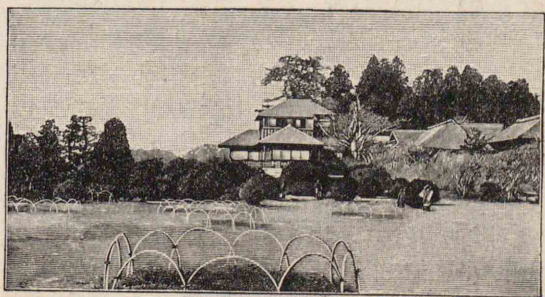
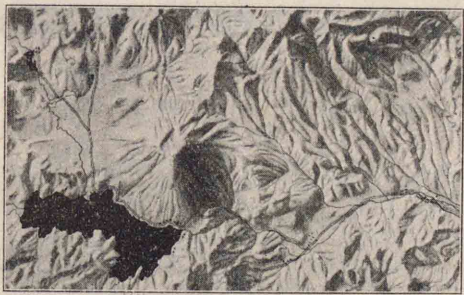
那珂川口地方には  
保養地が多い  
×兼六園(金澤)・  
後樂園(岡山)と共  
に日本三公園と呼  
ばれる

△近年人工灌溉に  
よつて開墾が進ん  
だ  
●下常磐公園  
上 東照宮陽明門

は、不動堂で名高く、東方に、香取鹿島兩神宮があ  
る。常磐線に沿ふ土浦・石岡は、霞浦の要津であ  
る。水戸市は、歴史に名高い城下町で、常磐公園  
がある。

東北・兩毛線方面

東北線は、川口・浦和・大宮・宇都  
宮・那須野々  
原を経て、  
奥羽地方  
に入る。



川口市は、鑄物・麥酒の産で名  
高い。宇都宮市は、日光線の  
分岐点である。日光は、東照  
宮等の人工美と、山水の自然

△鬼怒川の支流

立川に陸軍飛行聯  
隊所澤に陸軍飛行  
學校がある  
×東京府の管轄に  
屬する  
●硫黄列島・南島

○諸外國の歸化人  
が多い要塞司令部  
がある

美とを兼ね、内外にその名が高い。兩毛線は、高崎市に起り、前橋市  
を過ぎ、絹織地帯を経て、東北線・水戸線に接續してゐる。

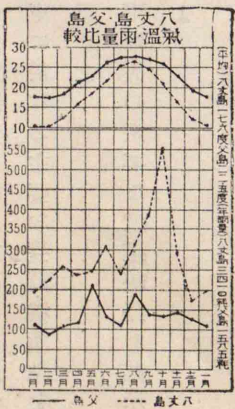
【日光附近】男體山が峙ち、山麓に中禪寺湖が湛へて、その水は、溢れて華嚴瀧  
となり、大谷川となる。四季、自然の景に富み、殊に夏は冷涼である。關東一  
の遊覽地で、最近國立公園設定地となつた。

中央線地方

八王子市は、養蠶・機業の中心で、多摩御陵に近い。

第五節 南方諸島

伊豆七島・小笠原諸島その他の小島を含  
む。富士火山帯に屬する火山島が多く、  
就中、大島の三原山は、名高い活火山であ  
る。伊豆七島には、牧牛が行はれ、椿油・八  
丈絹を産する。小笠原諸島は、熱帯性の氣候で、甘蔗・バナナ・鳳梨を  
産し、父島の二見港は、軍事・通信上の要地である。





設問

- 關東地方の山脈を圖示せよ。
- 地圖上で利根川の長さを測り、且つその利用について考察せよ。
- 京濱を中心とする休養地を擧げよ。
- 關東平野の地形と農産物との關係に就きて述べよ。
- 關東地方の山地平野海岸の産業は、

- 如何に相違してゐるか。
- 京濱地方が工業地帯として繁盛に赴いた原因と、その工業品とを記せ。
- 關東に於ける主要な養蠶機業地を列記せよ。
- 關東地方の主要な鐵道線路を圖示せよ。

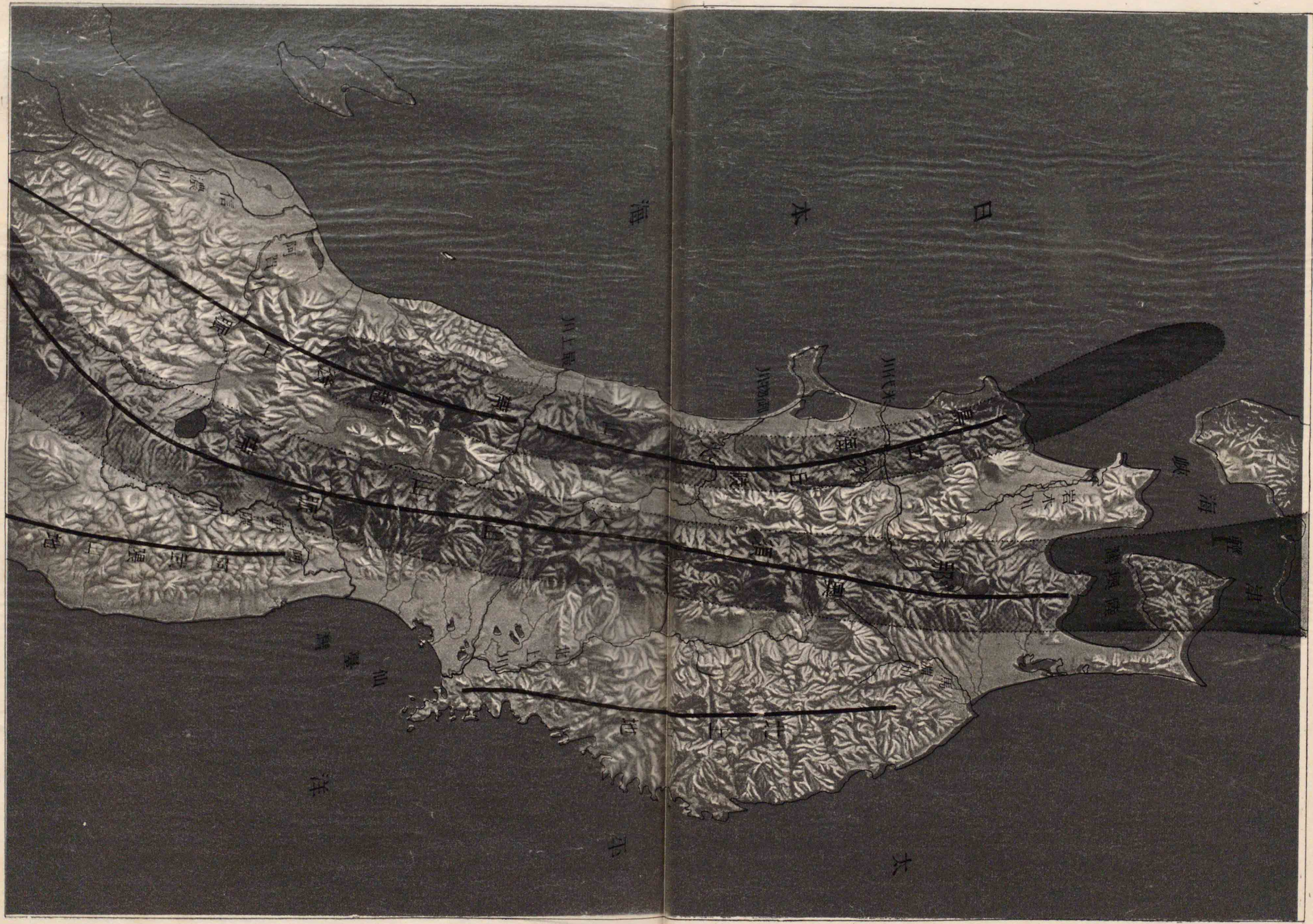
第二章 奥羽地方

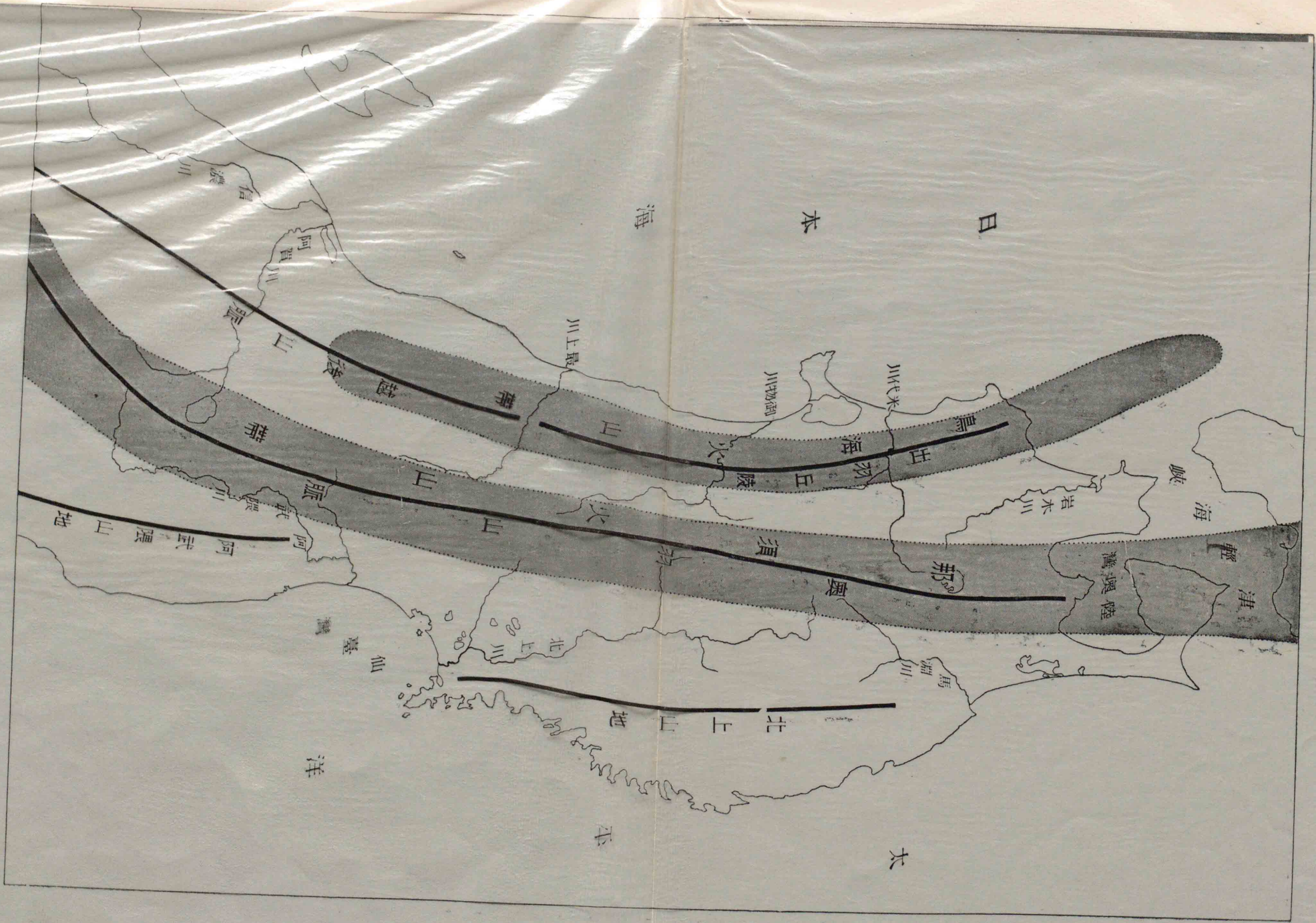
第一節 位置と地形

概観

本州の北東部を占め、我が國の中央文化に遠ざかり、又氣候の關係等で、産業文化の發達が遅れてゐる。

行政上からは、福島・宮城・岩手・青森・秋田・山形の六縣に分れ、地形上からは、東部・中央部・西部の三區となる。

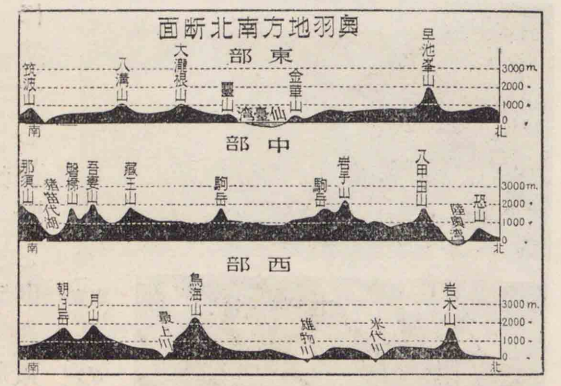






△ハヤチネ  
早也峯  
オホタキネ  
大瀧根山  
○リヤウゼン  
霊山

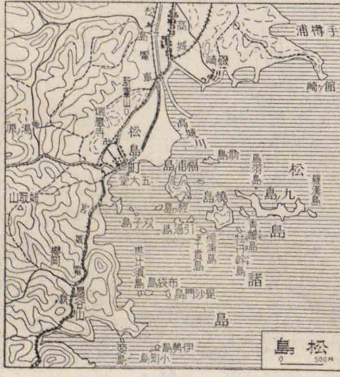
×細流が刻んだ谷  
が沈降して作られ  
たものである



地が交通を妨げ、文化が発達しない。北端には、下北(斗)津軽二半島が陸奥灣を抱く。  
【松島灣】二百四十餘の島嶼が浮んで、青松を頂き、これが碧海白波に映じて、風光が繪の如く、日

東部

仙臺灣を隔て、相連る北上、阿武隈  
兩山地は、侵蝕を受けて、高原状を呈し、所々に高地が残つてゐる。中央山脈との間の細長い谷は、馬淵、北上、阿武隈三川が流れ、産業交通上重要な地帯である。太平洋岸には、牡鹿半島が抱く仙臺灣内に松島灣がある。北部は鋸齒状のリアス式海岸で、大船渡、釜石、宮古等の良港灣があるが、後背の山



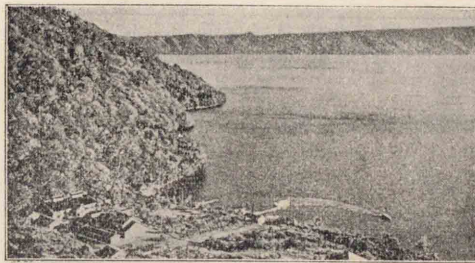
本三景の一として名高い。

中央部

奥羽山脈那須火山帯が並んで、南北に走り、主分水嶺をなして、地勢が稍峻しい磐梯・吾妻・藏王・岩手・八甲田の諸火山が峙つて、概ね牧馬に適する裾野を曳き、東山・飯坂〔以上、福島〕・鬼首〔宮城〕・浅虫〔青森〕の温泉がある。山間には

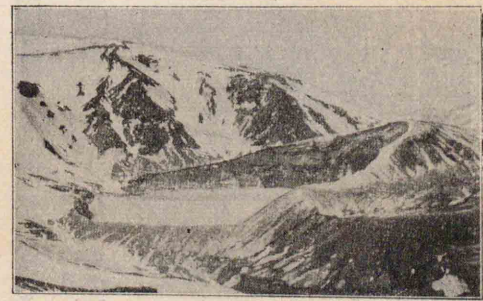
〔青森〕等の温泉がある。山間には

【下藏王沼藏  
王山頂の火山湖】  
上 十和田湖  
中 會津盆地附近  
鳥瞰模型圖



風光のよい猪苗代湖・十和田湖・田澤湖が湛へてゐる。

【猪苗代湖】磐梯山麓の陥没盆地に湛へ、その水は溢れて阿賀川上流の日橋川となり、川筋に



別の士富輕津で麗秀てめ極容山し立屹に部西の野平輕津は山木岩 園果辛と山木岩  
るゐてれら知て以を質良れさ培栽に地積冲の野平ぐ仰を山のこは果萃 るあが名



古 るあで一の景三本日で景勝たじ生てれさ蝕侵に爲の水海が岩灰凝 光風の島松  
るゐてし散てい戴を松青が嶼島小大の數多にどほるれらせ嶺と島八百八來

大發電所が設けられ、主に東京に送電する。又東方に引かれる安積疏水は

灌漑・發電に利用されてゐる。

十和田湖・八甲田山附近の一帶は、特に風景が勝れてゐるので、最近、國立公園が設定せられることゝなつた。



西部

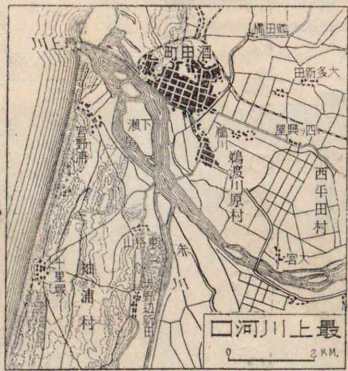
出羽丘陵・越後山脈が南北に連なり、その南部に、飯豊山・朝日

岳が聳え、出羽丘陵と並走する鳥海火山帯には、月山・鳥海山・岩木山が噴出してゐる。中央山地・出羽丘陵間には、多くの陥没盆地が、南北に排列してゐる。

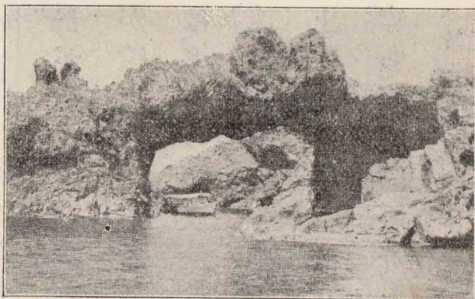
米代(能代)雄物(御)最上阿賀の諸川が流れ、概ね

上流は、縦谷を作り、下流は、丘陵中に横谷を穿ち、河口に平野を作つて、日本海に注ぐ。

海岸には、能代・秋田・庄内の諸平野が開け、又北部



上男鹿半島  
西岸の奇勝 下新  
庄の深雪



△産業・交通を妨  
げる

には、岩木川の堆積土砂で作られた津軽平野がある。日本海岸は、概ね単調な砂濱で、砂丘が多く、河口港がある。陸繋島の男鹿半島は、八郎潟を抱いてゐる。

### 第二節 気候と産業

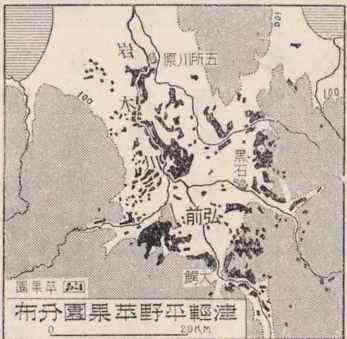
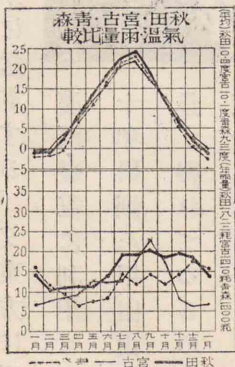
#### 気候

気温が低い。内部は、寒暑の差が烈しいから、米作に適する。東岸は、寒流の爲、比較的低温である。西岸は、暖流の影響を受けて、高温であるが、冬季、北西風が強く、降雪が多い。

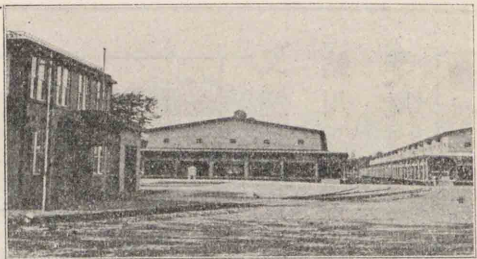
#### 農業・養蠶業

地形・気候の

関係上、牧畜・林業が行はれ、農耕は盛んでない。米は海岸平野・諸盆地に多く、酒



上酒田の米  
倉庫 下川俣の羽  
二重工場

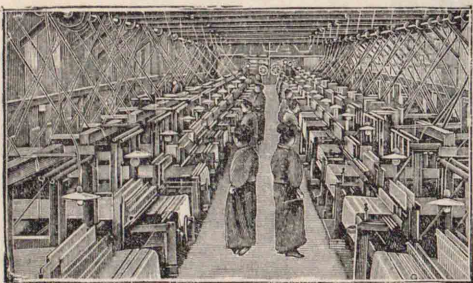
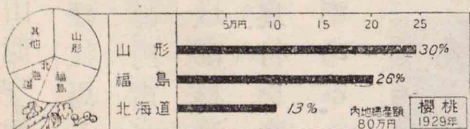


酒田・石巻は従来  
米の船積港であつ  
たが近年は主に鐵  
道で輸送する  
盛岡では澱粉を製  
造する

前山 盛岡 櫻桃は山形附近に多く産する。阿武隈

最上の二流域は、蠶を養ひ、郡山、米澤は製絲。山形は繭の集散地、福島郡山、米澤は製絲地、川俣、鶴岡、郡山、米澤は絹織地である。牧畜業・林業 一般に雨量が少い爲、火山の裾野及び臺地は牧畜に適し、七戸、岩

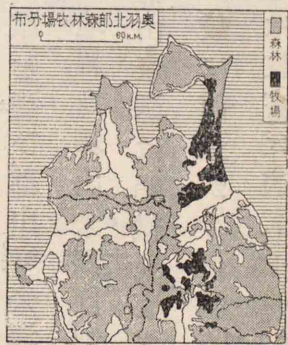
田、鶴岡(以上)石巻(以上)はその集散地で、京濱・北海道に移出する。麥作は、雪の少い東部に行はれ、又一般に馬鈴薯を植ゑ、大豆(北上)・煙草(阿武隈河谷)をも出す。苹果





△河川・鐵道で輸送する

○盛岡の馬市 下米代川上流の杉林



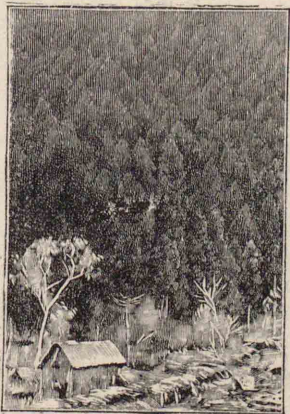
手山麓(岩手)鍛冶屋澤(宮城)三春(福島)等は牧馬が盛んで、盛岡・白河(福島)は馬市で名高い。米代川流域は杉・津軽半島は羅漢柏の良材を産し、能代港(秋田)・秋田

水産業

太平洋方面は、

寒・暖兩海流の影響により、鱈・鮭・鯉の漁獲が多く、

○八戸市の一部  
×金華山沖の捕鯨根據地である



又鯉節製造が行はれ、鮫(青森)・宮古・釜石・石巻・鮎川(宮城)等の漁港が發達した。西岸は、冬季、風波が荒く、且つ雪が多い爲、一般に、漁業が盛んでない。

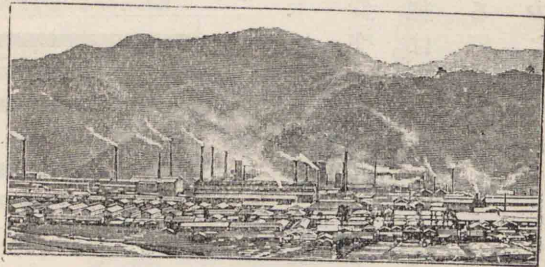
鑛業

鑛産物に富み、米代・雄物流域は、銅・銀を産し、小坂・尾去澤・阿仁

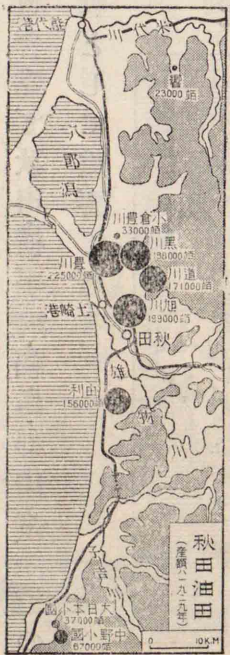
△釜石鑛山

×豊川・黒川・旭川等

釜石製鐵所



(以上米代流域)荒川(雄物)等の鑛山が名高い。釜石附近には、鐵鑛の産が多く、製鐵所がある。常磐炭田の石炭採掘は、平島(福島)を中心とする。雄物川下流(秋田)には、油田が開け、新瀉縣の諸油田と、石油の産額を競ひ、土崎港に、製油所がある。



工業・商業

工業は、他の地方に比して、遙かに遅れてゐる。南部は、石炭・水力人口に富む爲、絹織物業が行はれるが、その他は、一般に手工業で、若松(福島)・能代港・弘前の漆器、若松中村(福島)の陶器、盛岡の鐵瓶、仙臺の埋木細工等が著しい。

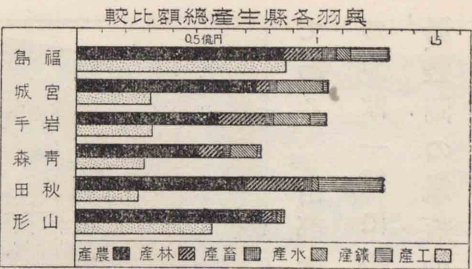
仙臺の仙臺平八橋織、米澤の絲織、秋田の畝織は、古よりの特産である。

○木通細工の産もある

△青森・船川港

- 1 福島・青森間
- 2 秋田・新津間
- 3 横手・黒澤尻間
- 4 余目・小牛田間
- 5 新津・平間

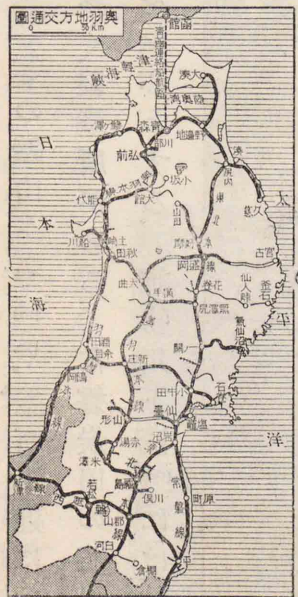
主要道路に奥羽・陸羽・北國の三街道がある



商業は、福島・山形・秋田等を地方的中心とし、北海道樺太との取引が割合に多い。外國貿易は開港も少く振はない。

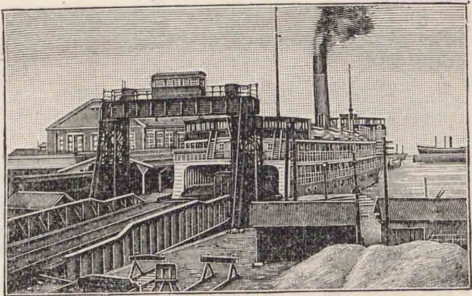
### 第三節 交通と人口

**交通** 縦貫鐵道は、東北常磐・奥羽・羽越の四線が、河谷盆地又は海岸平野を通じ、横斷線は、横黒・陸羽磐越の諸線で、横谷を利用してゐる。青森は、東北奥羽二線の會合點で、秋田・横手・福島郡山も、鐵道の分岐・會合點として重要である。



本地方は、地形・氣候に支配される爲、交通が不便である。併し、東北線は、阿武隈北上馬淵諸川の流れる縦谷低地を通ずるので、隧道が少なく、最も早く開通した。横斷

△上青森の青函連絡船埠頭  
下東京無線電信局原町送信所

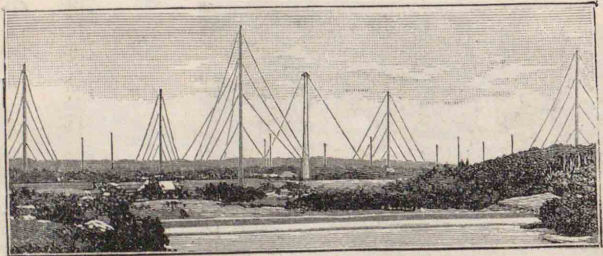


△北西風を避ける  
によい

線は、中央山脈を横ぎるので、急勾配や隧道が多く、従つて開通も遅れた。

海運は、良港が少ない上、東海岸及び津輕海峽は、濃霧が多く、日本海方面は、冬季の風浪降雪の爲航海が不便である。青森は、良港(港開)で、青函連絡船の便があり、又函館・室蘭と交通が頻繁である。日本海岸には、能代港・土崎港・酒田・船川港(秋)の諸港がある。富岡原町(以上)には、東京無線電信局送信所があり、仙臺(秋田)に、ラヂオ放送局がある。

**人口** 位置・地形・氣候の關係上、人口が稀薄で、岩手縣は特に密度が小である。仙臺の外、大都會がな



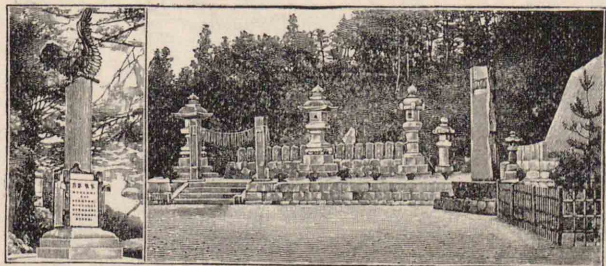
面積	人口	地方	人口
八六、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	全國	一、〇〇〇、〇〇〇
一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	内地	一、〇〇〇、〇〇〇
一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	奥羽地方	一、〇〇〇、〇〇〇
一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	福島	一、〇〇〇、〇〇〇
一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	宮城	一、〇〇〇、〇〇〇
一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	仙臺	一、〇〇〇、〇〇〇
一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	岩手	一、〇〇〇、〇〇〇
一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	青森	一、〇〇〇、〇〇〇
一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	秋田	一、〇〇〇、〇〇〇
一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	山形	一、〇〇〇、〇〇〇

第四節 處誌

常磐東北線方面

常磐線は、勿來、關址附近を過ぎ、濱通に沿うて北走する。磐越線に沿う若松市は、會津盆地の中心で、附近に白虎隊の墓がある。

東北線は、關址で名高い白河を過ぎて、阿武隈の河谷を北に進み、仙臺市に通ずる。市は、仙臺平野の要地を占め、政治、軍事、學藝の中心である。その外港鹽竈は魚類を集散し前

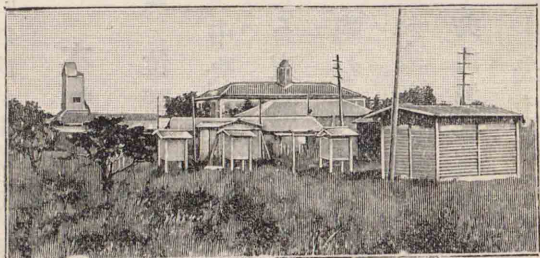


白虎隊の墓 (左は伊太利より贈られた記念碑) △伊達氏の舊城下

行政区劃と主要都市	郡山市	福島市	若松市
福島縣(岩代、磐城大部)	須賀川	中川	卷
宮城縣(磐城一部、陸前)	仙臺市	石巻	鹽竈
岩手縣(陸前一部、陸中)	盛岡市	釜石	宮古
青森縣(陸奥大部)	青森市	八戸市	弘前市
野邊地	秋田市	能代港	横手
秋田縣(陸中一部、羽後)	土崎港	大館	山形市
山形縣(羽後一部、羽前)	酒田	新庄	

仙臺市の大觀中水澤の緯度觀測所 下念珠關の風光 △附近は津輕海峡と共に要塞地帯である

×大館・能代港・秋田・横手・鶴岡・新庄・米澤



奥羽羽越線方面

面に松島の勝地がある。北上川流域の平泉に中尊寺、水澤に緯度觀測所がある。岩手山麓には、大規模な小岩井農場が開けてゐる。八戸市は、鮫を外港とし、下北半島の、大湊は、海軍要港である。

軍事市弘前市を始め、各中心都市がある。その一である新庄は、尾花澤と共に、冬季の深雪で著れてゐる、羽越線は、余目で、陸羽線を分ける。

羽越國境の念珠(鳥)關は、關址と風景の美とて名高い。



問 設

- 奥羽地方の地圖を描き、山脈河川を記入せよ。
- 奥羽山脈の東西の地形を比較せよ。
- 奥羽地方に於ける主なる半島海灣の名を挙げよ。
- 奥羽地方の氣候が、産業に及ぼす影

- 響を述べよ。
- 奥羽地方の絹織物業地を問ふ。
- 奥羽地方の鑛業につきて記せ。
- 奥羽地方の交通氣候の關係を問ふ。
- 奥羽地方の文化の遅れたる原因につきて述べよ。

第三章 本州中部地方

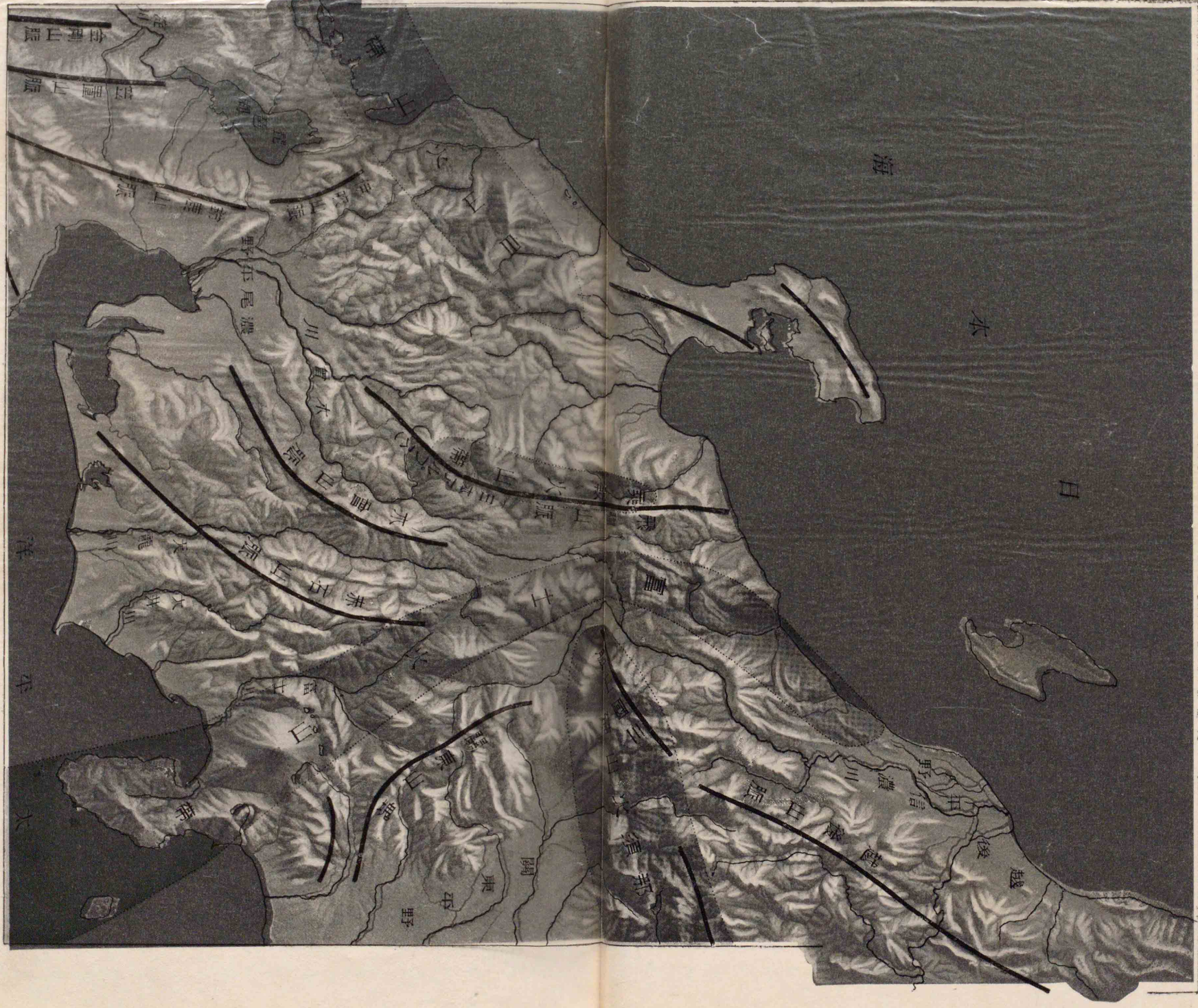
第一節 位置と地形

概観

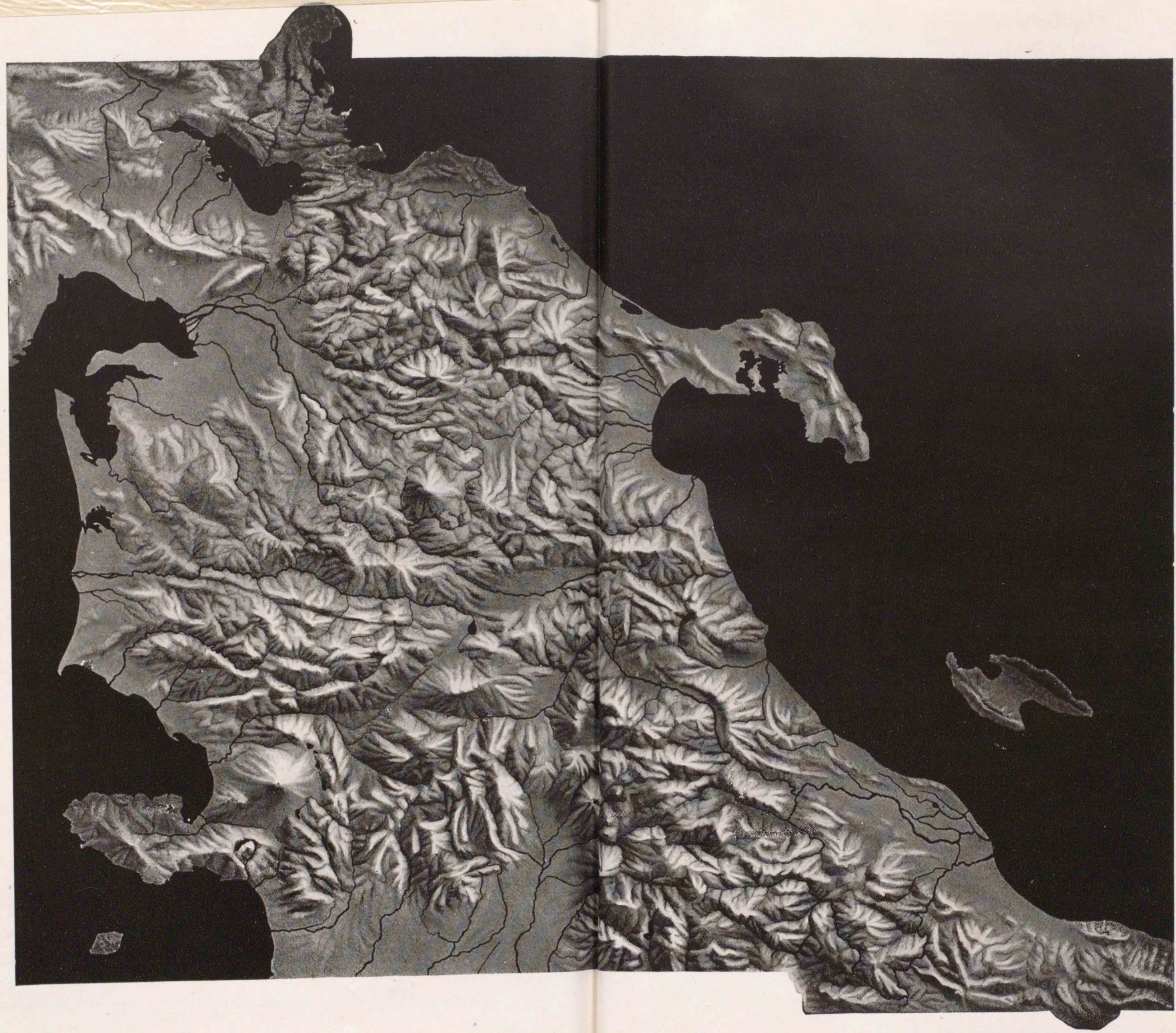
本州の略、中央に位し、奥羽・關東・近畿の三地方に境する。南は太平洋に面する東海の地で、文化が進んでゐるが、中部は中山道、北部は日本海に臨む北陸の地で、共に發達が稍遅れてゐる。行政上、静岡・山梨・愛知・岐阜・長野・新潟・富山・石川・福井の九縣に分けてあるが、地形上は東海地方・中央山地・北陸地方の三區に分れる。

東海地方

北は中央山地に連り、次第に南に傾斜して、丘陵又は海







△山中・河口・西・  
シ・ウジ・モト・ス  
精進・本栖でこれ  
を富士五湖といふ



熱海温泉

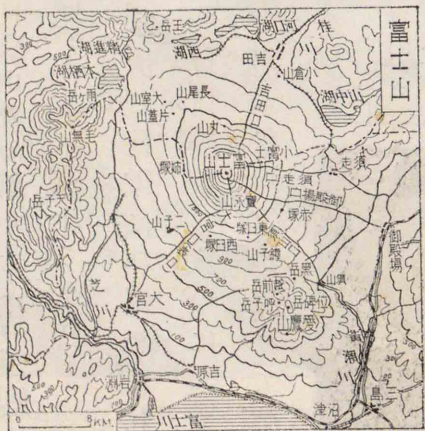


六六」で、立派な缺尖圓錐形の成層

火山である。四時、白雪を頂いて、遠く裾野を  
曳き、恰も白扇を倒に懸けたやうで、實に秀麗  
で、且つ氣高い。北麓には、五つの裾野湖があ  
り、風光明媚で、箱根の勝地を加へて、国立公園

岸低地となつて太平洋に臨む。  
東部には富士火山帯が南北に走り、富士  
山・天城山等を噴起し、又その餘勢は、伊豆  
半島に熱海・伊東・修善寺等の温泉を湧出  
してゐる。これ等は何れも保養地として、  
年中、浴客が絶えない。

【富士山】内地  
の最高峰〔高さ  
三三七







富士山の麓に工業の集まる富士の豊富な水力なる富士の諸産の発達を促さず従つて  
富士の麓に工業の集まる富士の豊富な水力なる富士の諸産の発達を促さず従つて



富士山の頂上には火口あり 飛行機の上より撮影した富士の火山層の構成は  
富士山の頂上には火口あり 飛行機の上より撮影した富士の火山層の構成は

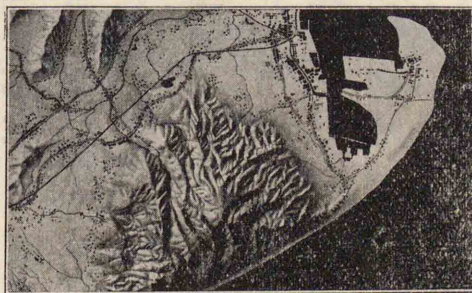
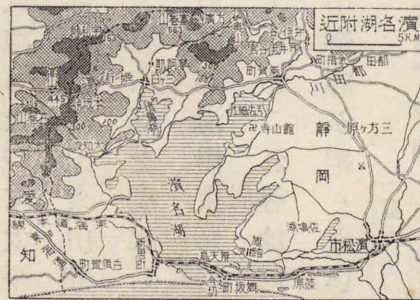
△古いものは臺地・丘陵となつてゐる  
●吉田登山口より見た富士山下三保松原附近の鳥瞰模写圖



×沈降した入江の両岸から砂嘴が発達したものである

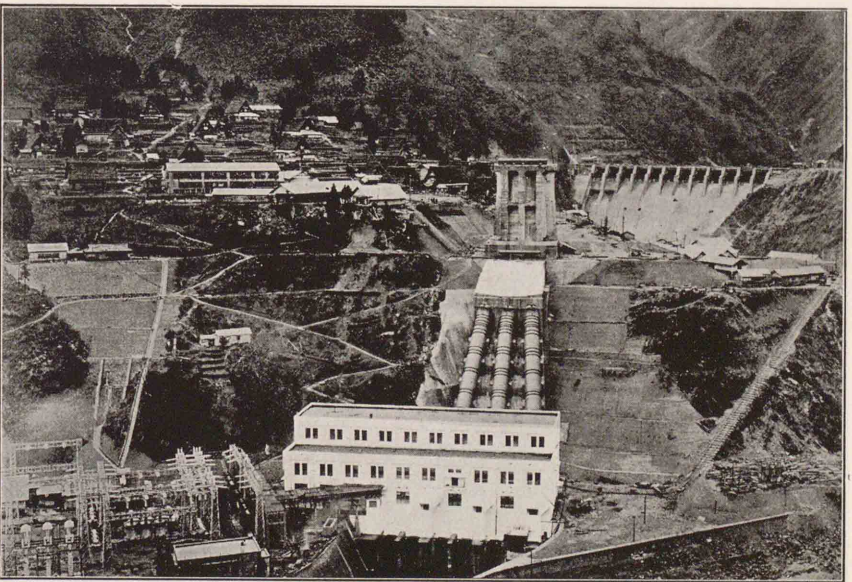
る。海岸は、東部に伊豆半島が突出して駿河灣を抱き、三保松原の砂嘴は、清水港を圍む。中部は、概ね平直な砂濱で、濱名湖の外出入がない。西部

の設定地である。夏季は、登山者が頗る多く、吉田(梨山)・御殿場・大宮(以上静岡)は、登山口として知られてゐる。富士・大井・天龍諸川は、急流で發電に利用せられ、下流には、河岸平野が開け、柑橘・茶の栽培に適する。西部には、豊川・矢作(知)川・木曾川等が流れて、肥沃な三河濃尾兩平野を潤し、農産物が豊富である。





大井川は時平が少く河原が廣い季雨には往々洪水を起す 徳川時代に  
大井川の橋架は行なはなれ一因るあてに圖る見えは橋の東海道の鐵橋あて



川庄の電所 川中流祖山に新に建設されても六力能ロッキと  
右方に見えは堤は十八米在現第一の大規模のもので

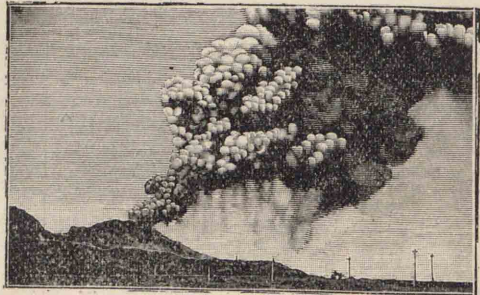
△陥没して生じた

南緯ろ  
は南から  
来る山脈  
のこと

上 浅間山の  
噴煙 下 鎗ヶ岳の  
遠望

△松本平の陥没に  
よつて作られた地  
塊である

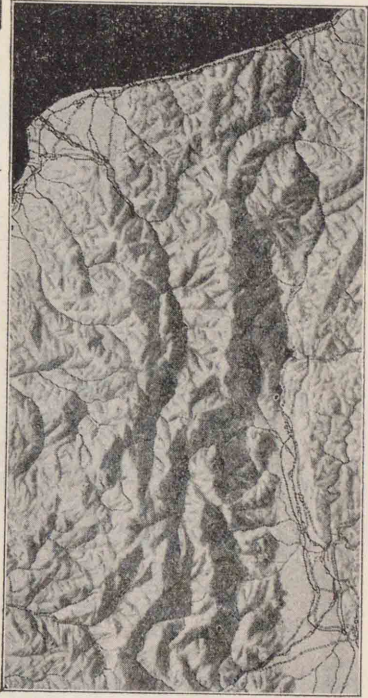
×硫黄岳ともいふ



ある。中部には、赤石木曾飛驒三山脈が、略南北に並走し、飛驒山脈には、白馬岳立山鎗ヶ岳等の三千米内外の高峯が聳え、又乗鞍火山帯を伴つて焼ヶ岳御岳の火山を起し地形が甚だ雄大である。

には、渥美・知多兩半島が、渥美・三河二灣を劃り、伊勢海の沿岸に、名古屋の良港がある。  
中央山地 我が國の南彎・北彎兩山系の會合する處で、富士火山帯を伴ひ、地形が複雑峻峻であるが、諸所に盆地を作つてゐる。東境には、關東山塊等の山地が連り、浅間火山(那須火)が噴起して

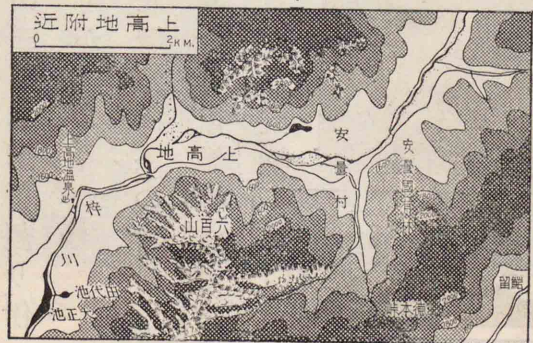




飛驒山脈附近の鳥瞰模型圖  
△北アルプスともいふこの時は木曾山脈を中アルプス赤石山脈を南アルプスといふ

嶽地で、日本アルプスと呼ばれ、最近、国立公園の設定地となつた。頂上附近には、盛夏も雪が残つて雪窟を作り、或は嬋妍たる花卉に富む御花畑もあり、近年夏季の登山者が頗る多い。梓川上流の上高地は、夏季のキャンプ生活で名高い。

西部は、飛驒高原に続き、その北部に白山火山帯が走り、主峯白山が峙つ。【飛驒山脈】東方に急傾斜し、北方は日本海岸の親不知から、南方、木曾川の谷まで、一六〇軒に達する内地最高の山



△犀川発電所より京濱地方へ庄川・木曾川発電所より京阪・名古屋地方へ送電する

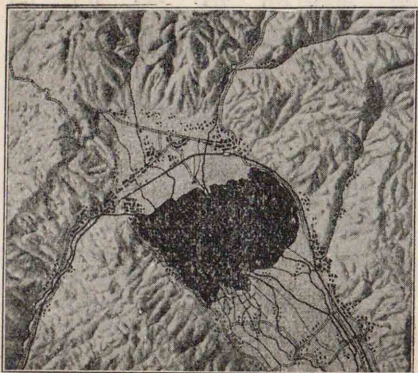
上寝覺ノ床下諏訪湖附近の鳥瞰模型圖



龍峽の勝地を作つてゐる。木曾川は、鳥居峠に發し、木曾谷に、寝覺ノ床の勝地を刻んでゐる。千曲川は、佐久平・上田盆地を、犀川は、松本平を流れる。

北陸地方

地形は、日本海に傾斜し、海岸低地と丘陵地とに分れてゐる。白山火山帯



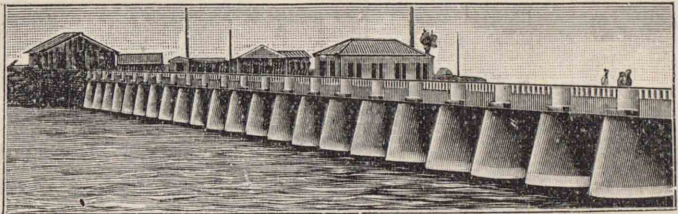
濃川上流は、千曲川と犀川とに分れ、善光寺平で相會し、北東に流れる。黒部・神通・射水(庄)諸川の上流は、何れも北流してゐる。これ等の河川は、夏季、雪融けて水量を減じない爲、発電に利用せられ、京濱・近畿地方へ送電せられる。

富士川は、甲府盆地の水を集める。天龍川は諏訪盆地の諏訪湖に發し、伊那谷の縦谷を流れて、天

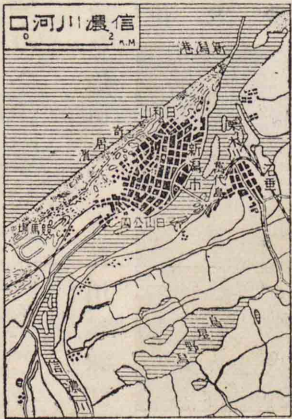
×本州中海岸より最も遠い地である

富山平野は諸川の三角洲の合成である

堰 大河津の洗堰

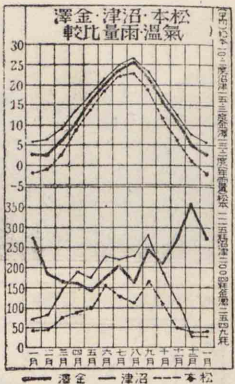


の餘勢は、中山代和倉等の温泉を湧出し、多くの浴客を集める。信濃阿賀二川の下流に越後平野、黒部神通射水三川の下流に富山平野、九頭龍川の下流に福井平野が開け、何れも地味が肥沃で、米作に適する。信濃川の下流は、土砂を堆積して水が浅く、舟運の便を缺き、屢に氾濫して大害を及ぼしたが、近年大河津に、大規模な洗堰と放水路とが設けられた。



△潟を作つてゐる所もある

ある。丘陵性の能登半島は、富山灣七尾灣を抱く。その他は、概ね海岸線が平直で、砂濱が長く連つて、所々に砂丘が發達し、或は親不



氣候

太平洋方面は、地形と暖流との影響により、冬暖くて夏涼しい爲、沼津・興津等の保養地が發達した。又この地方は、夏季に南東風を受けて、雨量が多く、農産物が豊かである。中央山地は、寒暑の差が稍大で、雨量が少い。

第二節 氣候と産業

知等の斷崖が海に迫つてゐるので、河口港たる新潟・伏木〔富山〕の外には、殆ど良港灣がない。佐渡島は、唯一の大島である。

△季節風

×大陸性を帯びてゐる

■高田附近のスキー

日本海方面は、冬季、北西風の爲、吹雪が多い。高田附近の積雪は、數米に達し、スキーの好適地となるが、交通産業を妨げる不便がある。冬は、寒氣が甚しくて、諏訪湖では、スケートが盛んであ



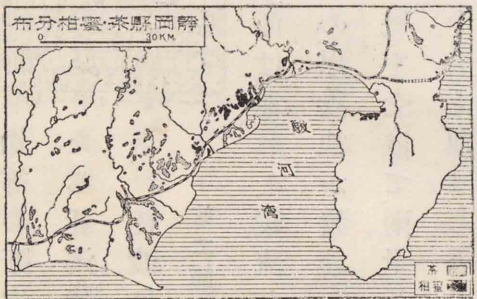
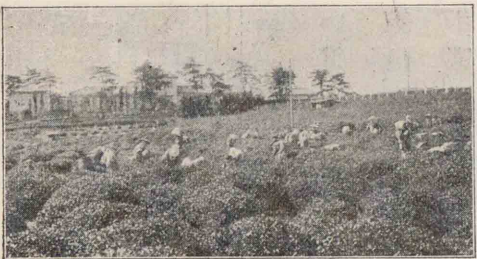
る。夏は、割合に暑いが、高地は涼しくて、軽井澤富士見高原〔以上〕等の名高い避暑地がある。

**農業**

諸平野は、地味氣候共に農業に適し、且つ灌漑の便が良好な爲、米作が盛んに行はれる。殊に濃尾、越後、富山三平野は、主な米産地で、名古屋〔愛知〕、大垣〔岐阜〕、新潟、長岡〔新潟〕、高岡〔富山〕はその大集散地、新潟、伏木はその積出地である。濃尾平野は、麥、蔬菜を多く栽培し、静岡海岸平野には、茶、蜜柑の産が多く、静岡では、茶の取引精製が盛んに行は

● 下諏訪湖のスケート 上 静岡縣の茶園 (建物は国立茶業試験所)

● 静岡・長野兩縣はマサヒ山葵を産する



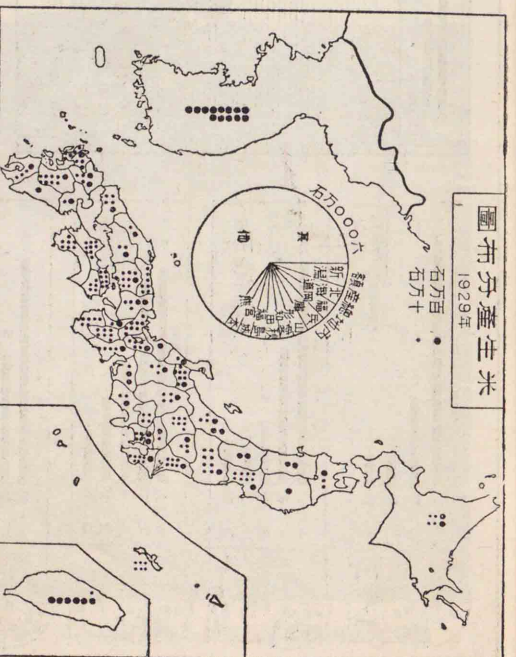
● 1929年 農産物

● 百万石



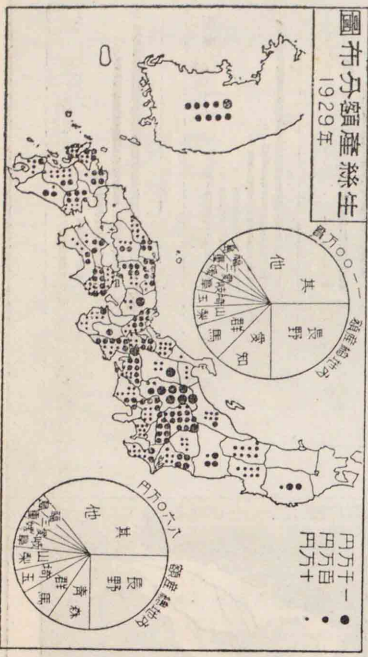
● 1929年 米

● 百万石



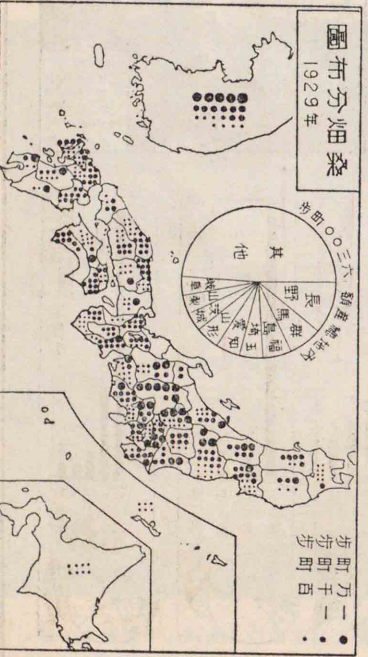
● 1929年 生絲

● 百万石



● 1929年 桑

● 百万石







通町津大の通大要主は圖 いなち恥に名の京中は賑股麗壯の街市 觀大の市屋古名  
るあでのもため眺を閣主天の重五の屋古名い高名で鯢の金に方北く遠らか



南は眞寫 るみてしなを型典の町下城市都的代表の本日裏は市澤金 觀大の市澤金  
るあで院別寺願本東は物築建大つ峙に方左く遠で觀大の街市だん望りよ方

△葡萄酒の醸造に  
用ひられる

○**製上** 勝沼附近  
の葡萄園下製絲  
地岡谷(窓の多い  
建物は繭倉庫)  
×製品は内地の絹  
織物の原料となり  
その餘を輸出する

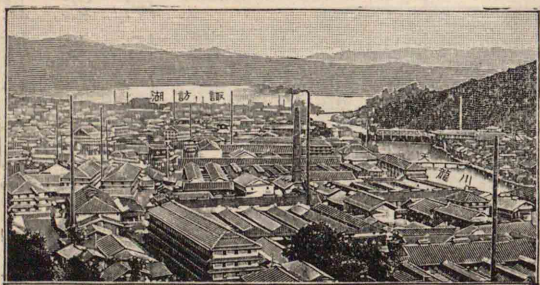


松本上田(以上)・甲府(山梨)・豊橋・岡崎(愛知)・中津・高山(以上)等にも製絲工場がある。

【岡谷の製絲】 岡谷附近に製絲業が盛んなのは、①繭の産地の中央にあつて、原料が得易く、②空気が乾燥して繭の貯藏に適し、③水力利用の便がある爲である。

**林業**

地形風土が、林業に適し、木曾谷及び天龍

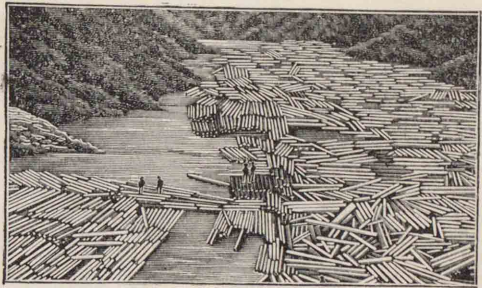


木曾山中には森林  
鐵道が設けてある

上木曾川を  
埋める木材の筏  
下伊豆半島の鯉  
節製造

△水及び飼料の蝸  
が多い爲である

×東山・西山・新津  
等



川の上流には、扁柏、花柏等の良材が多い。古來  
これ等は、河川を利用して輸送したが、近年、鐵道  
輸送が盛んになつた。名古屋には、木材の集散  
及び製材業が發達してゐる。静岡縣は、近年、椎  
茸の産が頗る多い。

水産業

水産物に富み、太平

洋方面は、鯉、鯪が多く、下田、焼

津〔以上〕は、有名な漁港で、鯉節

の製造も行はれる。日本海方面は、鱒、鰯、

多く、魚津、氷見〔以上〕の漁港がある。中央高地の

河川は、鱒を産し、諸盆地では、鯉を養殖する。

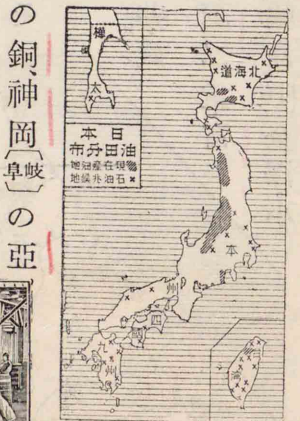
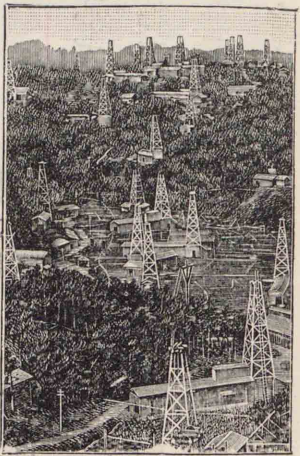
鑛業

信濃川の下流は、我が國の石油の主産地

で、油田が、廣く分布し、新潟、新津、柏崎に、製油所が



上 依渡金山  
中 西山 油田下  
名古屋の硬質陶器  
工場



の銅、神岡〔岐阜〕の亞

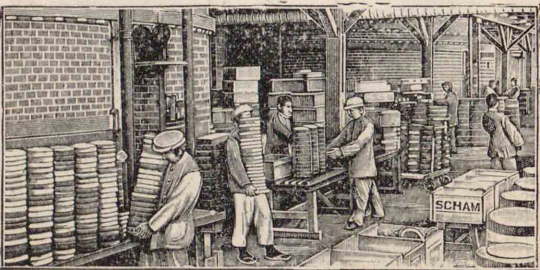
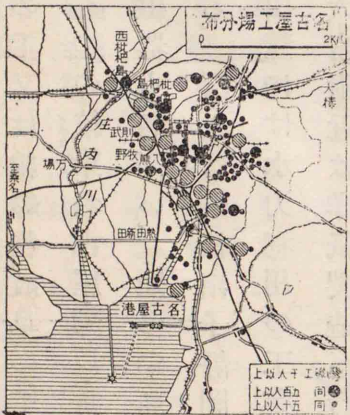
鉛、鉛、赤坂〔岐阜〕の大理石は、世に名高い  
工業 東海地方は、綿工業が行はれ、特に名古屋

我が國の大工業地帯の  
一である。名古屋は、綿

絲、絹織物、絹綿、交織物、毛

織物、車輛、時計、硬質陶器

等を産し、一宮〔愛知〕、岡崎濱



ある。  
佐渡、相  
川の金、  
久根〔静岡〕



△龜崎は清酒・酢  
半田は麥酒・醬油

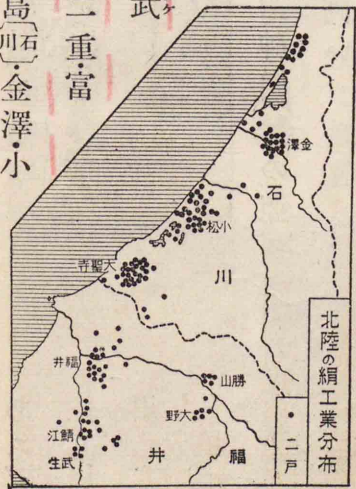
工場 濱松の樂器



×奉書・鳥ノ子も産する

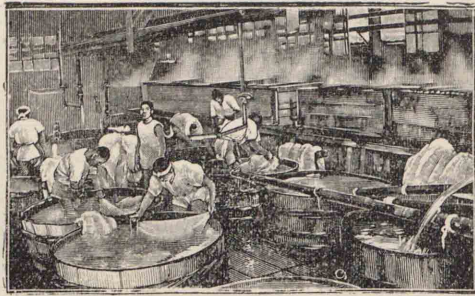
海氣織〔甲斐〕の特産があり、谷村は、その中心である。

北陸地方は、絹織物の産が多く、福井、武生〔福〕、金澤〔石〕、富山等では、輸出向の羽二重、富士絹を産する。金澤、高岡の銅器、輪島〔石〕、金澤小



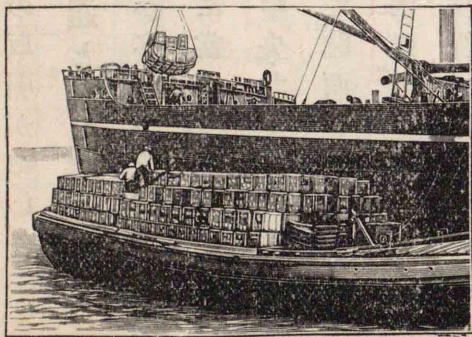
松〔岡〕の毛又は綿織物、岐阜の毛織物、紙製品、鳴海〔有松〕〔愛知〕の絞染、名古屋、瀬戸、常滑〔愛知〕、多治見〔岐阜〕の陶磁器も名高い。知多半島は、清酒、醬油等を産する。濱松は樂器、帽子、静岡は漆器を産する。富士山麓には、水力利用の工業が興り、小山〔岡〕は紡績、大宮附近は洋紙製造が行はれる。静岡、岐阜の二縣は、楮、三椏を植ゑ、和紙を多く産する。郡内地方〔梨山〕には、

上福井市の羽二重、練り下清水に於ける茶の積出し



商業

内地商業は、名古屋を中心とし、その盛んなこと、關東、近畿に次ぐ。松本〔南〕、福井〔重〕、新潟〔米〕も、各地方の中心として重要である。貿易は、八開港〔名古屋、武豊、清水、敦賀、七尾、伏木、新潟、夷〕で行はれ、就中、名古屋は陶器、清水は茶の輸出によつて著はれ、敦



濱の漆器、金澤、山代、大聖寺〔石川〕の九谷焼も、世に知られ、富山の賣藥は、古來有名である。

【名古屋附近】①東京、大阪の中間に位し、②交通の便がよく、③人口が多く、勞力が豊富で、④水力の利用に適する爲、名古屋を中心として、東は豊橋、岡崎、西は岐阜、大垣及び桑名、四日市〔三重〕に至る地方は、京濱、阪神、北九州地方に並ぶ大工業地帯となつた。



行政區劃と主要都邑	
静岡縣(伊豆・駿河)	静岡市 濱松市 清水市
沼津市 大宮	島田市 熱海市
愛知縣(三河・尾張)	名古屋 豊橋市 岡崎市
岐阜縣(美濃・飛騨)	岐阜市 大垣市 高山
山梨縣(甲斐)	甲府市 谷村 秋澤
長野縣(信濃)	長野市 松本市 上田市
新潟縣(越後・佐渡)	新潟市 長岡市 平野(岡谷)
富山縣(越前)	富山市 直江津市 高田市
石川縣(加賀)	金沢市 輪島 七尾
福井縣(越前・若狹)	福井市 敦賀 武生
大野	

であるが、都市は少い。北陸地方の南西部は、工業が勃興した爲、人口が割合に多く、越後平野は、又農業地として人口が多い。

第四節 處誌

**東海道線方面** 東海道線は、箱根山の北方を迂廻して、富士登山口の御殿場を過ぎ、駿河灣岸に出る。伊豆半島南端の下田



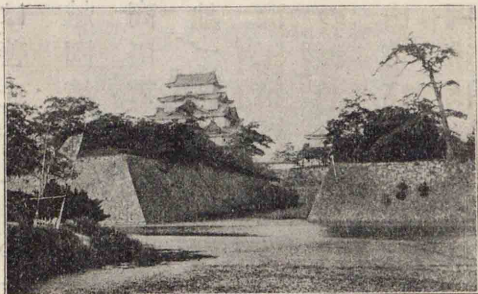
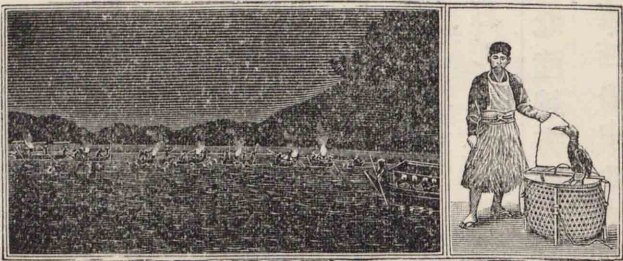
△學術・軍事の中心でもある  
×附近に久能山がある

は、開國史上に名高い。沼津市は、繭の市場で、製絲も行はれる。静岡市は、清水市を外港としてゐる。濱松市は、鐵道工場を始め、工業が盛んである。岡崎市は、徳川氏が起つた處である。名古屋市は、濃尾平野の大中心で、中京と稱せら

△東方の各務ヶ原に陸軍飛行聯隊がある  
○上岐卓長良川の鵜飼下名古屋城主閣

×奇橋猿橋が架つてゐる

○日蓮宗の總本山久遠寺がある

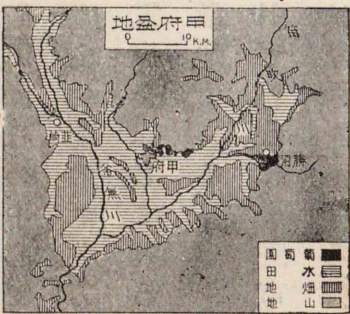


中央線方面

桂川流域(郡内)は、

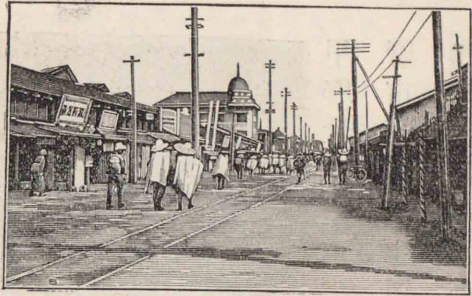
急流を利用し、發電所が多い。

甲府盆地の東半は葡萄、西半は米を産し、共に甲府市で集散する。市の北方に御嶽の勝地、南方に富士川水運の起點鵜澤と身延山とがある。



れ、名古屋城、熱田神宮などがある。海陸交通の要路に當り、商業が盛んで、物資の大供給地である。岐阜市は、鵜飼と紙製品の産出とで著はれてゐる。養老、瀧は、孝子の傳説で名高く、關ヶ原は、古戦場で知られ、附近に、不破の關址がある。

○解 上 大町の日  
本アルプス登山者  
下 善光寺



伊那谷には、農業・養蠶が行はれ、飯田は、その中心である。松本市は、日本アルプス登山の要地で、北方の大町、西方の島島の登山口に、電車を通じてある。木曾谷の中心福島は、材木の集散地である。

信越線方面

上田市は、繭の取引で著はれ、長野市は、善光寺によつて發達し、附近は、苹果を産する。信

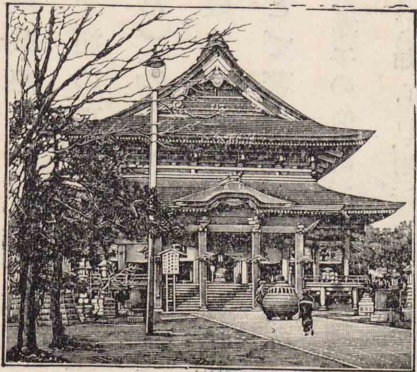
越國境附近の赤倉温泉や、高田市は、スキーで名高い。

長岡市は、商工業地である。新潟市は、越後

平野の中心地で、商工業が榮え、冬季、風波の烈しい時は、佐渡の夷港を補助港とする。

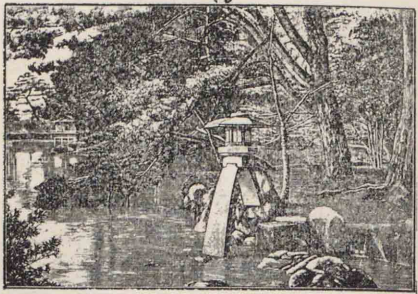
北陸線方面

富山市、高岡市は、富山平野の東西の中心で、高岡市は、伏木を外港とする。



△前田氏の舊城下  
である

○兼六公園  
上 兼六公園  
下 藤島神社



倶利伽羅峠は、古戰場として知られてゐる。金澤市は、加賀平野の中心で、金石を外港とし、北陸地方の軍事・學術・商工業の中心で、兼六公園がある。福井市は、絹織業地で、市内に藤島神社、附近に永平寺がある。

由を考察せよ。

- ◎ 本州中部地方の地形氣候を問ふ。
- ◎ 本州中部地方の主要なる平野盆地を列擧し、各中心都市を示せ。
- ◎ 本州中部地方の避寒避暑地を記せ。
- ◎ 本州中部地方の河川が、水力發電に適する理由、並にその送電先を記せ。
- ◎ 長野縣が、特に養蠶業の盛大なる理由を考察せよ。
- ◎ 我が國の羽二重の大産地を擧げよ。
- ◎ 本州中部地方の主要米産地を問ふ。
- ◎ 新潟縣の石油に就きて述べよ。
- ◎ 東京より善光寺に參詣するには、如何なる鐵道によるか、その縣名と途中の市名とを擧げよ。

問 設

### 第四章 近畿地方

#### 第一節 位置と地形

##### 概観

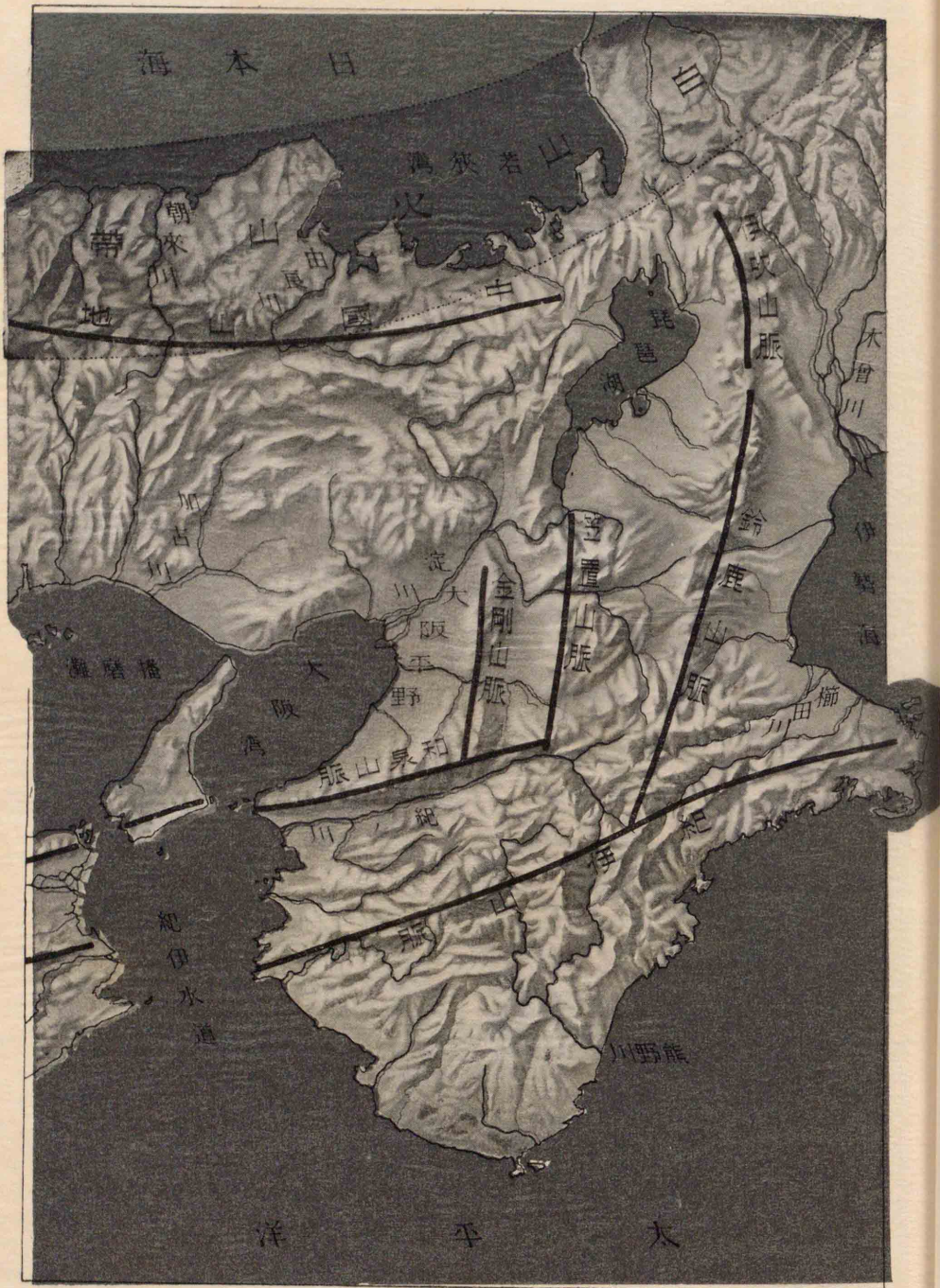
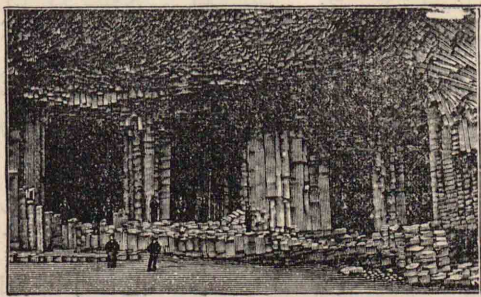
本州中部と中國地方との間に位し、北は日本海南は太平洋に臨み、西は瀬戸内海・紀伊水道に面する。建國以來、永く帝都の地であつた爲、史蹟に富み、又名所が多い。

行政上は、京都・大阪の二府と、滋賀・奈良・三重・和歌山・兵庫の五縣とに分れ、地形上は、北部(山地)・中央部(低地)・南部(山地)の三區となる。

##### 北部

中國山地東部の丹波高地が互り、概ね高原状を呈する。その間に、豊岡・福知山・龜岡等の盆地があつて、朝來<sup>アサキ</sup>・由良<sup>ユラ</sup>・保津川が灌漑し、産業が榮えて、都邑も多い。白山火山帯は、北部を東西

玄武洞



### 第四章 近畿地方

#### 第一節 位置と地形

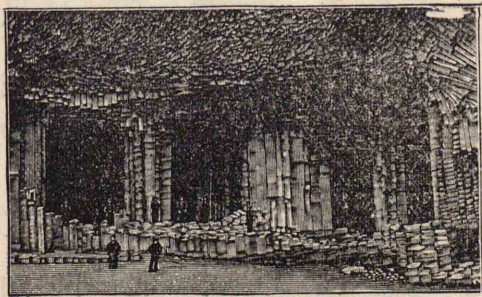
##### 概観

本州中部と中國地方との間に位し、北は日本海、南は太平洋に臨み、西は瀬戸内海・紀伊水道に面する。建國以來、永く帝都の地であつた爲、史蹟に富み、又名所が多い。

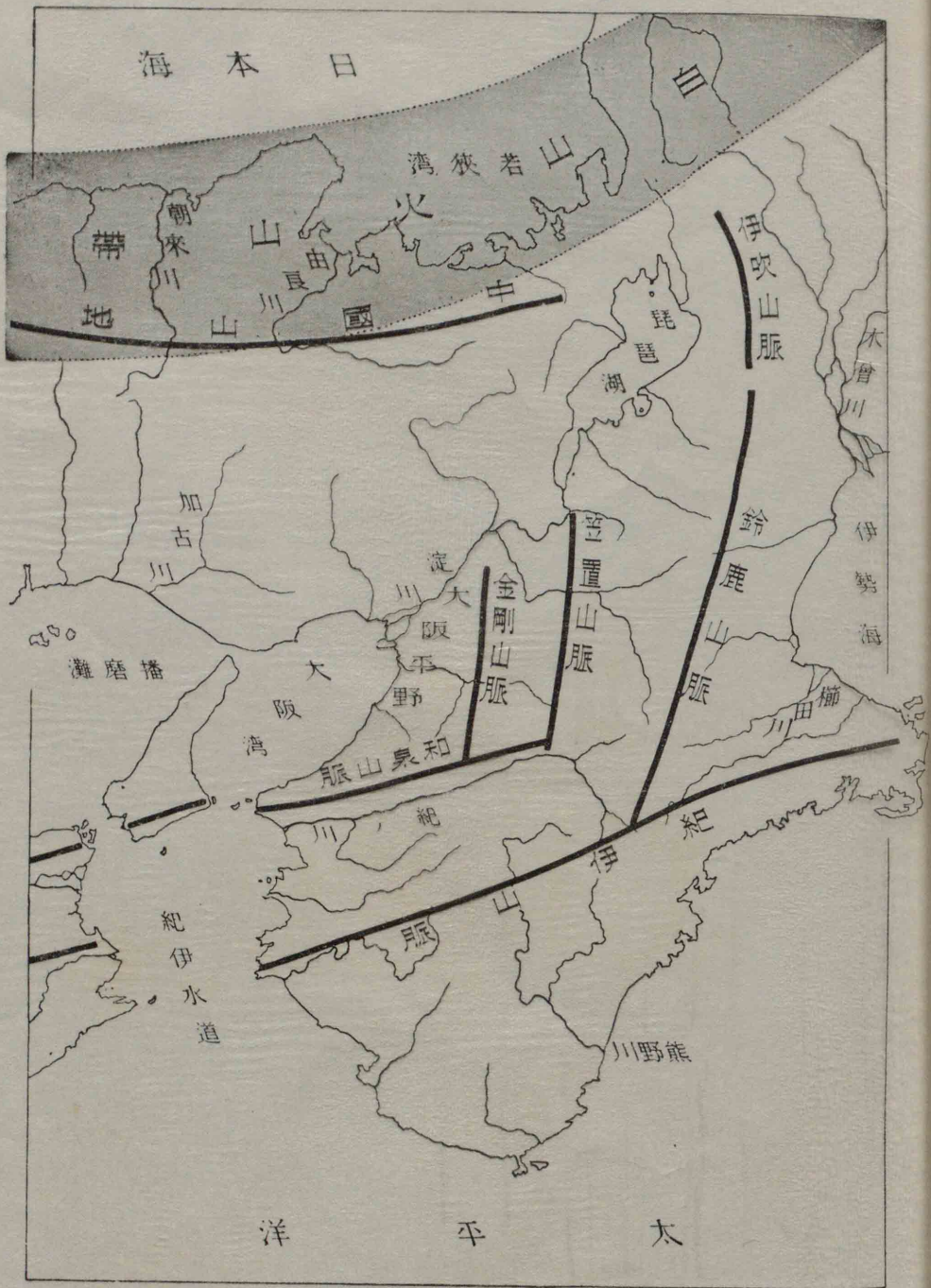
行政上は、京都・大阪の二府と、滋賀・奈良・三重・和歌山・兵庫の五縣とに分れ、地形上は、北部(山地)・中央部(低地)・南部(山地)の三區となる。

##### 北部

中國山地東部の丹波高地が互り、概ね高原状を呈する。その間に、豊岡・福知山・龜岡等の盆地があつて、朝來由良保津川が灌漑し、産業が榮えて、都邑も多い。白山火山帯は、北部を東西



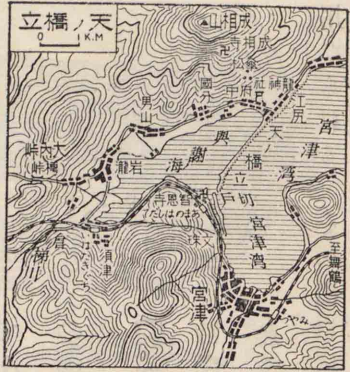
玄武洞





舞鶴は海軍要港である

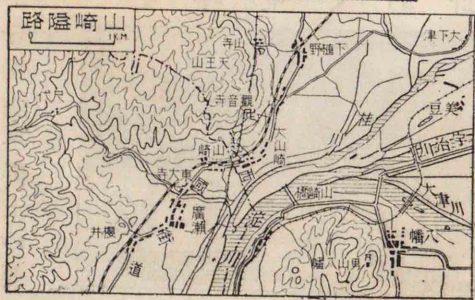
×加古・市・揖保の諸川が流れる  
△宮川・櫛田川が流れる



に走り、城崎温泉(庫)が湧き、玄武洞の奇景がある。與謝半島の東に、舞鶴・宮津二灣があつて、夫々、同名の良港がある。宮津灣には、天橋立の砂嘴が長く突出して、風景がよい。

**中央部** 伊吹・鈴鹿・比叡・金剛の斷層山脈(地)が、略南北に走つて、近江

伊賀・京都・奈良の四盆地を作り、西に大阪・播磨の二平野、伊勢海沿岸に伊勢平野がある。これ等の諸低地は、隘路によつて、互に連絡し、地味が肥えて、灌漑が良く、早くから文化が發達した。京都・奈良・大阪・神戸・姫路・四日市・津等

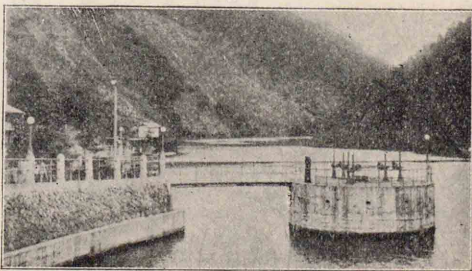




は、各低地の中心である。低地を連絡する陸路は、古くから交通・軍事上の要地となり、屢々戰場となつた所が多い。

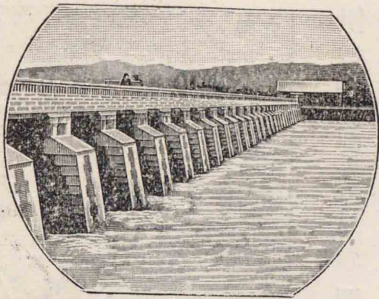
近江盆地の琵琶湖は、我が國第一の大湖である。その水は、溢れて瀬田(多勢)川となり、中流は、宇治川と呼ばれて、京都盆地で、賀茂(加茂)・桂・木津の諸川を合せて淀川となり、大阪平野を灌漑して大阪灣に注ぐ。

大和川は、奈良盆地の水を集めて、金剛山脈を横ぎり、大阪平野の南部を貫流する。



【琵琶湖】

海拔八十餘米、面積約六百七十方軒に達する。



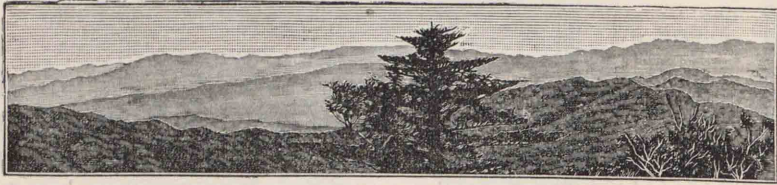
沿岸には諸川の三角洲が連続した肥沃な平野があり、農業に適する。鮒・鯉等の水産物に富み、舟運灌漑にも用ひられる。その出口に、大きな洗堰を設けて、水量を調節し、又疏水を京都

下宇治川 (發電用堰堤附近) 上琵琶湖口の洗堰

竹生島・沖ノ島等の四小島が浮び湖岸に近江八景の勝地がある

▲要塞地帯である

▲眞言宗の本山  
上 大臺原山より見たる大和連峰(大和アルプス) 下 紀ノ川流域の鳥瞰模型圖

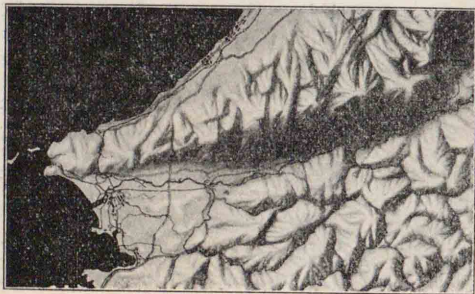


に通じ、交通・灌漑・發電・飲料等に利用される。淡路島は、大阪灣と播磨灘とを分ち、軍事・交通上重要な明石・紀淡・鳴門の三海峡を控へてゐる。

南部 険しい紀伊山脈が東西に互つて、大

臺原山・山上岳・彌山等が聳え、森林がよく茂つて、良材を産する。山中に

花と史蹟として名高い吉野山、金剛峰寺で知られた高野山があり、南部には、那智、瀧がある。櫛田川・紀ノ川は、東西に流れ、南流する熊野川の中流に、瀬八丁の勝地がある。



△内地との交通が不便な爲人文が發達しない

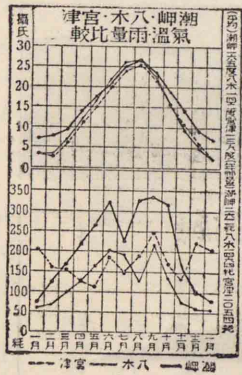
×木材を河川・鐵道で輸送する

この山地の森林美・谿谷美は、熊野灘沿岸の一部を加へ、最近、吉野熊野國立公園の設定地となつた。諸川の谷は、平地に乏しいが、何れも交通上重要で、就中、紀、川の谷は、稍、廣く、人文が最も發達してゐる。東に突出する志摩半島は、リアス式海岸で、熊野灘沿岸と共に、小屈曲が甚だ多い。南端の潮岬シホは、本州の最南端である。

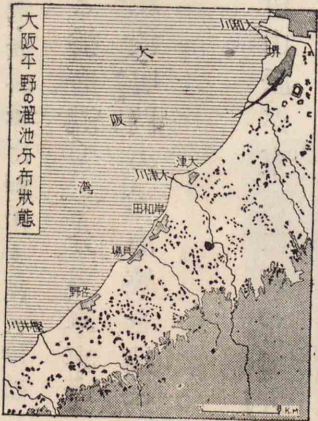
### 第二節 氣候と産業

#### 氣候

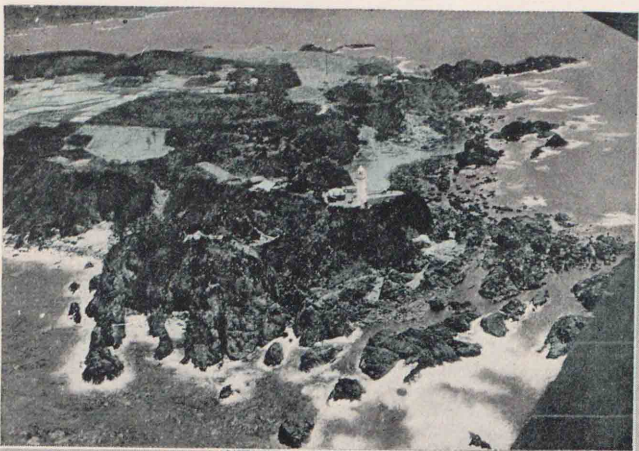
紀伊山脈以南は、暖流の影響で、氣温が高く、夏季、雨量が多い爲、森林の生育に適し、紀、川吉野・高野流域に熊野川熊野は、杉の良材を産し、和歌山・新宮和歌



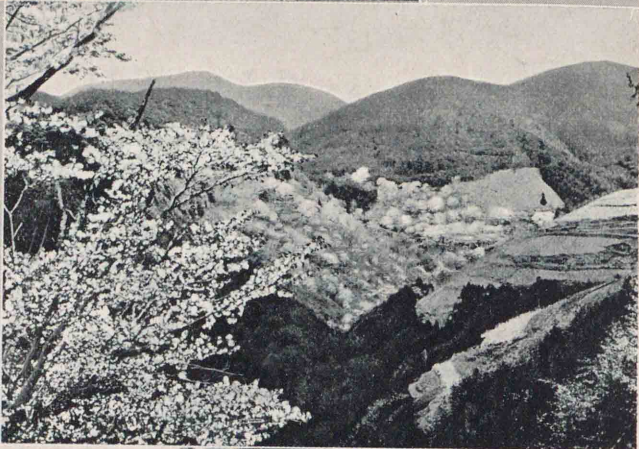
し、和歌山・新宮和歌



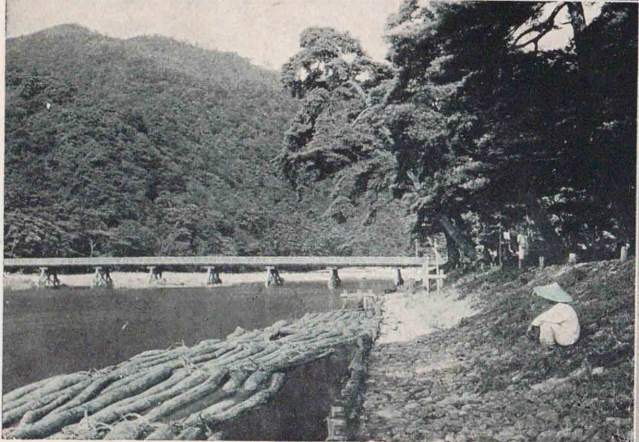
潮岬 飛行機より見た本州南端太平洋の怒濤碎ける處である。断崖に近く燈臺その向側に無線電信局が見えてゐる。



吉野の櫻 中の一目千本と呼ばれる櫻花の美観で爛漫たる櫻樹の間には多くの吉野朝の史蹟が残されてゐる。

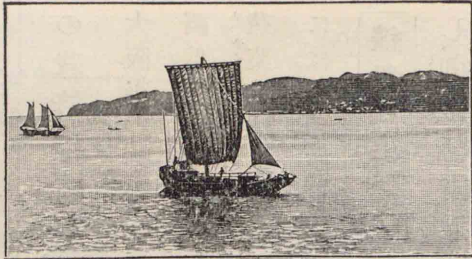


嵐山 保津の清流に影を映して櫻花に青葉に紅葉に雪に年中訪ふ人の絶えない京都郊外第一の名勝である。



京都盆地は寒暑の差が稍、甚しいが近江盆地は琵琶湖の爲幾分か調節される

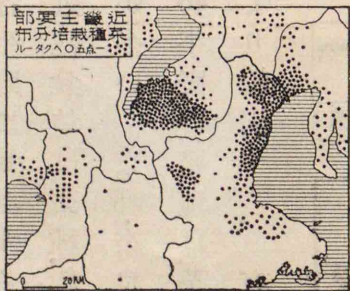
明石海峡を隔てて淡路島を望む



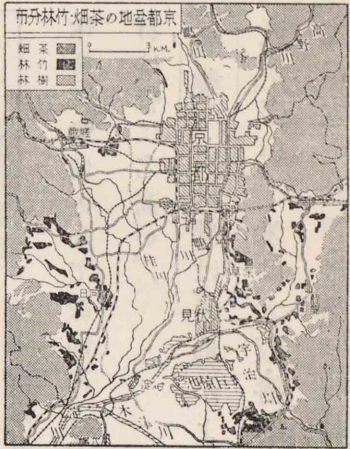
山で集散製材する。中央部諸盆地は、寒暑が稍、著しい。大阪平野・播磨平野は、温暖で、雨量が少い爲、多くの灌漑用溜池が設けられ、又播磨平野の海岸は製鹽に適し、赤穂<sup>アカホケ</sup>庫<sup>クラ</sup>は、その中心である。北部山地は、冬季、稍、寒冷で、降雪が多くて、交通を妨げられることがある。

大阪灣沿岸及び明石海峡附近は、氣候が温暖で、風景史蹟に富み、且つ阪神地方に近い爲、休養遊覽地として設備がよく整ひ、濱寺・須磨舞子・明石は、特に名高い。

農業 中央部は、耕地がよく開けて、米・麥・菜種の産が多い。米は、大阪・播磨・伊勢の諸平野に多く、主に大阪・神戸・姫路<sup>兵</sup>・四日市・桑名<sup>以上</sup>・彦根<sup>滋</sup>で



×宇治の玉露は名高し



の栽培に適し、箕島・湯淺(和歌山)で集散される。

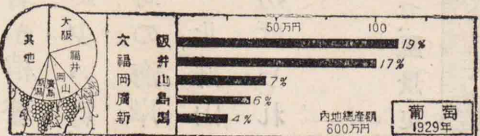
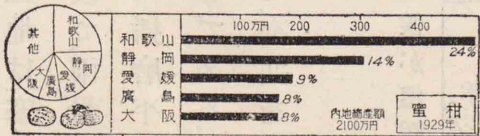
田川流域附近は蜜柑

集散される。麥も亦各平野に栽培する。大阪・伊勢兩平野及び近江盆地は、茶種、紀伊半島は除蟲菊の産が多い。京都・奈良・近江の諸盆地並に伊勢平野の臺地は、茶の産地で、神戸・四日市より輸出する。有

大阪平野の南部には、近年、蜜柑・葡萄・西瓜等の産が増し、大都市附近には、蔬菜栽培が盛んである。奈良盆地には大和西瓜の名産がある。

鑛業 生野(兵)から銀銅錫を産

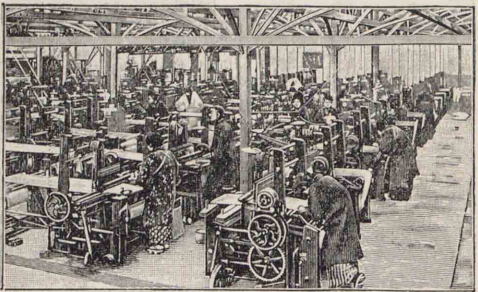
し、御影(兵)附近は、古來、良質花崗



岩の産地である。

養蠶業・牧畜業

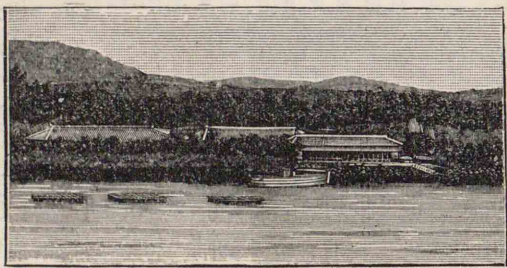
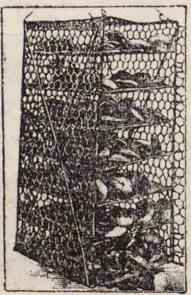
近江盆地・丹波高原・奥丹後及び



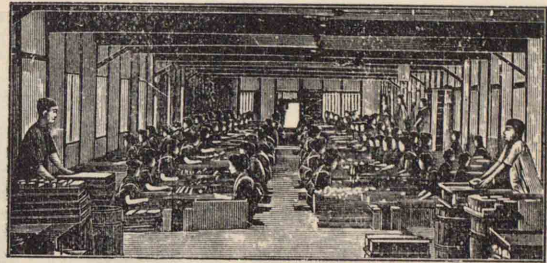
上 峯山の縮緬織工場 下 志摩半島の眞珠貝養殖 (眞珠貝を金網(右)中に收めて棚やらのもの(左)に吊し海中に入れて養殖する)

水産業

熊野灘は、暖流の影響で、鰺・鯉・鯨等の漁利に富み、沿岸に、勝浦・甲本(和歌山)・鳥羽・波切(三重)の漁港がある。英虞灣には、眞珠の養殖が行はれる。瀬戸内海は、美味な鯛・鱒で著はれ、日本海の鮭・烏賊も亦名高い。



上神戸市の  
マッチ工場内部  
下煙の都の大阪



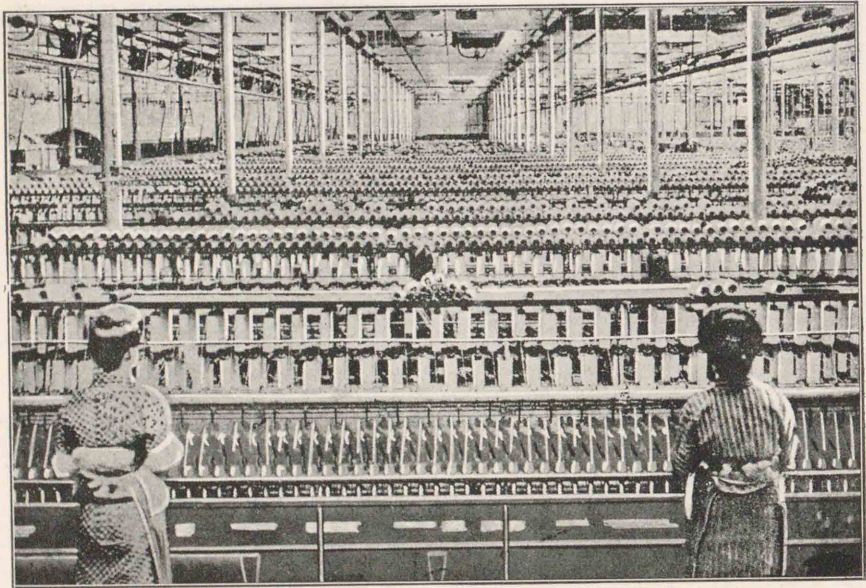
【工業】中央部の諸低地は、工業が盛んで、特に阪神地方には大工業地帯が発達してゐる。海岸は、濕氣が多くて、綿絲〔大阪・尼ヶ崎・神戸・岸和田〕、綿織物〔大阪・神戸・岸和田〕、毛織物〔大阪・加古川〕、メリヤス〔大阪〕等の製造が榮え、マッチ〔神戸〕、肥料・藥品・精糖・麥酒〔以上大阪〕、硝子〔大阪・尼ヶ崎〕、セルロイド・又物〔以上〕等の産出も多い。大阪市は、工場の煙突が林立して、煙の都の別名がある。



【阪神工業地帯】尼ヶ崎・西宮二市を含み、東は、堺を経て岸和田に、西は、明石を経て姫路に達する。發達の原因は、①我が國の略、中央に位して、水陸交通の便がよく、②人口が稠密で、勞力が充分に得られ、③資本が豊富で、動力を得易い等の爲である。



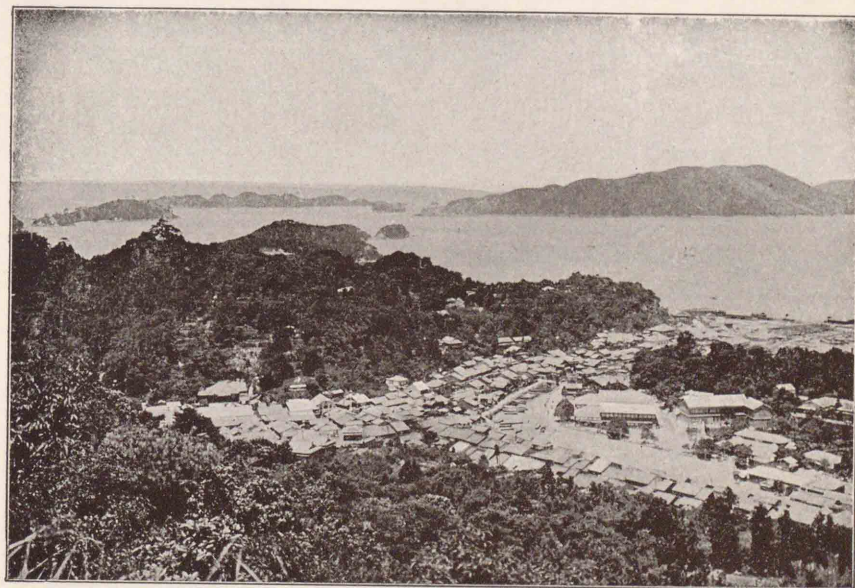
大阪市の市中區 左方は淀川が堂島川と土佐堀川に分たれ間に浮ぶ中之島で半ば  
公園化された中に大建築物が建ち並んでゐる。右方は圖書館・市廳舎であ



大阪の綿工業 郊外の洋紡績社會の工場内光景であらう。工大は音響るた々  
業都大阪市の吸呼とも見られ刻々莫大な生産品が世に送り出されてゐる



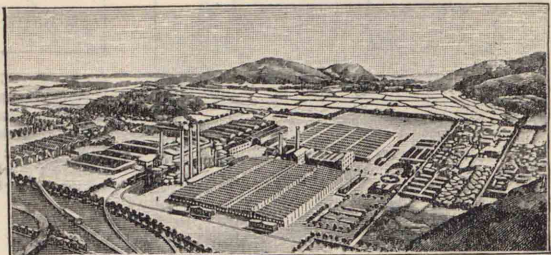
神戶港の観大 市の背後山訪遊のため眺りもた茫渺たる大灣を前にして左方  
遙に神戶造船所は右方に汽船の横つなつて波止場望る



島向町(左) 島志答はぶ浮に海の面前 光風の羽鳥 下眼の落衆はあて町 伊勢の勢ノ海に陥るの爲に山頂がたつてもあて

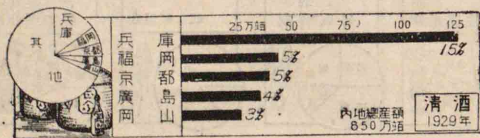
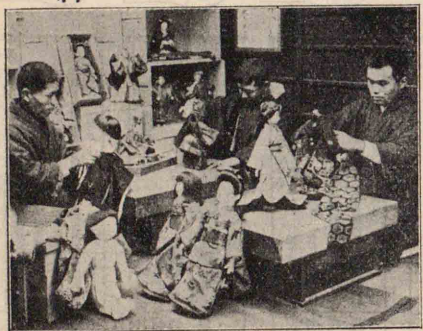
△近江商人により  
行商せられる

上 大津附近  
の人造絹絲工場  
下 京都の京人形  
の製作



伊勢海沿岸には、桑名・四日市・津・松阪(三重)の綿絲・綿  
布の製造地がある。高田(奈良)附近の大和絨、和歌山  
の綿フランネルは、共に名高く、大津附近では、近年  
琵琶湖の水を利用し、人造絹絲製造が盛んである。  
又琵琶湖東岸に麻織業が行はれ、麻蚊帳を産する。  
京都は、西陣織・友禪染・刺繡・陶磁器(清水焼・  
人形等の美術工芸品の製作が多い。四日  
市・伏見(京都の一部)・池田(大阪)・伊

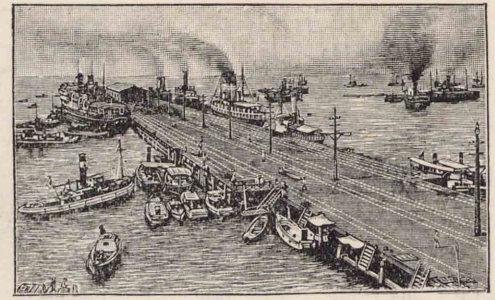
丹・西宮・御影(兵庫)地方は、清酒で著はれ、龍  
野・加古川(兵庫)は、醤油の産地である。  
西宮・御影地方は、古來灘地方と稱へ、水質原料  
米が良好な爲、特に優良な清酒を産する。



- 1 京都・須佐間
- 2 神戸・下關間
- 3 龜山・鳥羽間
- 4 柘植・草津間
- 5 京都・木津間
- 6 神崎・福知山間
- 7 飾磨港・和田山間

大阪の商品は廉價  
且つ實用向で販路  
が廣い  
宮津は開港である  
が振はない

大阪港の波止場

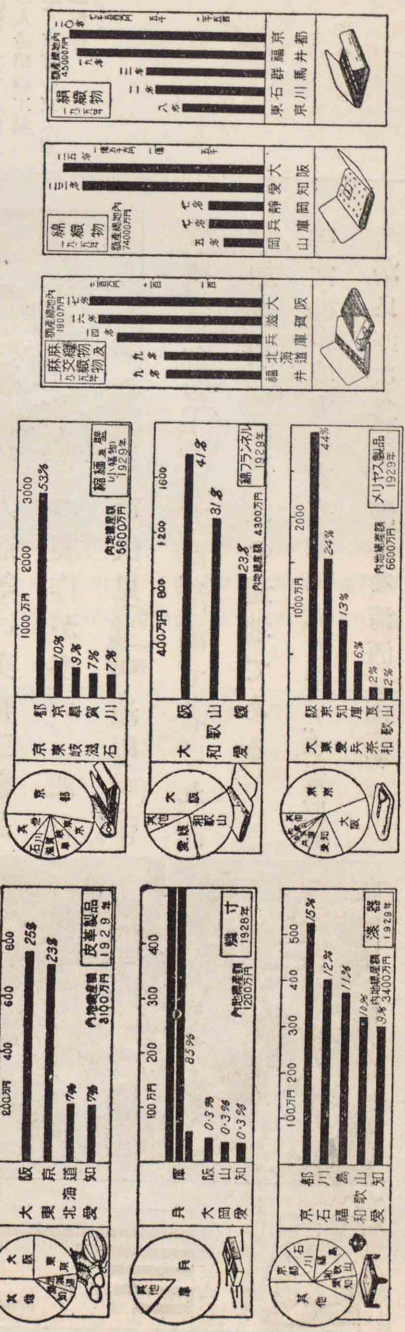
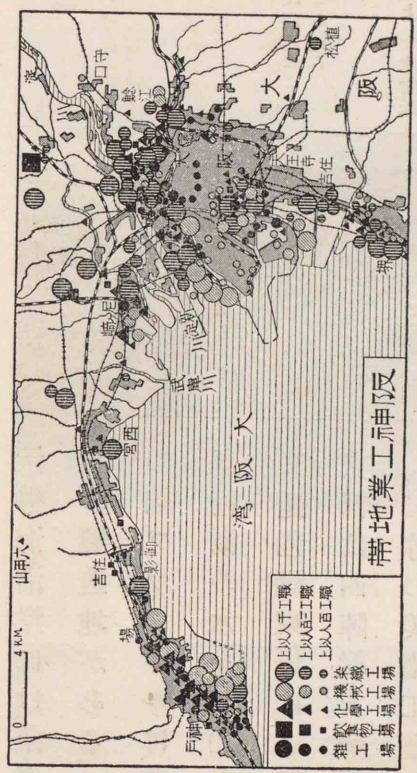
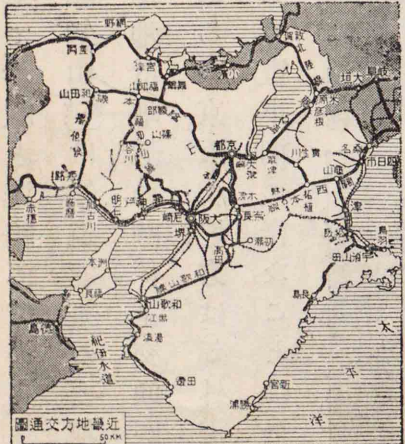


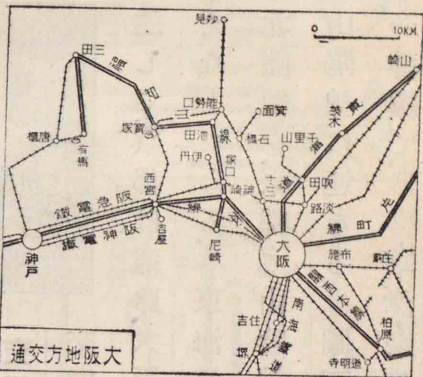
達して、京都は道路、大阪は鐵道の中心  
をなしてゐる。東海道線は米原<sup>イナバ</sup>まで  
北陸線を京都で山陰線を分ち、神戸で  
山陽線に連なる。關西線も亦、東西の  
一幹線で、<sup>1</sup>參宮、<sup>2</sup>草津、<sup>3</sup>奈良、<sup>4</sup>福知山、<sup>5</sup>播但諸

交通 中部以北は、  
交通機關がよく發

第三節 交通と人口

商業 中央部は、産業・交通の發達に伴ひ、商業が  
榮え、大阪は、東京と對立する内地商業の大中心  
である。外國貿易は、主として神戸・大阪で行は  
れ、多く原料品を輸入して、加工品を輸出する。四  
日市は、綿の輸入が稍、多い。

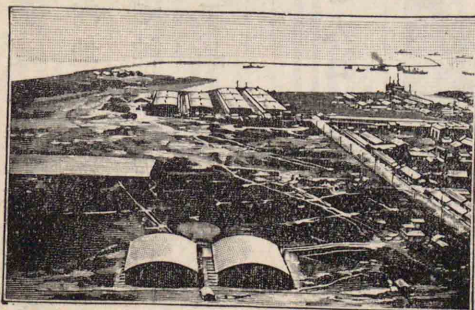




大阪・神戸は全国海運及び海陸連絡の中心である  
 上 船舶の輻湊せる神戸港下  
 大阪木津川飛行場

海運は大阪神戸より、諸外國に航路を通じ、又瀬戸内海その他近海航路船も、概ね兩地を起點とする。定期航空路は、大阪を中心とし、東京・福岡・松山に通ずる。大阪(平野)・四日市(名古屋局)・潮

線は、南北に通じて、幹線と連絡してゐる。龜山・柘植(以上三重)・福知山(京都)は、鐵道連絡の要地である。南部山地は、地形の關係上交通が極めて不便である。京阪・神地方は郊外電車の發達が著しく、電車網の密なことは、全國第一である。



△航空専用

岬・龜山に、無線電信局、大阪・京都に放送局がある。

面積	人口	人口密度
全	●●●●●●●●●●	●●●●●●●●●●
内地	●●●●●●●●●●	●●●●●●●●●●
近畿地方	●●●●●●●●●●	●●●●●●●●●●
滋賀	●●●●●●●●●●	●●●●●●●●●●
京都	●●●●●●●●●●	●●●●●●●●●●
奈良	●●●●●●●●●●	●●●●●●●●●●
三重	●●●●●●●●●●	●●●●●●●●●●
和歌山	●●●●●●●●●●	●●●●●●●●●●
大阪	●●●●●●●●●●	●●●●●●●●●●
兵庫	●●●●●●●●●●	●●●●●●●●●●

人口 人口密度は、關東地方に次ぎ、中央部は、特に稠密で、都邑が多い。南部山地は、地形・産業・交通等の關係上、人口が最も稀少である。

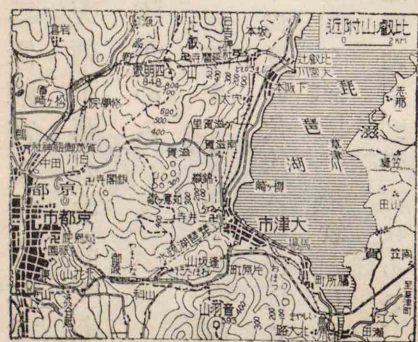
第四節 處 誌

東海道線・山陽線方面

大津市は、琵琶湖畔第一の都市で、附近に三井寺・叡山・延暦寺がある。京都市は、京都盆地の北部に位し、長

行政區劃と主要都邑	行政區劃と主要都邑
滋賀縣(近江)	大津市 彦根 長濱
京都府(山城 丹波 丹後)	京都市 福知山 舞鶴
大阪府(攝津 河内 和泉)	大阪市 堺市 岸和田市
兵庫縣(攝津 丹波 各一部)	神戸市 姫路市 尼崎市
西宮市 明石市	洲本市 豊岡市
奈良縣(大和)	奈良市 大和町
三重縣(伊賀 伊勢 志摩)	津市 四日市市 宇治山田市
松阪市 桑名	上野市 新宮市
和歌山縣(紀伊 大和)	和歌山市 新宮市

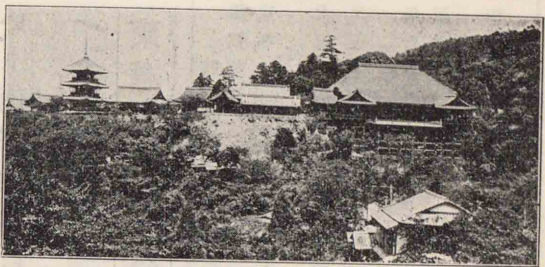
は、京都盆地の北部に位し、長





△平安神宮・北野神社・清水寺・知恩院・東・西本願寺  
帝國大學を始め各種の學校が多い

京都清水寺

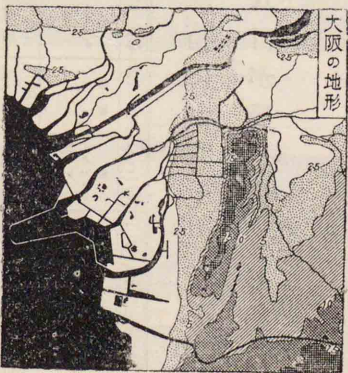


く帝都の地であつた爲、御所・二條離宮を初め、社寺名所・舊蹟が頗る多く、又學術・美術・工藝の中心である。市の南部伏見に、桃山御陵がある。

【京都市】古の平安京の跡で、明治初年まで千餘年間、概ね帝都のあつた處である。従つて、今尙ほ即位式・大嘗祭はこの地で行はれる。市街は、規則正しく、條里が整然としてゐる。近郊には、嵐山・高雄等の遊覽地が、到る處にある。

大阪市は、淀川の三角洲に跨り、商工業の大中心で、神

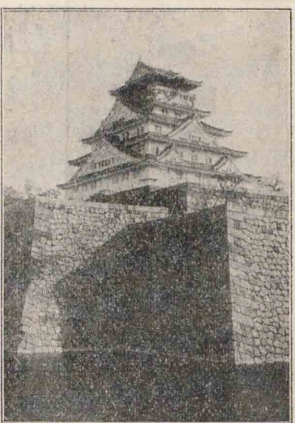
戸・横濱に次ぐ大貿易港である。市内には、溝渠・運河が縦横に通じて、水の都ともいはれる。築港には、外國航路の大汽船が、自由に碇泊し得られる。濱寺・箕面・寶塚有馬は、大



大阪の地形

阪市民の休養地である。

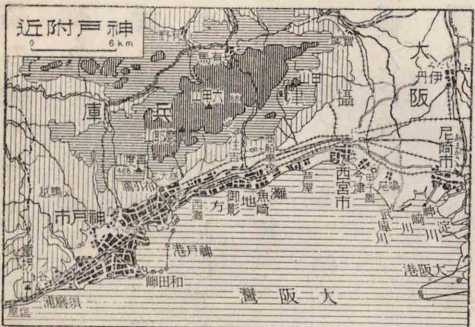
【大阪市】臺地と、低地の三角洲との上に發達し、臺地には、高津神社・四天王寺・大阪城等があり、低地は、商業區である。綿絲・綿織物を主として、大工業が發達し、又造幣局・造兵工廠の外、



△新式設備を施した遊園地・運動場・住宅地が多い

△新式設備を施した遊園地・運動場・住宅地が多い

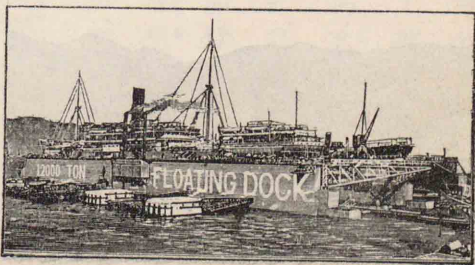
大小諸種の工場が設けられ、我が國第一の工業地である。大阪・神戸兩市の間には、多くの工業都市が興り、數多の工場が立並んでゐる。神戸市は、六甲山麓に發達した港市で、港内は水深く、設備が完備して、横濱と相並ぶ大貿易港



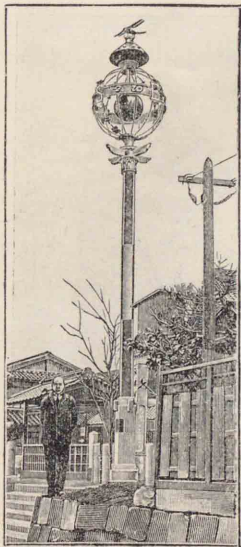
である。工業原料の輸入、製品の輸出に適する爲、近年は大工業も亦發達してゐる。

【神戸市】東西に長く、東に神戸港、西に兵庫港がある。横濱が輸出を主とするに反し、この港は輸入を主としてゐる。繰綿、羊毛、機械鐵類を輸入して、生絲、綿織物、綿絲、マッチ等を輸出し、主に支那、印度、南洋と取引してゐる。船舶、綿絲紡績、マッチ、樟腦、ゴム等の製造が、盛んに行はれる。

上神戸港の浮船渠、下明石市人丸山にある中央標準時標



山陽線に沿ふ明石市は、中央標準時子午線の通過地で、淡路島に名邑洲本がある。姫路市は、交通、軍事の要地で、革細工を出す。



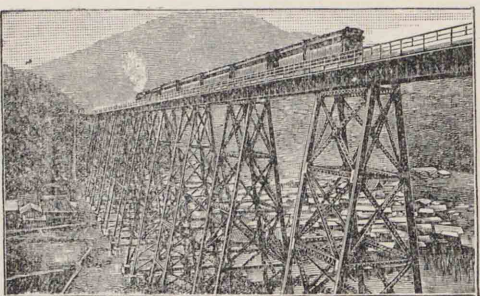
山陰線方面

山陰線は、龜岡、園部二盆地、由良川の谷を通つて、北西に向ひ、福知山、和田山、豊岡を経て、

X 平等院がある

上餘部の陸橋中法隆寺下奈良公園嫩草山の遠望

△天理教本部がある



餘部の陸橋を渡り、鳥取縣に入る。

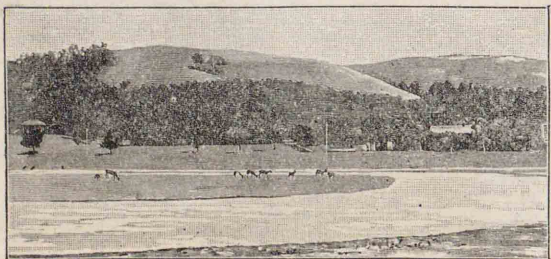
奈良線・櫻井線方面

宇治は、水力發電所のある處で、古から京都に對する要害の地である。奈良市は、奈良盆地の中心で、古の平安京の一部である。大佛殿、春日神社、興福寺、正倉院等の古い建物が多い。郡山は、

紡織業地、附近に、法隆寺の古刹がある。奈良より、南に向へば、丹波市、畝傍山、多武峯がある。

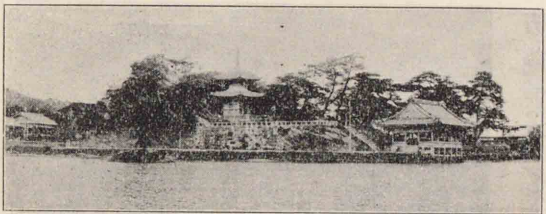
關西線・參宮線方面

關西線は、大阪に起り、奈良市を経て、伊賀



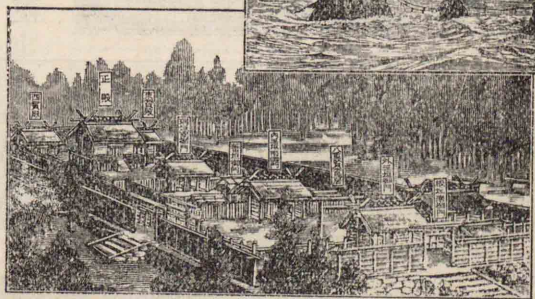
盆地の中心上野や、龜山・四日市市・桑名などを連ねて名古屋に至る。龜山は、鳥羽に至る参宮線の分岐點で、沿線には、工業地の津市・松阪市があり、宇治山田市には、皇太神宮が鎮座します。この神都附近に、二見ヶ浦・朝熊山の勝地がある。

皇太神宮  
と二見ヶ浦  
上和歌ノ浦



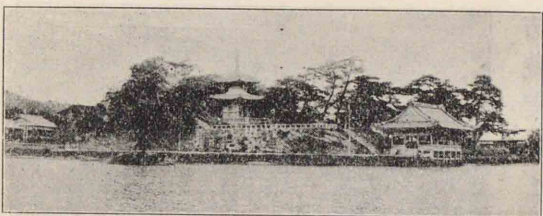
南海電鐵和歌山線方面 大阪市

の南には、堺・岸和田・和歌山の三工業市がある。和歌山市は、徳川親藩の舊城下で、附近に、和歌浦があり、南方に、漆器の産地黒江がある。高野山に登るには、和歌山線によるか、又は、大阪より登山電車による。



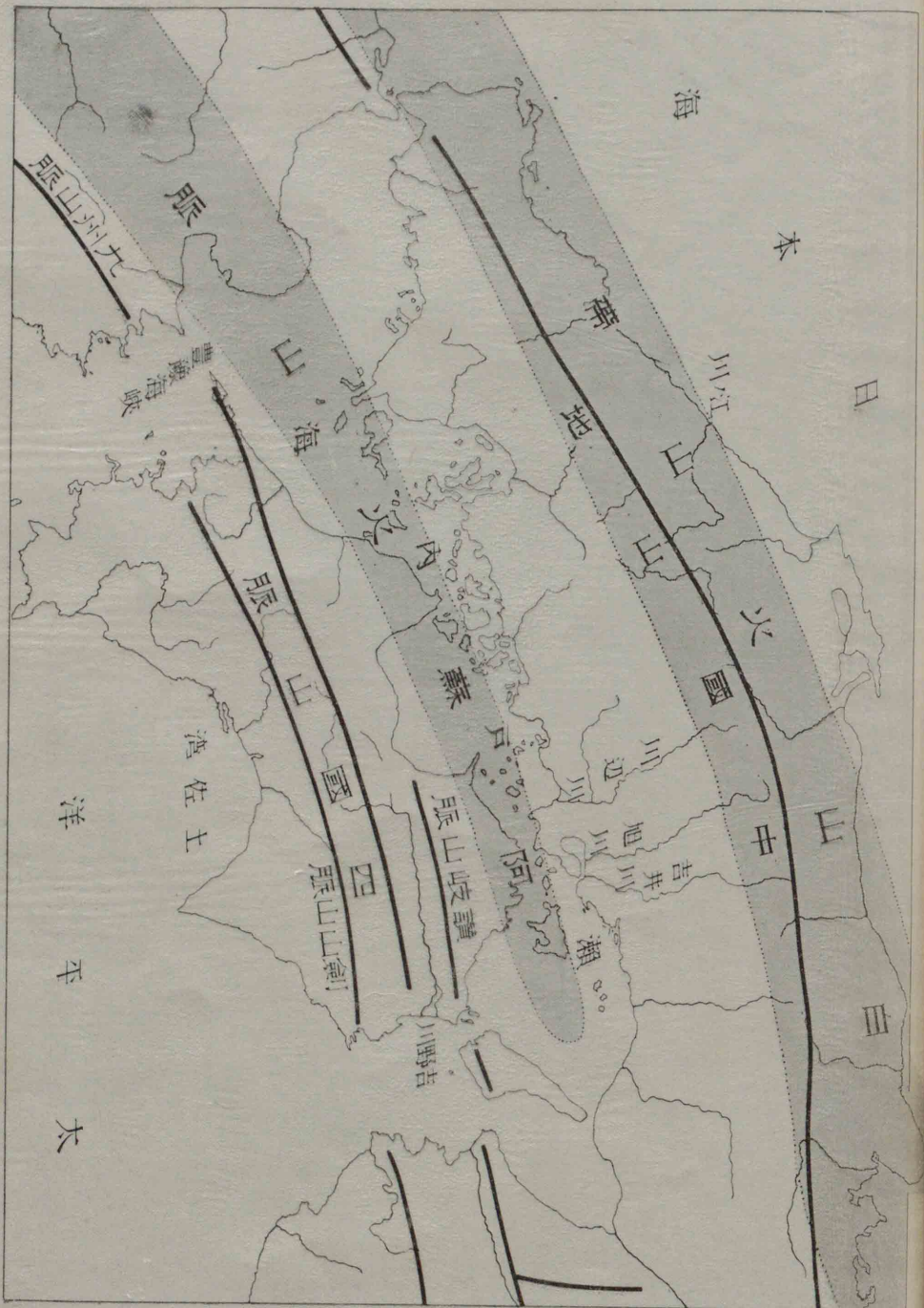
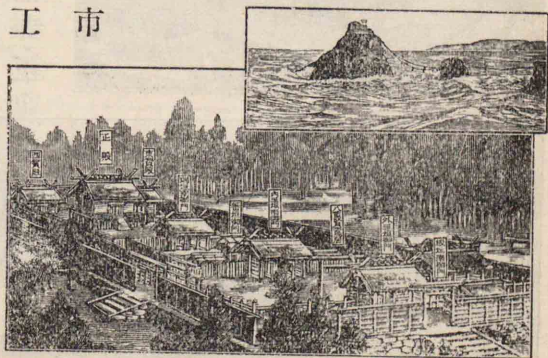
盆地の中心上野や、龜山・四日市市・桑名などを連ねて名古屋に至る。龜山は、鳥羽に至る参宮線の分岐點で、沿線には、工業地の津市・松阪市があり、宇治山田市には、皇太神宮が鎮座します。この神都附近に、二見ヶ浦・朝熊山の勝地がある。

皇太神宮  
と二見ヶ浦  
上和歌ノ浦



の南には、堺・岸和田・和歌山の三工業市がある。和歌山市は、徳川親藩の舊城下で、附近に、和歌、浦があり、南方に、漆器の産地黒江がある。高野山に登るには、和歌山線によるか、又は、大阪より登山電車による。

南海電鐵・和歌山線方面 大阪市





### 第五章 中國地方

#### 第一節 位置と地形

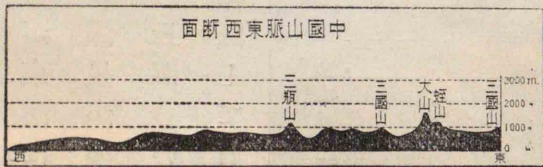
**概観** 本州南西端の半島部で、日本海と瀬戸内海との間に位する。侵蝕を受けて高原状になつた中國山地は、北に偏つて東西に走り、主要分水界となつてゐる。行政上、鳥取・島根・岡山・広島・山口の五縣に分けてあるが、地形上は、山陽・山陰の二區となる。

設

問

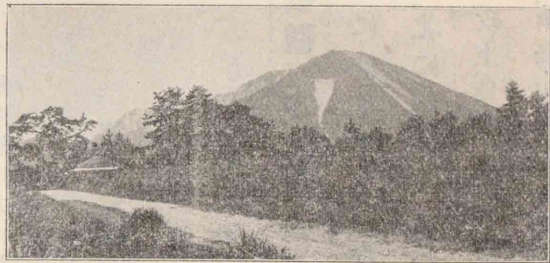
- 近畿地方の地形を説明せよ
- 近畿地方の平野諸盆地並にその中心都市を記せ。
- 琵琶湖の人文上に及ぼす影響について考察せよ。
- 近畿地方に於ける主要なる紡績工業地を列記せよ。

- 阪神工業地帯が繁盛に赴いた原因と主要工業品とに就いて述べよ。
- 神戸と横濱との貿易状態を比較せよ。
- 紀伊半島の自然と人文とを説け。



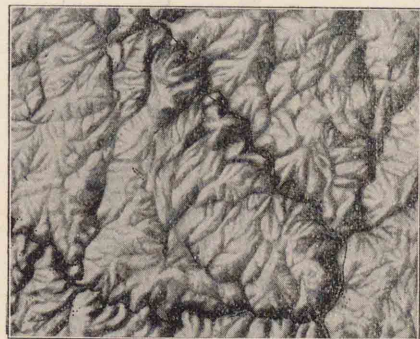
×中國の最高峯で北に船上山がある

○ 上大山の遠望中 中國高原の鳥瞰模型圖(高梁川と支流の成羽川とは高原を深く穿つてゐるがその上面には約五六百メートルの準平原が見られる) 下 突道湖と松江市  
△古代文化の開けた所である

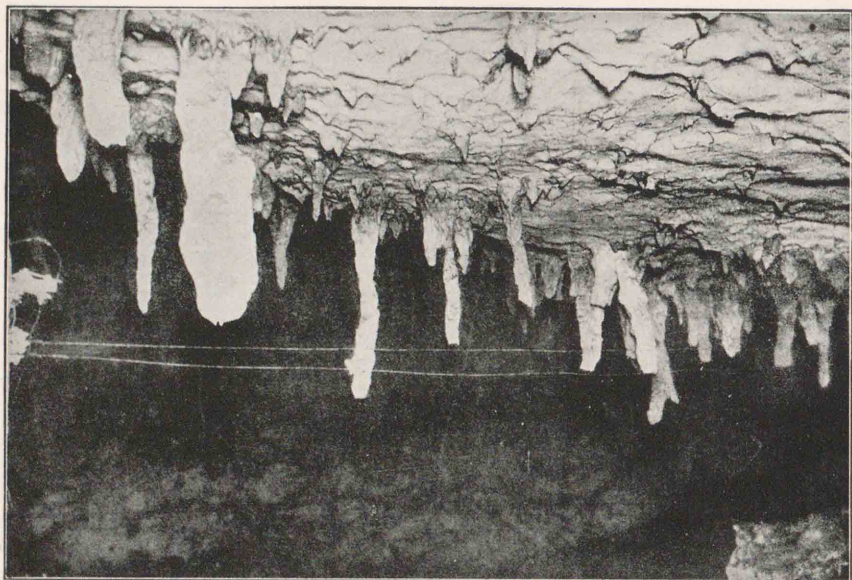


境[取]島濱田[島]の外、良港灣がなく、島は、隱岐の群島のみである。大山附近の中國山地は、國立公園が設定せられることゝなつた。

山陰 中國山地の北部に、白山火山帯が東西に通じて、大山・三瓶山等の火山、三朝等の温泉がある。東部には、小平野が開け、海岸は、砂丘が多い。江川は、三次盆地の水を集め、山地を横斷して日本海に注ぐ。島根半島は、南に肥沃な出雲平野及び穴道湖を抱き、夜見濱は、中海を劃る。海岸は、單調で、



彼び浮く如の繪が嶼島の小大でのため眺で機行飛りよ空上の島半島兒 海内戸瀬  
るえ見が港野宇に方左で所煉製島直はる上の煙の條二 連が々山の國四はに方



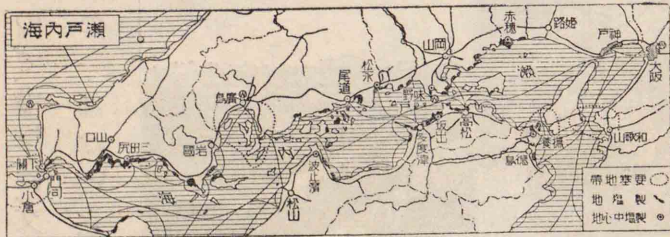
芳秋るた洞乳鐘大の指屈本日もに臺吉秋てしと相持の方地岩灰石 洞乳鐘の臺吉秋  
るあで群石乳鐘な妙奇るれば呼としし盡傘7て部一のそは圖 るあが洞

海峽を利用した尾道港  
 ×水が浅いので狭い水路を残して漸次干拓され良田となりつゝある



〔以上〕下關〔山〕等の良港灣がある。

**瀬戸内海** 中國四國はもと陸續きで、その中間が陥没して内海となり島嶼は、陸地の遺物として残つた。風景が好く、氣候が良好で、海上交通



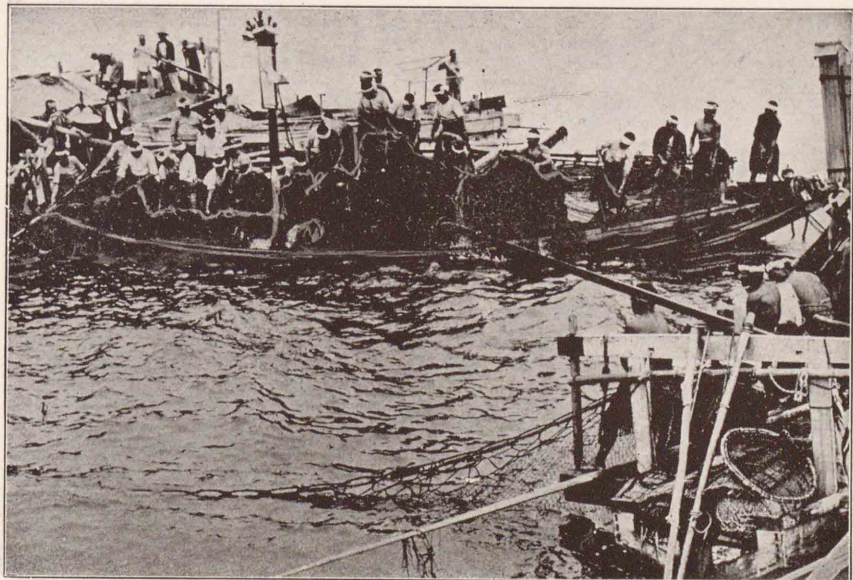
**山陽**

瀬戸内海に向つて、緩かに傾斜し、山地には諸所に盆地がある。吉井・旭・高梁〔タカノ〕諸川の下流に

岡山平野・大田川の下流に廣島平野が開け、人文の活動に適する。海岸には、兒島灣・兒島半島・廣島灣等の出入が多く、又數多の島嶼があつて、宇野〔山〕尾道・絲崎・吳・宇品



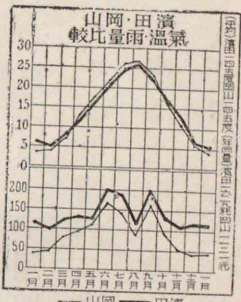
眞たつ上來出は左中しく柔を稗麥でルーロは右中で手み編は右左 製編の田眞稗麥  
 るあで業副の庭家るな要重りなに手の子女婦・兒小はく多 のもく巻を田



鱗金 るあで景光の網鯛のそは眞寫で物名の海内は鱒・鯛の季春 業漁の海内戸瀬  
 るれと給供く多に方地阪京外の岸沿は獲漁くし美に誠は様る躍と刺潑が



△小豆島・鞆間附近



の要路に當り、水産の利も亦多いので、沿岸は、文化がよく發達してゐる。最近、内海の一部は國立公園の設定地となつた。

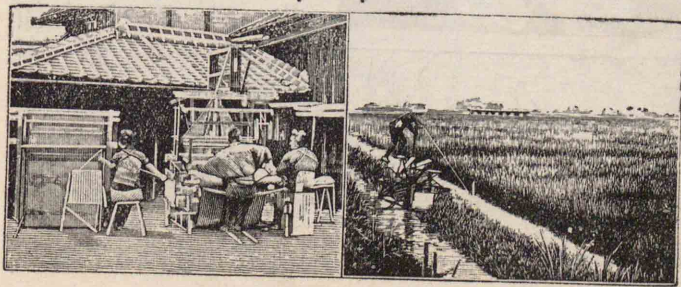
第二節 氣候と産業

氣候

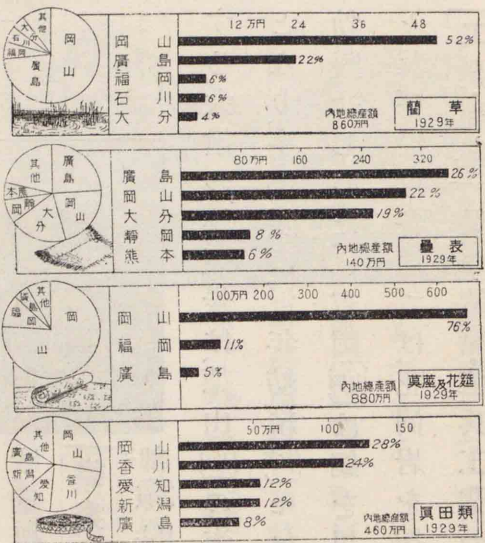
山陰地方は、氣温が稍低く、冬季、北西風が濕氣を伴ひ、降雪が多く、産業交通を妨げる。山陽地方は、溫暖で、中國、四國兩山脈により、濕風を遮られる爲、雨量が少く、晴天の日が多い。従つて海岸は、製鹽に適し、味野(山阿)、松永(廣島)、三田尻(山阿)を中心として、各地に、鹽田がよく發達してゐる。

農業・牧畜業

内海沿岸は、農産が豊かで、米は、岡山、廣島、防長海岸の諸平野に多く、下關は、大集散地である。麥は、稗麥(ハタカマ)が多く、大麻は、三次盆地に産する。

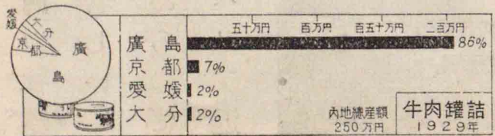
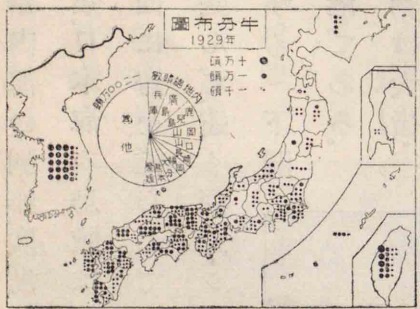


△廣島縣福山市附近にも多く産する



岡山附近を主産地とし、倉吉(取)附近には、養蠶製絲が行はれる。

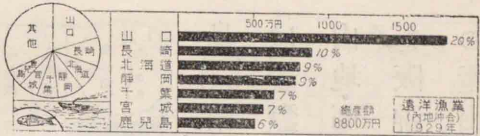
山地、高原では、牛の放牧が盛んで、肉牛を阪神地方へ送り、又廣島は、牛肉罐詰の産出が多い。



×産額が全國第一である

上 廣島灣の牡蠣養殖 下 徳山の海軍燃料廠

秋吉に大理石を産する  
倉敷・廣島・岩國には近年人造絹絲の製造が行はれる



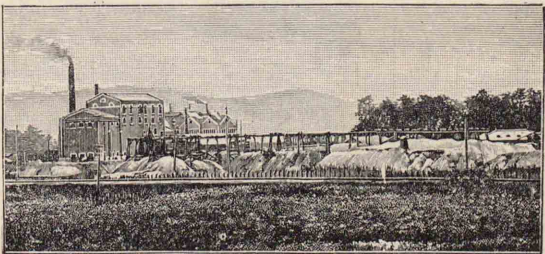
水産業

瀬戸内海の鯛・鱈・廣島灣の牡蠣、兒島灣の貝類、日本海の烏賊は著しい。山口縣は、三面に海を繞らしてゐるので、特に漁業が盛んで、遠く朝鮮・シベリア近海まで出漁する。下關は、重要な漁港である。

鑛業

鑛産物は、大嶺・宇部(以上)の石炭を第一とする。大嶺の無煙炭は、徳山(山口)の海軍燃料廠の原料となり、宇部炭は、近年紡績(宇部)セメント(宇部)工業を勃興せしめた。吉岡(岡山)は、銅を以て著れ、内海の島々及び沿岸各地では、花崗岩を採取する。

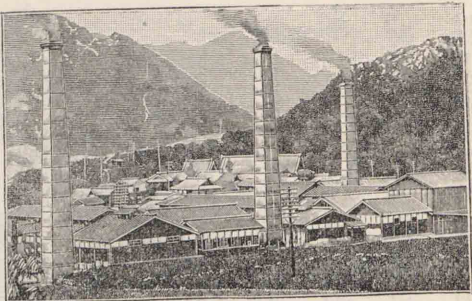
工業・商業 吳の造船・造兵工業の外、大工業は、未だ



上 三石の耐火煉瓦工場 下 倉敷の紡績工場

× 宇野・尾道・絲崎・徳山・萩・濱田・境

△ 山陰道・山陽道



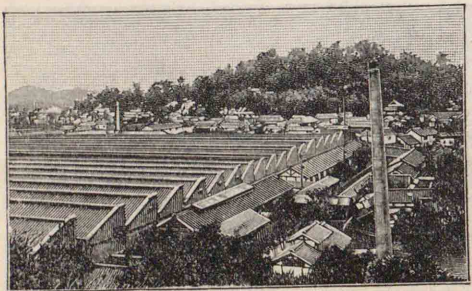
易は、下關で稍盛んに行はれ、その他は振はない。

第三節 交通と人口

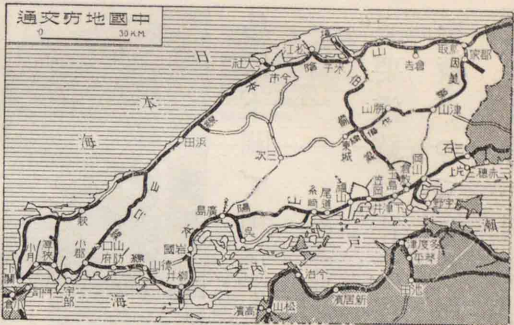
主要道路は、南北の海岸低地を通じ、又中國山地を横ぎつて、これと連絡する峠道がある。鐵道は、山陽線が最も早く開通し、鐵道連絡船を門司

盛んでないが、岡山・福山間は、綿絲・綿織物業が盛んである。三石(岡山)には、耐火煉瓦の特産がある。岡山・倉敷・玉島・笠岡・福山は、紡績業で著れ、岡山南方の小倉織、福山の綿織物、岩國(山口)附近の人造絹絲も名高い。松江(根)・伊部(岡山)・萩(山口)は、陶器を産する。

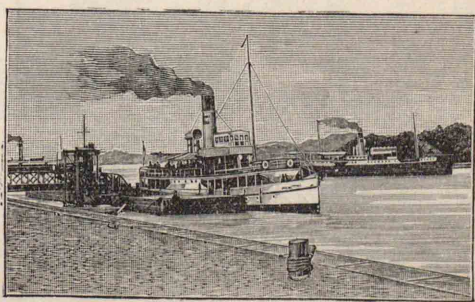
商業は、山陽地方が盛んで、廣島・岡山を中心とし、又山陰の中心は、鳥取・松江である。貿



- △小郡・益田間
- 宇野港の鐵道連絡船
- ×倉敷・大山間
- 1 厚狭・奈古間
- 2 津山・新見間
- 3 津山・鳥取間
- 4 岡山・津山間及
- び岡山・西總社間
- 5 廣島・庄原間



釜山に通ずる。山陰線は、山口線によつて、山陽線と連絡し、中國の環狀線となつてゐる。陰陽横斷線には、伯備線がある。宇野線の宇野は、高松との間に、鐵道連絡船を通じ、四國との交通上の要地である。



以上の外、美禰線、作備線、因美線、私線の中國、藝備兩鐵道があり、中國鐵道は、因美線の開通により、本地方第二の横斷線となつた。瀬戸内海は、古來海上交通の要路に當り、多くの外國航路もこれを通航し、山陽四國九州相互間の航路も、發達してゐる。日本海方面は、良港が乏しく、且つ冬季は、風波が荒くて雨雪が多い爲、海上の交

通が不便である。海底電線は、下關附近より朝鮮の釜山に、島根半島より鬱陵島を経て元山に至る二線が著しい。下津井、角島、等には、無線電信局が設けられ、廣島、岡山には、ラデオ放送局がある。

全国	内地	中國地方	鳥取	島根	岡山	廣島	山口
●●●●●	●●●●●	●●●●●	●●●●●	●●●●●	●●●●●	●●●●●	●●●●●
3,380,000	3,370,000	3,480,000	660,000	700,000	840,000	840,000	840,000

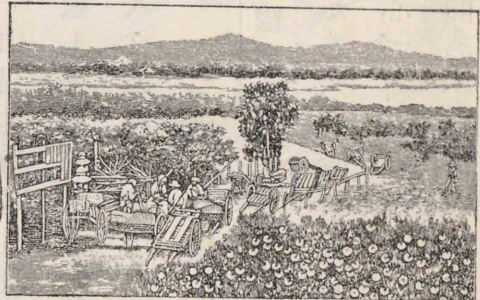
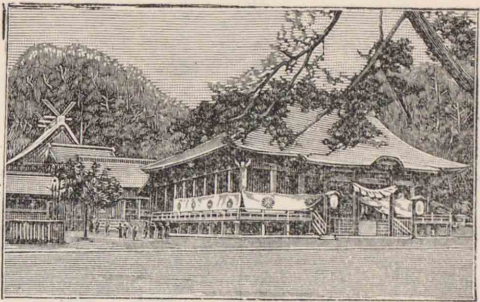
人口 山陽地方は、地理的條件が良好な爲、人口密度が甚だ大で、都市の數も多く、多數の外國移民を出してゐる。山陰地方は、人口が少く、人文の發達が、山陽に比して劣ることが多い。

第四節 處誌

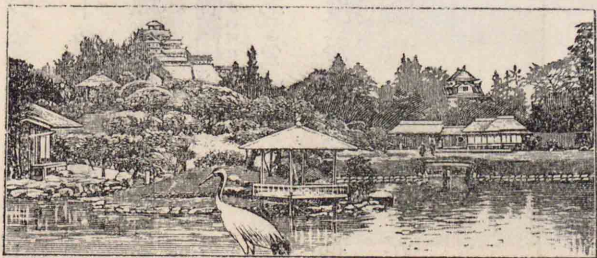
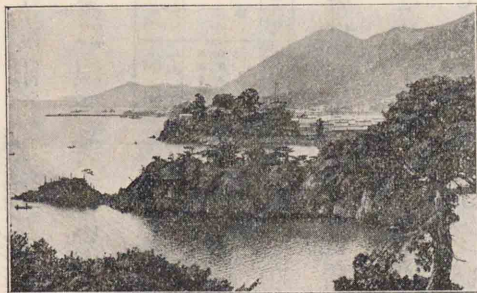
山陰線方面

鳥取、米子、松江の三市がある。倉吉は、倉吉平野の中心で、緋を産する。米子市、大社間の平野は、古く文明の開

行政區劃と主要都邑	
鳥取縣(備前・伯耆)	鳥取市
島根縣(出雲・石見・隱岐)	松江市
岡山縣(備前・備中・美作)	岡山市
廣島縣(備後・安藝)	廣島市
山口縣(備前・備後)	山口市
尾道市	三門市
下關市	宇部市
小野田	山口市
岩國	



けた處で、大社は、出雲大社で名高い。濱田は、半紙を集散し、萩市は、夏橙の本場である。隠岐は、島前島後の二部に分れる。近海は、烏賊の漁獲が豊富で、鰯の産が多く、島後の西郷は、烏賊漁業根據地として著れてゐる。



● 上 出雲大社  
● 中上 萩附近の夏橙畑  
● 中下 萩の仙酔島附近  
● 下 岡山の後樂園

**山陽線方面** 岡山市は、交通教育の中心で、名高い後樂園がある。萩尾道市附近は、風光明媚な瀬戸内海の粹を集めた處である。呉市に鎮守府海軍工廠

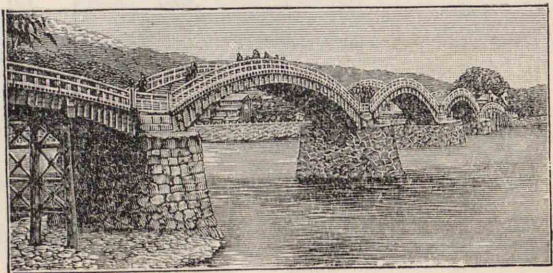
海田市は、吳線の分岐點、廣は海軍工廠の所在地である

● 岩國の錦帯橋

△ 石灰岩地で有名な秋芳洞がある



附近(江門)に、海軍兵學校がある。廣島市は、商工業、軍事教育の中心に當り、その港宇品は、戦時の軍隊、兵糧の輸送地として知られてゐる。嚴島(宮)は、日本三景の一で、遊覽者が甚だ多い。岩國は、錦帯橋で名高い。山口市は、山間の都會で、附近に秋吉臺がある。下關市は、交通の要地として發達し、關門海峽を隔て、門司市と近く相對してゐる。



**設問**

- 中國山地の地形上の特色を述べよ。
- 山陰、山陽の氣候産業を比較せよ。
- 中國地方の主なる製鹽地を挙げよ。
- 中國地方に於ける特殊な農産物に就いて記せ。
- 中國地方の主要鐵道を圖示せよ。
- 中國地方より他地方へ至る連絡に就いて記せ。

### 第六章 四國地方

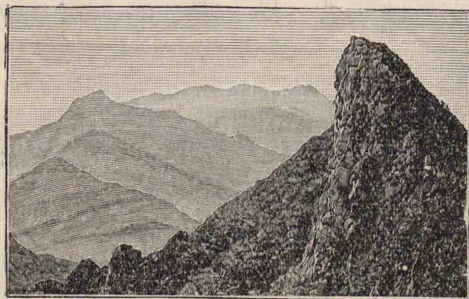
#### 第一節 位置と地形

##### 概観

瀬戸内海を隔て、中國の南方に位し、南は太平洋に臨み、東は紀伊水道を挟んで紀伊半島に、西は豊後水道を隔て、九州と相對する。全島は、山岳が多くて、平野は、甚だ狭小である。

行政上、徳島・香川・愛媛・高知の四縣に分けてあるが、地形上からは、四國山脈、北四國、南四國の三區となる。

**四國山脈** 略中央を東西に走り、地形は、甚だ険しい。劔山・石鎚山等の高峯が聳え、東には、支脈の讃岐山脈



石鎚山

東は紀伊山脈西は九州山脈に連絡してゐる。劔山・石鎚山は夏季に登山者が多い。



四國山脈東西断面

がある。

四國山脈は、古來、南北の交通を妨げ、以て南四國の人文の發達しない原因をなしてゐる。

**北四國** 燧灘の陥没によつて、讃岐高繩兩半島に分れる。讃岐平野は、地味

が肥え、人工の

溜池が多く、農業に適する。高繩

半島の西部には、重信川の三角洲

で作られた松山平野があり、その

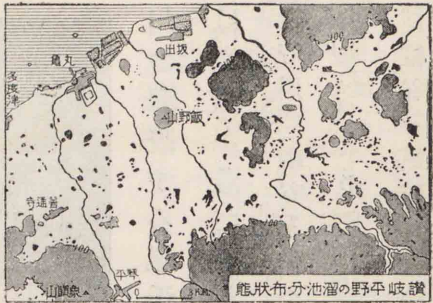
南西には、肱川が流れてゐる。阿

蘇火山帯が、東西に走り、興居島

(主)飯野山(讃岐)・屋島熔岩臺地等を



上飯野山  
下高松市を越えて屋島を望む



讃岐平野の溜池分布状態

來島海峡は潮流の急な航海の難所である

上大步危の峡流、下徳島平野の鳥瞰模型圖



川の灌漑する肥沃な徳島平野がある。鳴門海峡は潮流が急で航行が危険である。吉野川は、縦谷を作つて東流し、四國山脈を横ぎる所に、大歩危(大崩)・小歩危(小崩)の横谷を作り、讃岐山脈の南麓で、再び縦谷を貫流し、下流は、徳島平野を貫流してゐる。

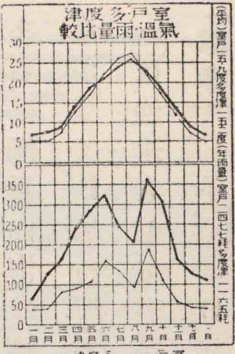


作り、道後温泉が湧いてゐる。近海には、小豆島を始め、島嶼が多い。西には、豊後水道に佐田岬が突出し、附近の海岸は、リアス式である。

南四國

土佐灣が陥没して、東に室戸岬、西に蹉跎(足)岬が突出してゐる。灣頭に、仁淀川の堆積した高知平野、南西に、四萬十川の河谷平野、東に、吉野川、那賀

第二節 氣候と産業



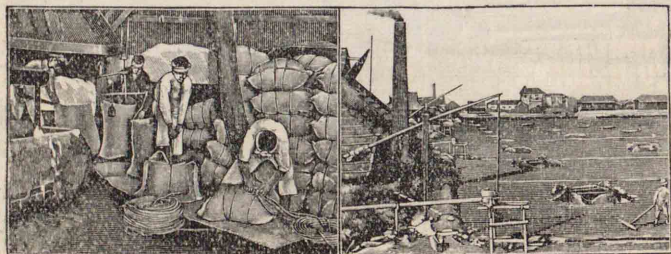
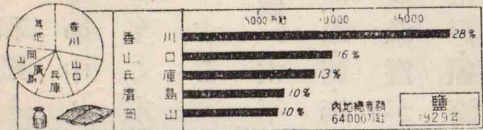
氣候 瀬戸内海岸は、温暖で、雨量が少く、晴天が多い故、製鹽に適して、鹽田が開け、撫養(徳)坂出(香)今治(波)が中心である。南四國は、暖流の影響を受けて、氣温が高く、夏季、南東風が濕氣を伴ふ爲、雨量が甚だ多い。従つて森林がよく繁り、良材、薪炭を産する。

止濱(愛媛)は、その中心である。南四國は、暖流の影響を受けて、氣温が高く、夏季、南東風が濕氣を伴ふ爲、雨量が甚だ多い。従つて森林がよく繁り、良材、薪炭を産する。

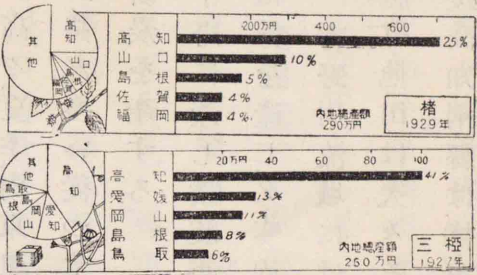
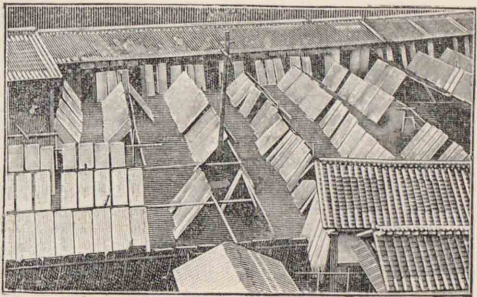
農業

米・麥は、諸平野に産し、讃岐平野では、甘蔗を植ゑて、粗糖を産し、又麥稈眞田(坂出)を製造する。吉野川流域には、藍、煙草の特産があり、脇町池田は、夫々その中心地である。愛媛・高知兩縣は、楮・三椏を

坂出の鹽田と鹽の包装 高知平野では米を年二回收穫する所がある



上伊野の製紙場下高知縣の鯉魚船と鯉節の乾燥中別子銅山の鑛石輸送用鐵索

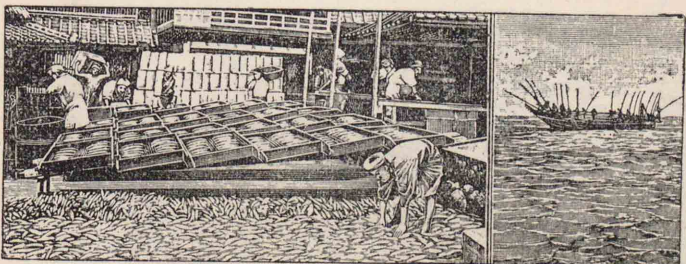
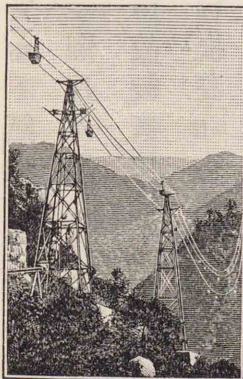


植えて和紙を製し、大洲(愛媛)伊野(高知)はその中心で、又大洲附近には、櫛が多く、木蠟を産する。  
水産業 太平  
洋岸は、鯉、鮪、鯽、鯨等の漁獲が多く、室戸須崎

× 鑛石は索道や鐵道で新居濱に出す

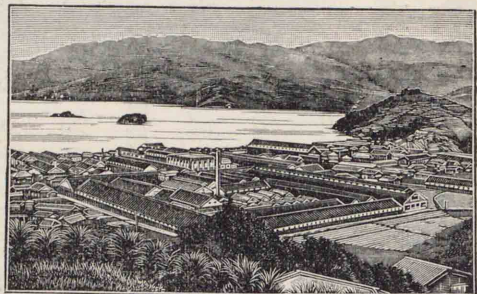
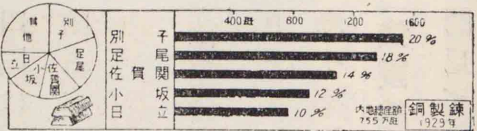
沖ノ島附近は珊瑚を産する

〔以上〕は、漁港として著れ、清水(高知)は、土佐節の産地である。瀬戸内海は、鯛、鱈の産が多く、観音寺(香川)三津濱(愛媛)は、漁港として名高い。別子(愛媛)は、日立足尾鑛業



△ タオルを産する  
○ 小豆島の醬油醸造場  
× 保田織・文綺塗を産する

1 高松・南郡中間(支線多度津・池田間)  
2 高松・引田間  
3 徳島・池田間  
4 須崎・角茂谷間

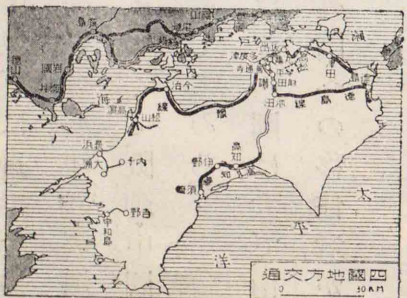


が無く、何れも地方的中心で、主に阪神地方と取引し、開港は、今治の一港のみである。

第三節 交通と人口

交通

陸上交通は、地形の影響を蒙り、豫讃線、高徳線が、北岸を通ずる外、徳島線、高知線等の鐵道



に並ぶ大銅山で、その鑛石を、四阪島(愛媛)で精鍊する。直島(香川)にも、精鍊所がある。小豆島は、良質の花崗岩を出す。

工業・商業

今治・松山の綿絲、徳島の織織(阿波)今治・徳島の綿フランネル、松山の伊豫紺は名高い。高松は、マッチを製産し、小豆島は、醬油の産地である。商業は大中心

×宇野との間に連絡船を通じてゐる

△近年化学染料に壓倒されて産額が減じた

面積	人口	全国	内地	四國地方	徳島	香川	愛媛	高知
二八七、七〇四	一、八七、二六	●●●●●	●●●●●	●●●●●	●●●●●	●●●●●	●●●●●	●●●●●
四二、三五	一、八四五	●●●●●	●●●●●	●●●●●	●●●●●	●●●●●	●●●●●	●●●●●
五、六七	七〇、八八	●●●●●	●●●●●	●●●●●	●●●●●	●●●●●	●●●●●	●●●●●

があるが、未だ連絡が完全でない。吉野川は、池田以下に舟揖を通ずる。近海は、汽船の往來が繁く、殊に内海には高松多度津<sup>香</sup>・高濱<sup>愛</sup>等の良港が多くて、阪神・中國間に、航路を通じてゐる。

**人口** 密度は、北四國は大で、南四國は小である。殊に香川縣は最大で、縣外又は外國への移住者が頗る多いが、高知縣は、密度が最も小である。

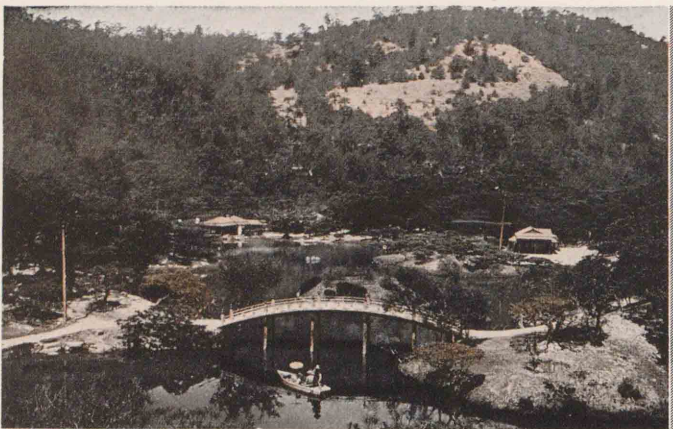
第四節 處誌

**徳島線方面** 徳島市は、四國東部の中心で、小松島を外港とする。脇町附近は、藍を多く産したが、近年は、漸次、桑園に代り、養蠶が興つた。

**讃讚線方面** 高松市は、讃岐平野の門戸で、栗林公園・屋島<sup>附近</sup>の遊覽者

行政區劃と主要都邑

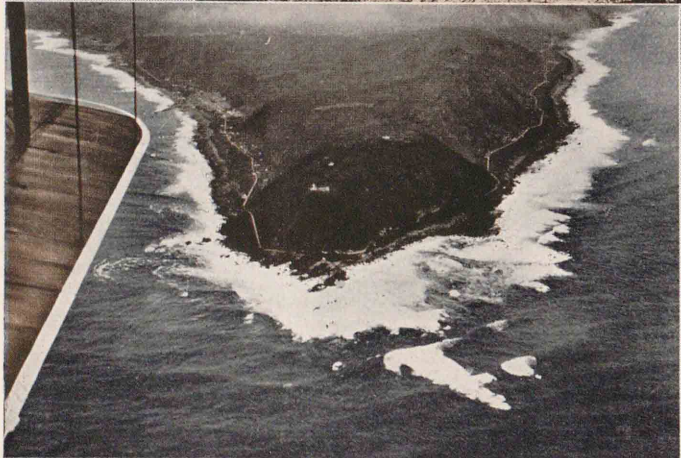
徳島縣(阿波)	徳島市	撫	養	小松島
池田				
香川縣(讃岐)	高松市	丸龜市	坂	出
善通寺	多度津			
愛媛縣(伊豫)	松山市	宇和島市	今治市	
西條	三津濱			
高知縣(土佐)	高知市	須	崎	伊野



栗林公園 高松市の南部にある自然の裏山を背景とし規模が頗る壯大で屋島と共に高松市の有する二大勝區である



宇和島港 豊豫水道に臨む南豫の中心である 附近は標式的リアス式海岸を呈しこの港も亦その入江の一にある



室戸岬 飛行機より見たもので怒濤の岩角に荒れ狂ふ様は筆舌に盡し難く風光の豪壯なること我が國第一の稱がある



×同名の寺がある

上 飛行機より見たる松山市の大観(中央は城山) 下 琴平と金刀比羅宮

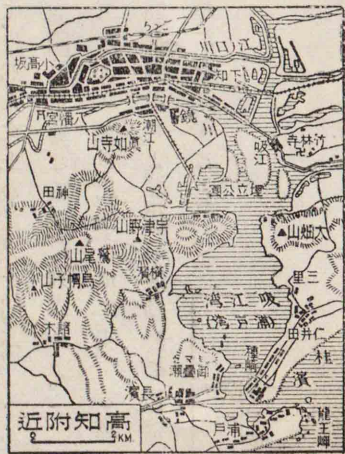


高知地方

高知市

は、南四國の中心をなし、風景のよい吸江灣に臨んで、浦戸を外港とし、甲浦と共に、阪神間との交通が頻繁である。室戸岬は、豪壯な海岸美で、世に著れてゐる。

て賑はふ。丸龜市は、商業地で、南に兵營町の善通寺、金刀比羅宮で名高い琴平がある。松山市は、西四國の中心で、高濱、三津濱を外港とし、鐵道、電車の便がよい。八幡濱、宇和島市は、要津である。



設問

- ◎ 四國地方の地形を説明せよ。
- ◎ 吉野川流域の自然人文を述べよ。
- ◎ 瀬戸内海の地圖を描き、主要なる製鹽業地を記入せよ。
- ◎ 四國地方の北部と南部とに就いて、自然人文上の差異を問ふ。

- ◎ 四國の重要な港を列舉せよ。
- ◎ 東京より金刀比羅宮に參詣する道筋を圖示せよ。(鐵道連絡船の發着地名を示すこと)

### 第七章 九州地方

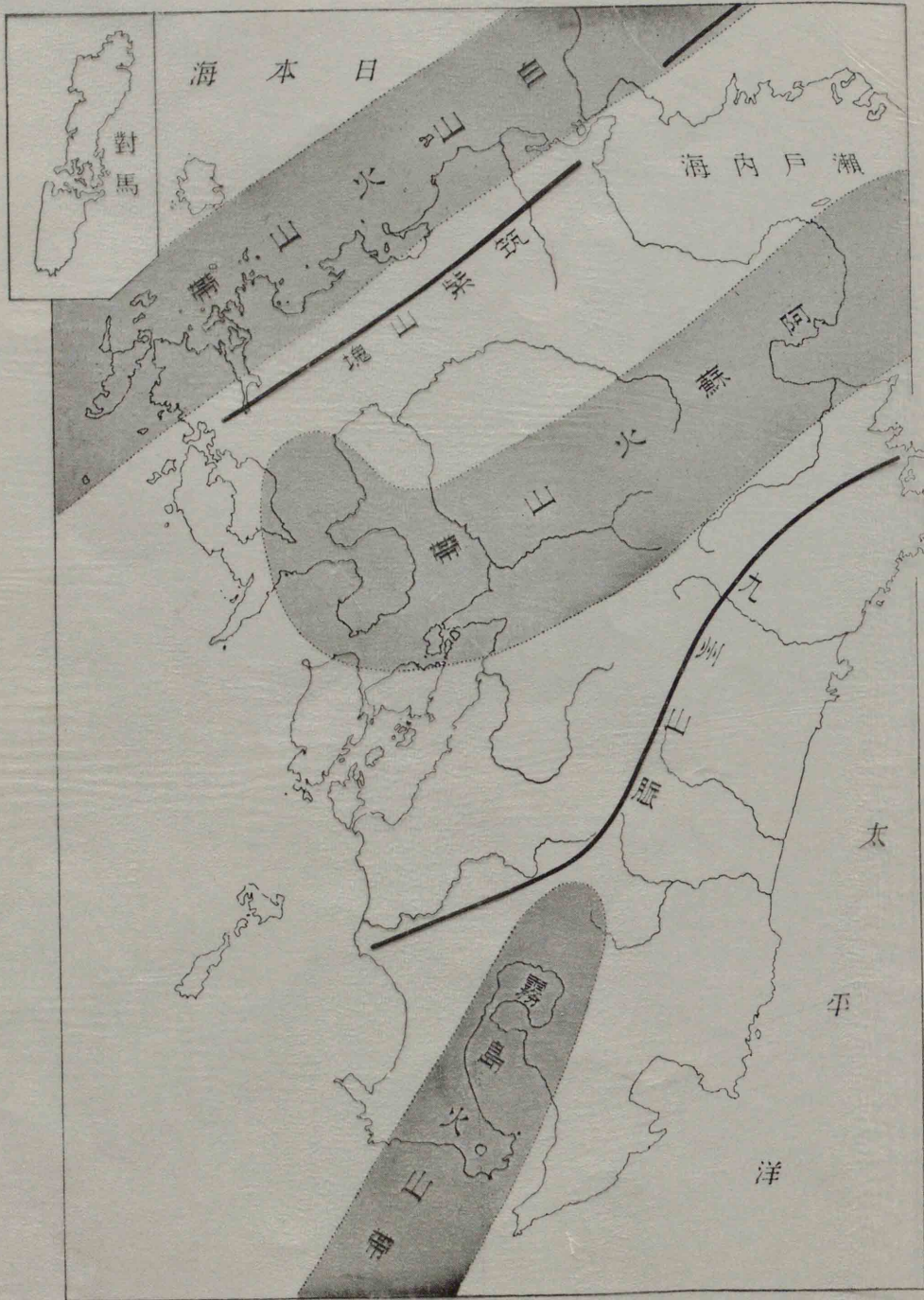
#### 第一節 位置と地形

**概観** 日本列島の南西部を占める。南東部は、我が國文化の發祥地であるが、その後、新文明に遠ざかつた感がある。北西部は、古來、大陸との關係が深い。

行政上、福岡・佐賀・長崎・熊本・大分・宮崎・鹿兒島・沖繩の八縣に分れてゐるが、地形上、北九州・中九州・南九州の三區に分れる。

**北九州** 中國山地に續く筑紫山塊は、所々陥没して、遠





- 設**
- 四國地方の地形を説明せよ。
  - 吉野川流域の自然人文を述べよ。
  - 瀬戸内海の地図を描き、主要なる製鹽業地を記入せよ。
- 問**
- 四國地方の北部と南部とに就いて、自然人文上の差異を問ふ。
  - 四國の重要な港を列挙せよ。
  - 東京より金刀比羅宮に參詣する道筋を圖示せよ。(鐵道連絡船の發着地名を示すこと。)

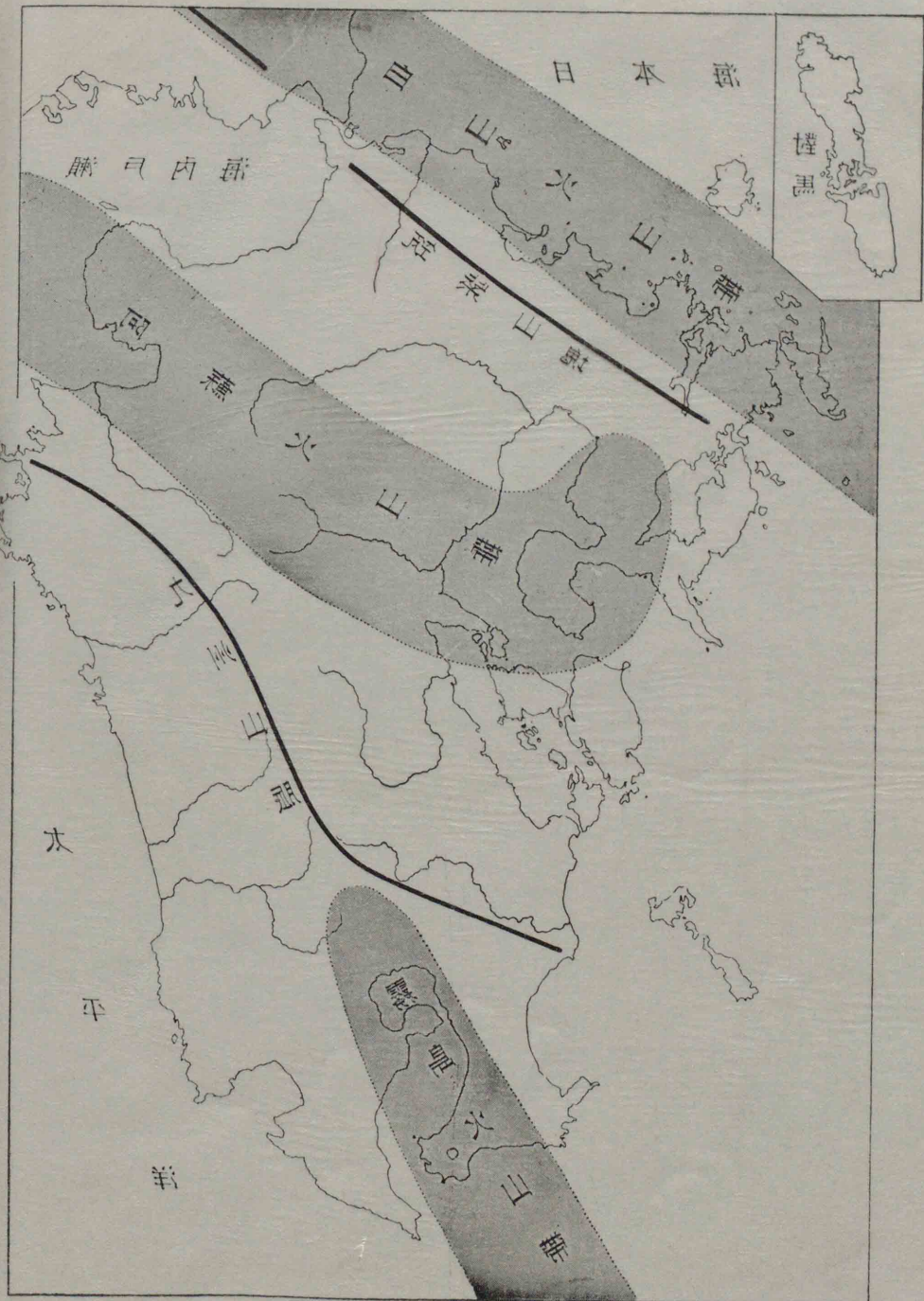
### 第七章 九州地方

#### 第一節 位置と地形

**概観** 日本列島の南西部を占める。南東部は、我が國文化の發祥地であるが、その後新文明に遠ざかつた感がある。北西部は、古來、大陸との關係が深い。行政上、福岡・佐賀・長崎・熊本・大分・宮崎・鹿兒島・沖繩の八縣に分れてゐるが、地形上、北九州・中九州・南九州の三區に分れる。

**北九州** 中國山地に續く筑紫山塊は、所々陥没して、遠





△東松浦・北松浦・  
西彼杵・野母・島  
原

上三池港の  
閘門装置下阿蘇  
中岳の噴火口

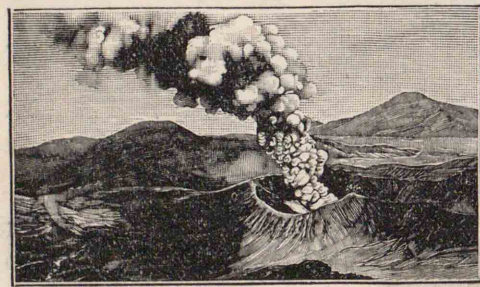
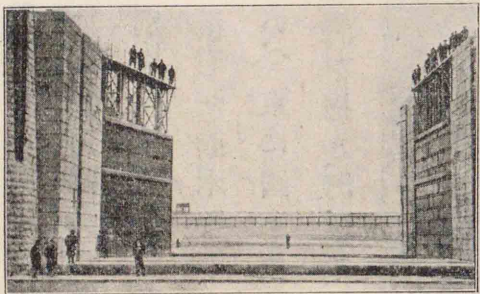


賀河谷福岡平野筑紫平野等の低地となる。遠  
賀川の上流には、豊富な炭田があり、筑後川の三  
角洲は、肥沃で農産物に富む。肥前半島は、更に  
五個の半島に分れ、唐津・伊萬里・大村・千々石の諸  
灣や、有明海を抱き、長崎・三池の商港、佐世保の軍  
港がある。  
又北には、

博多・若松・門司の良港がある。  
島嶼は、壹岐・對馬が著しい。  
有明海は、潮沙干満の差が六米〔内地  
第一〕に達する爲、三池港は特別の設  
備がしてある。

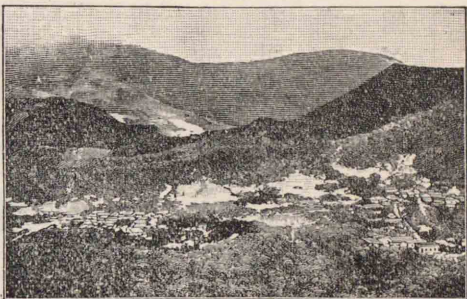
中九州

阿蘇火山帯が通じ



×支那・印度支那・海峽植民地地方よりの避暑客が多い

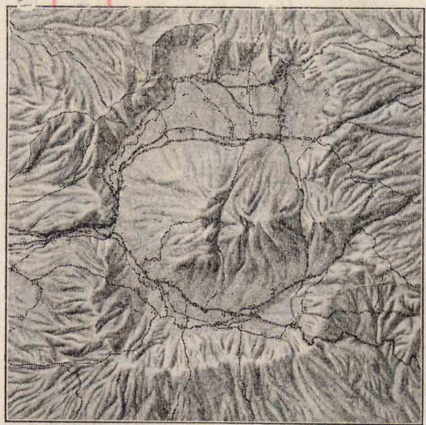
上温泉岳  
下阿蘇山の鳥瞰  
模範圖



阿蘇火山が略その中央に位して、分水界となつてゐる。東に九重山・鶴見岳、西に温泉(仙)岳・多良岳が噴起し別府温泉武雄等の温泉がある。白川・緑川の堆積した熊本平野、大野川下流の大分平野は著しい。東に國東・佐賀・關二半島が突出して別府(諸)灣を抱き、灣頭に別府港がある。西に宇土半島・天草諸島がある。

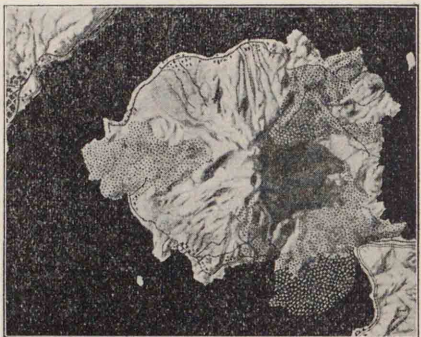
△根子岳・高岳・中岳・杵島岳・鳥帽子岳を阿蘇の五岳といふ

【阿蘇山】最高峰高岳も千六百米に達しないが、外輪山(舊噴火口壁)の大なることは、世界第一で東西十六軒、南北二十四軒に及ぶ。火口原(火口)には、多くの中央火口丘が聳え、その一の中岳は、常に噴



上櫻島の鳥瞰模範圖  
下球磨川の急流

×最近の噴出により半島状となつた

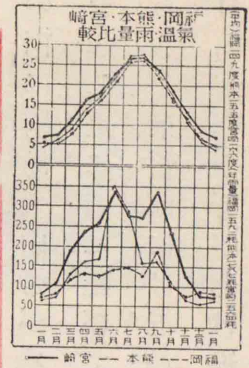


九州山脈が斜に走り、祖母山・市房山が聳え、主なる分水嶺となつてゐる。その南に霧島火山帯があつて、霧島山・櫻島・開聞岳を起し、更に南に延びて、數多の火山島を作つてゐる。東斜面には、五箇瀬川・大淀川等が流れて、日向海岸平野が開け、海岸は平直であるが、豊後

煙してゐる。斜面低地は、農・牧業が行はれ、約五萬の人が住んでゐる。阿蘇山温泉岳は、南九州にある霧島山と共に、夫々國立公園が設定せられることとなつた。

南九州



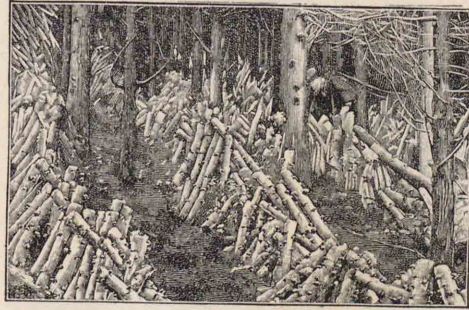


は薩南諸島琉球列島等がある。

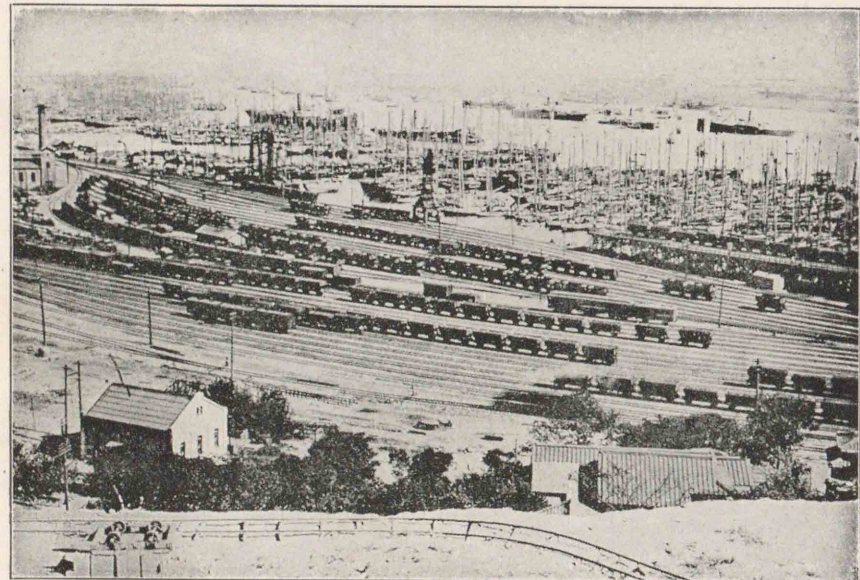
第二節 氣候と産業

氣候 中九州以北の海岸は溫暖で、山地熊本平

野は、氣温の變化が稍多く、概ね雨量は少い。南九州は、高温多湿で、我が國多雨地の一である。されば森林が茂り、木材薪炭椎茸の産



顔てし下を根氣のく多りよ枝 るあでのもの表的代表の物植帶熱るけ於に球琉 樹根  
るみてしなを垣生の然自く如の圖はのもたれらえ植に圍周の家し呈を觀奇る



萬一日一はに岸海 るあで港出積炭石の一第本日るえ控を田炭豊筑 盛繁の港松若  
ぶ及に隻十八百三均平は船船入出の日一りあが置裝な模規大む込積を炭石の噸千八

下宮崎縣の  
椎茸栽培上青島  
の蒲葵

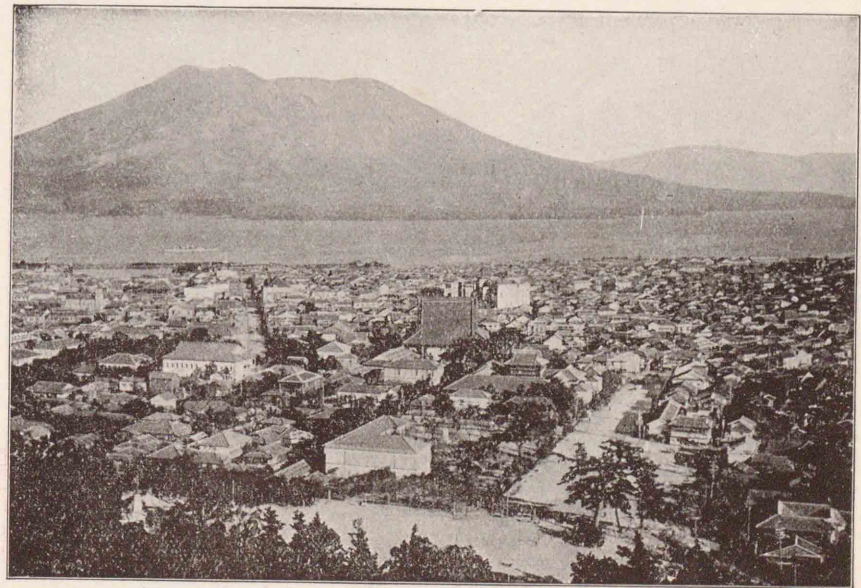
△屋久島に屋久杉の美林がある

▲上林投樹  
下熊本平野の粟畑  
×熊本縣に多い

近年養蠶は熊本・宮崎縣に發達した



間連大・地内又地在所の隊聯四第行飛軍陸で地要の上空航の州九 場行飛の洗刀太  
るあで容威の機軍陸るすとんせ發出に將は眞寫 るあで地陸着の機空航期定の



てべ浮に上海にか靜を容温のそが島櫻で市都的代表の州九南は市 島櫻と市島兒鹿  
たしか脅を帯一近附め始を島兒鹿てしなを動活大はに年三正大がるみ

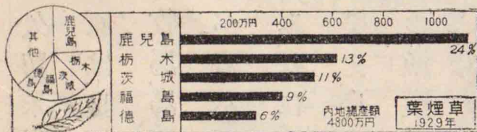
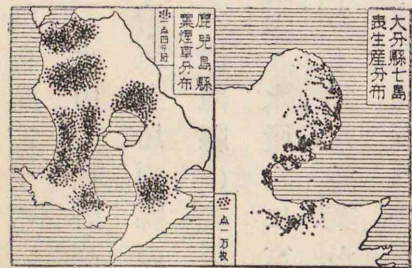


農業牧畜業

し、殊に門司〔福〕は、米穀の大市場である。

筑紫熊本兩平野は、米産に富み、久留米〔福〕熊本で集散

又、菜種・麥・粟・甘藷などの産も多い。國東半島は、七島表を産する。南部は、煙草の栽培が盛んで、國分・指宿等は、その中心である。沖繩・鹿兒島の兩縣は、多く甘蔗を植ゑ





阿蘇火口原の牧畜

有明海の貝類の養殖五島附近の捕鯨は名高い

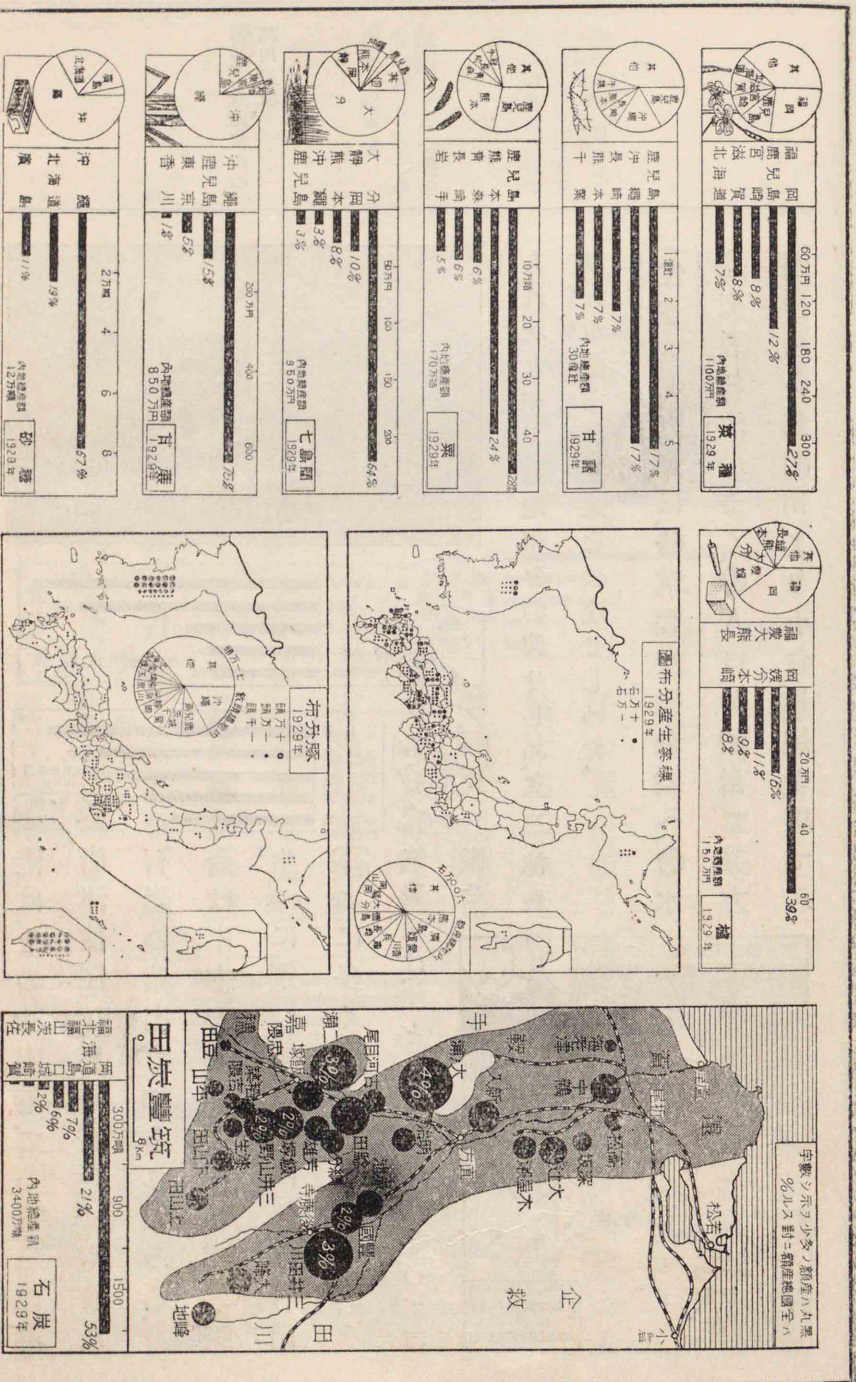


て粗糖を製造する。久留米附近の櫛も、世に名高い。火山の裾野高原は、良好な牧場で、阿蘇山地、宮崎、鹿兒島兩縣の牧馬、島原半島の牧牛、牧馬が著れ、沖繩縣は、養豚が盛んである。

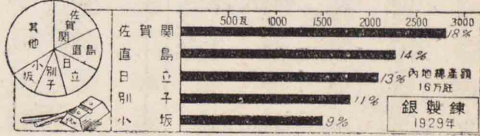
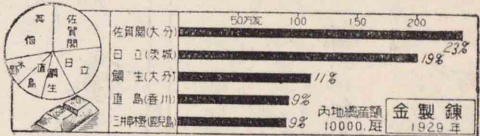
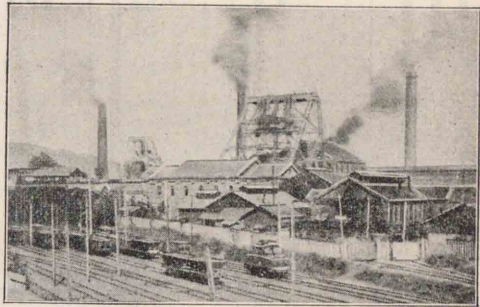
**水産業** 水産物に富み、殊に大需要地支那を控へてゐる爲、水産業が榮え、烏賊、鯖は長崎縣に多い。鹿兒島縣は、鯉、鰯の漁獲が多く、鯉節の産も多い。平戸、福江〔長崎〕、枕崎〔鹿兒〕等は、主要漁港で、

×就中福岡縣が産額の五割を占める

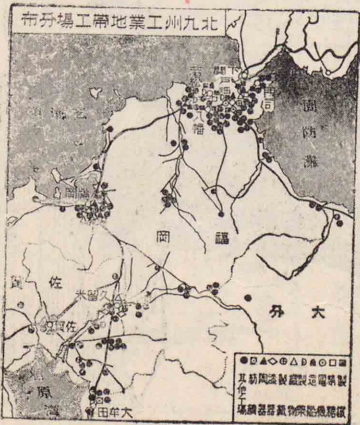
長崎市は、水産物の大集散地である。  
**鑛業** 石炭は、我が産炭總額の七割を産し、筑豊三池〔福岡〕、唐津〔佐賀〕、長崎炭田は、埋藏量が甚だ多い。筑豊炭田には、直方、飯塚等の炭坑町が發達し、若松門司二



三池炭田の萬田炭坑



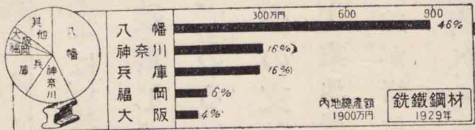
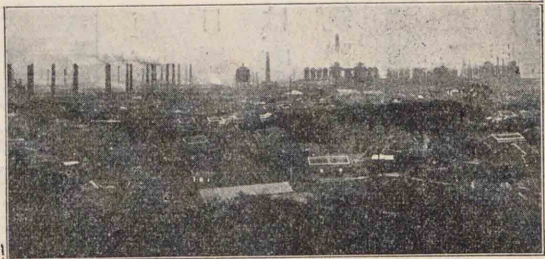
港はその積出港である。三池港唐津住江〔佐賀〕長崎崎戸〔長崎〕もまた石炭の積出で知られてゐる。金は串木野・山野・春日〔以上鹿兒島〕銅は檜峯〔宮崎〕に、錫は谷山〔鹿兒島〕に多く産する。筑豊炭は、主として鐵道によつて運搬せ



られ、北九州工業地帯を勃興せしめ、又三池炭は大牟田市の工業を發達せしめた。  
**工業** 北九州は、①筑豊炭田を控へ、②水陸交通の便がよく、③人口が稠密で、勞力が得易い爲門司より小倉戸畑を経て八

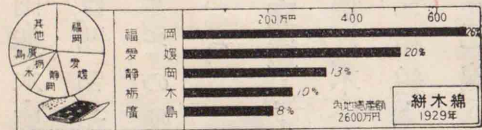
近時水俣〔熊本〕・延岡〔宮崎〕に窒素肥料の製造が行はれる

上八幡製鐵所大觀下有田の製陶工場内部



の陶磁器等も亦名高い。

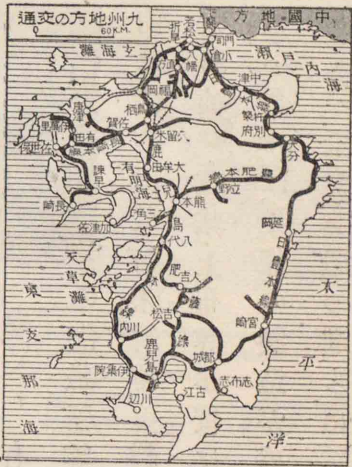
尙ほ織物は、久留米・博多・薩摩・大島・琉球・上布等が世に知られ、久留米・小倉〔福岡〕は、足袋の製造が盛んである。  
**商業** 産業・交通の進歩に伴ひ、商業がよ



幡の西方に至る三十軒の間に、北九州工業地帯が發達してゐる。八幡の官設製鐵所は、特に名高く、その他精糖・セメント・硝子の産が頗る多い。長崎・佐世保〔長崎〕は造船、大牟田は化學工業で著れ、八代〔熊本〕のセメント、洋紙、有田〔佐賀〕、鹿兒島

×三池・唐津・崎戸・住ノ江・口ノ津・嚴原・三角・鹿兒島・那覇

1 門司・鹿兒島間  
2 小倉・吉松間  
3 大分・熊本間  
4 八代・鹿兒島間  
5 島栖・長崎間  
6 若松・上山田間  
門司港(遙に本州を望む)



く發達し、福岡・熊本・鹿兒島等の中心がある。貿易は、門司が最も盛大で、長崎がこれに次ぎ、その他、若松・博多等十三の貿易港がある。

第三節 交通と人口

交通

南東部は、不便であるが、北西部は、發達が著しい。鹿兒島線、日豊線は南北に縦貫して環狀線をなし、豊肥線は、唯一の横斷線である。その他肥薩線、長崎線、筑豊線を始め、數多の支線がある。鐵道網は、北部炭田工業地帯が最も密である。殊に筑豊炭田には、數多の支線が樹枝狀に分岐してゐる。門司・長崎兩港は、内外汽船の出入が繁く、門司下



人口	一平方 里の 人口	面積
●●●●●	●●●●●	三三、〇七四
●●●●●	●●●●●	四四、四八〇
●●●●●	●●●●●	四九、四〇〇
●●●●●	●●●●●	二四、四四四
●●●●●	●●●●●	四一、一九
●●●●●	●●●●●	七四、三八
●●●●●	●●●●●	六三、三四
●●●●●	●●●●●	七三、三八
●●●●●	●●●●●	九〇、八
●●●●●	●●●●●	一三、八六

關間には、連絡船の往來が頻繁であ

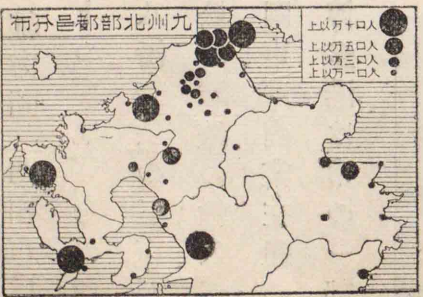
×鹿兒島・久慈・那覇・南大東島・ラサ島

る。定期航空路は、大阪・福岡(島)線と、東京・大連線とがある。海底電線は、長崎よりウラヂラストク・上海に、佐世保より大連に、長崎半島より臺灣に通じ、福岡・佐世保・大瀨崎その他五箇所に無線電信局、福岡・熊本・小倉にラデオ放送局がある。

人口 南東部は、人口が稀薄であるが、北西部は、甚だ稠密し、福岡縣は、人口の密度が特に大で、市の數は、十に達する。

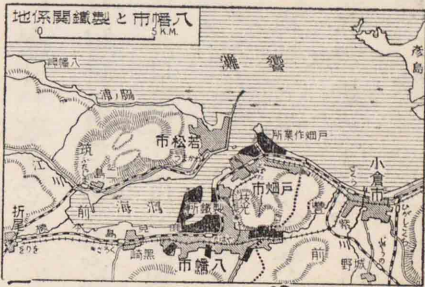
琉球列島は、風俗習慣が内地と異つてゐたが、今は、殆ど大差がなく、人口は、割合に稠密である。

第四節 處誌



行劃區劃と主要都邑

福岡縣(前一部・流後・豊)	福岡市	八幡市	門司市
大牟田市	小倉市	久留米市	若松市
直方市	飯塚市	後藤寺	戸畑市
佐賀縣(前一部)	佐賀市	唐津市	鳥栖
熊本縣(前一部)	熊本市	水俣市	八代
鹿兒島縣(大隅・薩摩)	鹿兒島市	川内	山谷
宮崎縣(日向)	宮崎市	都城	延岡
大分縣(豊前一部・豊後)	大分市	別府市	中津市
長崎縣(肥前一部・豊後)	長崎市	佐世保市	島原
沖繩縣(琉球)	那覇市	首里市	



鹿兒島本線方面 門司市は、海陸交通上の要地で、その西方に戸畑・八幡・若松の三市が鼎立し、若松は鐵鑛の輸入が多い。福岡市は、商業・交通の大中心で、博多港は市の一部である。附

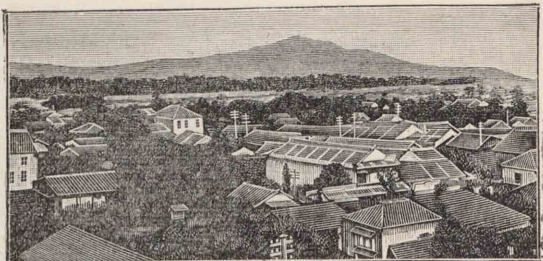
× 黒田氏の舊城下で九州帝國大學がある。太刀洗に陸軍飛行聯隊がある。  
 上 太宰府の天満宮本殿、下 熊本市より阿蘇の噴煙を望む  
 △ 島津氏の舊城下で錫器を産する

近には大宰府・水城址などの史蹟が多い。熊本市は、熊本平野の中心で、軍事・交通・學術上の要地である。鹿兒島線は、宇土で三角線を分ち、川内・伊集院を経て鹿兒島市に至る。市は南洲翁



上 都城市より霧島山を望む  
 中上 櫻島大根 中下 別府温泉の砂湯 下 耶馬溪(山國川を隔て、青洞門を望む)

× 十數軒の間に多くの温泉が湧いてゐる  
 ▲ 綿紡織が行はれる

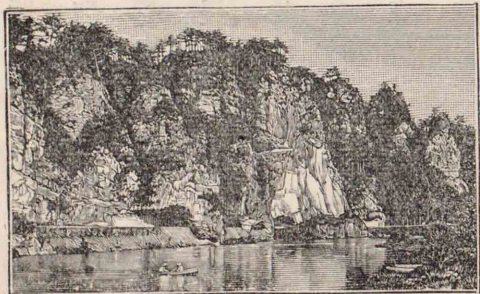
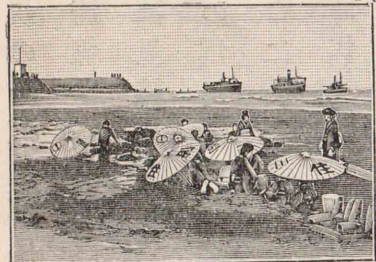


集散地で、大分市は生絲・綿絲を産する。別府市は、我が國第一の温泉都で、保養・遊覽の客が多く、宇佐に宇佐神宮がある。中



この線に沿ふ人吉・加治木は、地方の名邑である。

日豊線方面 都城市は、盆地の中心、養蠶・製絲地で、宮崎市に、宮崎神宮がある。延岡は、木材の



の故地で、城山を負ひ、南九州の中心をなし、櫻島大根を産する。肥薩線は、矢岳附近で、ループ線を利用す

× 佐世保・大村に  
海軍航空隊がある

△ 長崎港大観  
(左方遠景は長崎  
造船所である)

△ 種子ヶ島・屋久  
島・寶(吐噶喇)大  
島諸島より成る

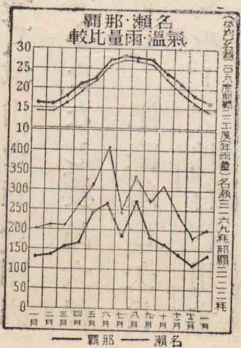


津市の南西、山國川の上流に、耶馬溪の勝がある。  
**長崎線方面** 長崎線は、鳥栖で、鹿兒島線を分ち、更に  
進んで唐津線、伊萬里線、佐世保線を分つ。佐世保市  
は、軍港、海軍工廠の爲に榮えた。長崎市は、支那との  
取引が盛んで、港口に、高島炭坑がある。

【長崎市】我が鎖國時代には、唯一の開港であつて、海外の文  
化を輸入したが、後背地がない爲、漸次、衰へつつある。

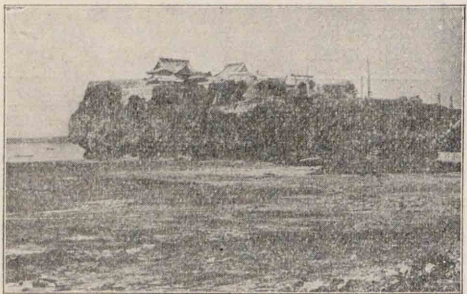
**屬島** 對馬は、上下二島に分れ、壹岐と共に、朝鮮に渡  
る要地である。薩南諸島は、南下する程、風物が琉球  
に似て来る。琉球諸島は、沖繩、  
先島二諸島に分れ、先島諸島は、  
更に宮古・八重山二諸島に分れる。

大島は名瀬を中心とし、風習が琉球に似、粗糖、鯉節



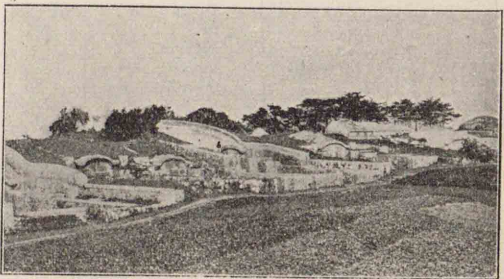
大島紬を産出する。琉球列島には、周圍に珊瑚礁を繞し  
た島嶼が多く、就中最大の沖繩島は、海岸に、珊瑚礁の發達  
が著しい。砂糖、芭蕉布、漆器、泡盛等を産する。首邑那覇市は、  
良港で、築港が整ひ、首里市は、舊都である。

△ 上沖繩島の  
隆起珊瑚礁上にあ  
る波上宮(那覇市)  
下那覇市郊外の  
墓地(琉球では宏  
大な墓地を作る風  
習がある)



設 問

- 九州地方の地圖を描き、主なる山脈、高山、温泉、河川を記入せよ。
- 阿蘇火山の特色及び人文との關係を述べよ。
- 福岡縣に於ける主要炭坑、採炭業中心地、石炭輸出港を挙げよ。
- 琉球に於ける氣候と人文との關係如何。
- 北九州の、大工業地帯勃興の原因と、その製品を挙げよ。
- 九州に於ける金の大産地を列挙せよ。
- 門司下關を、交通商業上から比較せよ。



第八章 北海道地方

第一節 位置と地形

概観

古の蝦夷の地で北海道本島と附近の属島とよ  
り成る。南は津軽海峡の陥没によつて本州と分れ、北  
は、宗谷海峡を挿んで樺太に、對し北東端は千島海峡を  
隔て、露領カムチャツカ半島と相對してゐる。

本島は、太平洋、オホーツク海、日本海を繞  
らし、菱形の胴部と、南西の半島部と、屬島  
とに分れる。

半島部 那

須火山帯の 惠山・駒ヶ岳・有  
珠岳・樽前岳・羊蹄山(マッカ)  
等の火山が聳え、洞爺湖・  
支笏湖が湛へ、登別温泉

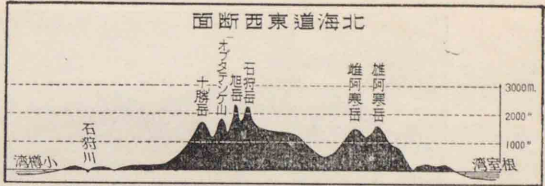
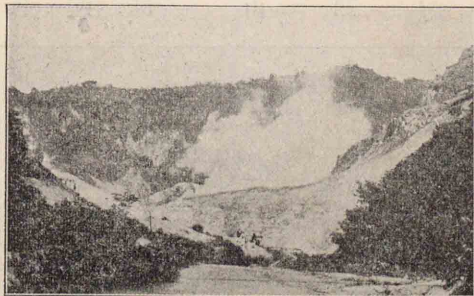
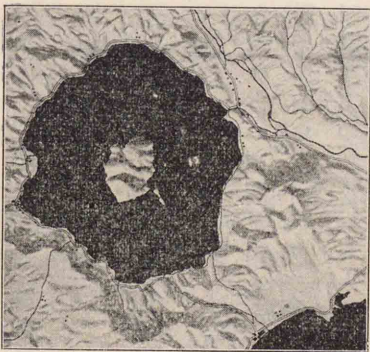


圖 上洞爺湖の  
鳥瞰模型圖 下登  
別温泉の噴氣孔  
×南麓に風景のよ  
い大沼がある



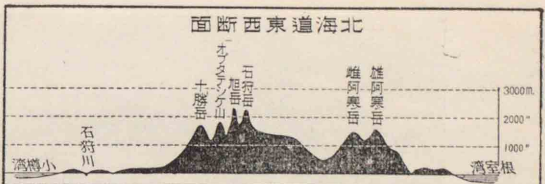
第一節 位置と地形

**概観** 古の蝦夷の地で北海道本島と附近の属島とよ  
り成る。南は津軽海峡の陥没によつて本州と分れ、北  
は、宗谷海峡を挿んで樺太に、對し北東端は千島海峡を  
隔て、露領カムチャツカ半島と相對してゐる。

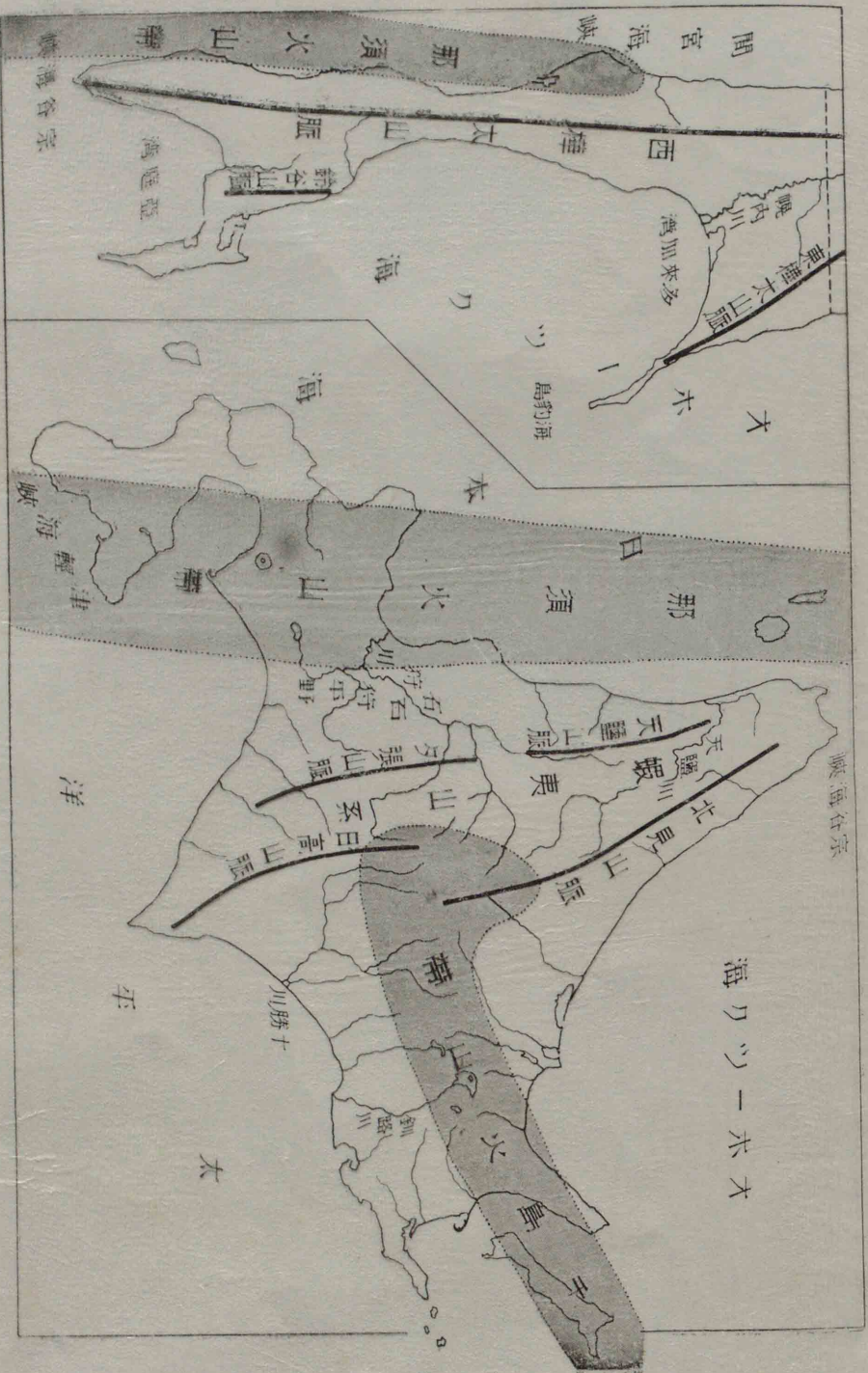
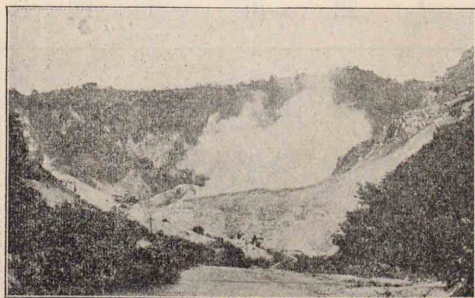
本島は、太平洋、オホーツク海、日本海を繞  
らし、菱形の胴部と、南西の半島部と、属島  
とに分れる。

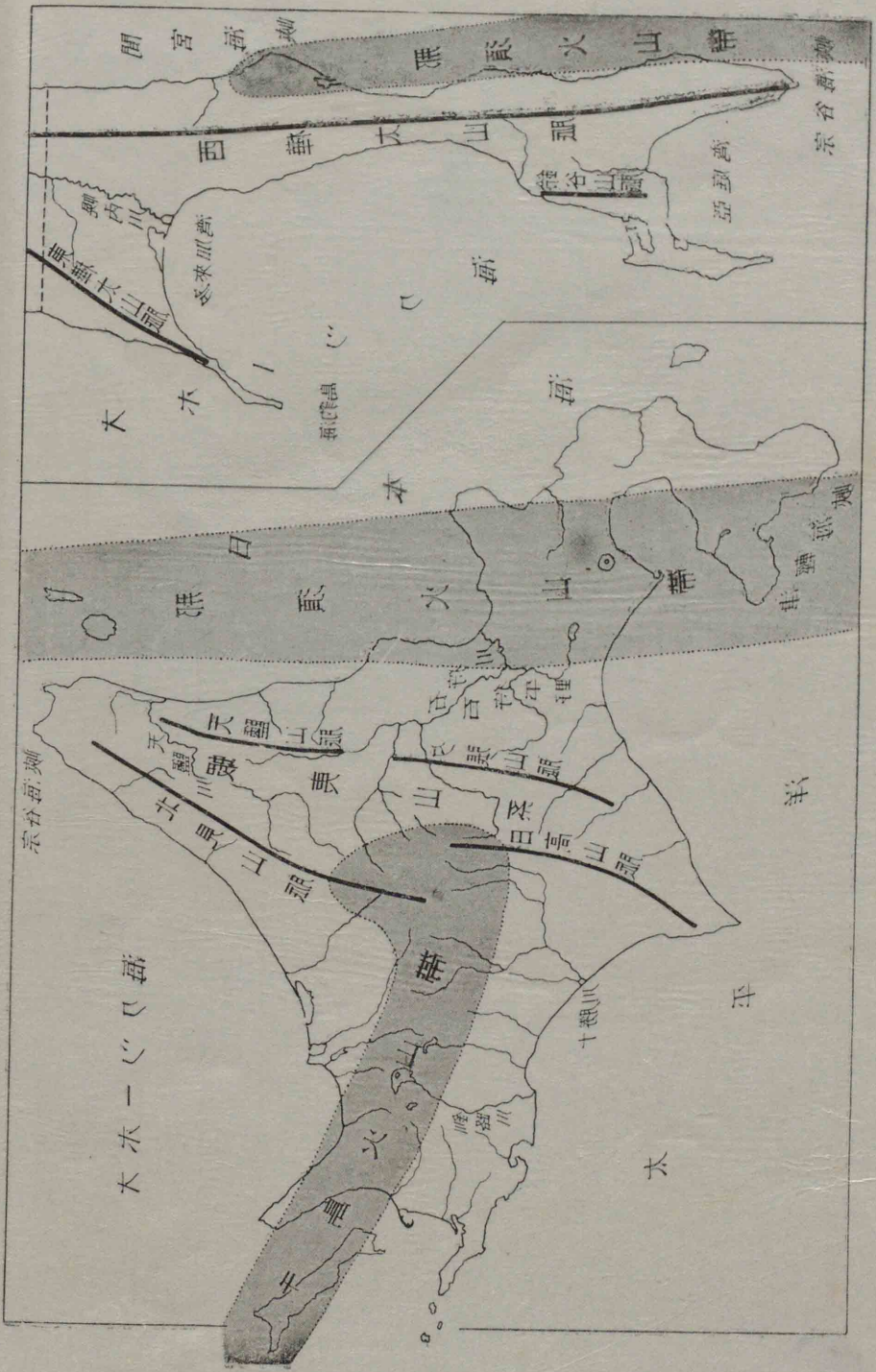
半島部 那

須火山帯の惠山・駒岳・有  
珠岳・樽前岳・羊蹄山(リ岳)  
等の火山が聳え、洞爺湖・  
支笏湖が湛へ、登別温泉



● 上洞爺湖の  
鳥瞰模写 下登  
別温泉の噴氣孔  
× 南麓に風景のよ  
い大沼がある









・沼大でめ止き堰を水河は發爆大の時舊がぬえ絶が煙も今は岳ヶ駒 沼大と岳ヶ駒  
 るあでく如の繪光風でん浮が々島の数無小大はに上湖 たじ生を沼湖の沼小



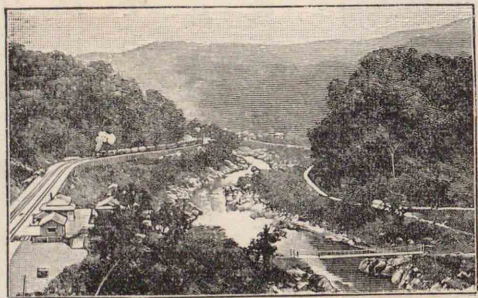
なぎ過に米三九八一は拔海も時に方南のそてし下見を場農大の近附安知俱 山蹄羊  
 るみてれば呼で名の士富夷蝦に一で一第島本とこるな麗秀の容山がい

が湧く。海岸には、北に小樽灣、南に函館灣、東に圓形の内浦(噴火)灣があつて、夫々、小樽、函館、室蘭の良港を擁する。

**洞部** 北見、日高、天鹽、夕張四山脈より成る蝦夷山系が、略南北に走り、その間に、名寄盆地、上川盆地、富良野盆地の低地を挟んでゐる。天鹽川は、天鹽平野を流れて北流する。上川盆地の水は、石狩川となつて流れ、肥沃な石狩平野を貫流してゐる。

【石狩川】内地第二の長流で、上川盆地に於て、諸川の水を集め、神居古潭の峽流で、夕張山脈を横ざり、雨龍川、空知川、江別川などの支流を併せ、石狩平野を流れて、日本海に注ぐ。舟運の便があり、又鮭の産が多い。

千島火山脈は、千島列島を経て本島に來り、東部に雄阿寒岳、雌阿寒岳等の火山を噴起し、山中に屈斜路湖、摩周湖等の火山湖を湛へてゐる。こ

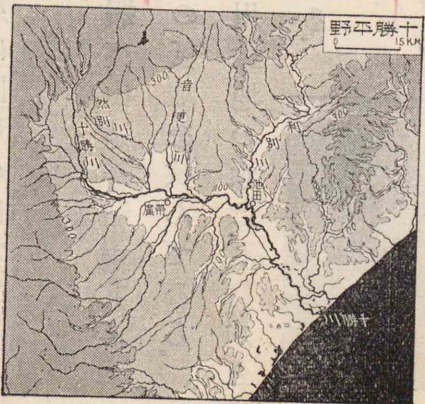


神居古潭の峽流



の火山帯が蝦夷山系と會する處は、大雪山(旭岳)を始め、石狩岳・十勝岳等の高山・峻岳が重疊して、本島の大分水嶺をなしてゐる。大雪山・阿寒岳附近は、共に雄大な山嶽美に富んでゐるので、最近夫々、國立公園が設定せられることになつた。

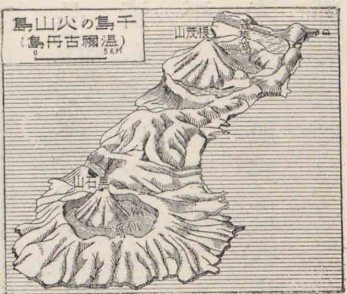
大分水嶺南東の十勝川流域に十勝平野、釧路・西別二川の流域に釧路平野がある。南に襟裳岬、北に宗谷岬が突出し、東方には、花咲・知床兩半島が突出して、根室灣を抱く。オホーツク海岸は、砂嘴が發達して、網走・猿澗湖等の潟湖が多い。天然港は、根室・釧路等が著しい。



×近海では海獣の漁獲が行はれる

▲札幌郊外のスキー場

▲海岸附近は米作が行はれない



屬島中、那須火山帯に屬する奥尻・利尻・禮文・三島は、何れも漁業の要地である。千島列島は、國後島・擇捉島を始め、大小數多の火山島より成り、又漁業が行はれる。

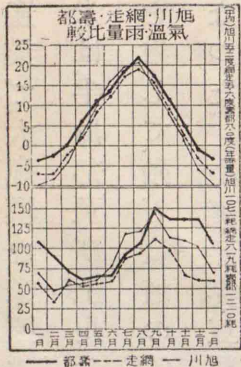
### 第二節 氣候と産業

氣候 土地が北に偏する爲

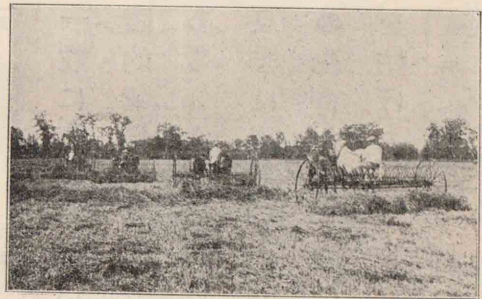
一般に、氣温が低い。上川盆地・十勝平野は、稍大陸的氣候で、夏季、比較的高温な爲、農業が盛んである。太平洋岸は、日本海岸よりも低温で、特に夏季は屢、濃霧が起り、作物の生育を害し、又海上交通を妨げる。

### 農業・牧畜業

農業は、本島

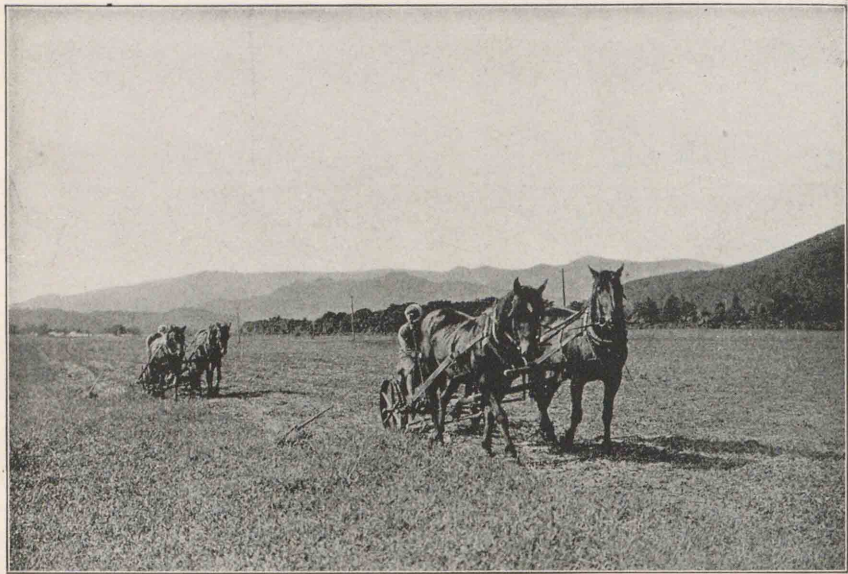
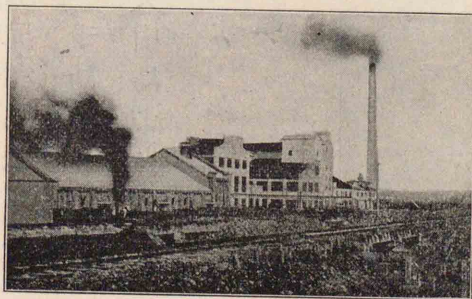
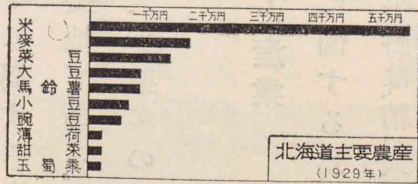


圖解 上大規模な  
牧草乾燥 下帯廣  
の甜菜糖工場



の主要産業で、大規模な米國式農法が行はれて  
 いる。米は、半島部及び上川盆地に多く産し、最  
 近、産額を増して、殆ど全道の需要を充すに足る  
 やうになつた。小麥・燕麥・豆類・馬鈴薯等は、各平  
 野に栽培せられ、札幌・旭川・岩見澤・倶知安(後)・帯廣  
 池田(以上)は、大集散地である。  
 近年、農産製造も  
 勃興し、麥酒・麻製

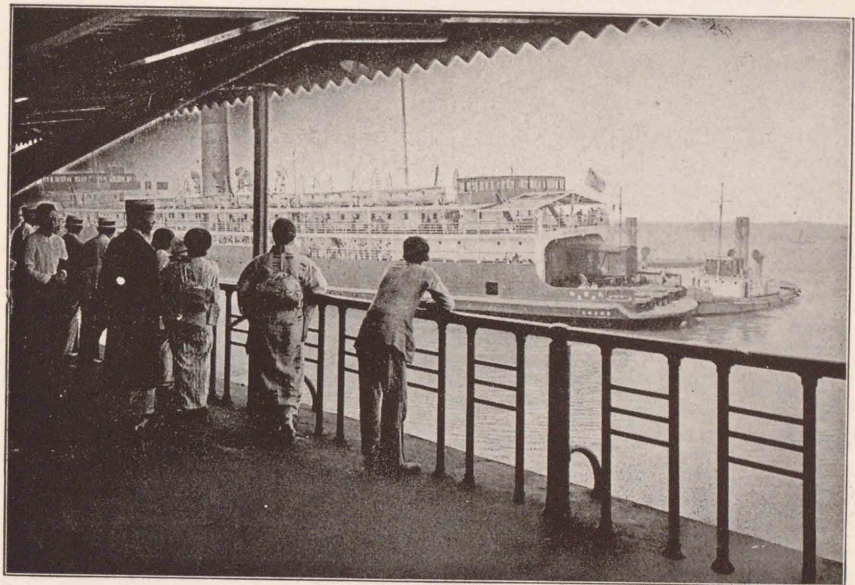
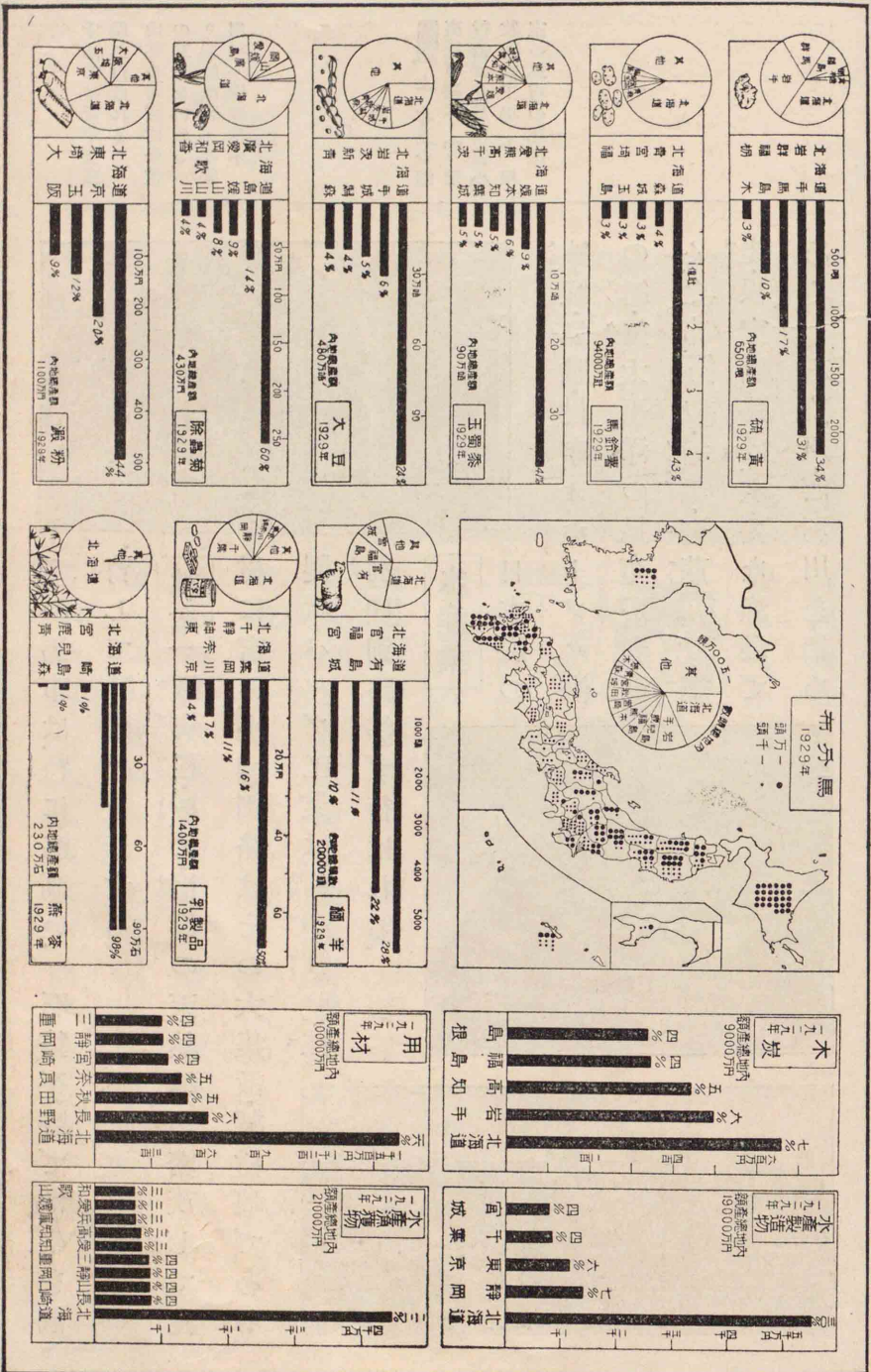
品(以上)・澱粉(各)・酒精(旭)・植物油(小)等の  
 産が多い。余市(後)附近の苹果、十勝  
 平野の甜菜(中心)も名高い。  
 未開の原野は、牧場に適し、新冠(高)・白  
 糠(釧路)等は、牧馬が盛んで、大樂毛(釧路)



種收の草牧 道の北海地耕は八十二萬ヘタクルーに及び所謂大農式經營が行はれる  
 圖に示す札幌附近眞駒内畜種場牧草收の模様にそつての一画面を窺はる



大樂毛の馬市 比較的新しく明治四十四年に創られたが、今や本道の馬市のすべてを越え、國  
 的の名知られてゐる。出頭は四千五百頭に達し、買賣格十四萬圓を越える



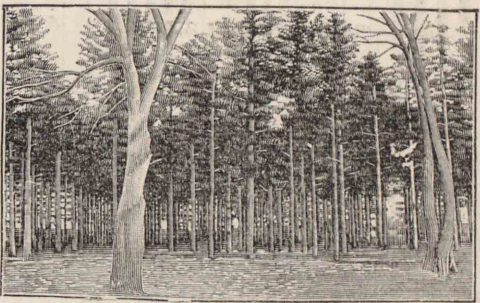
船々各 るみてし航就が船の隻四型同で丸前松るけ於に橋棧館函は圖 船絡運函青  
るれはいと船大最界世はで船の種のこし載を輛五十二車貨積噸五十名千一約客



雪米いな見を物植く全てし結凍く深下地は季冬で觀景の域流川内幌 帶土凍の太樺  
るなど地天の躍活の鹿馴の有特に育生が物植い低く如の圖みの季夏りなと原の

千島には近年養蠶業が行はれる  
山林の面積は全道の五割を占める  
△製紙原料・建築用材・鐵道枕木

上北見の蝦夷松の植林中飛行機より見た苦小牧製紙工場下根室の昆布の乾燥



市の馬市は、特に名高い。石狩平野では、牛を飼育して、酪製品を産する。

林業

蝦夷松・檜松・樺等の天然林が繁茂して、良材に富み、小樽・釧路はその大集散製材地である。

製紙・パルプ工業は、苦小牧(江別)・石狩・釧路等で行はれる。

水産業

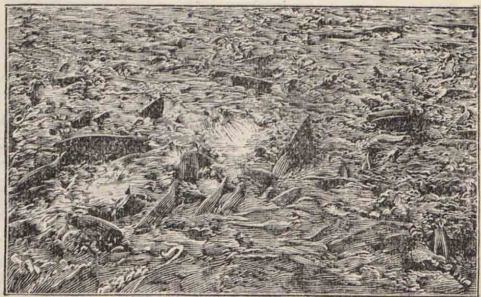
日本海の

鯨・鯔・烏賊・昆布、オホーツク海の鱈・蟹、太平洋の昆布が名高く、余市(以上)・増毛・留萌(以上)・網走・根室・釧路は、重要な漁港である。石狩川・西別川を始め

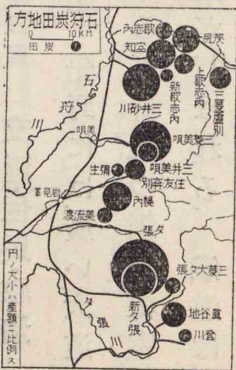


西別川の鮭の群集

△幌別・岩雄登・千島諸火山  
×鴻ノ舞・國富



各河川には、鮭・鱒の漁利が多い。水産製造も亦盛んで、小樽・函館は、水産物の大集散地である。

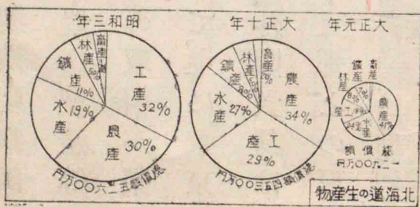


鑛業

夕張山脈西麓の石狩炭田を始め、天鹽・釧路等に、石炭を産する。主に小樽・室蘭・釧路より積出され、室蘭の製鐵業は、これが爲に起つた。その他、硫黄・金・銀・銅等が著はれてゐる。

工業商業

①動力たる石炭・水力が豊富で、②工業原料たる農林産が多く、③人口が増加して、交通機關が発達した結果、近年、大工業が勃興し、工産額は、本島産業の首





平取ヒラトリに最も多い。  
【アイヌ族】身に粗布を著け、冬は毛皮を纏ひ、草葺の小屋に居住して、農耕・漁獵を營んでゐる。男子は鬚を蓄へ、女子は、口元に黥する風習がある。年々人口が減少するので、政府は、アイヌ族の保護に努めてゐる。

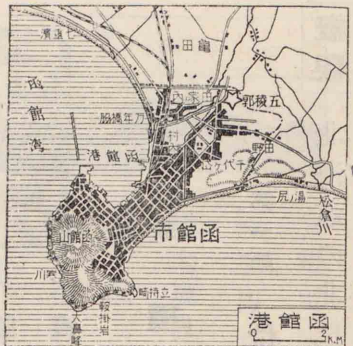
アイヌ人と平取のアイヌ部落

行政区劃と主要都邑 <small>(○支庁 所在地)</small>	
渡島支廳 <small>(渡島一部・後)</small>	○函館市
檜山支廳 <small>(志保一部・後)</small>	○小樽市
後志支廳 <small>(後志大部)</small>	○室蘭市
釧路支廳 <small>(釧路大部)</small>	○札幌市
石狩支廳 <small>(石狩一部・後)</small>	○旭川市
空知支廳 <small>(石狩一部)</small>	○網走市
日高支廳 <small>(日高大部)</small>	○根室市
上川支廳 <small>(石狩一部・日高)</small>	○野付牛
留萌支廳 <small>(天鹽一部)</small>	
宗谷支廳 <small>(北見一部)</small>	
十勝支廳 <small>(十勝)</small>	
釧路支廳 <small>(釧路)</small>	
根室支廳 <small>(根室・千島)</small>	
網走支廳 <small>(北見大部)</small>	

政治 札幌にある北海道廳が全島を統べ、その下に、七市・十四支廳がある。

第四章 處誌

函館線方面 函館市は、本島の南門で、軍事・交通上、甚だ重要な位置を占め、また水産物の大市場である。附近の五

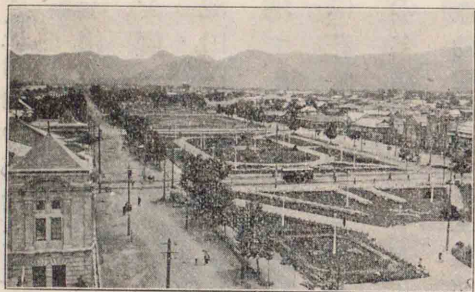


上公園化された札幌市の大通飛行機より見た旭川市街

筋が正しい。旭川市も、街路が正しく、附近は、農業が榮えて、諸種の工場が多く、又軍事上の要地である。

【札幌市】豊平川の扇狀地を占め、米國式都市の設計により建設した新市街である。街區の規

稜廓は、戊辰の役で名高く、今は、天然氷を産する。福山は昔の松前で、本島最古の城下町である。小樽市は、築港が完成し、札幌の外港、石狩平野、上川盆地の門戸である。札幌市は、政治・教育の諸機關がよく備つて、本島文化の中心で、街





模が宏大で、且つ規則正しきことは内地の都市に見ることが出来ない。

根室線方面

根室本線は函館線の瀧川より分岐して富良野を過ぎ狩勝峠を越えて十勝平野に出る。帯廣市池田は開拓の中心として發達した。

根室は大漁港で、鱧詰の産出が多く、冬季、港の凍結する時は、船は、花咲に碇泊する。擇捉島の紗那は、

千島列島中の名邑である。

千島列島は、國際的航空交通上、重要である。占守島は我が國の極東、阿頼度島は極北に位する。



第九章 樺太地方

第一節 位置と地形

概観

北海道の北に位し、東は、オホーツク海に面し、西は、間宮海峡

を隔て、露領シベリアに對する。北は、北緯五十度の線を以て露領に境してゐる。

樺太境界問題は、容易に決しなかつたが、明治八年我が國は、千島を得て、樺太全部を露領として認め、後、日露戦役により、北緯五十度以南の地を領し、又近年、北樺太の利權をも得た。

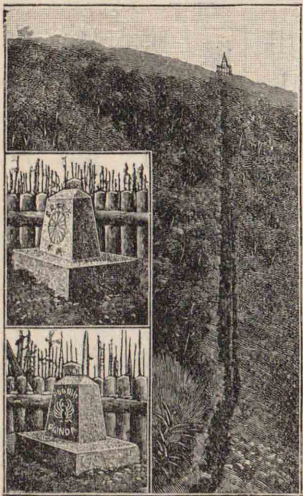
山地 西樺太山脈は、南北に走つて、分水嶺となり、數多の火山がある。東樺太山脈は、陥没した多來加灣を越えて、鈴谷山脈に連絡し、西樺太山脈との間に、一連の低地を挟んでゐる。

河川平野

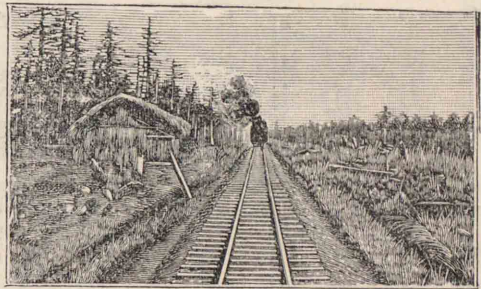
谷を南に流れ、大なる幌内平野を作つてゐる。平野は、ツンドラ(凍土)と呼ばれる不毛の荒野で、僅に馴鹿の



樺太日露國境とその標石の表裏(上は日本側下は露西亞側) ×土地低濕樹木は落葉松のみで夏は蘚苔類が生ずる



中樺太土人と馴鹿(上)谷平野の景觀(林相にも注意せよ)下に閉ざれた樺太近海(船は特務艦大泊)



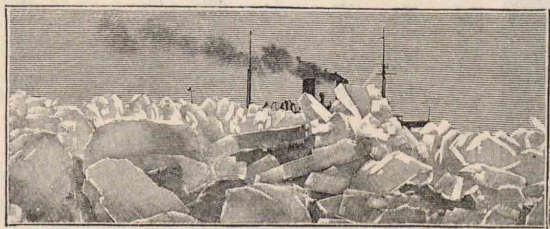
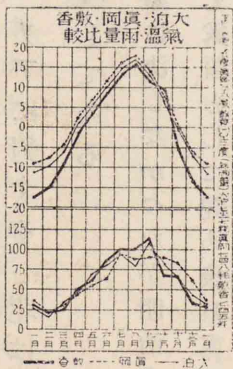
を抱く。海岸は概ね平直で、多來

加富内の潟湖を作り、近海に海豹海馬二島がある。

第二節 氣候と産業

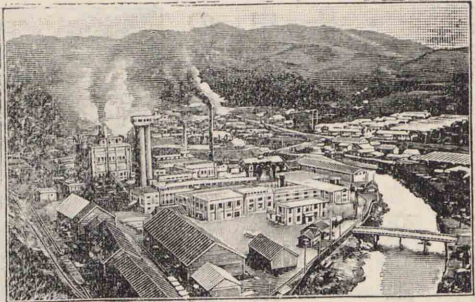
氣候

北海道よりも更に寒冷で、雨量は、甚だ少い。冬季は、海面が凍結し、航海を妨げ



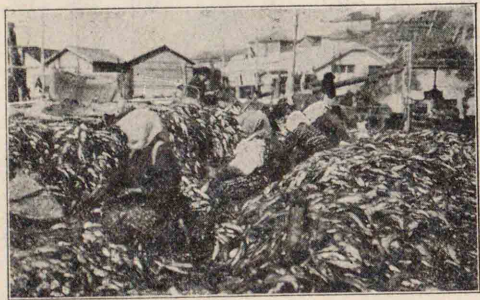
我が國中で最少

上泊居のバルプ工場、下樺太に於ける鯨の大漁、知取・惠須取・真岡・豊原にも行はれる



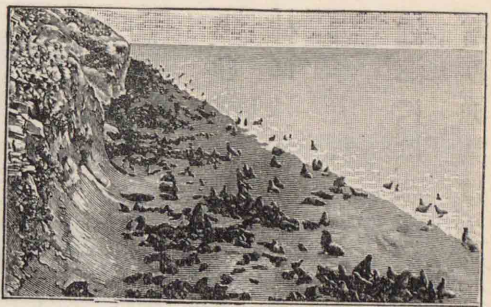
南部でも碎氷船を用ひるが、西海岸は、對馬海流の影響を受けて、真岡・本斗の不凍港がある。  
**産業** 夏は、稍高温であるが、濃霧のため、農業が妨げられ、豊原を中心とする鈴谷平野に、僅に燕麥・馬鈴薯・野菜を産する。土地の大部分は、蝦夷松・椴松・樺・白楊の森林に蔽はれ、大泊はその集散地である。各地に、バルプ製紙工業が興

り、落合・大泊野田泊居は特に名高い。北部の森林には、毛皮獸が多く、麝香で、その集散が行はれ、近年、養狐業も盛んになつた。近海には、寒暖兩流が流れてゐるので、水産物に富み、漁業は、主要な産業である。南西岸は鯨東岸



上海豹島に  
群集する臘肭獸  
下 大泊港

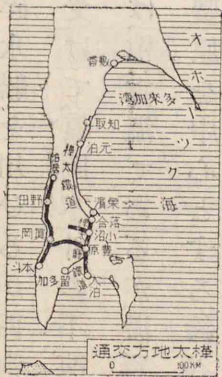
▲近年築港が完成  
して冬季の荷役も  
自由になつた



の外は著しくない。又商業も振はない。豊原は取引の  
中心で、開港の大泊・眞岡は、貿易が盛んでない。

### 第三節 交通住民政治

交通 驛遞が設けられ、冬は、



は鮭鱒の漁獲が多く、その他、鱒、昆布の産が少く  
ない。眞岡野田泊居敷香は、漁港で、大泊は、水産  
物の集散が盛んである。海豹島には臘肭獸の  
繁殖所がある。

石炭は、内淵川の上流に多く、又幌  
内平野は、泥炭を産し、北樺太の石  
炭石油と共に、我が國の重要な富  
源である。工業は、林産水産加工

樺が利用される。 鐵道は、東岸の樺太廳鐵道本線樺太鐵道〔線〕と、西

樺太	豊原	内地	全國
●	●	●	●
面積	人口	人口	人口
三〇、七四〇	三、三〇九	三、三〇九	三、三〇九

### 住民政治

概ね奥羽地方よりの移住者で、鈴谷平野及び西海岸に  
多い。人口は約三十萬人で、その内地人は、約二千人に過ぎない。

人口密度は、極めて小で、南部及び南西部の海岸は、稍密で、北部は、甚  
だ疎である。豊原に樺太廳を置き、その  
下に、七支廳を設けて統治する。

土人は、ギリアーク(アング)・オロッコ・アイヌの三族  
で、アイヌ族以外は、幌内川流域に住み、多くは  
漁獵に従事してゐる。

### 北樺太

ロシアの領地で、気温は、一層低



× 犬・馴鹿が索く  
1 大泊・榮濱間  
2 本斗・泊居間  
3 豊原・手井間

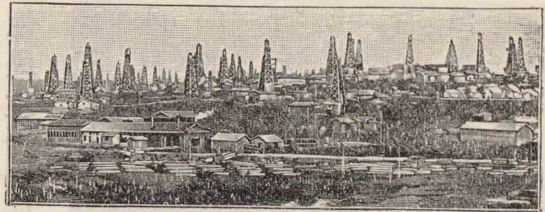
△ 季節的増減が多  
い

○ 大泊・豊原・元  
泊・敷香・泊居・眞  
岡・本斗

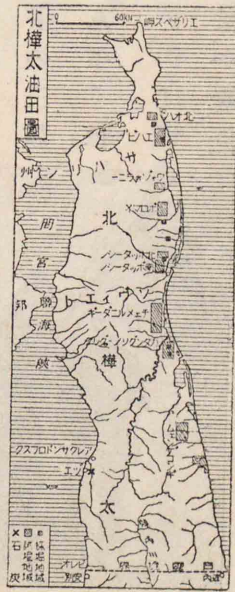
樺太土人  
(右はギリアーク  
左はオロッコ人)  
× ソウイェト聯邦

日本人は約五〇〇人で主としてオハ油田ツエ炭田にゐる

○オハ油田  
△オハに分館がある



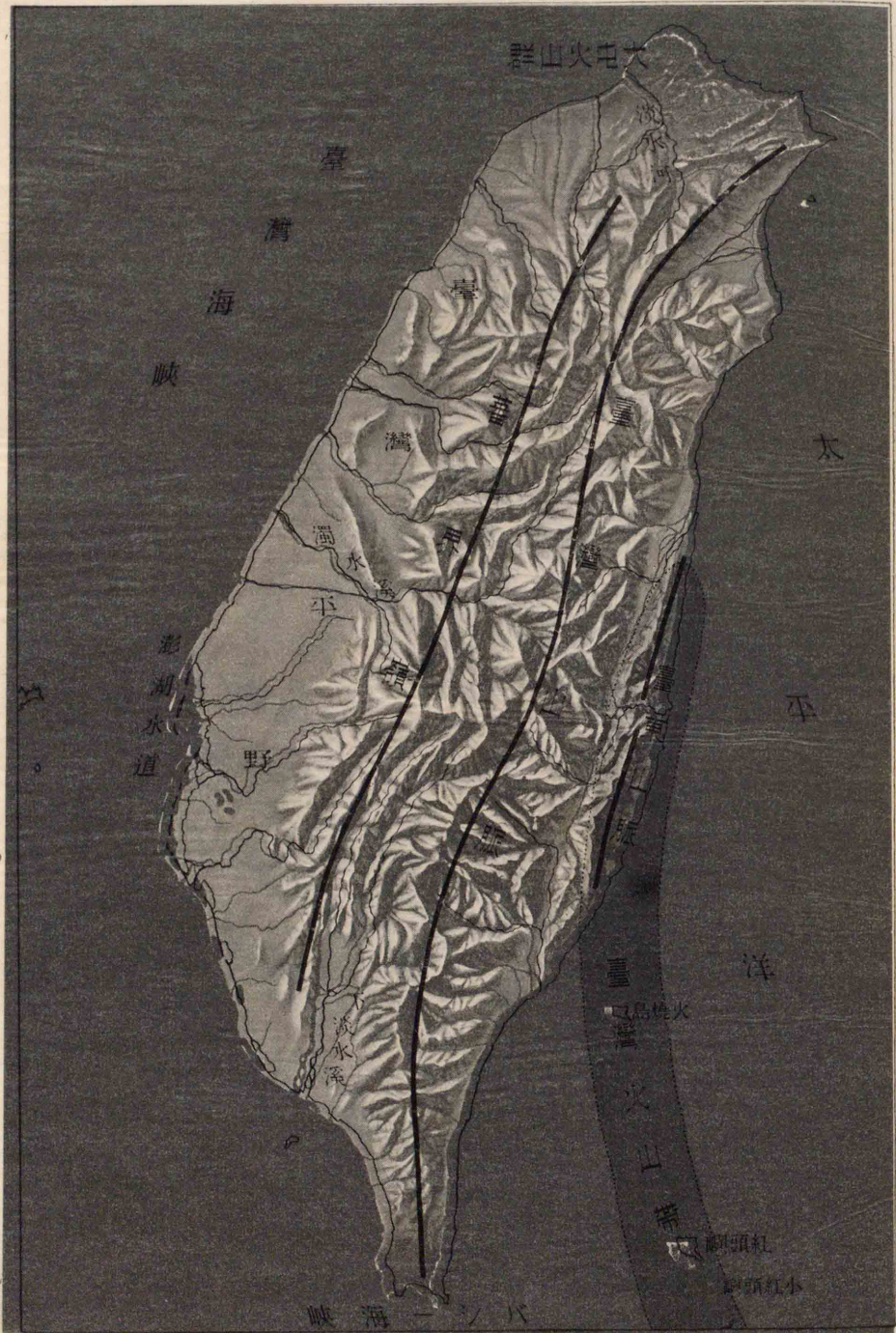
く、人口密度も頗る小である。水産物に富み、木材、毛皮獸の外、石炭、石油の埋藏が多い。アレキサンドロフスクを主邑とし、この地に、我が領事館がある。大正十四年一月、日露條約の結果、ツエの石炭、オハの石油の採掘權、並にこれ等の事業の爲、樹木を伐採し、運輸施設をなす利權を得てゐる。



問 設

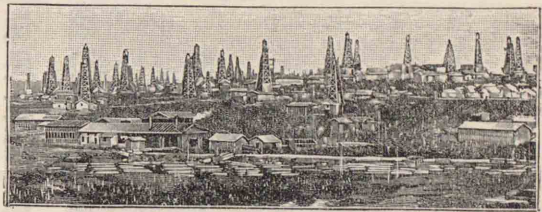
- 樺太の地圖を描いて、その地形を説明せよ。
- 樺太に於ける有望なる産業を問ふ。
- 我が國の平均氣温の最低は敷香である。然るに北海道の旭川が、それ

- よりも寒いことがあるのは何故か。
- 樺太の東岸が、西岸よりも寒冷なるは、如何なる理由によるか。
- 幌内川平野の状態につきて記せ。

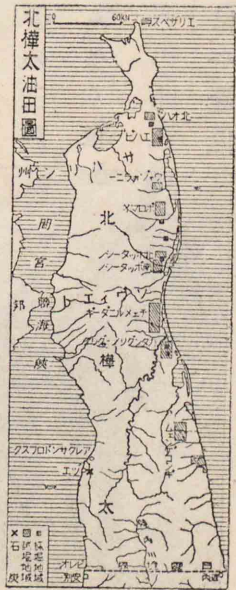


日本人は約五〇人で主としてオハ油田ツエ炭田にゐる

○オハ油田  
△オハに分館がある



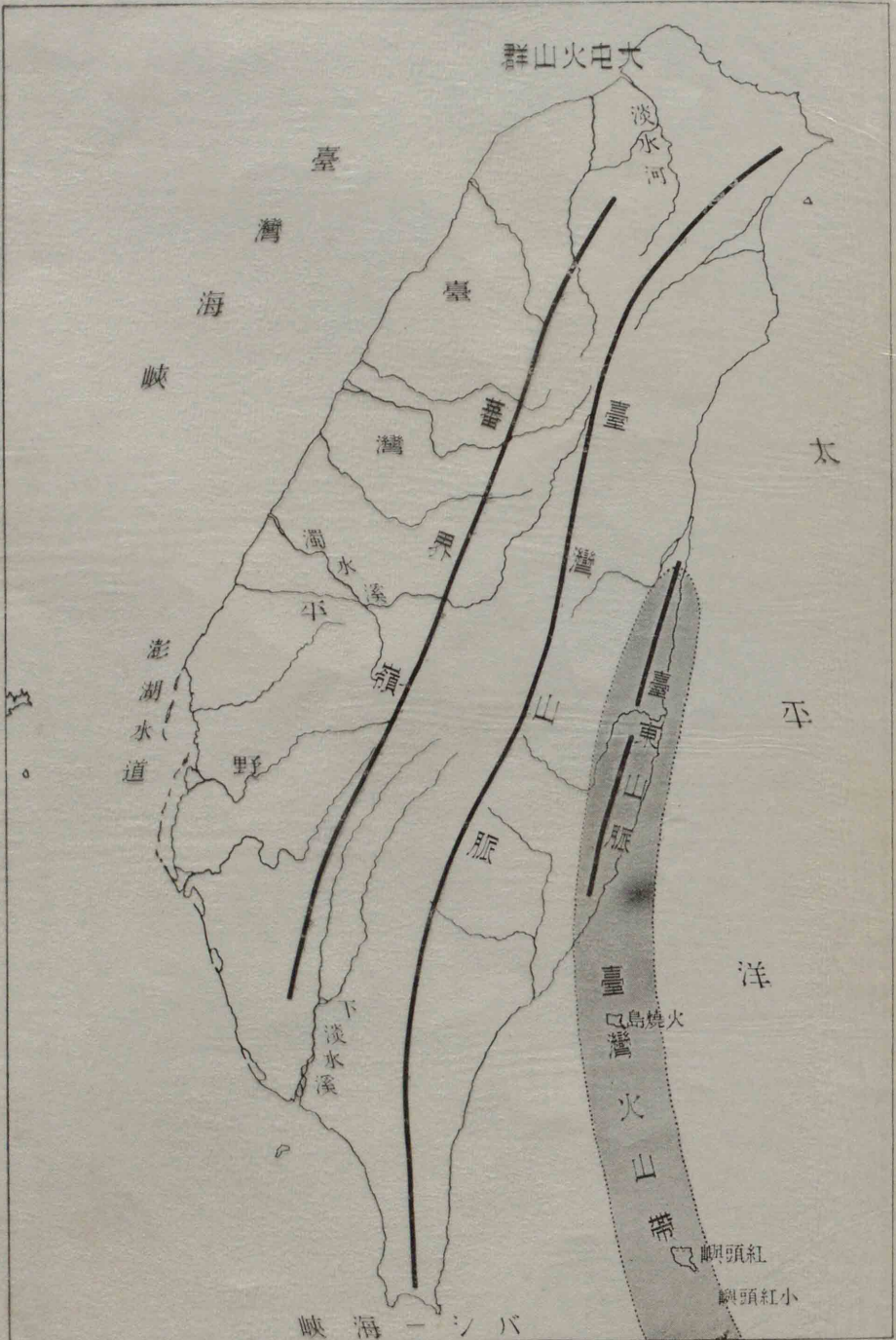
く、人口密度も頗る小である。水産物に富み、木材、毛皮獸の外、石炭、石油の埋藏が多い。アレキサンドロフスクを主邑とし、この地に、我が領事館がある。大正十四年一月、日露條約の結果、ツエの石炭、オハの石油の探掘權、並にこれ等の事業の爲、樹木を伐採し、運輸施設をなす利權を得てゐる。

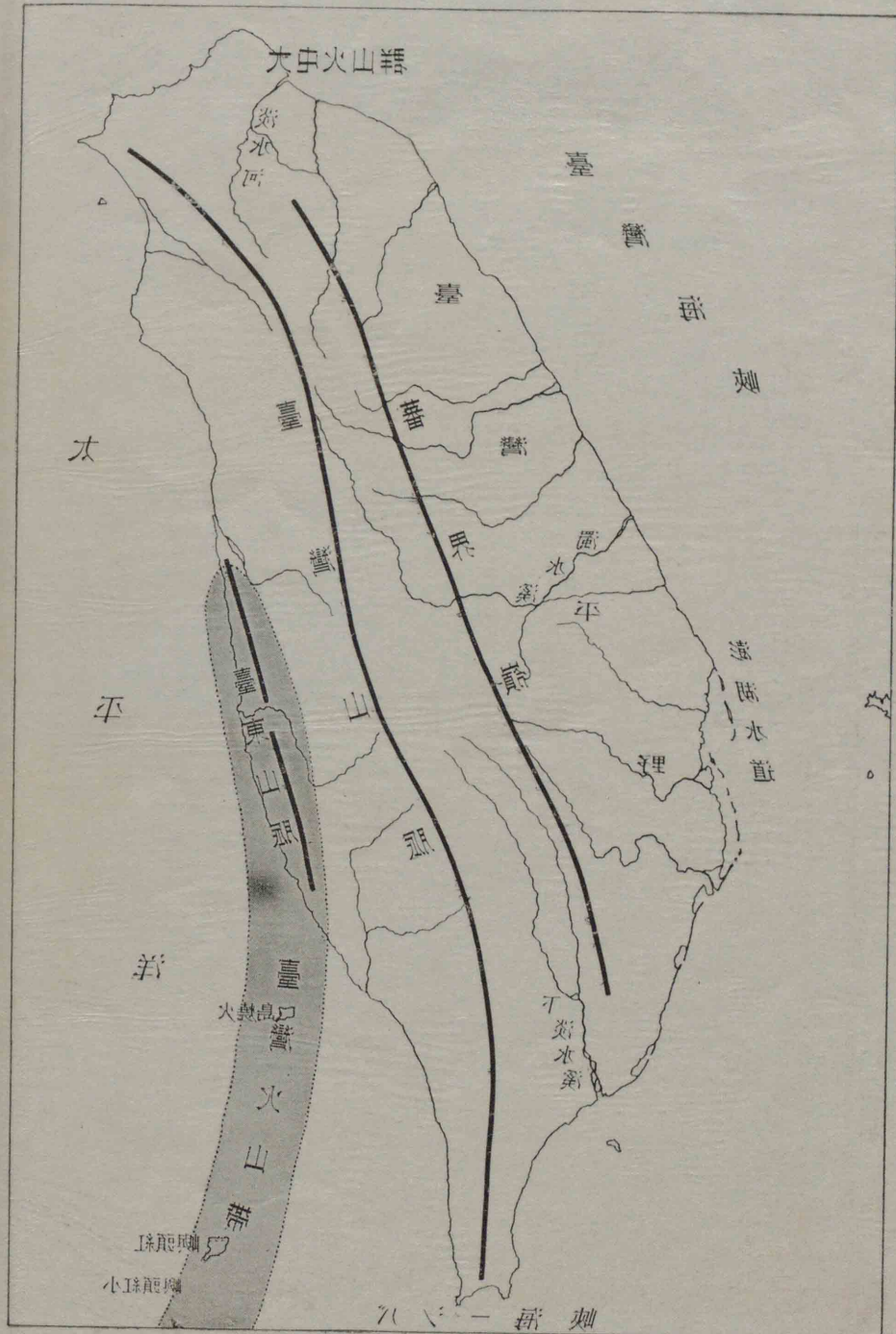


問 設

- 樺太の地圖を描いて、その地形を説明せよ。
- 樺太に於ける有望なる産業を問ふ。
- 我が國の平均氣温の最低は敷香である。然るに北海道の旭川が、それ

- よりも寒いことがあるのは何故か。
- 樺太の東岸が西岸よりも寒冷なるは、如何なる理由によるか。
- 幌内川平野の状態につきて記せ。

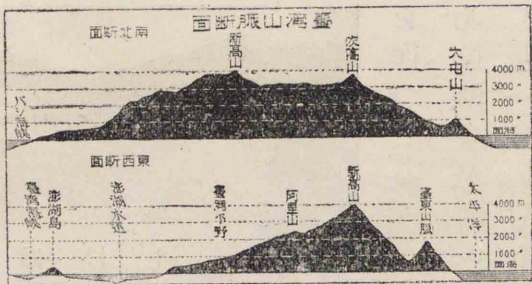




日清戦役の結果我が國の領土となつた地である

望 新高山の遠望

▲北は三貂角に起り南は鶯橋鼻に終る  
△高さ三五〇米



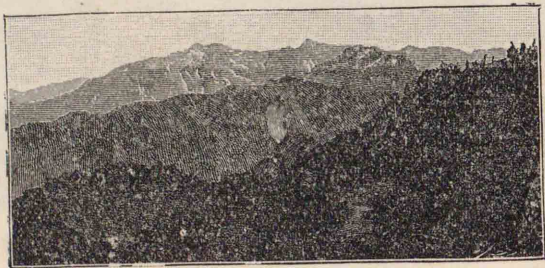
## 第十章 臺灣地方

### 第一節 位置と地形

**概観** 日本列島の南西端に位する臺灣島と、その屬島とから成る。西は臺灣海峡を隔て、支那の福建省と相對する。

南は、バシ海峡を挟んで米領フィリピン群島に對し、軍事上重要な地方である。地形上、中央山地、東部、西部の三區に別たれる。

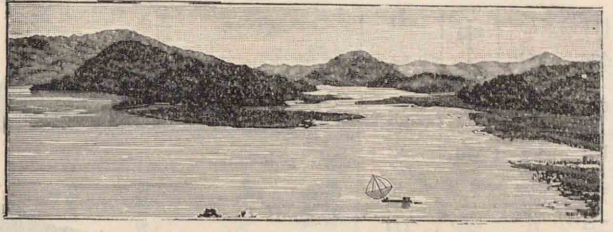
**中央山地** 臺灣山脈は、高峻な山地で、稍、東に偏して南北に縦走し、脈中に、我が國最高の新高山、次高山等の高峯が多く、東西の交通を妨げる。西に埔



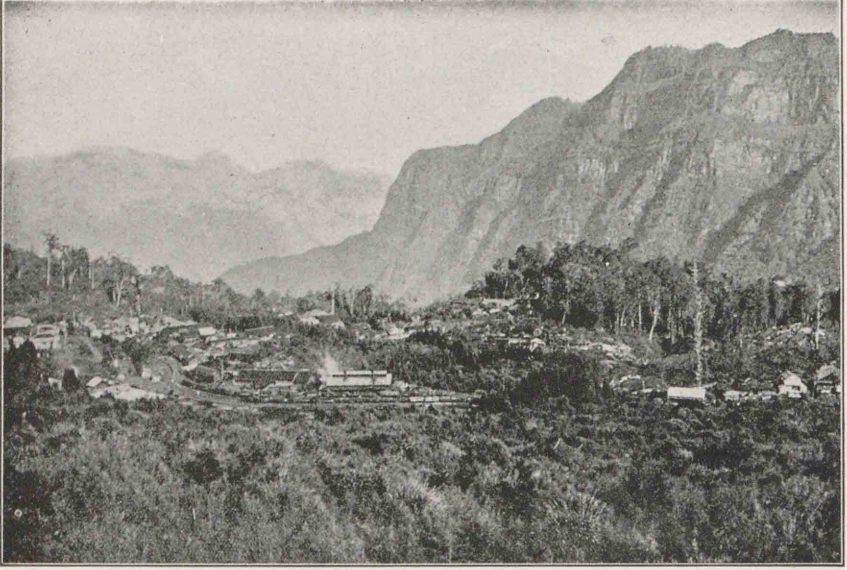
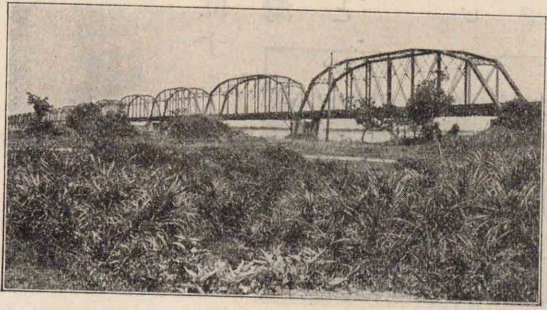
△これを水源として大規模の水力発電所が企てられてゐる

上日月潭  
下淡水溪の鐵橋（東洋第一の長橋といはれる）

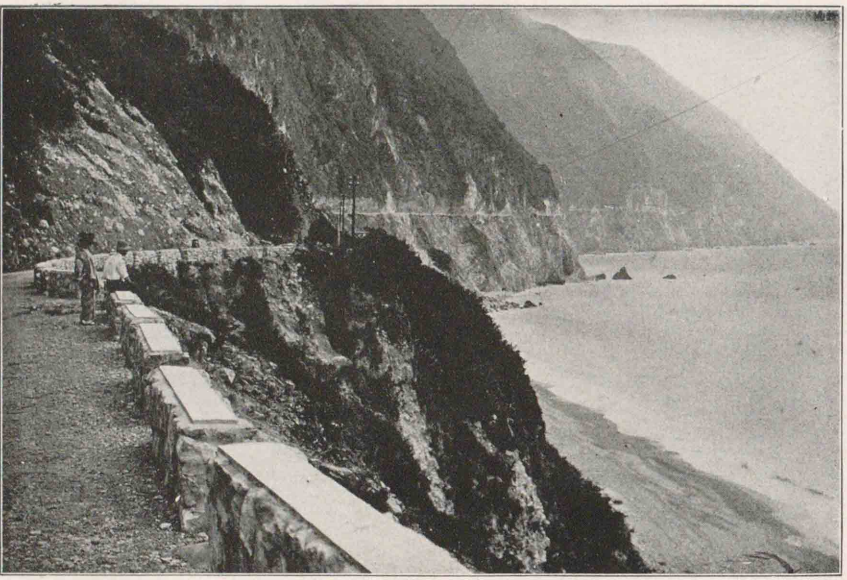
△大屯火山群がある  
▲近年築港が完成した



里盆地及び日月潭がある。  
**東部** 東岸には臺東山脈があつて、臺灣山脈との間に細長い低地を挟んでゐる。花蓮溪その他の河川はこの縦谷を流れて、太平洋に注ぐ。北部の濁水溪は、宜蘭平野を作つてゐる。海岸は到る處斷崖絶壁で、良港灣が乏しく、洋中に紅頭嶼がある。  
**西部** 土地が次第に傾斜し、淡水河、濁水溪、下淡水溪などの大河の三角洲が相合して、廣い臺灣平野を作つてゐる。北部には大屯火山帯が通じて、北投温泉が湧いてゐる。北岸には基隆の如き良港があるが、西岸一帯は遠浅で、南部の人工港



阿山里的部落 氣候良好で蒼鬱たる大森林の根拠地である 阿山里部落の山麓に大規模の農業地帯がある。米〇六千二百は住者定住の過にないが、地勢が険しいので、高名もして、又新登山口として有名である。



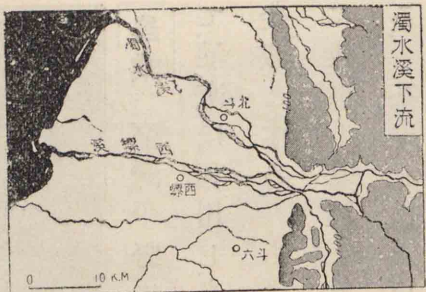
臺灣東岸の斷崖 斷崖層層につよじて、有名なる大斷崖がある。我國の海岸中最も壯麗なる断崖を、途中の断崖が路道の條に僅るす。絶景を呈するに僅るす。



四軒の所にある北  
回帰線標

△諸島の三大島たる澎湖・漁翁・白沙に圍まれてゐる

○發電に利用される

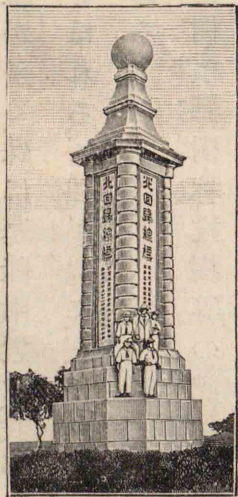
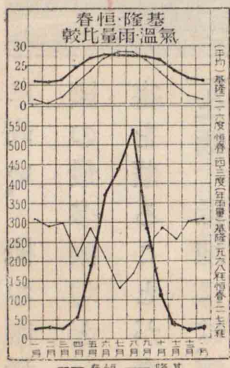


海軍要港となつてゐる。

第二節 氣候生物産業

氣候 南半部

は、熱帯に入り  
北部も熱帯性  
で、氣温が一般

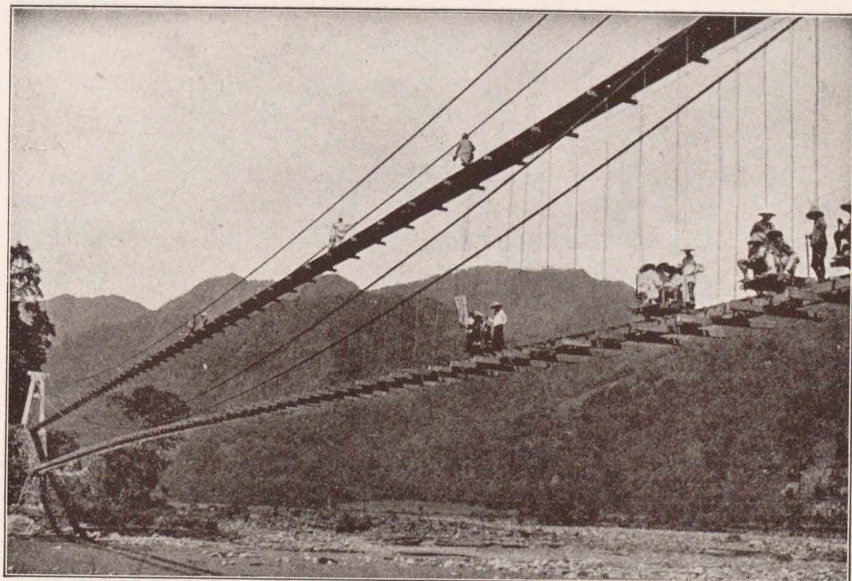


が多い。淡水河・下淡水溪の外は、殆ど舟楫の便がない。澎湖諸島は、大小六十餘の島嶼から成り、耕地が開けない。併し國防上、重要な位置を占め、馬公は、

高雄の外には、良港がない。諸川の上流は、山地を穿つて峽谷をなし、急に平地に出で、砂礫を放流して、礫を作り、豪雨の際には、洪水



を仁の實果のこでん好は人士 るあで一の物植的表代の灣臺て似に欄棕 林樹榔檳  
るなと色紅鮮てし色染は中口がふ味を味快爽の種一み嚙てじ混と灰石み割



處てつよ い多が谷峽い深くし著が用作蝕侵は流上の川河爲き多雨降 橋鐵の界蕃  
るゐてつなと用車臺は下でのもの段二は圖 るゐてつか掛が橋線鐵の有特島本々

×火燒寮では年雨量六七七耗に及ぶ

●水牛と臺灣人の家屋  
\*多く内地へ移出される



に高い。概ね雨量が多く、殊に基隆附近は、我が國の最多雨地といはれる。往、颱風に襲はれ、風害を蒙ることがある。

生物 低地には、榕樹、檳榔、樹林、投樹等の熱帯植物が繁茂し、バナナ、鳳梨、龍眼、肉、柑橘等の美果に富む。山地は、熱帯性の植物より、温帯性、寒帯性と變化し、阿里山には、温帯性の扁柏が多い。水牛、黄牛は、農耕に使用され、重要な家畜である。

△嘉南大圳は最も大規模で灌漑面積一四五〇方軒に及ぶ  
●澎湖島を除き全島に普く栽培し年二回收穫する處もある

農業

臺灣平野には、處に埤圳を設けて灌漑に利用し、米、茶、甘蔗、甘藷を四大農産とする。米は、臺中、彰化、台中で盛んに集散し、基隆より内地へ多く移出する。茶は、北部の丘陵地に多く、臺北、桃



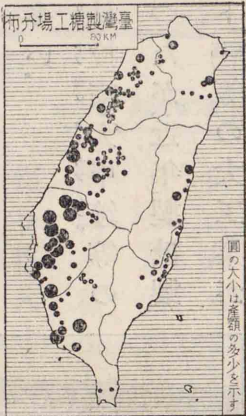
△臺南市の一部  
×南部に特に多く土人の常食となる  
●上桃園附近の臺灣人の茶摘  
下嘉義の製材工場



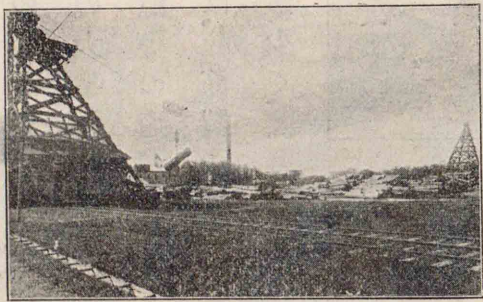
茶は、頗る良質のものを産し、各地で粗茶に製せられる。更に烏龍茶、包種茶、紅茶に再製して輸出する。

牧畜業・林業

水牛、黄牛の外、各地に豚の飼養も亦盛んである。山地には、扁柏、紅檜等の森林がよく茂つて、阿里山から多く伐出され、嘉義に大



園(新)に集つて、基隆より積出される。甘蔗は、主として中部以南の平野に多く、嘉義、臺南

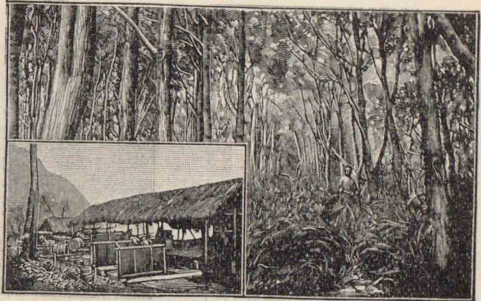


竹材の産が多く製紙・器具の原料となる

×近年ドイツの人  
工樟腦に壓迫せら  
れつつある  
珊瑚の採取も行は  
れる

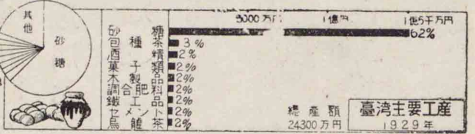
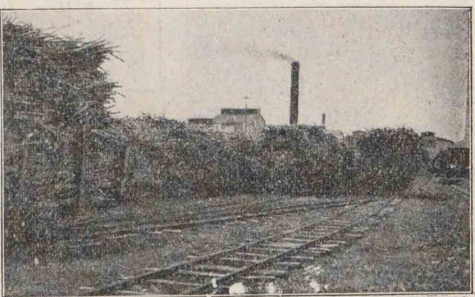
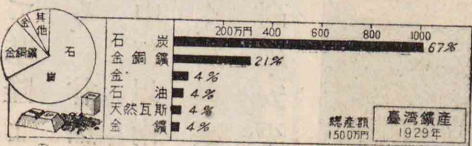
製糖工場 上樟樹の林  
と製糖場 下 天日  
製鹽鹽田

△出磺坑が著しく  
錦水には天然瓦斯  
の噴出が多い



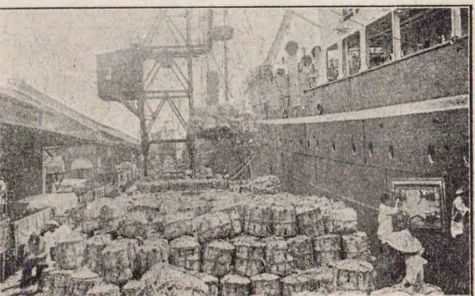
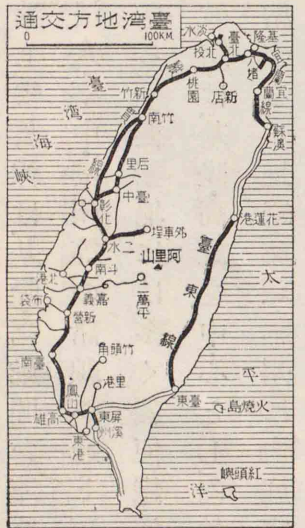
多く、瑞芳・金瓜石(臺北)には、金・銀・銅を産  
し、近年、石油の産が多い。  
工業商業 従来は、林投帽・大甲筵等の  
手工業に過ぎなかつたが、近年、製糖・製  
茶・酒精・製鐵・セメント(高雄)等の大工業が

製材所がある。樟腦は、本島の富源で、臺中・苗栗  
〔新竹〕斗六〔台南〕で集散し、世界需要の大半を充たす。  
水産業 近海には、鯉・鱸・鯨等の産が多く、蘇  
澳〔北臺〕は、漁港として著れ、基隆は、鯉節製造で名高  
い。西岸は、遠浅で、夏季、雨量が少く、蒸發が盛ん  
な爲、天日製鹽に適  
し、大鹽田がある。  
石炭は、基隆附近に



行はれるやうになつた。商業は内地  
との取引が盛んで、砂糖・米・バナナ・樟腦  
・酒精を移出し、綿布・海産物・肥料・機械・酒  
類を移入する。外國貿易は、石炭・茶・樟  
腦を輸出し、豆・糟・粗糖を輸入する。  
開港は、基隆・淡水・安平・高  
雄の四港があるが、この  
外、支那形船に限つて出

入を許された特別  
開港場がある。  
第三節 交通  
住民政治  
交通 西部平野



- 1 基隆・高雄間
  - 2 基隆・蘇澳間
  - 3 臺北・淡水間
  - 4 新竹・彰化間
  - 5 高雄・溪州間
  - 6 花蓮港・臺東間
- 製糖會社の特設鐵道延長は三〇料

△下臺灣特有の交通機關たる臺車(右)と竹筏(左)上高砂族(バイワシ族)

△タイヤル・ブヌン・ツォウ・パイワン・アミ・サイセツト・ヤミ

は、交通がよく發達し、縦貫線は、基隆・高雄間を連絡してゐる。宜蘭・淡水・臺中・潮州等の諸線が通じ、東部には、臺東線がある。製糖地には、多く輕便鐵道を設けてゐる。航路は、基隆・高雄を中心とし、内地支那・南洋とを連結する。長崎・琉球・福州に、海底電信を通じ、基隆・臺北・鳳山(高雄)等に無線電信局、臺北・臺南にラデオ放送局がある。

住民

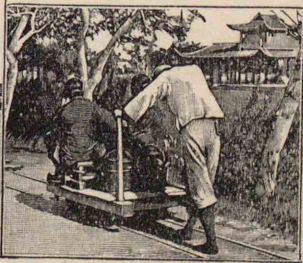
大部は、漢族(臺灣)で、内地人と共に、農商

業に従事してゐる。高砂族は、馬來種族に屬し、總數約

八萬五千で、七種に分れてゐる。漢族の感化を受けて、農耕に従



人口	全國	内地	臺灣(臺北)
一〇〇〇〇〇〇〇	●●●●●	●●●●●	●
面積	一〇〇〇〇〇〇〇	一〇〇〇〇〇〇	一〇〇〇〇



臺北市街 近年面目を一新して壯麗な新式市街が出来た 併し蒲葵の街並木にさすが臺灣らしい趣が見られる



臺中のバナナ市場バナナ移輸出高は年々一千万圓を超える 臺中に於けるその市場は最も盛んである



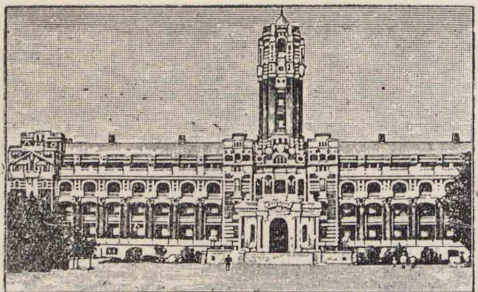
高砂族の教化 武力による理蕃の時代は過ぎて今は専らその教化に意を注ぎ蕃童は嬉々として文化的教育に親しんでゐる



臺灣總督府

臺北州	新竹州	臺中州	臺南州	高雄州	臺東廳	花蓮港廳	澎湖廳
(官衙所在)	臺北	新竹	臺中	臺南	高雄	臺東	花蓮港
							馬公

×臺灣神社を祀り



事する熟蕃と、狩獵を事とし、兇暴な原始生活をなす生蕃とに分れる。

生蕃中、タイヤル族は、最も兇惡で、他部落を襲つて首狩をする風習があつたが、漸次、この惡習も失はれて來た。我が政府は、隘勇隊を組織して討伐を加へ、或は撫育して歸順を勸めてゐる。

**政治**

臺北に、臺灣總督府を置いて全島を管轄し、地方は、五州三廳に分たれてゐる。

臺北・臺南に、守備隊を置き、臺北の臺灣軍司令官が軍事を統べる。臺北帝國大學以下各種の學校を設け、又土人の爲には、特に公學校を設けて、教育の普及に努めてゐる。

第四節 處誌

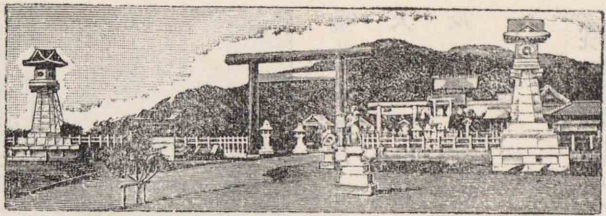
**縦貫鐵道方面**

基隆市は、天然の良港で、臺北市は、本島の最大都政

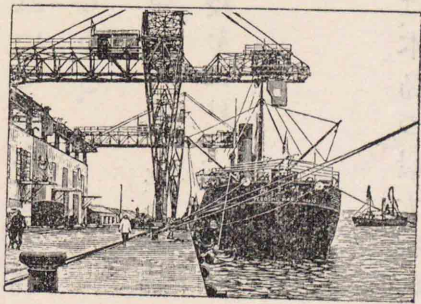
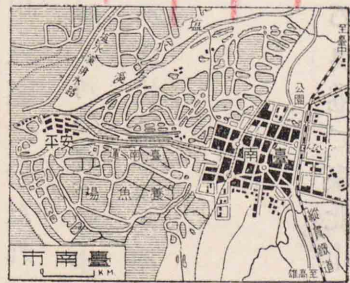
近年市區改正が行はれた

上臺北の臺  
澎神社下高雄港  
埠頭

屏東に陸軍飛行聯隊がある



治教育・商工業の中心である。嘉義は交通の要地である。臺南市は蘭人の城址、鄭氏の故宅等史蹟に富み、商業が榮え安平港は市の一部である。高雄市は南部の門戸、鳳山は鳳梨産地の中心である。恒春は我が國最南の都邑で、氣候が何時も春のやうである。



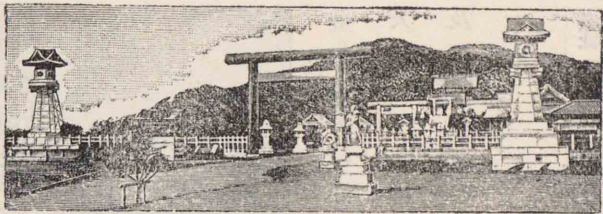
**東部** 蘇澳を外港として、宜蘭平野の中心をなす宜蘭と、花蓮港、臺東との外著しい都會がない。近年、甘蔗栽培の爲、内地人の移住が増加した。



近年市區改正が行はれた

上臺北の臺澎神社 下高雄港埠頭

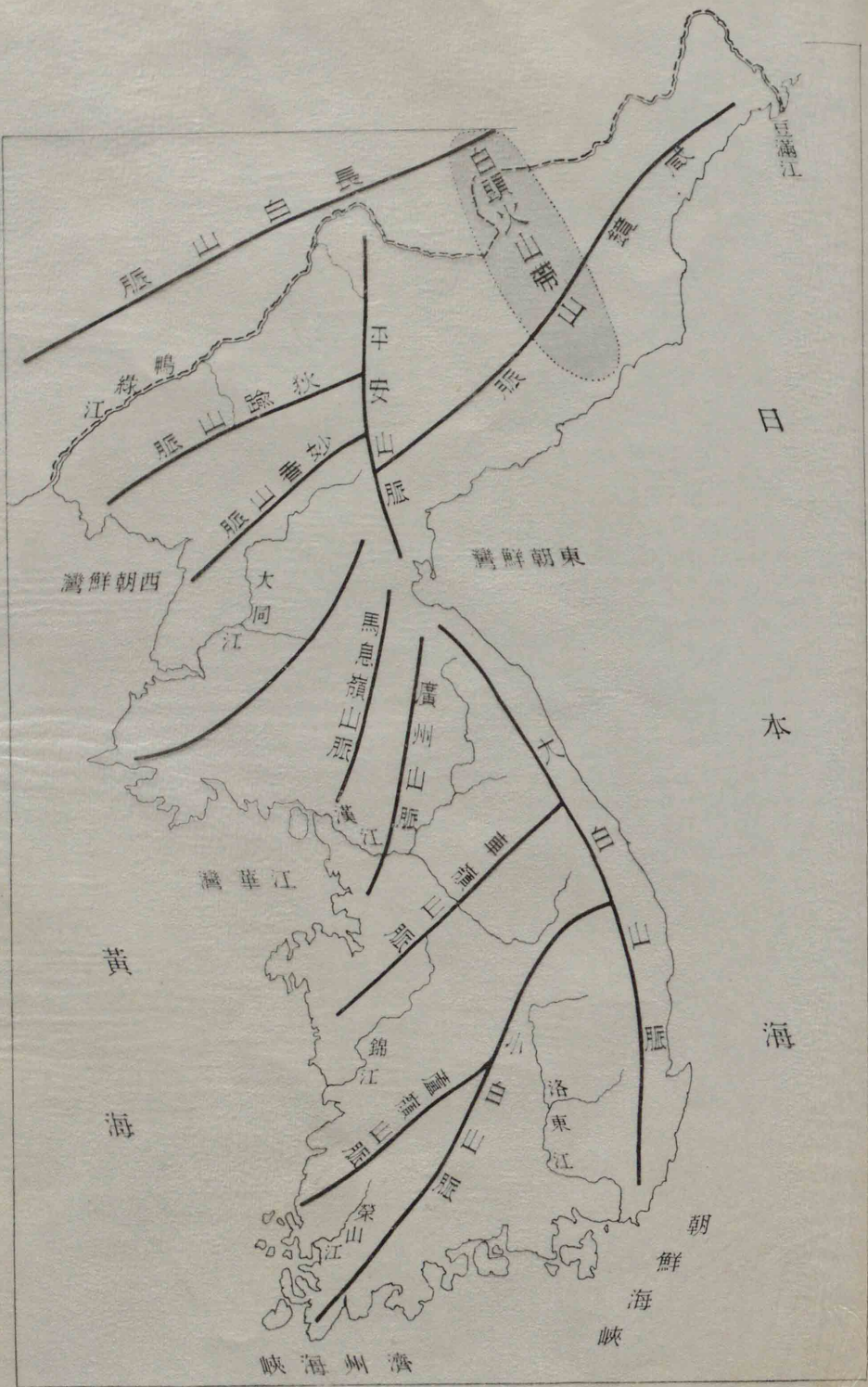
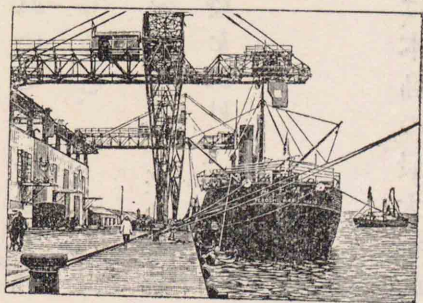
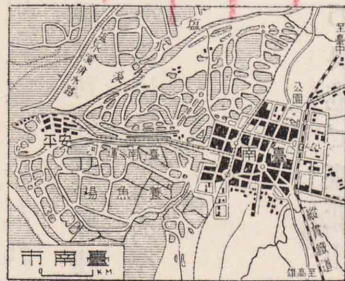
屏東に陸軍飛行聯隊がある

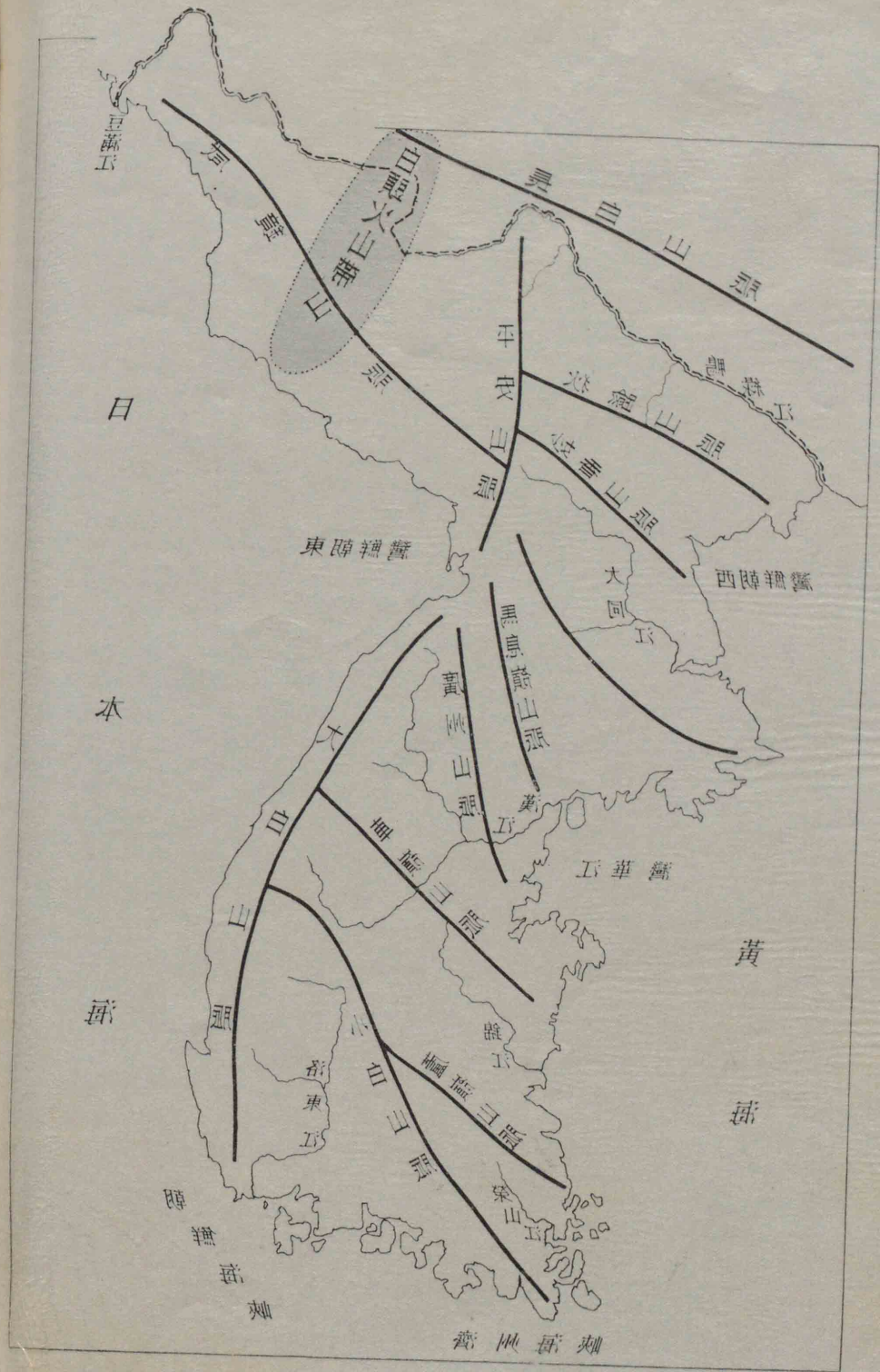


東部

蘇澳を外港として、宜蘭平野の中心をなす宜蘭と、花蓮港臺東との外著しい都會がない。近年、甘蔗栽培の爲、内地人の移住が増加した。

治教育・商工業の中心である。嘉義は、交通の要地である。臺南市は、蘭人の城址、鄭氏の故宅等史蹟に富み、商業が榮え、安平港は市の一部である。高雄市は、南部の門戸、鳳山は、鳳梨産地の中心である。恒春は、我が國最南の都邑で、氣候が、何時も春のやうである。







設 問

- 臺灣の地形の略圖を描け。
- 臺灣の物産分布圖を作れ。
- 臺灣に、輕便鐵道が發達したのは、如何なる理由によるか。

- 臺灣と内地との取引關係を調べよ。
- 臺灣の北部と南部との氣候と産業とを比較せよ。
- 臺灣の主要産物四種を列擧せよ。

第十一章 朝鮮地方

第一節 位置と地形

**概観** アジア大陸の東部に突出する一大半島と、附近に在る一千有餘の屬島とから成る。

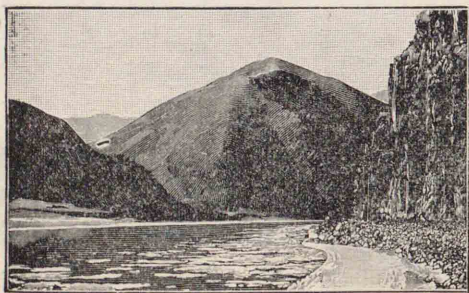
東は日本海、西は黃海に面し、南は、朝鮮海峽を隔て、對馬に對し、北は、鴨綠江、豆滿江を以て、滿洲露領シベリアに境する。

古來、政治、軍事上の活舞臺であつたが、明治四十三年併合し、我が産業上、一大寶庫となつた。

**北部** 北境には、長白山脈が斜に東西に走り、半

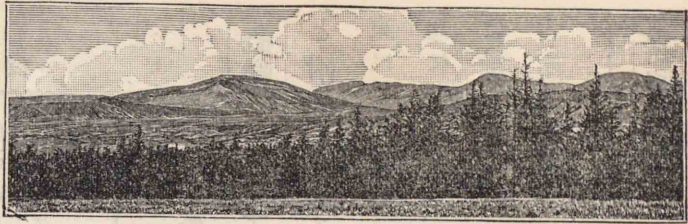
朝鮮の國境附近を流れる豆滿江（右は朝鮮、左は滿洲）

△永興灣・漢江口を結ぶ線以北

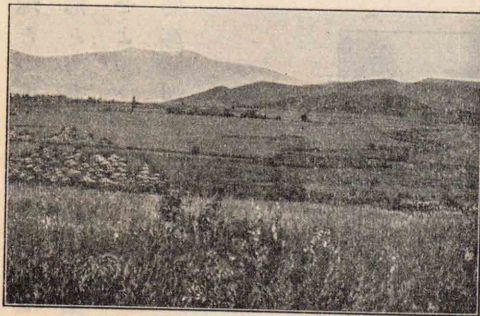


△高さ三七四米  
×我が國最長流で  
本流の長さ七二九  
に及ぶ

○上長白山脈  
の遺望下蓋馬高  
臺



島の最高峰白頭山が聳え、頂上に、火口湖天池(龍王)を  
湛へてゐる。これを分水嶺として、鴨綠江・豆滿江が  
流れてゐる。長白山脈の南に、蓋馬高臺が廣く互つ  
て、咸鏡・平安(林)・妙香等の諸山脈が走り、これ等から、清  
川江・大同江の二大河が流出て、西岸に、平壤平野を作  
つてゐる。東海岸は、屈曲が少く、  
永興灣頭の元山、北部の清津・雄基  
〔咸北〕の外、良港灣がない。西岸は、  
西朝鮮灣を初め、稍、出入に富み、河  
口は、喇叭狀を呈して、鎮海灣〔南〕の  
良港がある。



南部 東方に偏して、大白山脈が南北に走り、奇  
勝を以て名高い金剛山が峙ち、低い小白車嶺・蘆

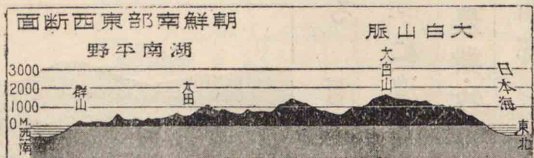


鴨綠江の流 茫漠たる満鮮の境を悠々と流れて行く様子は、地内では見えない  
大陸風の景観であらう。人も船も大自に對しては餘り小過ぎる感じがする。



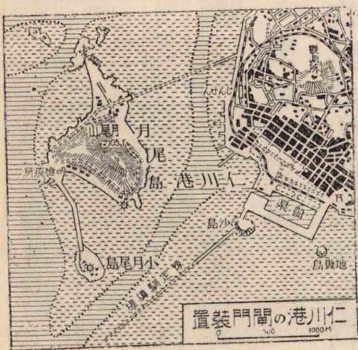
新義州の製材所 新義州の地ともは一砂洲に過ぎなかつた鴨綠江の鐵架と共  
に新義州の製材・紙業の勃興も、たし眞王子製紙社會朝鮮工場であらう。

△河流は短い



の要港となつてゐる。南部は、リアス式の海岸であつて、近海には、濟州島、巨濟島を始め、大小無数の島嶼が散在

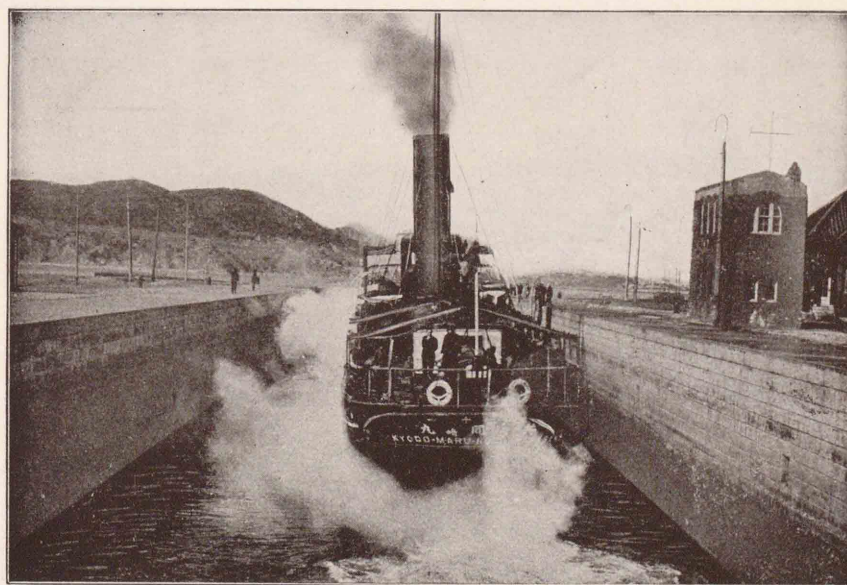
嶺の諸山脈が分れてゐる。日本海岸は、急斜して崖濱をなすが、黄海斜面は緩斜して、漢江、錦江、榮山江が流れ、下流に、湖南、平野等が開け、重要な農耕地となつてゐる。洛東江は、南流して朝鮮海峡に注ぐ。東岸には、迎日灣の外、出入がなく、鬱陵島がある。黄海、朝鮮海峡方面は、江華灣、鎮海灣等の屈曲に富み、釜山、仁川を始め、良港灣が多く、鎮海灣は、海軍の要港となつてゐる。南部は、リアス式の海岸であつて、近海には、濟州島、巨濟島を始め、大小無数の島嶼が散在



釜山剛山附近



大邱市場第一大市の東門市と西門市の二つあがる毎月交互に開かれるあでな光景の市場西門のその圖 家具・衣服・食品・雑貨の商ふ



仁川港の門開 仁川は良い船を置くための満潮千差の重二の門開の設置を得し留繋に時同を隻三船巨の級噸百五千四はに渠船の部内ひ補を點缺のそてけ設

×一〇米に達する  
水 鴨綠江の結

「三寒四温」といつて冬季に數日で寒暖が交替する傾向がある

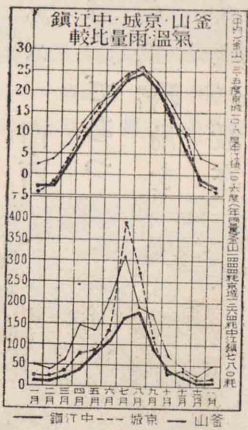
夏季往々豪雨が襲來して洪水を起すことがある

耕地は全面積の約二六%を占める



る。雨量は、一般に少く、南西の海上は夏季に濃霧が多く、航海を妨げる。

農業牧畜業 農業は、主産業で、米作は、南西部の平野に最も榮え、大邱、大田、光州

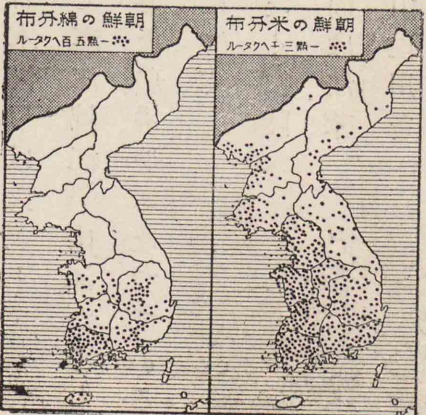


第二節 氣候と産業

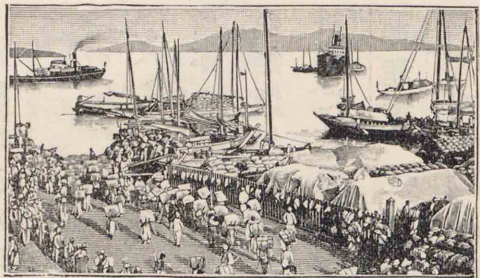
氣候

南部海岸地方は、温暖で、内地と大差がない

してゐる。西海岸は、潮汐干満の差が極めて著しく、仁川には、閘門式の築港が設けられた。



上群山港の米の積出 中開城の人蔘の乾燥 下鴨綠江上流の森林と江を下る筏



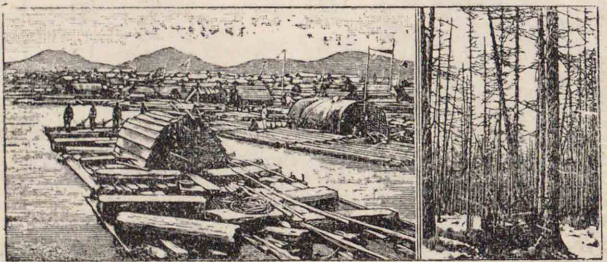
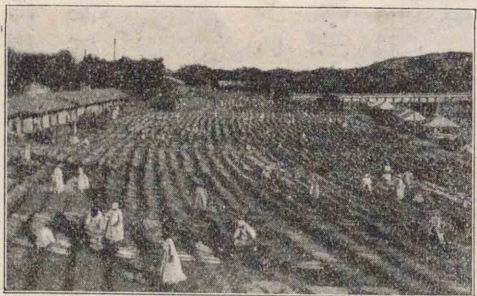
〔全〕鎮南浦〔南平〕を集散地とし、群山、木浦、釜山は、その積出港として名高い。麥、粟、大豆は、各地の丘陵に産し、小麥、大豆は、釜山、仁川から、内地へ移出される。綿は、榮山江流域に多く、光州は、その中心である。煙草は大邱附近に、人蔘は開城附近に多

い。中部以北には、原野が多い

爲、牧牛が盛んで、牛皮の産が多く、生牛と共に、内地へ移出する。

林業・鑛業

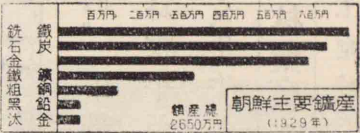
北部の鴨綠江、豆満江流域には、紅松、唐檜、落葉松等



林野は全道の七割を占めてゐる

×雲山・遂安の二金山は米人の經營に屬する  
△一部は八幡製鐵所の原料として送られる

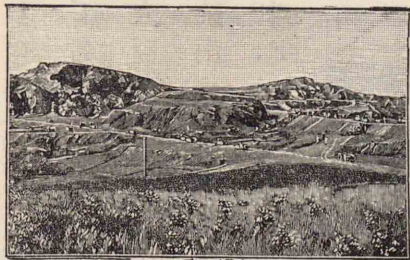
○寺洞に多く産する  
○下明太魚の豊漁  
○上載寧鐵山



所がある。平壤附近には、良質の無煙炭を産し、徳山の海軍燃料廠に送られる。

### 水産業

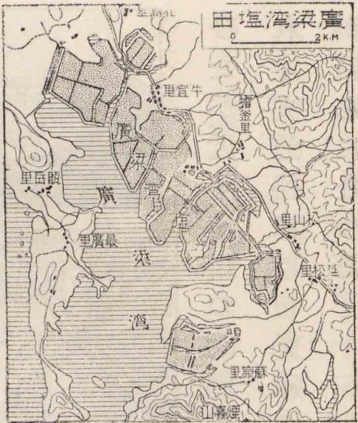
近海に、寒暖兩流があつて、水産物に富み、日本海の明



の密林があつて、盛んに伐採が行はれ、筏として運搬し、新義州は、その集散並に製材、製紙地として知られてゐる。南朝鮮は、少雨の上、温突の燃料として濫伐した爲、山地は、殆ど禿山になつたが、近年、盛んに植林されてゐる。鑛物は、埋藏量が甚だ多いが、その利益の一部は、外國人が占めてゐる。金は昌城・三成・雲山〔平北〕、遂安〔海黄〕に、鐵は利原〔咸〕、載寧・殷栗〔海黄以上〕に多く、兼二浦〔海黄〕には、製鐵

×加藤清正の籠城で名高い

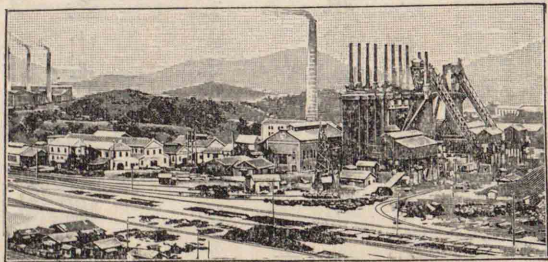
鐵所 兼二浦の製



太魚、鯷、鯨、朝鮮海峽の鯛、鱒、黄海の石首魚は、特に著れ、内地人の出漁者も多い。元山、蔚山〔南慶〕、釜山、木浦は、主要な漁港である。西海岸は、雨量が少く、天日製鹽が行はれ、廣梁灣、朱安〔畿〕は、その中心である。

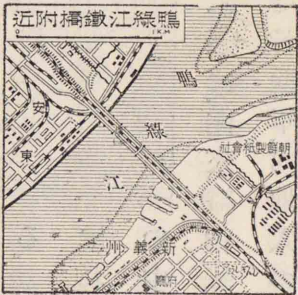
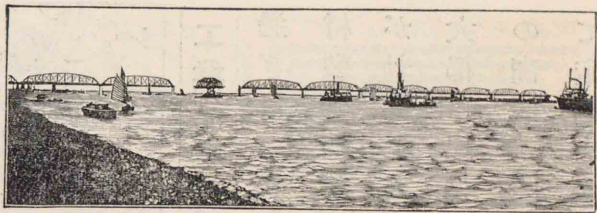
### 工業商業

工業は、従來織物、紙、陶器等の手工業に過ぎなかつたが、近年、内地人の經營により、製鐵、製材、紙紡績〔京城〕、製肥〔咸興〕、製糖、セメント等の工業が勃興した。大都市以外では、常設の商店が少く、主として定期市で取引し、大



△ 群山・新義州・龍巖浦・木浦・城津・清津・雄基

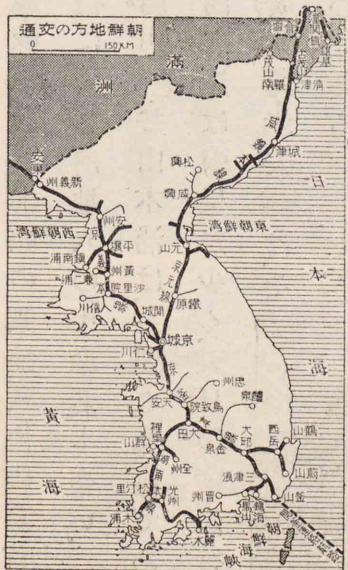
閉橋 鴨綠江の開



ひたが近年、道路の改修が行はれ、主要道路には、自動車の利用が盛んになつた。

邱の定期市は殊に名高い。内地との取引は、主として釜山・仁川・元山で行はれ、外國貿易は、釜山・仁川・鎮南浦〔平〕元山外七港で行はれてゐる。内地との取引は、年々盛大に赴き、主として米・大豆水産物を移出し、織物・砂糖・薬品を移入する。

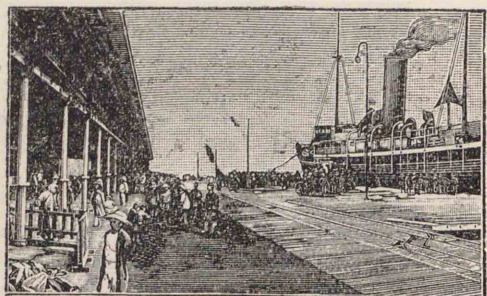
第三節 交通・住民・政治  
交通 往時は、交通不便で、馬・轎を用



- × 内地に見ない四呎八吋半の標準軌道を採用してゐる
- 1 釜山・京城間
- 2 龍山・安東間
- 3 大田・木浦間
- 4 龍山・元山間
- 5 元山・會寧間

釜山埠頭

朝鮮族は一般に白色・青色の衣服を好む風習があるから女子は常にその洗濯に忙殺される



鐵道は、半島を縦貫する京釜・京義二線を幹線とし、湖南・京元・咸鏡の諸線を始め、數多の支線がある。京釜・京義の二線は、連絡して、大幹線となり、新義州より鴨綠江の大鐵橋を渡つて、安奉線・南滿洲鐵道に連絡し、世界的大通路となつてゐる。

大河の下流は、汽船の便がよく、海上交通は、釜山・仁川・清津を中心とし、内地支那シベリアに航路を通ずる。東京・大連間の定期航空路は、蔚山・京城・平壤を連ねてゐる。海底電線は、釜山より下關に、元山より島根半島に通じ、無線電信局は、木浦・釜山・清津・京城等に、ラジオ放送局は京城にある。

住民 大部分

は、朝鮮族で、容貌も體格も、内

人口	10,000,000	全國
人口	1,000,000	内地
人口	100,000	朝鮮(京城)

諺 文 新 문

上朝鮮の兒童 下朝鮮總督府



府は内地の市に  
邑・面は町・村に  
相當する

地人に酷似し、唯、言語・風俗が違つてゐる。近年、教育が普及發達して、人文が漸く進歩するやうになつた。人口約二千一百万で、内地人は約四十萬人である。人口密度は、略、奥羽地方に等しく、概ね北部東部に小で、南西部に大である。

政治

總督は、京城府に駐在

して、政務を統べる。地方は、十三道に分れ、各道は、内地の府縣に相當して、各、知事がある。内地と同様に取扱ひ難い爲、參政權がなく、兵役の義務も免ぜられてゐる。内地人の二箇師團〔龍山、羅南〕が駐屯して、軍事を統べてゐる。

第四節 處誌



行政區劃と主要都邑

慶尙南道	○釜山府	馬山府	鎮海
慶尙北道	○大邱府	慶州	
全羅南道	○木浦府	光州	
全羅北道	○群山府	全州	
忠清南道	○大田府	公州	
忠清北道	○清州府	仁川府	開城府
京畿道	○京城府	水原	
江原道	○春川府	兼二浦	
黄海道	○海州府	鎮南浦府	
平安南道	○平壤府	義州	
平安北道	○新義州府	元山府	
咸鏡南道	○咸興府	鏡城	
咸鏡北道	○清津府	南會寧	

△前に絶影島が横  
はり天然の良港で  
船車の連絡がよい

李王宮内景

朝鮮神宮がある

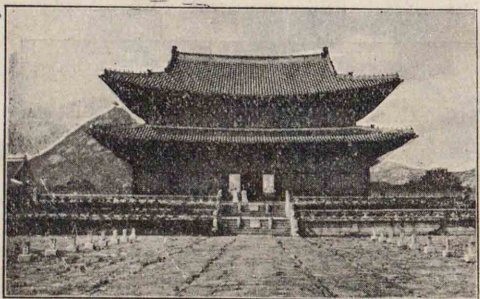
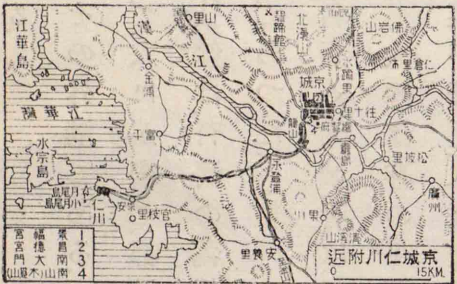
て、李王宮、京城帝國大學がある。

【京城府】北漢山、南山に圍まれた小盆地に發達し、内地の六大都市に次ぐ大都會である。今は、市區が改正せられ、大建築物が立並び、内地にも稀な都市となり、市街は、盆地の外に

京釜線方面

釜山府は、朝鮮の南門、交通貿易の中心で、市街は、内地風である。附近に東萊溫泉がある。大邱府は、南鮮の大中心である。

水原は、農事試験場の所在地、龍山〔京城府の一部〕は、軍事交通上の要地である。京城府は、政治軍事學術交通經濟の中心

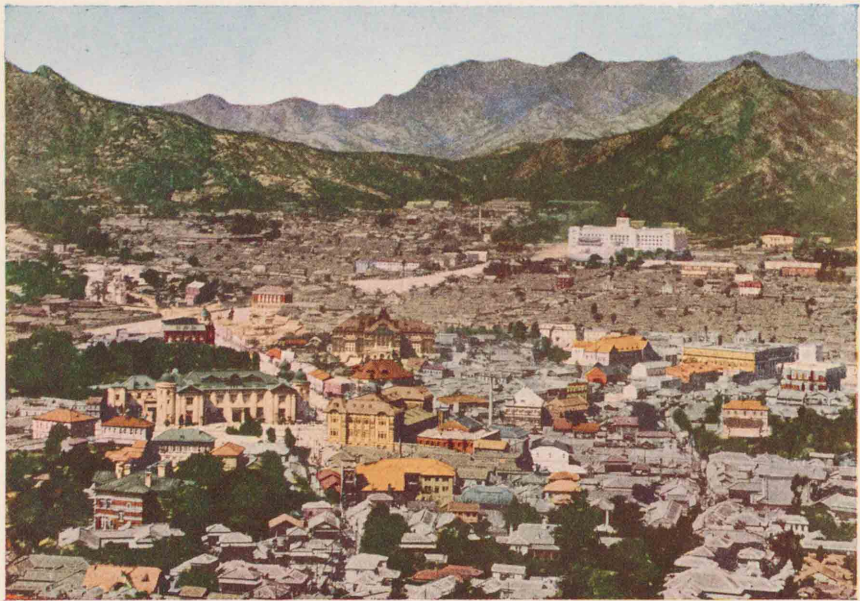


平壤附近牡丹臺より大同江を望む

×日清戦役で名高く陸軍飛行聯隊がある

義州は日清・日露兩戦役で名高い

△清津と呼應して北滿洲に入る最北點である



京の城大の遠 煙に紫くはる北漢の山一その前の峰尖は岳白で麓岳の堂々たる  
白聖建築は總督府である 舊皇城の一部は壽宮に僅に左方に見えぬ



清津港 明治十四年開港した日本海の不凍港で水陸交通の要衝を占め築港完成の  
曉は大發展を想像せしめたる今は魚油(鯊油)の大集散地を主として内地に輸送す

溢れて、漢江岸の龍山まで含んでゐる。

仁川府は、京仁線で京城に通じ、その外港である。

**湖南線方面**

朝鮮の重要地區で、人口が密で、都邑も多い。公州は、地方の中心で、扶餘は、百濟の舊都である。江景は、もと大開市場であつた。

**京義線方面**

碧蹄館は、史上に名高く、開城府は、高麗の舊都、人蔘の取引で名高い。大同江畔の平壤府は、北朝鮮の最大都市で、商工業が榮え、水陸交通の一中心で、鎮南浦に鐵道を通ずる。新義州府は、鴨綠江を隔て、滿洲の安東に對し、交通、經濟上の要地である。

**京元咸鏡線方面**

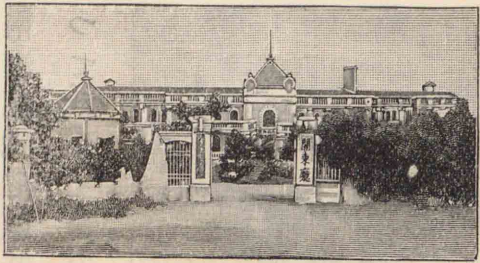
元山府、咸興府、鏡城は、北朝鮮の名邑である。羅南は、政治、軍事上の要地として、近年新に興つた。會寧は、國境の要地で、雄基は、清津府と共に、北朝鮮の門戸である。





關東廳

△油房・製鐵・硝子・煉瓦・セメント



問 設

- 朝鮮の地形略圖を描け。
- 朝鮮の氣候に就いて記せ。
- 朝鮮の南部から順次北に向ひ、主な農業と其の中心都會を調査せよ。
- 朝鮮の産業につき知る所を述べよ。

- 朝鮮の鑛産物に就いて詳しく述べよ。
- 朝鮮と内地との取引關係を答へよ。
- 朝鮮の交通圖を描け。

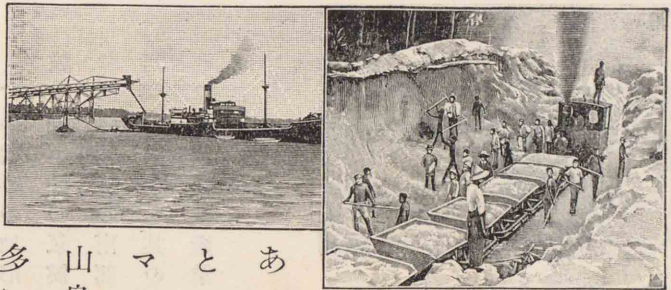
第十二章 關東州・南洋諸島

**關東州** 關東州は、遼東半島の南西端を占める我が租借地である。丘陵性で、平野に乏しく、氣候は大陸性で、雨量が少い。従つて、農業は振はないが、海岸は、天日製鹽に適する。近年、大連附近に、新工業が勃興した。住民は、約九十五萬人内、日本人は、約十萬で、他は漢族である。旅順市は、日清・日露の戦蹟で名高く、關東廳の所在地である。大連市は、

南滿洲鐵道會社は滿洲に於ける鐵道鑛山その他各種の事業を經營してゐる

中大連港に集積した積出用豆槽下大連市の大廣場上アンガウル島の燐鐵採取と積出用波止場

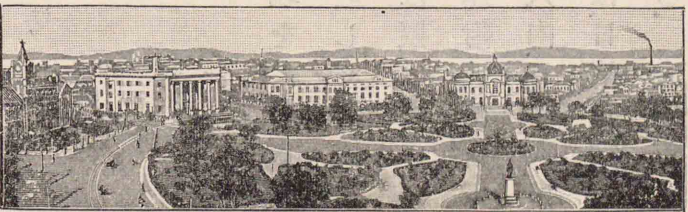
最大島のグアムは米領で海軍貯炭所海底電線の中繼所である



南滿洲鐵道の基點滿洲の門戸に當つて、歐亞交通の要地となり、内地滿洲間の貿易が甚だ盛んである。

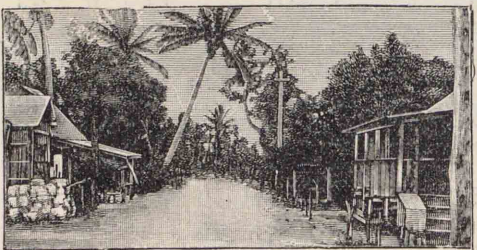
南洋諸島 小笠

原島の南方に散在する幾多の島嶼で、ドイツ領で



あつたが、世界大戰後、我が委任統治地となつた。マリアナ・カロリン・パラウ・マルシャルの四諸島に分れてゐる。火山島或は珊瑚島が多く、海洋性氣候で、一般に、雨量が多い。産物は、コブラ貝類及び燐礦〔アンガウル島〕砂糖〔サイバ〕等

上トルック島(カロリン諸島)の土人の獨木船  
下コロール島在留内地人の家屋



で、ヤップ島は、海底電線の要地である。全人口は、約七萬で、内、内地人は、約二萬三千に過ぎない。パラオ諸島のコロール島に、南洋廳を置いて、全諸島を統治してゐる。

設問

- 關東州に於ける産業を説明せよ。
- 旅順と大連とを比較せよ。
- 南洋の氣候と産物とにつきて記せ。
- 南洋の諸島名とその主島とを擧げよ。

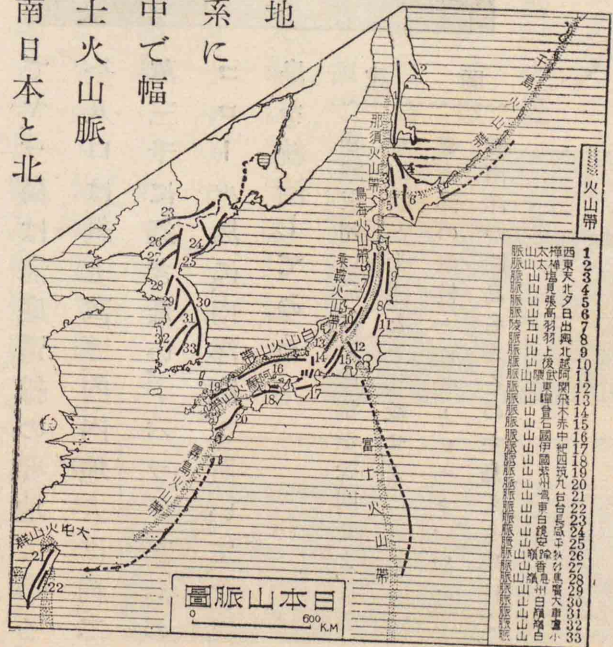
第三編 總括

第一章 自然地理

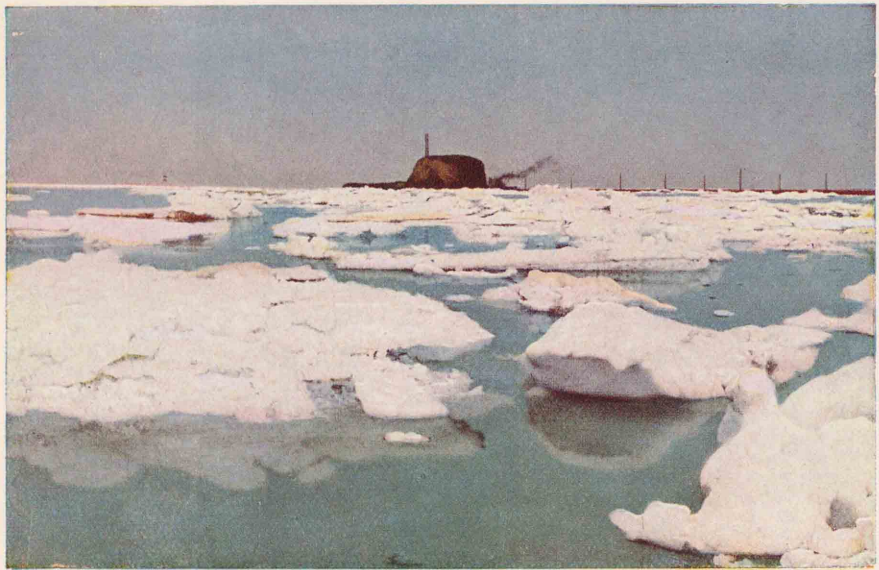
第一節 地勢

山脈

日本列島は、亞細亞大陸の縁邊に立つ海底山脈で、花綵列島又は東亞の防波堤といはれる。列島部の山地は、北東派樺太山系、南西派山系に分屬し、其の接合地域は、本州中で幅が最も廣く、地形が複雑し、富士火山脈が此處を縦走し、以て列島を、南日本と北



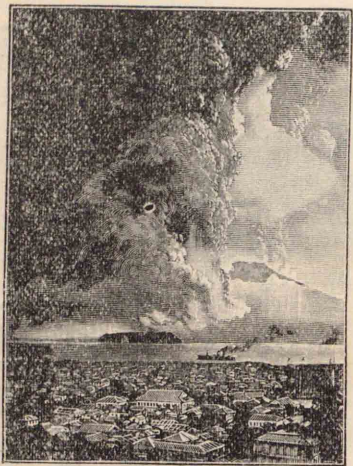
容偉・度高とスブルア北め占を端東の帶外系山彎西は脈山石赤 姿雄のスブルア南  
るあで觀景の春早く輝に雪白が(米一〇三)岳聖峯雄のそは圖 るあが觀ふ鏡を



方地走網・室根てし下南を岸東太樺季春は氷海の岸北海クツーホオ 氷流の道海北  
るあで氷流たし來襲に港走網は圖 い多がとこす絶社を通航の船船り至に

人文地理學上東日本・西日本と稱することあり

櫻島の噴火  
(大年三年)



日本とに分つてゐる。日本列島は、略、二弓形を呈し、其の太平洋方面を表日本、日本海方面を裏日本と呼ぶことがある。北日本と南日本、又裏日本と表日本とは、地文上、人文上、異なることが多い。北東派山系は、樺太に起つて、北海道本島、奥羽地方を過ぎ、本州中部地方の略、中央に達する。南西派山系は、南北の二列に分れて、北列は九州の北西部に、又南列は、南東部に起り、二者、概ね並走して、北東派山系に接近してゐる。

朝鮮は、北部は高臺で、長白妙香等の數山脈が、南西より北東に並走し、又南部には、略、南北に走る大白山脈がある。  
**火山帯** 列島には、多くの火山帯(火山脈)があつて、一般に、山脈に沿うて走るものが多い。火山數は、約二百(活火山約五十)を算

し、世界に稀なる火山國をなしてゐる。朝鮮は内地に比して、火山が甚だ少い。

**温泉**

概して火山地方に多く、或は健康

の保持に適し、或は清涼水の原料を供するものがある。

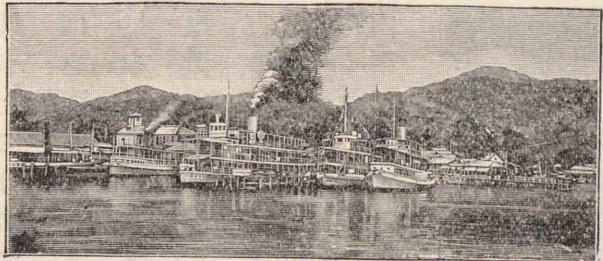
**河川**

地勢上、大なる河川がな

く、且つ舟運灌漑の利の大なるものも少いが、其の數、其の水量が割合に多く、又流れが急で、動力を供給するものが甚だ多い。河川は、太平洋、オホーツク海、日本海、朝鮮海峡、黄海、東支那海、臺灣海峡、瀬戸内海等の斜面に分流する。

**湖沼**

大なるものは少いが、概ね風光が麗しくて、遊覽地として知られ、或は舟運灌漑に、或は工業



我が國の大河は朝鮮半島に多い

琵琶湖の水運(大津に於ける湖上汽船)

動力、養魚に利用せられるものが多い。

**平野**

山岳が多い爲、僅に海岸又は川筋に開け、大陸にあるが如き、廣大なるものは見ない。併しよく利用されて、大なる生産力を有し、國家活動の中堅地を作つてゐる。

**海岸**

六大島は、概ね海岸線がよく發達してゐる。九州は、第一位で、本州、四國、北海道が、之に次ぐ。朝鮮半島は、西岸南岸が、最も出入に富み、海岸發達の割合は、九州に次いでゐる。

**島嶼**

我が國には、六箇の大島がある。此の外、千島、薩南、琉球、小笠原の四列島がある。また瀬戸内海は、九州の南部、臺灣の西部、朝鮮南西部には、島嶼が集團し、淡路、沖繩、壹岐、對馬、濟州の五島、日本海中の佐渡、隱岐(稍、集團をなす)二島は、何れも稍、大きい屬島である。

第二節 海洋

**航海の適否**

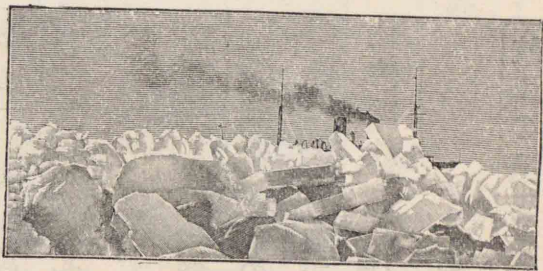
我が北邊の海上は、冬季に氷結し、春季には、流水が漂

千島列島中にも國後・擇捉・得撫等の大島がある。南洋にも集團的のものがある。

臺灣の東西海上も  
風浪が荒い

日本海は最深二千  
六百米  
樺太近海に  
於て流水と闊ふ特  
務艦大泊

X内地では有明海  
の約六米が最も大  
きい



ひ又日本海面は、冬季に波が高く、瀬戸内海には、潮流の早い處が多い。されば、我が近海は、世界に於ても、水難の多い處の一である。

**深淺**

列島に沿ふて、北東部に長く連る日本海溝(最深九四三、五米)、南西部の琉球海溝(最深七四八、一米)を始め、太平洋には深海が處々にあるが、オホーツク海、日本海、黄

海東支那海、瀬戸内海は、一般に浅い。九州の南東海底に

堆がある。

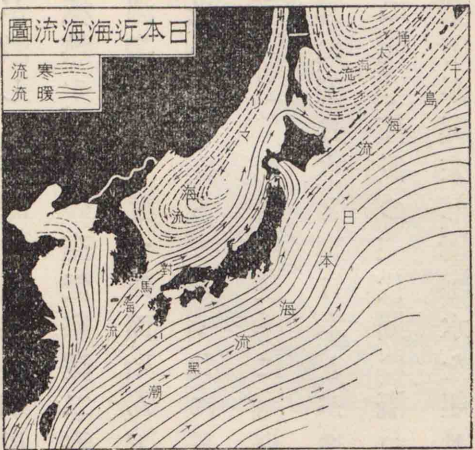
**潮汐**

潮汐干満の差は、太平洋岸、黄海岸、有明海岸が大で、日本海では



X二見灣

△濃藍色を呈する  
故に此の名がある



小さい。一局部としては、仁川附近の十米が最大、佐渡の三十糎が最小である。瀬戸内海は、潮汐干満の際、内外兩側の水準が異なる爲、急激な潮流の起る處が多く、就中鳴門、下關、來島の三海峡が、最も有名である。

**海流**

太平洋には、日本(黒潮)、千島(親潮)の二海流がある。日本海流は、暖流であつて、赤道附近より來て、略、北東に向つて流れ、以て關東地方以南の我が太平洋岸の雨量を多からしめる。千島海流は、寒流で、北東方より來り、略、南西方に進む。之がため、北海道、奥羽の太平洋岸は低溫、少雨となつてゐる。日本海流の分派である對馬海流は、琉球より東支那海に入り、對馬海峡を経て、日本海を流れ、爲に九州より、樺太

に至る列島の西岸北岸は、割合に高温多雨である。樺太の東を樺太海流、西をリマン海流が南下し、共に寒流である。かくて之れ等の海流は、氣候の外、水産舟運等に影響を及ぼすことが大である。

### 第三節 氣候・生物

#### 氣温

我が國は、緯度三十五度間に亙つてゐる故、南北寒暖の差が激しく、臺灣は高熱、奥羽以北は低温である。又亞細亞大陸の極寒極熱や、土地の高低、寒暖二海流等の影響があるが、國土の大部は、北温带に位し、且つ四面、殆んど海を環して、氣候の温和なることは、風光の明媚なること、共に普く世界に知られてゐる。

#### 風雨

列島は、夏季に南東季節風、冬季に北東季節風が多い。これ實に、表日本と裏日本とが、多雨期を異にする主なる原因である。此の兩季節風の交代期は、概ね風雨が多くて、殊に八九月の頃は、暴風豪雨が襲來し、屢、洪水を起して、稲作を害する。又奥羽以南には、初

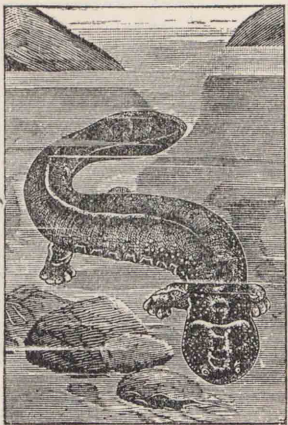
東京に中央氣象臺  
神戸に海洋氣象臺  
全國百餘ヶ所に測  
候所數箇所が高層  
氣象觀測所がある

×臺灣では夏季に  
南西季節風、冬季に  
北東季節風が多い

雨量は風向と山脈  
の方向とに影響せ  
られることが多い

圖解 鯢

樺太の馴鹿、千島の  
臘虎、北海道の熊本  
州の鮠魚、本州・四  
國・九州の猿、小笠  
原の海龜、琉球の飯  
匙、臺灣の黄牛・  
水牛、朝鮮の虎を特  
有動物とする



#### 生物

夏に、陰鬱な梅雨の現象がある。朝鮮半島は、夏季に南西季節風が發達し、冬季に北又は西の季節風が多いが、概して少雨である。

氣候地質共に生物の生育に適

して、其の種類が多い。南部に、榕樹、檳榔、樹水牛、北部に蝦夷松、椴松、馴鹿等が分布し、中部は、松、杉、檜の良材に富み、牛、馬等の家畜が多い。暖流は、鯢、鱈、鮪等を誘ひ、寒流は、鯨、昆布、海獸を生育せしめる。

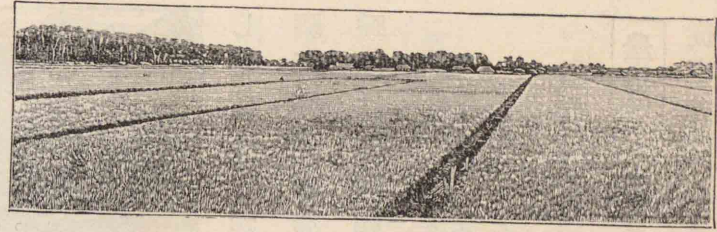
## 第二章 人文地理

### 第一節 産業

#### 農業

農業は、我が國産業の大宗であつて、國民の大半は、これに従事してゐる。内地の耕地は、全面積の一割五分を占めるに過ぎ

×自作農創設・大  
集圃地開墾・農村  
振興策・農村電化・  
土地改良獎勵  
北海道の水  
田(上川盆地)

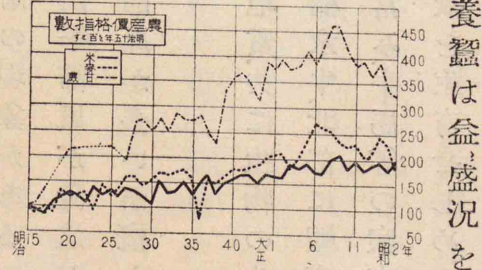


ひ、獸肉、獸毛、獸皮の需要が増加したが、氣

**牧畜業**

文化の發達に伴

ないが、關東地方以南の地では、二毛作が盛んで、米、麥、大豆、甘藷、菜種、茶、煙草の産額が甚だ多い。併し住民の増加及び都會集中、耕地の工場住宅地化によつて、食料品の不足を來し、今や土地開拓、耕地整理、移植民獎勵を急務とすると同時に、農産を振興せしむるの必要が益、大なるに至つた。養蠶は益、盛況を呈し、生絲は、重要輸出品にして、其の輸出額、世界第一である。朝鮮、臺灣の農業も、著しく進歩し、多量の農産物を、内地に移出する。



馬	43%
牛	43%
豚	11%
山羊	2%
山種	0.1%
羊	
總頭數	350万頭
家畜總數	(内地) 1929年



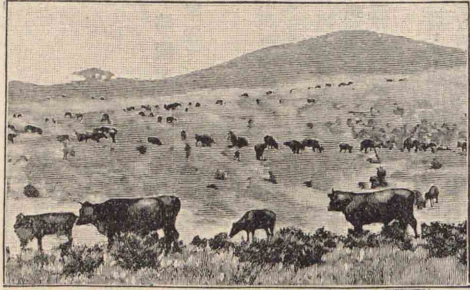
放良の二無は原草い廣 るあで觀景の場牧の近附沼原河小縣森青 馬牧の方地羽奥  
るあで方地な要重も最てしと地成育の馬駿の國が我來古し供提を地牧



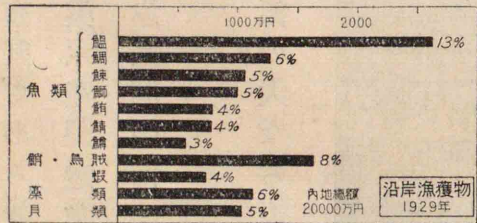
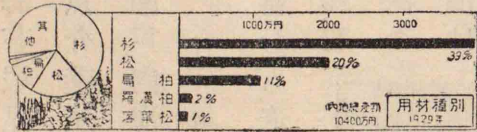
大く多も最に灣庭亞・岸海西 るあで産水要重の太樺ひいと蟹バラタ 漁蟹の太樺  
るれら送もに洲歐時近がたし出輸に國米に主は來從 るすと詰曬・詰織は部



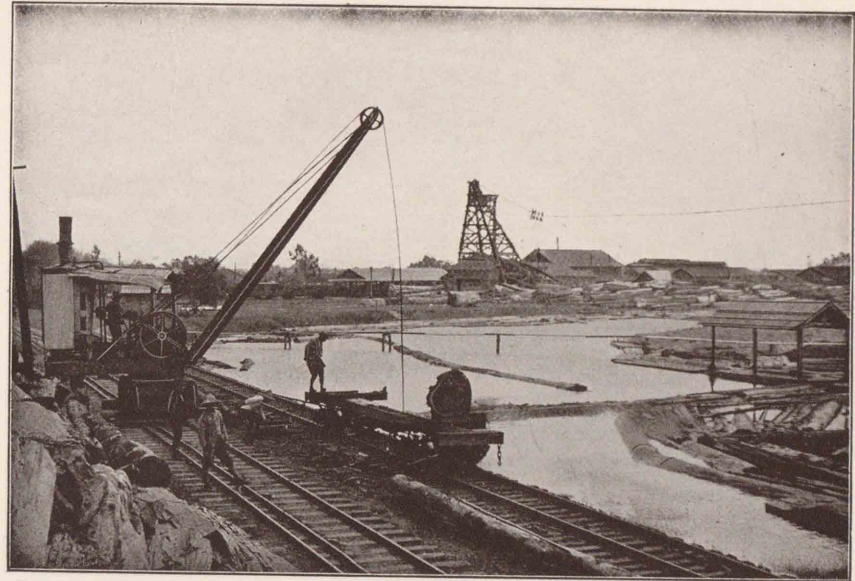
圖解 中國高原の  
牧牛  
×米國・加奈陀



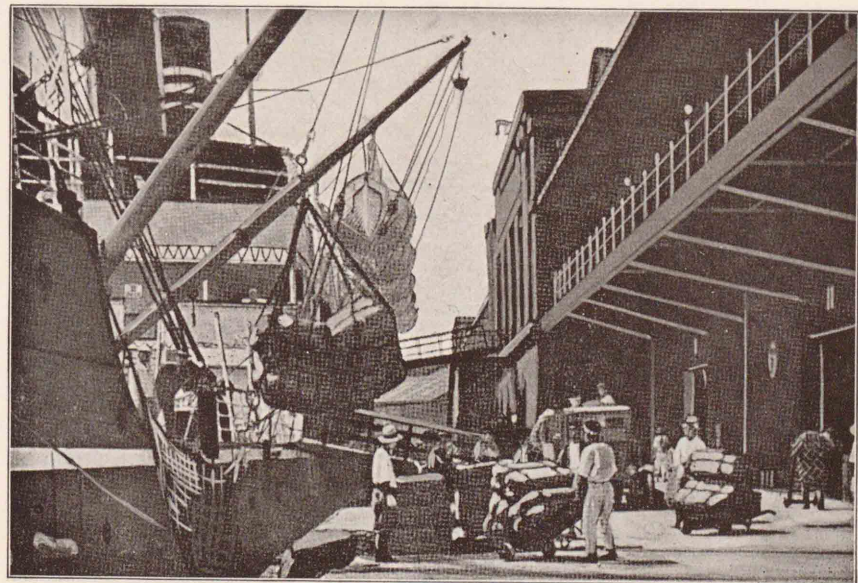
てゐる。  
年々外國より木材を輸入する。  
**水産業** 我が國は、殆ど海を環らし、且つ寒  
暖二流に洗はれてゐる故、水産物が豊富で、  
漁業の盛んなること、世界第一である。主



**林業** 樺太北海道には蝦夷松、根松、落葉松、臺灣には樟  
檜、津輕半島には羅漢柏、秋田、吉野  
には杉、木曾には檜の美林があり、  
北朝鮮の山地には、松樅が繁茂し  
併し國內の需要を充すに足らず、  
候土地の關係上、我が國は、牧畜業の大なる發達を期し難  
い。牛は、中國九州、朝鮮に、馬は、北海道、奥羽、九州に、豚は、東  
京附近と鹿兒島縣以南とに多い。緬羊は、北海道、其の他  
で、僅に試育が行はれてゐる。



日一 るす材製を材木の山里阿てしと主りよに力電てしと主は業作 所材製の義嘉  
るゐてれはいと所材製の模規大の一第洋東れらせ稱と石百六に實は力能材製の

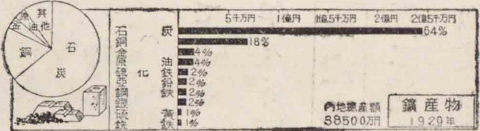


生の港本 るあで様有む込積を絲生へ船汽りよ屋上て於に壁岸 出積絲生の港濱横  
るゐてし當相に分五割七の絲生出輸が我え超を圓萬千五億五々年は高出輸絲

東京・仙臺・大阪・福岡・札幌に鐵山監督局がある

紡績工場 (大阪附近)

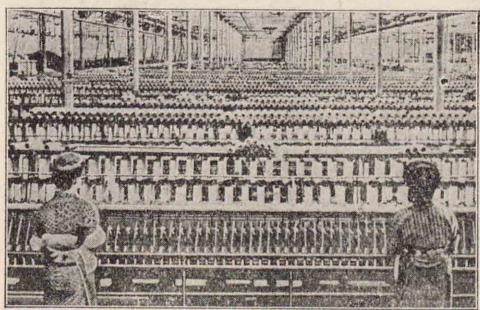
四大工業地帯以外の工業地帯  
1、札幌・小樽・室蘭・旭川方面  
2、福井・金澤方面  
3、廣島・吳・福山・岡山方面  
4、桐生・足利・伊勢崎方面



なる漁獲物は、鯧・鯨・鰯・鯖・鮭・貝類・海苔・蝦・昆布・蟹である。遠洋漁業・トロール漁業・汽船捕鯨業・魚介養殖業・水産製造業も、益・發達して來た。製鹽は、主に瀬戸内海岸・臺灣の南西岸・朝鮮の西岸・關東州で行はれる。

**鑛業** 我が國は、鑛物の種類に富むも、産額の大なるものはない。唯、銅・硫黄は、世界に知られ、石炭は、東洋第一の産額がある。又臺灣の金・朝鮮の金・鐵・石炭・樺太の石炭・石油は、稍、前途が有望である。

**工業** 世界大戦の影響により、機械力の應用が益、盛んとなり、今や我が國は、世界屈指の大工業國となつた。阪神地方・京濱地方・名古屋地方・北九州に最も盛んで、紡織業を第一とし、食品工業

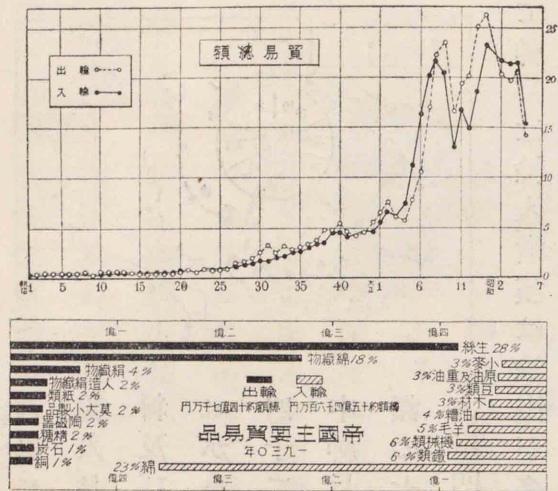


4、桐生・足利・伊勢崎方面

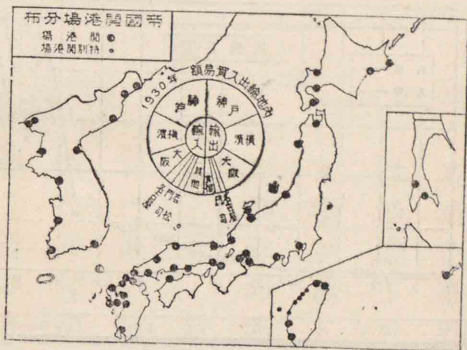
化學品工業・機械製造・金屬工業等が、之に次ぐ。

**商業**

東京は、商業が最も盛んにして、古來の大商業地たる大阪と共に、兩々相俟ち、内國商業の二大中心をなしてゐる。其の他、各地の大小の都會は、多く其の地方的中心市場となつてゐる。取引



の最も多いのは米で、麥・清酒・綿・絲・綿織物・肥料・木材などが、之に次ぐ。外國貿易は、世界大戦中、大躍進をなしたが、其の後は稍、不振で、年々減少の傾がある。併し尙現今、内地の輸出額は、十四億七千圓、輸入額は十五億五千圓に上り、世界の商業國の一に伍してゐる。而して輸出品には、加工せざるもの、手先仕事になるもの、



て神戸は輸入、横濱は輸出が多い。我が貿易品の重要仕向地は、米國・支那・印度・關東州・蘭領印度・英國の順であつて、重要仕入地は、米國・印度・支那・關東州獨逸である。

第二節 交通

道路

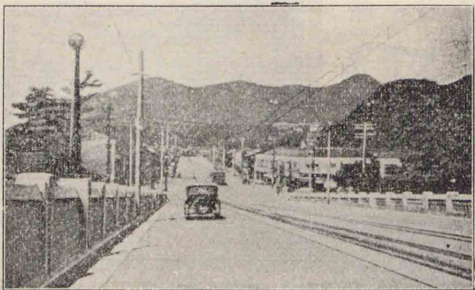
國道は、東京・宇治山田を中心として四通し、其の延長は、八

帝國貿易相手國別 (1930年)

相手國	輸入 (%)	輸出 (%)
米國	29%	1%
支那	10%	1%
印度	11%	1%
關東州	8%	2%
蘭領印度	4%	2%
英國	6%	1%
獨逸	6%	1%
日本	1%	1%
朝鮮	3%	1%
臺灣	7%	1%
其他	1%	1%

輸入 總額 15.5億円  
輸出 總額 14.7億円

鋪裝道路 (神戸西郊の山陽道の一部) 明治五年初めて東京・横濱間に鐵道の開設された當時に比すれば雲泥の差である



千料に及ぶ。道路は、汽車・電車・汽船の發達につれて、必要の度が減少するが、最近、自動車の増加が著しく、爲に年々、改修によつて、完全な鋪裝道路が延長しつゝある。

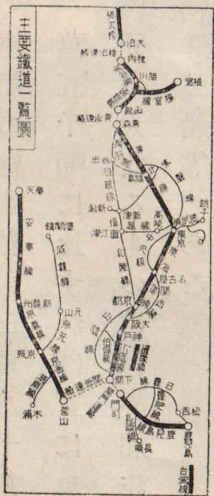
鐵道

國有鐵道が、大部を占め、其の總延長は、内地のみで、二萬一千料を超え、植民地には、別に七千料の鐵道がある。内地幹線鐵道の中心は東京で、關東近畿北九州には、鐵道網が密である。

内地・臺灣は、狹軌であるが、朝鮮・關東州は、廣軌を採用してゐる。近時は、電車の利用が益、進んで、鐵道の電化も、次第に延長の傾向にある。

航路

我が國は、英・米に次ぐ世界第三の海運國で、横濱・神戸・上海・香港



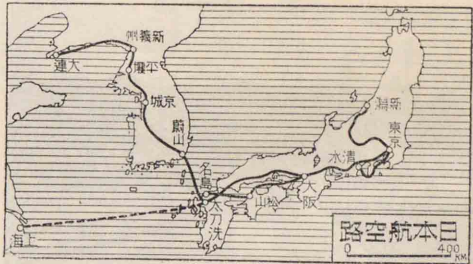
を基點として、内外の航路が頗る多く、汽船の總噸數も、三百八十萬噸(三千三百噸)に達する。之を明治初年の一萬五千噸に比すれば、實に異常の發達と言はねばならぬ。汽船會社の大なるものは、世界屈指の日本郵船及び大阪商船、國際汽船、朝鮮郵船等である。

郵便

郵便は、明治四年、初めて東京横濱間に開かれ、同十年、萬國郵便聯合に加はり、今や山間僻地に至るも、郵便の達せざる所なく、世界の郵便發達國の一である。

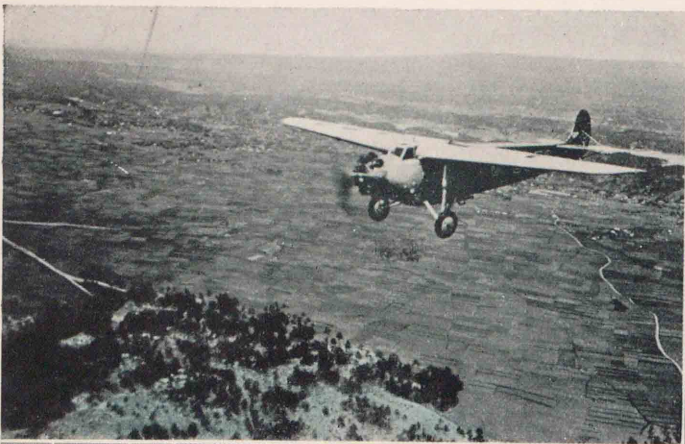
航空

我が國の航空事業は、列強に比して劣つてゐるが、近年、次第に發達して、諸般の設備も整つて來た。今や東京を起點として、大連(大阪・福岡・野山)に至る長距離旅客郵便物の航空輸送が行はれ、其の他東京大阪間、大阪福岡間、大阪松山間、東京清水間、東京新潟間にも、定期航空路が開かれた。

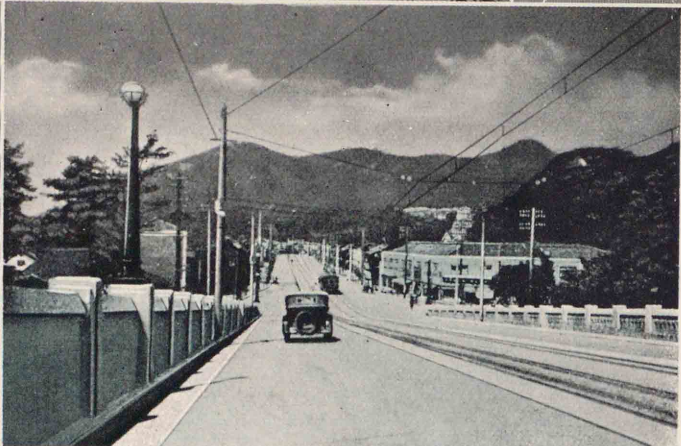


×郵便物のみで且つ冬季は休航

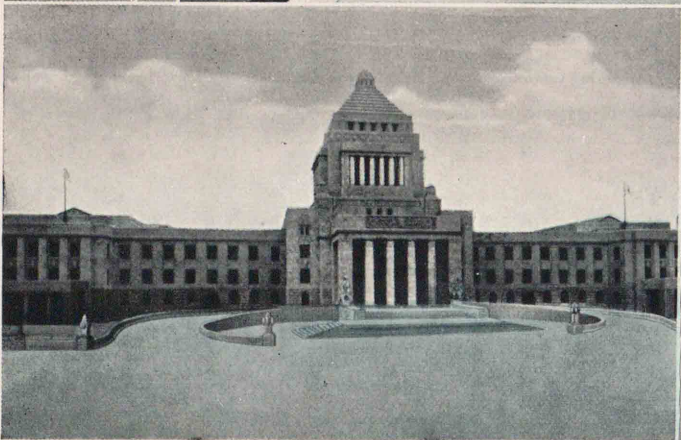
定期航空 濃尾平野の上空を快翔中の定期航空機である。今や快速交通機關として次第に廣く利用せられてゐる。



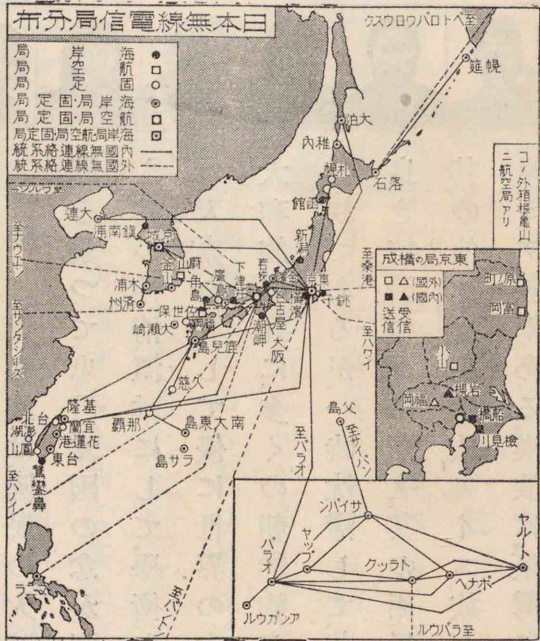
舗裝國道 自動車の發達に連れて舗裝道路は漸次延長されつつある。圖は神戸市西郊の山陽道の一部である。



新帝國議事堂 宮城の南方丘上に建築されてゐる。建築費三千萬圓と稱せられ我が國の代表的建築物の一である。



×丁抹國の所有である



は歐洲線に連なつて、最もよく利用されてゐる。近年、無線電信も頗る發達し、内地はもとより、植民地近海航行中の船舶を始め、歐米との通信も行はれてゐる。

**電話**

電話は、明治二十三年に創始せられ、爾來發達して、長距離

**電信**

明治二年、始めて東京横濱間に通じ、明治十二年、萬國電信聯合に加盟した。其の後の發達が目覚ましく、今や國內、汎く其の開通を見るに至つた。海底電線も、大に發達し、殊に東京小笠原島間のものは米國線、長崎上海間のものは

×神戸・門司附近の主要地の電話局より有線で此の二個所の電話局に接続し此處より無線となる

我が國の種族、右から大和族・朝鮮族・漢族・高砂族・アイヌ族・ギリク族・オロコ族・ポリネシア族

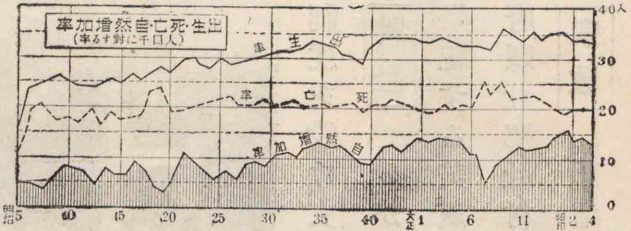


電話も、亦漸次擴張せられた。近年、主要都市のラデオ放送が隆盛となり、廣く教育報道娛樂用に供せられ、無線電話も、神戸門司より、船舶との間に、應用せられてゐる。

### 第三節 住民

#### 種族

大和族は、國民の大部(約八割)を占め、歴代天皇の恩澤を蒙つて、忠君愛國の念が強く、又團結が頗る固い。而かも其の性情溫雅にして、學術を好み、工藝に長じ、發展進歩の天稟を有して、優に世界の大國民たるの素質がある。大和族の外に、多くの朝鮮族がある。夙に文化の發達した種族であるが、一時沈滞して、昔日の面影がない。併し近年、良き統治の下に、漸次、其の面目を一新せんとしてゐる。其他、漢族、高砂族、アイヌ族、ギリク族、オロコ族、ポリネシア族がある。漢族は、臺灣に多數居住してゐるが、其の



他は、甚だ少い。何れの種族も、漸次、大和族に同化せられて、よく國內が統一されてゐる。

#### 人口

人口は、内地に約六千四百萬人、新領土に二千六百萬、即ち總計約九千萬人を有し、内地の密度は、一方、糶に付約百六十九人に及び、世界第四の人口稠密國である。人口が、既に稠密なる上に、年々の増加率が、甚だ大(一千に付十人の割合)である故、今や人口問題、食糧問題を考慮すると共に、移民、植民の急を要する時が到來してゐる。既に滿洲、南米、南洋に赴く者が、漸く増加し、多く支那、布哇、米國、西岸、伯刺、西爾等に在留してゐるが、其の總數は、七十萬に過ぎない状態である。従つて最近の伯刺

#### 教育

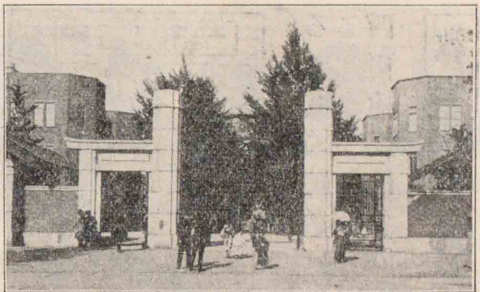
西爾植民は、各府縣とも、組織的に獎勵してゐる。教育は、世界稀に見る盛觀を呈し、國勢進暢の基をなして

中等學校數二千二百校  
生徒數八十八萬人

東京帝國大學

宮内省の直轄に學習院がある

神社數十一萬  
寺院數十一萬  
× 神道・黑住教・修成派・大社教等十餘派  
△ 眞言・天台・淨土・眞・臨濟・曹洞・日蓮  
宗等五十餘派



制度を設け、文化の進歩普及に努めてゐる。

**神社**

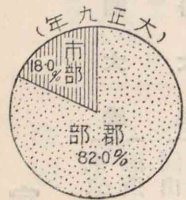
我が國民は、皇祖・皇宗を始め、忠臣賢士の靈を神社として祭祀する美風がある。神社には、神宮の外、官幣社、別格官幣社、國幣社、府縣社、郷社、村社等の別がある。

**宗教**

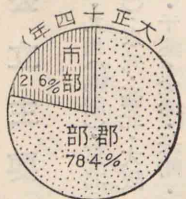
神道は、帝國固有の宗教であつて、傳來した佛教と共に、長

ある。小學校は、其の數二萬五千に及び、學齡兒童の不就學者數は僅に百八十分一に過ぎない。中學校、高等女學校、各種實業學校も、其の數年々増加してゐる。又高等教育には、各種の大學を始め、高等學校及び數多の各種専門學校があり、陸海軍には、各、軍人養成の爲、陸軍大學校、陸軍士官學校、海軍大學校、海軍兵學校等がある。臺灣、朝鮮、關東州には、各、其の土地に適する教育

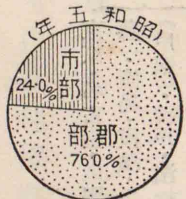
道府縣別人口密度比較 (昭和五年國勢調査)



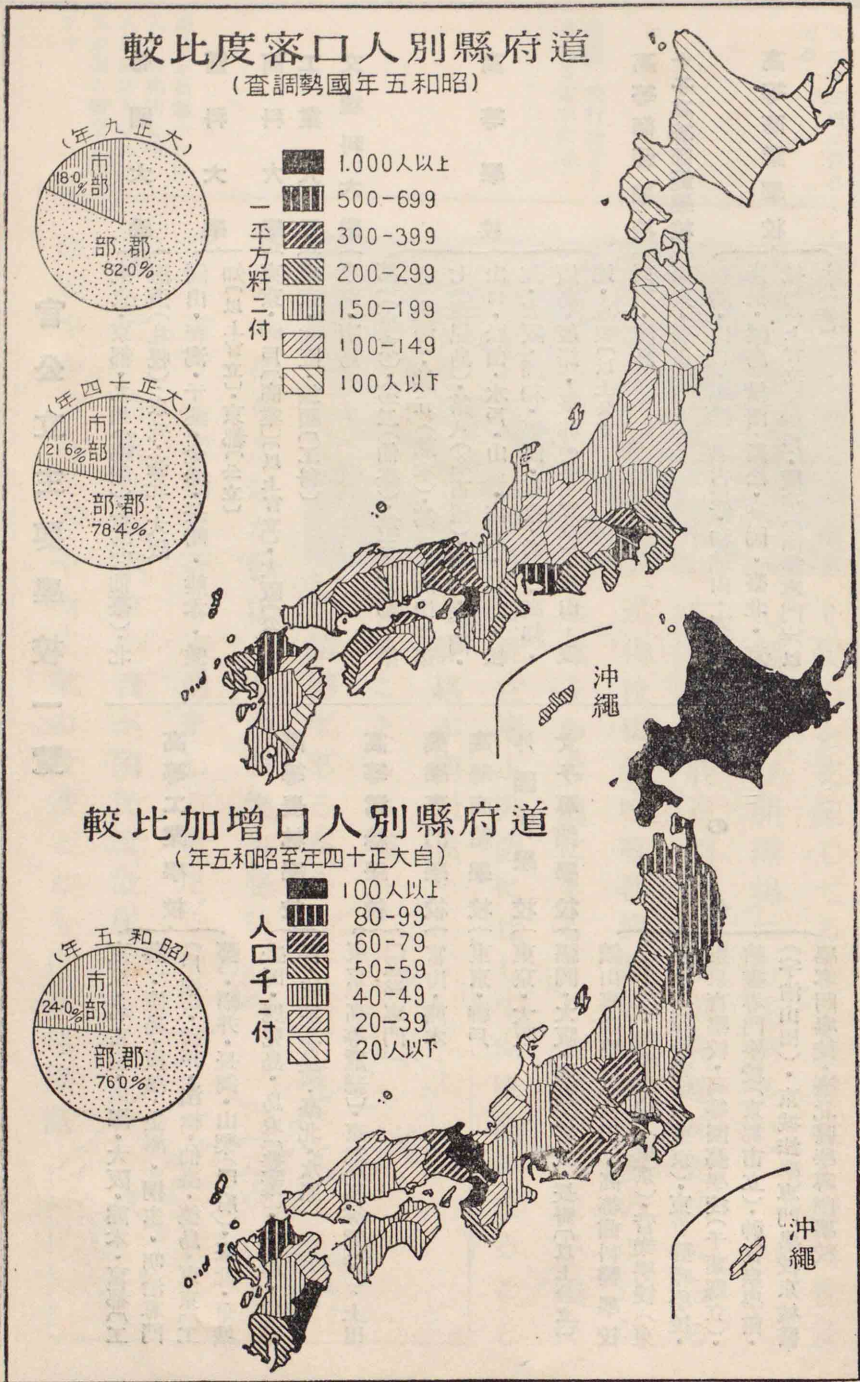
1,000人以上  
500-699  
300-399  
200-299  
150-199  
100-149  
100人以下



道府縣別人口增加比較 (自大正十四年至昭和五年)



100人以上  
80-99  
60-79  
50-59  
40-49  
20-39  
20人以下

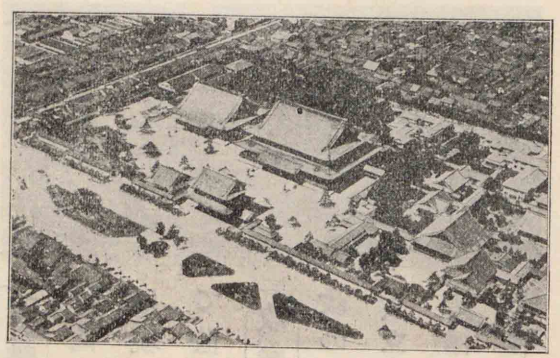


官公立主要學校一覽

- 帝國大學** 東京・京都・九州(福岡)・東北(仙臺)・北海道(札幌)・京城・臺北・大阪  
岡山・新潟・千葉・金澤・長崎・熊本・愛知(以上官立)・京都(公立)
- 醫科大學** 東京・神戸(商業)(以上官立)・大阪(公立)
- 商科大學** 東京・神戸(商業)(以上官立)・大阪(公立)
- 工業大學** 東京・大阪・旅順(工科)
- 文理科大學** 東京・廣島
- 高等學校** 第一(東京)・第二(仙臺)・第三(京都)・第四(金澤)・第五(熊本)・第六(岡山)・第七(鹿兒島)・第八(名古屋)・松本・新潟・山口・松山・水戸・山形・佐賀・弘前・松江・大阪・浦和・福岡・東京・静岡・高知・廣島・姫路・臺北(以上官立)・富山・浪速・東京(以上公立)
- 高等師範學校** 東京・廣島
- 女子高等師範學校** 東京・奈良
- 高等商業學校** 長崎・山口・小樽・名古屋・和歌山・大分・彦根・福島・横濱・高松・高岡・臺北・京城(以上官立)・神戸・横濱(商業專門)(以上公立)
- 高等工業學校** 東京・名古屋・米澤・大阪・熊本・京都(工業)・廣島・横濱・金澤・桐生・明治專門(戸畑)・神戸・濱松・仙臺・德島・東京(工業)・福井・長岡・山梨(甲府)・臺北・京城
- 高等農林學校** 盛岡・鹿兒島・鳥取(農業)・三重・宇都宮・岐阜・宮崎・臺北・水原
- 高等蠶絲學校** 東京(高等蠶絲)・京都(高等蠶絲)・上田(蠶絲專門)
- 藥學專門學校** 富山・熊本
- 高等商船學校** 東京・神戸
- 外國語學校** 東京・大阪
- 女子專門學校** 福岡・大阪・廣島・宮城・長野(以上公立)
- 其他** 鑛山專門學校(秋田)・高等齒科醫學校(東京)・美術學校(東京)・音樂學校(東京)・水産講習所(東京)・東京聾啞學校(東京)・東京盲學校・高等園藝學校(千葉縣立)・繪畫專門學校(京都市立)・神宮皇學館(宇治山田)・京城法學專門學校・京城醫學專門學校・臺北醫學專門學校

×二十三派に分れてゐる

飛行機より見たる東本願寺

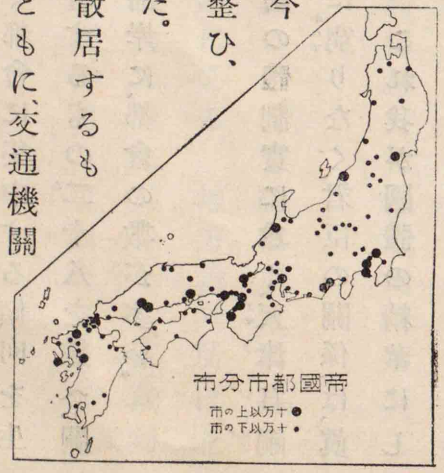


産業が發達すれば人口の稠密を來し人口稠密となれば又産業の發達を促がす

く民心を支配してゐる。又基督教も、漸次普及し都會及び開港場に、信徒が多い。

**都會** 我が國は、氣候溫和、地味肥沃であるが、尙ほ脚氣呼吸器病等の患者の多いのは、其の風土の多濕によることが多い。我が國民の死亡率が、列強に比して、尙ほ高率なること、體格が稍不良なること、は誠に遺憾であるが、今年々、衛生思想が發達し、其の設備も整ひ、之に關する學術も、著しく進歩して來た。

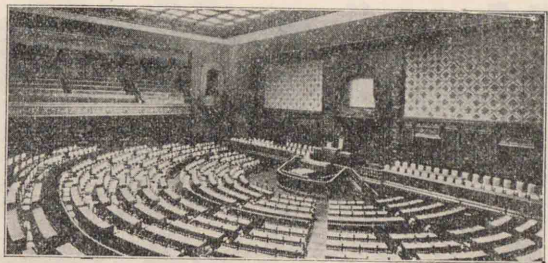
**衛生** 古來、農業本位の我が國民は、散居するものが多かつたが、今や商工業の發達とともに、交通機關





×他に臺灣に七市  
朝鮮に十二府關東  
州に二市がある  
△此の外臺灣に一  
朝鮮に二關東州に

帝國議會議  
場(東京市麹町區  
霞ヶ關にある)



の進歩につれて、歐米諸國に於ける如く、都會に集中する傾向を生じ、市の總數は約百<sup>×</sup>で、人口十萬以上を有するもの二十八<sup>△</sup>を數へ、關東近畿濃尾越後北九州平野瀬戸内海沿岸に、都會の數が多い。

#### 第四節 政治

##### 國體

我が國は、建國の體制實に尊く、天津日嗣は、萬世一系、天壤と共に窮<sup>キウ</sup>りなく、君臣の關係は、眞に親子の如くである。これ我が國體の精華にして、世界列國に比類なき處である。

##### 政體

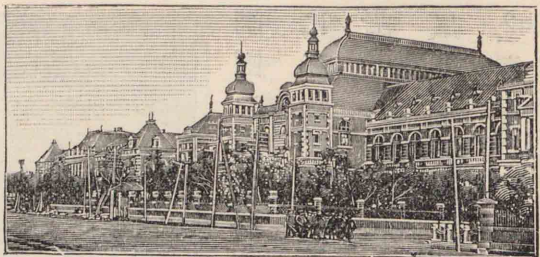
我が國は、立憲政體であつて、立法、司法、行政の統治機關が、分立して存在する。

1、立法機關 帝國議會で、貴族院・衆議院より成り、法律の制定に協賛し、又豫算の議決等に當る。

2、行政機關 中央に、内閣・十二省(内務・外務・大藏・陸軍・海軍・鐵道・司法・文部・農林・商工)

府縣には支廳を有するものあり

大審院・東京控訴院(東京市麹町區日比谷にある)



拓務)がある、内閣總理大臣と各省大臣とは、國務大臣と稱せられて、國務大臣は、内閣を組織してゐる。地方の統治者は、内地に、北海道長官、警視總監、三府四十三縣の知事、植民地に、朝鮮總督、臺灣總督、樺太廳長官、關東長官、南洋廳長官がある。朝鮮には、朝鮮總督の下に、政務總監と十三道の知事があり、臺灣には、臺灣總督の下に、總務長官と五州の知事、三廳の廳長とがある。

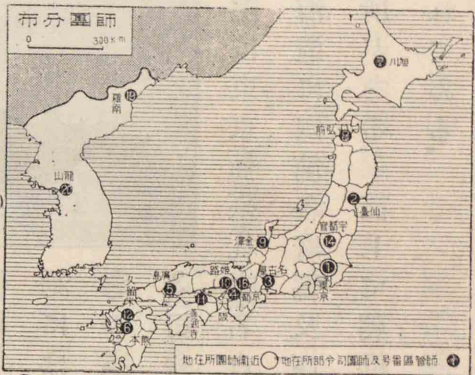
3、司法機關 司法機關の中、大審院は東京に、控訴

院は東京、仙臺、札幌、名古屋、大阪、廣島、長崎にある。地方裁判所は、北海道に四箇、各府縣及び樺太廳に各一箇所あつて、其の下に、區裁判所がある。而して朝鮮、臺灣、關東州等には、特別の司法制度が布かれてゐる。

陸・海軍の首脳部は參謀本部・海軍軍令部で夫々國防用兵の事を司つてゐる

全國の各要害地に要塞がある

ワシントン華盛頓會議により我が國の主力艦隊



以上三大統治機關の外、皇室に關する一切の事務を處理すべき宮内省と、天皇の最高諮詢機關たる樞密院とがある。

國防

帝國の陸海軍は、天皇の統帥し給ふ所で、國民は、十七歳より四十歳に至るまで、兵役に服すべき義務がある。其の兵役には、常備(現役・豫備役)・後備・補充・國民の四種がある。

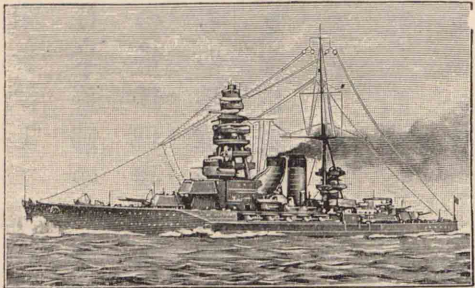
1、陸軍 内地を十四師管區に分ち、各區に師團を置き、要地に、其の司令部がある。外に、東京に近衛師團、朝鮮に二箇師團、臺灣、關東州に守備隊が置かれてゐる。兵員は、約二十萬で、列強に比しては多くないが、軍人の忠勇義烈は、吾等祖先の遺風で、これ實に、清露獨を破つた主因である。

2、海軍 全國の海岸海面を三海軍區に分ち、各區にある軍港、横須賀・吳・佐世

は、三、五、〇〇噸に限  
定せられたが現在  
は戰艦六隻、巡洋戰  
艦四隻計一、〇五、〇〇〇  
噸である

×各務原(二箇聯  
隊)・八日市・太刀  
洗・立川・平塚・濱松  
屏東に飛行聯隊千  
葉に氣球隊がある  
△阿見(霞浦)・追  
濱(横須賀)・佐世  
保・大村・館山・佐伯

○内外合計五十八  
億圓一人當九十二  
圓に及ぶ  
戰艦陸奥  
(排水量 五、八〇〇噸  
大正十一年横須賀  
工廠で竣工した世  
界の優秀艦であ  
る)  
我が修好國は約四  
十ある



保)の鎮守府が、之を管轄してゐる。又要害地に要港がある。艦艇、一  
百十萬噸、兵員七萬五千を算して、實に世界屈指の海軍國である。  
3、空軍 今や航空機は、國防上に、必要缺くべからざるものとなり、  
陸軍の航空部隊は、陸軍航空本部・陸軍飛行學校及び航空諸隊によ  
つて構成せられてゐる。海軍は、海軍省に於て、其の行政、教育を直轄  
し、六箇の航空隊を配置してゐる。

財政

明治二十七八年頃は、歲計總額一億圓未滿であつたが、其の後、軍備の擴張、新事業の施設等によつて、年々増加し、又國債額も激増して、其の元利の償却をも計上する故、今や歲計は、約十七億圓に上るに至つた。

外交

世界列國との交際、年に親密を加へ、大使、公使を遣り、國交を修め、又要地には、總領事領

事を派して、通商などを圓滑ならしめてゐる。今や太平洋に關して日米英佛の四國協商が成立し、又我が國は、國際聯盟に加はつて、其の常任理事國となり、優に列強の間に立つて、世界の平和を維持するの地位を占めるに至つた。吾等は、之を喜ぶと共に、責任の益重きを自覺しなければならぬ。

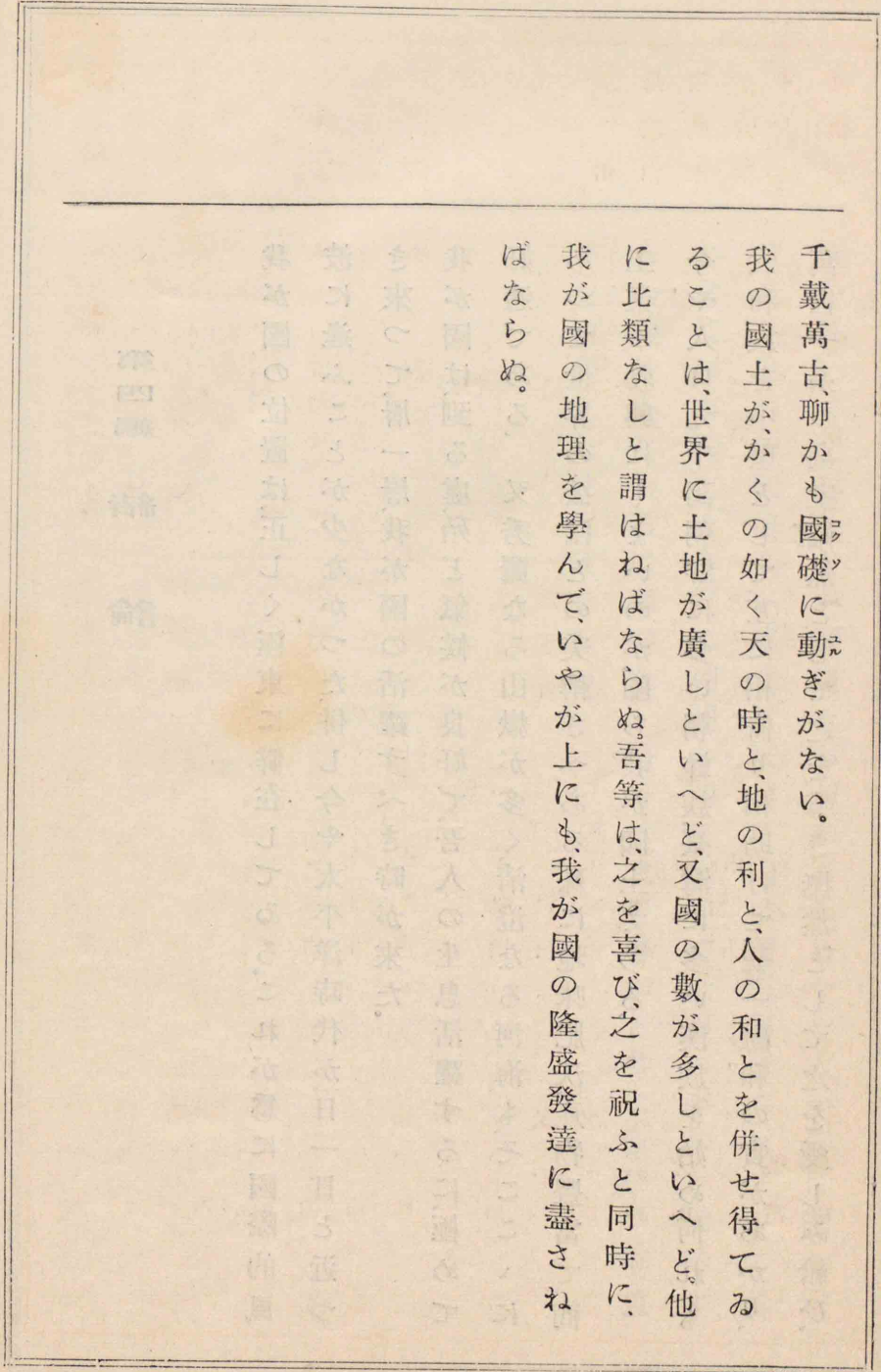
#### 第四編 結 論

我が國の位置は、正しく極東に僻在してゐる。これが爲に、國際的風波に逢ふことが少なかつた。併し今や太平洋時代が、日一日と近づき來つて、層一層、我が國の活躍すべき時が來た。

我が國は、到る處、殆ど氣候が良好で、吾人の生息活躍するに、極めて好適である。又秀麗なる山嶽が多く、清澄なる河海も、そここゝにあつて、世界の公園との美稱さへある。殊に地味肥沃、產物豊富で、工業の勃興にもよいのが、即ち我が國土である。

今や人口九千萬、朝鮮に多い朝鮮族、臺灣に多い漢族を始め、何れも大和族を中堅として、互に相倚り相助けて、統一融和の實があがり、萬世一系の皇室、儼然として之を導き、撫然として之を愛しみ給ひ、

千載萬古、聊かも國礎に動きがない。  
 我的國土が、かくの如く天の時と、地の利と、人の和とを併せ得てゐることは、世界に土地が廣しといへど、又國の數が多しといへど、他に比類なしと謂はねばならぬ。吾等は、之を喜び、之を祝ふと同時に、我が國の地理を學んで、いやが上にも、我が國の隆盛發達に盡さねばならぬ。



# 人口

## 一覽

昭和五年十月一日國勢調査統計  
(市町ハ二萬人以上村ハ一萬人以上)  
(單位ハ千人)  
(百位四捨五入)

關東地方 三、七三		小田原町	二六	深谷町	四	浦安町	二	足尾町	四
東京府 五、四〇	藤澤町	二五	忍町	二	木更津町	〇	鹿沼町	三	
東京市 四、九二	茅ヶ崎町	三	所澤町	二	群馬縣 一、八六	日光町	〇	佐野町	七
八王子市 五	浦賀町	二〇	飯能町	二	前橋市	五	日光町	〇	
武藏野町 七	逗子町	五	千葉縣 一、〇七	兎	高崎市	六	小山町	四	
立川町 四	三崎町	三	千葉市	三	桐生市	五	田沼町	三	
青梅町 二	秦野町	三	銚子市	四	伊勢崎町	三	今市町	三	
神奈川縣 一、六〇	埼玉縣 一、四九	埼玉縣 一、四九	船橋町	三	館林町	七	大田原町	二	
横濱市 六〇	川越市	四	市川町	三	澁川町	三	茨城縣 一、四七	水戸市	五
横須賀市 二〇	熊谷市	四	野田町	元	富岡町	三	日立町	六	
川崎市 一〇四	大宮町	元	佐原町	七	栃木縣 一、二四	古河町	六	土浦町	六
平塚市 四	浦和町	五	津田沼町	三	宇都宮市	八	石岡町	六	
田浦町 七	秩父町	元	八街町	三	足利市	四	石岡町	六	
鎌倉町 七	本庄町	六	松戸町	二	栃木町	三	結城町	五	

附錄

一

助川町	四	湊町	四	下館町	三	磯濱町	三	磯原町	二	松原町	二	磯原町	一〇	<b>奥羽地方 六、七、四</b>																																																					
喜多方町	三	原町	三	宮城縣	一、四	仙臺市	一、九	石卷市	三	鹽釜町	三	氣仙沼町	五	白石町	三	古川町	三	郡山市	五	福島縣	一、五、八	福島市	四	若松市	四	平町	三	白河町	三	須賀川町	六	湯本町	五	中村町	五																																
一關町	一〇	青森縣	八、〇	青森市	七	八戸市	五	弘前市	五	野邊地町	三	田名部町	二	三本木町	二	秋田縣	六、八	秋田市	五	能代港町	四	橫手町	六	土崎港町	七	大館町	六	小坂町	四	本莊町	三	湯澤町	三	大槌町	二	岩手縣	九、六	盛岡市	三	釜石町	三	宮古町	六	花卷町	六	水澤町	三	大槌町	二																		
大曲町	二	山形縣	一、〇、〇	山形市	三	米澤市	四	鶴岡市	四	酒田市	三	新庄町	三	谷地町	三	寒河江町	三	上山町	三	長井町	二	宮内町	二	東根町	一〇	<b>中部地方 二、三、九</b>				靜岡縣	一、五、六	靜岡市	二、五	須賀川町	六	湯本町	五	中村町	五																												
濱松市	一、九	清水市	五	沼津市	四	大宮町	四	三島町	三	島田町	三	燒津町	一〇	小山町	七	伊東町	六	熱海町	三	中泉町	三	川崎町	三	相良町	三	掛川町	三	藤枝町	二	由比町	二	富士町	一〇	直江津町	四	五泉町	四	龜田町	四	燕谷町	三	小千谷町	二	寺泊町	二	見附町	二	堀之内町	一〇	富山縣	一、五、九	富山市	五	高岡市	五	新湊町	三	氷見町	四	伏木町	三	魚津町	三	滑川町	一〇	石川縣	一、五、七

山梨縣	查一	甲府市	九	鹽山町	二	愛知縣	二、五、七	名古屋	九、七	豐橋市	九	岡崎市	六	一宮市	四	瀬戸市	七	安城市	三	津島町	六	西尾町	七	一色町	七	半田町	七	起町	五	龜崎町	五	刈谷町	五
古知野町	五	蒲郡町	五	舉母町	四	稻澤町	四	高濱町	四	田原町	三	成岩町	三	犬山町	三	小牧町	三	祖父江町	三	矢作町	三	福江町	三	木曾川町	二	二川町	二	守山町	二	蟹江町	二	常滑町	一〇
新川町	一〇	鳴海町	一〇	八幡町	一〇	大府町	一〇	岐阜縣	一、二、六	岐阜市	六	大垣市	六	高山町	六	中津町	六	加納町	七	多治見町	三	關町	二	長野縣	一、七、七	長野市	七	松本市	七	上田市	七	上諏訪町	三
下諏訪町	三	須坂町	三	飯田町	三	伊那町	三	小諸町	三	丸子町	三	上飯田町	二	平野村	二	新瀉縣	一、三、三	新潟市	二	長岡市	二	高田市	二	三條町	三	柏崎町	三	新發田町	三	加茂町	三	新津町	一〇
直江津町	四	五泉町	四	龜田町	四	燕谷町	三	小千谷町	二	寺泊町	二	見附町	二	堀之内町	一〇	富山縣	一、五、九	富山市	五	高岡市	五	新湊町	三	氷見町	四	伏木町	三	魚津町	三	滑川町	一〇	石川縣	一、五、七

金澤市 一五	福知山町 三	上野町 二〇	布施町 二四	今津町 一八
小松町 七	新舞鶴町 五	尾鷲町 五	豐中町 六	加古川町 四
輪島町 四	綾部町 四	龜山町 三	池田町 五	伊丹町 四
七尾町 三	宮津町 三	富洲原町 二	佐野町 五	垂水町 四
福井縣 六八	舞鶴町 三	和歌山縣 八二	濱寺町 五	須磨町 三
福井市 四	中舞鶴町 二	和歌山市 二七	春木町 三	豐岡町 三
敦賀町 三	奈良縣 五九	新宮市 二五	大津町 三	川西町 二
武生町 三	奈良市 五	田邊町 四	八尾町 二	高砂町 二
大野町 三	郡山町 七	箕島町 四	高石町 二	小田村 四
近畿地方 一四〇、一四一	高田町 五	御坊町 三	兵庫縣 二六	精道村 六
滋賀縣 六二	丹波市町 四	黑江町 二	神戶市 七八	中國地方 三、六、七
大津市 四	三重縣 一、二、七	湯淺町 二	姫路市 三	鳥取縣 四九
彦根町 三	津市 五	大阪府 三、四〇	尼崎市 五	鳥取市 三
長濱町 六	四日市市 五	堺市 二〇	西宮市 元	米子市 四
京都府 一、五	宇治山田市 五	岸和田市 五	明石市 元	倉吉町 六
京都市 九	桑名町 三	吹田町 四	洲本町 四	島根縣 七〇

松江市 四	三原町 三	中關町 二	松山市 三	小倉市 八
濱田町 五	音戶町 三	下松町 二〇	宇和島市 四	久留米市 八
今市町 三	府中町 三	深川町 二〇	今治市 四	若松市 五
岡山縣 一、二、四	鞆町 〇	四國地方 三、四〇	八幡濱町 六	戶畑市 五
岡山市 二、元	山口縣 一、三、六	德島縣 七、七	西條町 六	直方市 四
津山市 四	下關市 三	德島市 九	三津濱町 四	飯塚市 四
倉敷市 五	宇部市 六	撫養町 六	新居濱町 〇	宮田町 三
玉島市 三	萩市 三	小松島町 六	高知縣 七、八	後藤寺町 四
笠岡町 五	山口市 三	加茂名町 三	高知市 九	伊田町 三
琴浦町 三	防府町 四	香川縣 七、三	清水町 〇	山田町 三
日比町 三	徳山町 三	丸龜市 元	九州地方 九、六、六	中間町 六
連島町 二〇	小野田町 七	坂出町 二〇	福岡縣 二、五、七	企救町 七
廣島縣 一、六、三	柳井町 六	善通寺町 七	福岡市 二、四	瀬高町 六
廣島市 二、七〇	岩國町 三	觀音寺町 七	八幡市 一、六	添田町 二、五
吳市 一、九〇	厚狹町 三	愛媛縣 一、二、四	門司市 二、八	大川町 四
尾道市 元	長府町 二		大牟田市 七	宇美町 三

小竹町	三	相浦町	三	佐賀關町	四	枕崎町	七	大口町	三
箱崎町	三	平戶町	三	日田町	三	阿久根町	三	浦生町	三
幸袋町	〇	富江町	三	佐伯町	三	鹿屋町	三	伊集院町	二
行橋町	〇	西有家町	二	大野町	二	末吉町	三	山川町	二
穗波村	三	茂木町	二	高田町	二	垂水町	三	萬世町	二
稻築村	二	福江町	二	宮崎縣	六〇	西之表町	三	穎娃村	三
二瀬村	二	熊本縣	一、三四	宮崎市	五	名瀬町	〇	申木野村	三
佐賀縣	六三	熊本市	一、四	都城市	五	川邊町	六	指宿村	〇
佐賀市	吳	水俣町	二	延岡市	三	志布志町	六	沖繩縣	五
唐津市	〇	荒尾町	〇	小林町	六	加世田町	六	那霸市	六
鳥栖町	三	八代町	四	高岡町	三	出水町	六	首重市	〇
相知村	〇	牛深町	三	富高町	三	加治木町	五	平良町	四
長崎縣	一、二三	大分縣	四	都濃町	〇	米ノ津町	五	石垣町	五
長崎市	一、五	大分市	五	鹿兒島縣	一、五七	伊作町	五	名護町	三
佐世保市	三	別府市	三	鹿兒島市	三	宮城之町	四	本部村	三
島原町	三	中津市	元	川内町	三	隼人町	四	北海道地方	二、八三
諫早町	六	白杵町	〇	谷山町	六	財部町	三		

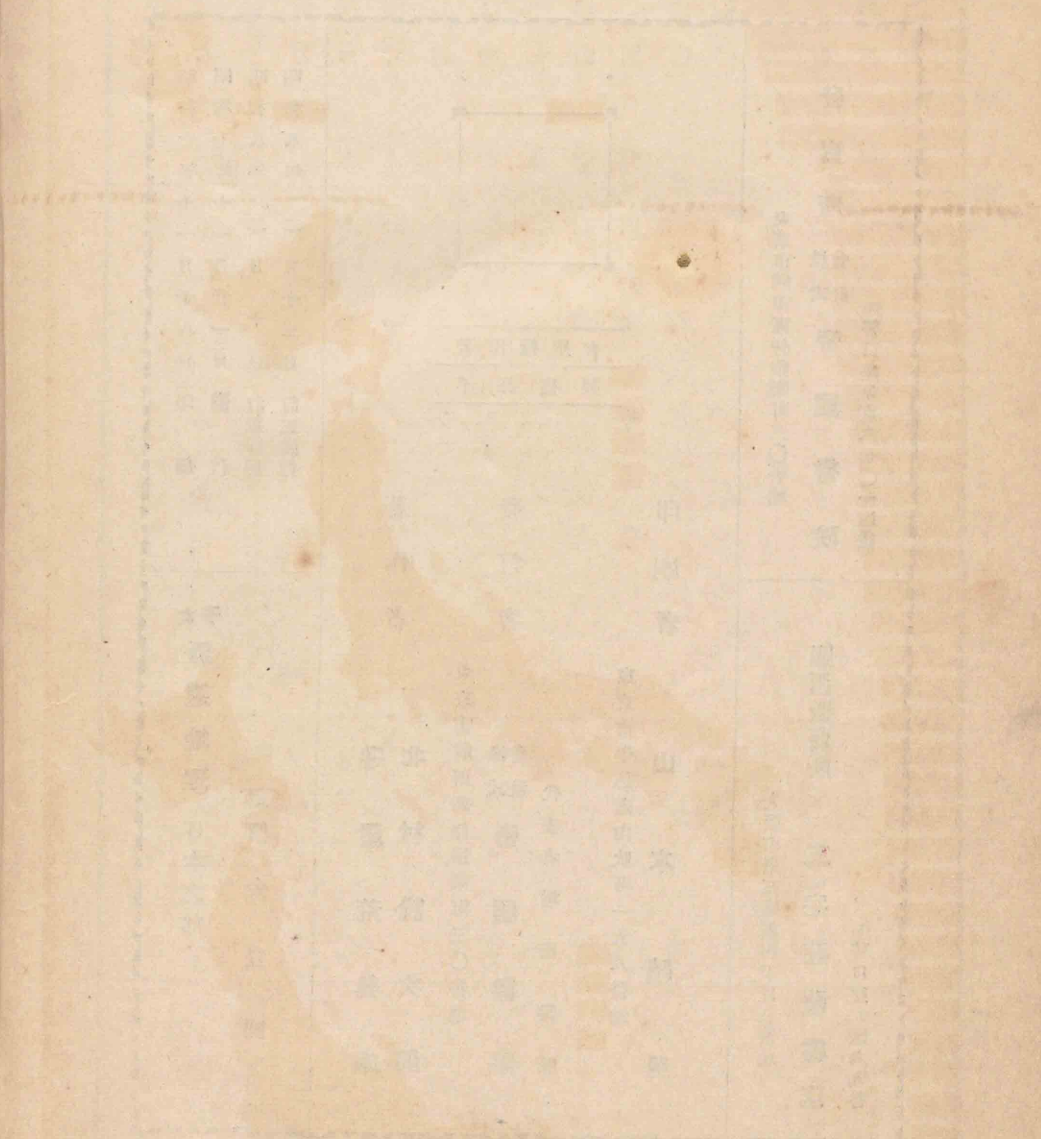
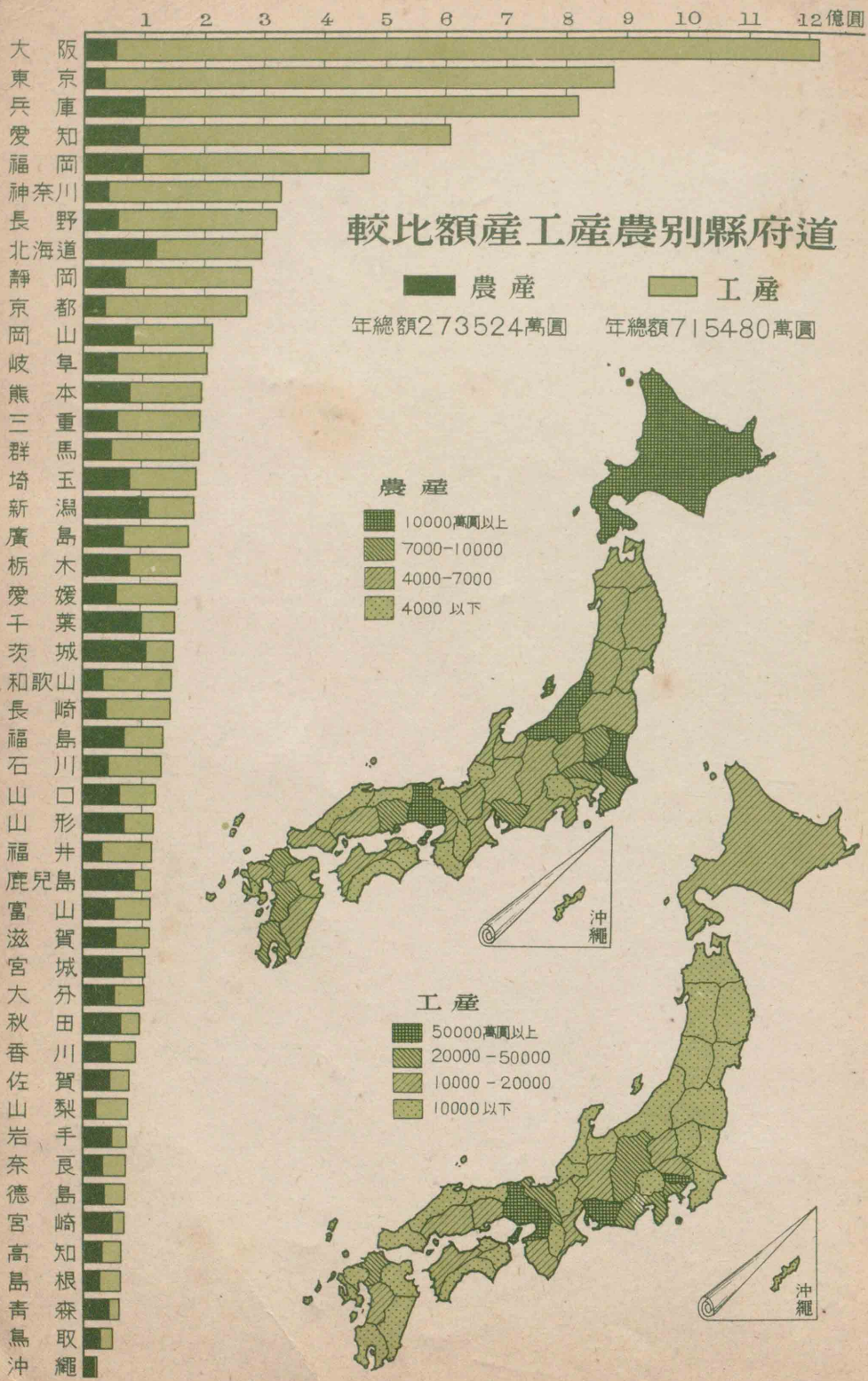
函館市	一九	根室町	元	紋別町	〇	鎮川面	三	長水面	〇
札幌市	一、九	名寄町	六	厚岸町	〇	報恩面	二	全羅南道	二、三三
小樽市	一、五	留萌町	六	留邊蘂町	〇	忠清南道	一、三三	木浦府	三
旭川市	五	士別町	五	三笠山村	三	大田面	三	濟洲面	四
室蘭市	五	八雲町	五	朝鮮地方	三、〇、五	禮山面	三	光州面	三
釧路市	三	伊達町	四	京畿道	二、二	公州面	三	二老面	三
帶廣市	三	富良野町	四	京城府	元	天安面	三	麗水面	三
夕張町	三	俱知安町	四	仁川府	六	扶餘面	三	順天面	六
美唄町	元	上磯町	四	開城府	六	舒川面	二	光陽面	六
岩見澤町	元	池田町	四	水原面	三	全羅北道	一、四	羅州面	五
野付牛町	元	瀧川町	四	忠清北道	九〇	群山府	六	咸平面	三
網走町	七	岩内町	三	忠州面	三	全州面	元	長城面	三
砂川町	三	森町	三	清州面	三	益山面	六	康津面	二
苫小牧町	三	豐平町	三	永同面	三	金堤面	五	巖光面	二
江別町	〇	美幌町	三	堤川面	三	扶寧面	三	靈巖面	二
稚内町	元	美深町	三	陰城面	三	茂朱面	二	慶尙北道	二、四、六
余市町	元	増毛町	二					大邱府	三

尙州面	元	東萊面	元	平壤府	一四	義州面	一〇	波道面	四
慶州面	元	鎮海面	元	鎮南浦府	元	江原道	一、四九	府內面(定平郡)	三
金泉面	六	三千浦面	七	安州面	七	鐵原面	五	咸鏡北道	七、四
安東面	五	密陽面	七	大同江面	七	江陵面	五	清津府	五
醴泉面	四	蔚山面	五	順川面	二	平昌面	四	雄基面	三
永川面	三	三浪津面	四	价川面	二	麟蹄面	四	會寧面	元
盈德面	三	河東面	三	寧遠面	〇	蔚珍面	三	蔚珍面	八
浦項面	三	居昌面	二	永柔面	〇	淮陽面	二	梧村面	八
義城面	三	黃海道	一、五、四	平安北道	一、五、三	華川面	二	臺灣地方	四、五、三
善山面	二	沙里院面	二	新義州府	四	平康面	二	臺北州	九、四
榮州面	二	海州面	二	龍川面	二	旌善面	〇	臺北市	一、〇
慶尙南道	二、三、六	安岳面	六	宜川面	三	春川面	〇	基隆市	五
釜山府	一、四	載寧面	六	博川面	三	咸鏡南道	一、五、六	宜蘭街	三
馬山府	六	信川面	三	楚山面	三	咸興府	四	淡水街	三
晉州面	三	黃州面	二	昌城面	二	元山府	四	汐止街	六
統營面	三	延安面	二	厚昌面	二	北青面	六	板橋街	六
金海面	三	平安南道	一、三、三	鐵山面	〇	州翼面	七		

新莊街	七	羅東街	四	新竹市	四	新東廳	五	東港街	五	泊居町	三
新東街	四	羅東街	四	新竹市	四	臺東廳	五	鳳山街	五	留多加町	二
大溪街	七	臺南市	四	臺南州	一、〇、一、〇、一、〇	花蓮港廳	六	臺東廳	一〇	關東州	九、六
中壢街	二	嘉義市	五	臺南市	四	花蓮港街	三	澎湖廳	六	大連市	二、九、三
桃園街	二	斗六街	三	臺南市	四	馬公街	三	樺太地方	二、九、五	旅順市	三、六
苗栗街	元	麻東街	七	北港街	三	樺太地方	二、九、五	帝國人口總計	九、〇、一、〇、四、〇、〇	內地	四、〇、〇、〇、五
臺中市	四	西螺街	三	鹽水街	二	大泊町	三	朝鮮	二、〇、六、〇、〇、五	臺灣	四、五、二、五、七
鹿港街	三	朴子街	元	新化街	四	豐原町	三	樺太	二、五、五、一、九、六	關東州	九、五、七、四、一
員林街	元	高雄州	六、三、三	高雄市	三	惠須取町	六	南洋諸島	六、六、七、七		
埔里街	七	屏東街	三	旗山街	元	敷香町	三				
彰化街	三										









第三組  
第一冊

広島大学図書

2000040292

